

2019年度

# 事業報告書

自 2019年 4月 1日  
至 2020年 3月 31日



社会医療法人 敬 和 会



# 目 次

## I ごあいさつ

社会医療法人敬和会 理事長 .....	3
大分岡病院 院長 .....	4
大分リハビリテーション病院 院長 .....	5
大分豊寿苑 施設長 .....	6
在宅支援クリニック すばる 院長 .....	7

## II 事業所概要

1 沿革 .....	10
2 事業所一覧 .....	16

## III 大分岡病院

1 病院組織図 .....	19
2 会議・委員会組織図 .....	20
3 承認及び届出関係 .....	21
4 設置基準 .....	22
5 教育研修指定病院関係 .....	22
6 医事統計 .....	23
7 退院患者統計 .....	30
8 疾病統計 .....	33
9 手術統計 .....	35
10 大分岡病院 診療部活動報告 .....	43
1) 循環器内科	
2) 血管内科	
3) 外科	
4) 消化器内科	
5) 救急科	
6) 整形外科	
7) 形成外科	
8) 心臓血管外科	
9) サイバーナイフがん治療センター	
10) 放射線科	
11) 脳神経外科	
12) 麻酔科	
13) マキシロフェイシャルユニット	
11 大分岡病院 部署別活動報告 .....	56
1) 看護部	
2) 医療福祉支援部	
3) 薬剤部	
4) 臨床工学部	
5) 検査課	
6) 放射線課	
7) 総合リハビリテーション課	
8) 栄養課	
9) 総務・人事部	
10) 経理部	
11) 医療事務部	

12)	購買物流課	
13)	医療情報課	
14)	施設管理課	
15)	創薬センター	
16)	職員保健推進室	
12	大分岡病院 委員会活動報告 .....	74
1)	倫理委員会	
2)	治験審査委員会 (IRB委員会)	
3)	臨床研修運営委員会	
4)	教育・研修委員会	
5)	医療安全委員会	
6)	薬事審議委員会	
7)	感染管理委員会	
8)	褥瘡対策委員会	
9)	栄養管理 (NST) 委員会 (栄養サポートチーム)	
10)	がん薬物療法委員会	
11)	栄養改善委員会	
12)	輸血療法委員会	
13)	臨床検査適正化委員会	
14)	RST委員会 (呼吸療法サポートチーム)	
15)	RRT (Rapid Response Team) 委員会	
16)	診断群分類検討委員会	
17)	労働安全衛生委員会	
18)	医療ガス安全管理委員会	
19)	防災・防犯・施設管理委員会	
20)	災害対策委員会	
21)	診療情報管理委員会 (個人情報保護)	
22)	医療情報システム管理委員会	
23)	CS向上委員会	
24)	ES向上委員会	
25)	からだ情報室運営委員会 (図書委員会)	
26)	特定行為研修運営委員会	
13	大分岡病院教育活動 .....	101
1)	講演・ポスター発表・講義・指導・表彰	
①	診療部	
②	メディカルスタッフ	
③	委員会	
2)	投稿・著書・雑誌掲載	
①	診療部	
②	メディカルスタッフ	

## Ⅳ 大分リハビリテーション病院

1	病院組織図 .....	115
2	委員会組織図 .....	116
3	統計 .....	117
1)	外来患者数	
2)	入院患者数	
3)	診療圏	
4)	年齢性別	
5)	疾病統計	
6)	実績	
7)	健診センター実績	

4	大分リハビリテーション病院 診療部活動報告 .....	129
	1) 整形リハビリテーション科	
	2) リハビリテーション科（入院）	
	3) 消化器内科	
	4) 漢方内科・小児科	
	5) 放射線科	
	6) 循環器内科	
5	大分リハビリテーション病院 部署別活動報告 .....	132
	1) 看護部	
	2) リハビリテーション部	
	3) 敬和会健診センター（Keiwakai Health Checkup Center）	
	4) 放射線課	
	5) 検査課	
	6) 薬剤部	
	7) 通所リハビリテーション事業所・訪問リハビリテーション事業所	
	8) 口腔衛生課	
	9) 栄養課	
	10) 医事課	
	11) 経理課	
	12) 総務課	
	13) 地域連携室	
6	大分リハビリテーション病院 委員会活動報告 .....	146
	1) 医療安全管理委員会	
	2) 感染管理委員会	
	3) 労働安全衛生委員会	
	4) 臨床検査適正化委員会	
	5) 診療情報管理委員会	
	6) 褥瘡対策委員会	
	7) 医療ガス安全管理委員会	
	8) 防災・省エネ・施設管理委員会	
	9) 薬事審議委員会	
	10) 給食・栄養管理委員会	
	11) 教育委員会	
	12) 広報委員会	
	13) サービス向上委員会	
	14) NST委員会	
7	大分リハビリテーション病院教育活動 .....	158
	1) 講演・ポスター発表・講義・指導・表彰	
	①メディカルスタッフ	
	2) 投稿・著書・雑誌掲載	
	3) 資格取得	

## V 大分豊寿苑

1	大分豊寿苑組織図 .....	163
2	委員会組織図 .....	164
3	年間行事 .....	165
4	統計 .....	166
5	大分豊寿苑 部署別活動報告 .....	167
	1) 入所	
	2) 栄養室	

3) 居宅介護支援事業所（特定相談支援事業所）	
4) 居宅介護支援事業所こいけばる	
5) 通所リハビリテーション	
6) けいわ訪問看護ステーション 大分	
7) けいわ訪問看護ステーション 佐伯	
8) 看護小規模多機能型居宅介護 そら	
9) 介護企画部	
10) 事務室	
11) 支援相談室	
12) 有料老人ホームいきいきホームみなはる	
13) リハビリテーション課	
14) ヘルパーステーション	
15) 小規模多機能型居宅介護事業所陽だまりの郷みなはる	
16) グループホームおおざい憩いの苑	
17) グループホームこいけばる憩いの苑	
18) 明野地域包括支援センター	
19) 地域生活サポートセンターけいわ【自立訓練（機能訓練）・就労継続支援B型】	
6 大分豊寿苑 委員会活動報告	187
1) 労働安全衛生委員会	
2) 褥瘡対策委員会	
3) 感染対策委員会	
4) サービス向上委員会	
5) 安全対策委員会	
6) エコ委員会	
7) 地域貢献・防災委員会	
7 大分豊寿苑 部会活動報告	194
1) 学術部	
2) 広報部	
3) 福利部	
4) 園芸部	
5) レクリエーション部	
8 教育活動	189
1) 講演・ポスター発表	
2) 資格取得	

## Ⅵ 在宅支援クリニック すばる

1 統計	203
2 教育活動	204
講演・ポスター発表	
3 在宅支援クリニック すばる 活動報告	205
すばる塾開催状況	

## Ⅶ 佐伯保養院

1 外来実績	209
2 入院実績	209

## Ⅷ 資料

第14回敬和会合同学会	213
-------------	-----

ごあいさつ





# 2019年度の敬和会事業報告書の 刊行にあたって

社会医療法人敬和会 理事長 岡 敬二

敬和会全体の事業をまとめた、2019年4月から2020年3月末までの敬和会事業報告書の発刊にあたって、ひとことご挨拶申し上げます。

2019年度は、法人としての新たな事業所の開設はありませんでしたが、各施設や法人全体にかかわる事業が行われています。

まず、法人全体にかかわる人材育成の一環として、新たに2つの制度を開始しました。その一つが、4月に開始した「メンター制度」です。このメンター制度とは、豊富な知識と職業経験を有した社内の先輩社員（メンター）が、後輩社員（メンティ）に対して行う個別支援活動です。キャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートする役割を果たします。

もう一つは、5月にキックオフが行われた「ジュニアボード」です。この「ジュニアボード」とは、経営の疑似役員会のことであり、その主たる業務は、法人全体が抱える課題に対して解決するための施策の提言を行うことです。業務を通じて、敬和会を取り巻く社会的課題を見つけ、調査、分析、研究を通じて新規事業などの提言を行うことのできる人材（法人内シンクタンク）を育成することも目的です。

次に、ICTの導入とDXデジタルトランスフォーメーションの推進による生産性の向上については、6月に、ヘルパー・ステーションに「電子カルテ対応モバイル」が導入されました。

法人の事業所の移設については、12月に「障害者相談支援センター」を、居宅事業所から「地域生活サポートセンターけいわ」へ移動しました。

次に、法人に対する表彰ですが、「敬和会 障害者雇用優良事業所 県知事表彰」を受けました。敬和会ダイバーシティ推進本部が取り組んできた活動が、このような形で認められることで活動の正当性が改めて示されたと思います。

最後に、9月1日には、恒例の第14回敬和会合同学会が、あけのアクロスホールにおいて開催されました。今回のタイトルは、「挑戦 未来へのチャレンジ」であり、大分豊寿苑の岸川施設長が学会長を務められました。

特別講演は、大分市市長の佐藤樹一郎氏にお願いいたしました。「笑顔が輝き夢と魅力あふれる未来創造都市」の実現に向けて、市政運営のキーワード - 3つの創造 - ①誰もが安心して笑顔で暮らせる社会の「創造」②産業力の強化による活力の「創造」③次なる時代を見据えた新たな魅力の「創造」について、具体的にわかりやすくお話いただきました。

この3つの創造のお話の中で、実際に敬和会が貢献している事業としては、まず、訪問看護における子供の医療的ケア、病児保育や在宅看護、そして、高齢者・障害者の福祉の充実としての、あけの地域包括ケアセンターの活動、さらには、大分岡病院における救急医療体制の充実、ドクターカーの運用による救急活動、救急ワークステーション体制への協力などがあります。また、成長産業の育成・振興の面では、大分県医療ロボット・機器産業協議会における、リハビリ関連機器の開発への協力があります。

敬和会も大分市の事業に多少とも貢献できていることが再認識できましたし、今後とも大分市の推進する事業に、積極的にかかわっていききたいと思います。

理事長講演は、「ファースト・トラックに挑戦する」というタイトルで、敬和会ヘルスケアリンクのデジタル化とDWHデータウェアハウスについてお話いたしました。

以上、2019年度の敬和会事業を総括しましたが、敬和会の目指す地域包括ケア構想と、あけのアクロスホールで地域統合型ネットワークである敬和会ヘルスケアリンクの機能の充実が図られています。今後も、職員の人材育成、教育の充実により、さらなる成長を目指したいと思います。敬和会事業にご協力いただいた全ての敬和会職員に、心からの敬意と感謝の意を表します。

# ごあいさつ

大分岡病院 院長 立川 洋一

I

ごあいさつ

この度、2019年度の事業報告書が完成いたしました。編集に尽力頂いた社会医療法人敬和会の職員の皆さんに感謝申し上げますとともに、平素より大分岡病院の運営にあたり、ご支援、ご協力頂いております医療機関、介護・福祉施設の皆様方に心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、大分岡病院は、病院のミッション、ビジョン、バリューの下、2019年度には以下の8つの中長期基本方針に基づく12の指針を掲げ、これに則り病院を運営して参りました。

大分岡病院2019年度の中長期基本方針と運営指針

1. 地域（医療・介護・福祉・保健）連携
  - 1) 地域医療支援病院としての機能の充実
  - 2) 地域包括ケアシステムにおける急性期病院としての役割の確立
2. 急性期医療・救急医療
  - 3) 大分市東部地区における救急医療の充実と急性期医療の質向上
3. 当院独自の高度医療・専門医療
  - 4) 当院独自の高度医療・先進医療の推進
4. 多職種協働による患者参加型チーム医療
  - 5) センター方式の患者参加型チーム医療
5. 優れた人材育成・人材確保
  - 6) 優れた医療人の育成と人材確保
  - 7) コスト意識の浸透と全職員によるコスト削減
6. 働きがいのある職場創り
  - 8) ミッション、ビジョン、バリューの浸透と優れた組織文化の醸成
  - 9) 働き方改革、ワークライフバランス、健康経営の推進
7. 国際標準・国際化
  - 10) 国際基準による医療の質向上
  - 11) 国際化の推進
8. 全職員の経営参画
  - 12) 業務の効率化と生産性の向上

地域連携に関しましては、紹介率は90%前後、逆紹介率は100%前後と地域医療支援病院としての紹介型の診療体制はさらに強化されています。診療に関しましては、大分大学から、循環器内科、心臓血管外科、消化器内科、外科、救急科などの多くの診療科からご支援を頂き、急性期病院としての機能向上が図られています。また、診療科毎に当院独自の高度医療・専門医療に取り組んでおり、新入院患者数、手術症例数はいずれも増加し、地域医療支援病院としての期待に応えることができていると自負しています。人材育成に関しましては、看護師特定行為研修機関として、看護師特定行為の研修が開始され、当院から2名、法人内他施設から1名の計3名の看護師が受講を終了しました。2020年度からは厚生労働省の進めるパッケージを導入したプログラムに刷新します。今後、法人内で多くの研修修了者を育成できるものと期待しています。大分岡病院の職員の皆さん方が日々切磋琢磨して研鑽されているお陰で未来志向の組織文化が醸成されていると同時に経営的にも磐石化してきたところでしたが、2020年初頭からのコロナ禍の中、経営的には大きなダメージを受けました。急性期病院として新型コロナウイルス感染症の患者さんを受入れる体制づくりを行い、実際に数名の患者さんの入院加療を担当しました。そのため、地域医療支援病院としての機能を一部制限せざるを得ない状況もありました。その様な中で、地域医療のために病院挙げての新型コロナウイルス感染症対策を推進していただいた職員の皆さんのご協力、ご努力に感謝いたします。ありがとうございます。今後も大分市の東部地域の中核となる地域医療支援病院として、急性期、救急医療を担う患者さん・患者さん家族に、連携施設に、そして医療職に“選ばれる病院”であり続けられるよう、職員一同、一丸となって努力していききたいと思っています。地域の皆様方には、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 2019年度の大分リハビリテーション病院

大分リハビリテーション病院 院長 山口 豊

I

い  
あ  
い  
や  
つ

2019年度の大分リハビリテーション病院事業報告書を作成いたしました。

2019年度は現在の当院の全ての病院機能を有して望んだ新年度となりました。2018年4月に診療報酬改定があり、回復期リハビリテーション病院にとってはかなり厳しい、診療報酬に直接関わるアウトカム評価が定められましたが、全ての項目において2018年度に続き2019年度は評価を落とすことなく更に病院機能を高めることができました。病棟、外来、健診センターおよび介護事業所の全ての部門で新入院数や受診延数、利用延数、売上など過去最高であった前年度を超える実績を残すことができたのは、全職員の業務の効率性と生産性を上げることができたからだと考えています。常に病院内の会議や委員会などの組織運営の改善や、周辺地域の状況と経営状態の周知に努め、そのことを職員が理解し行動してくれました。その結果、当院がこの地域で患者さんや利用者さんと共存・共栄することを一番に考え、当院にとっての付加価値を増やすことができた実感しています。生活支援活動や地域活動の一環である「患者家族会」、「大分リハマルシェ」、「介護自慢大会」、「たびりハ」に参加していただく方々も年々増えており、このような活動も地域に着実に認知されるようになっていきます。また、空調の更新や屋上、外壁、裏庭の補修、デジタルコミュニケーションツールの利用など、職場環境の改善も進み職員にとっても働きやすい環境になっています。今後も病院機能、病院環境を更に良くしていき、敬和会の一翼を担いこの地域の安心と笑顔を守る医療と福祉を提供し続けることができるよう努めます。

# 2019年度 大分豊寿苑 ご挨拶

大分豊寿苑 施設長 岸川 正純

I

大分豊寿苑

2018年4月の介護報酬改定は、6年に1度の診療報酬との同時改定でした。このため介護制度が大きく変わりました。しかし大分豊寿苑は改定直後の4月から最上位の超強化型を現在まで維持しています。2020年3月3日、大分市で1例目の新型コロナウイルス感染者が発生しました。感染予防の理由から、大分豊寿苑も利用者の減少を認めました。2020年3月は、特に通所利用者が減少しています。新型コロナウイルスの影響を少しでも軽減できるよう、大分豊寿苑関連事業所の感染者発生・侵入の防止に努めました。

通所リハビリも、通所利用者の減少の影響を受けています。そういった状況のなか、通所のリハビリテーションマネジメント加算はⅡ以上（Ⅱ以上の加算算定には、リハビリテーション会議への医師の参加が必要です）の加算を多く算定しています。

2018年4月に立ち上げた、2つの新規事業も順調に業績を伸ばしています。小池原にオープンした“看護小規模多機能型居宅介護 そら”は、医療ニーズの高い方に対応できる施設です。契約者も順調に増えています。もう1つは大分市から業務委託を受けた“明野地域包括支援センター”です。あけのアクロスタウン一番街 1階にオープンしました。開設場所にも恵まれ、明野地区の希望される高齢者（要介護認定を受けている必要はありません）とその家族の相談を多数受け付けています。

訪問看護はこれまで大分豊寿苑という介護部門の事業所として、大きく成長してきました。これからは社会医療法人敬和会の事業所として、更に発展していった欲しいという願いを込めて“大分豊寿苑訪問看護ステーション”から“けいわ訪問看護ステーション大分”に名称を変更しました。2019年10月に“けいわ訪問看護ステーション佐伯”を佐伯市に新規オープンいたしました。佐伯保健院 廣瀬院長のご協力の下、順調に利用者を伸ばしています。

2018年12月から障害者の自律訓練（機能訓練）の卒業者に対して、就労継続支援B型を開始しました。新型コロナウイルスの影響で観光業からの仕事が減っていますが、少しでも就労の機会を提供できるように努力しています。

2016年9月にオープンした有料老人ホームは、関係者の努力にもかかわらず、ベッド数が10と少なく経営的に難しいため、2020年4月に事業を終了する準備を進めています。代わりに2020年7月に、地域密着通所介護（デイサービス）をオープンする予定です。

# ご 挨拶

在宅支援クリニック すばる 院長 姫野 浩毅

I

いぬい

社会医療法人敬和会【在宅支援クリニックすばる】は、早いもので2020年10月で6周年を迎えます。10年計画でスタートした長期ビジョンも折り返し地点を過ぎました。

昨年度の実績は、訪問診療総数3,023件、往診総数411件、一月あたりの在宅患者数は115名（重症患者22%）、在宅看取り総数20件でした。

2016年10月より無床診療所へ転換し、他院との連携“機能強化型”在宅療養支援診療所として運営する中、当院施設内に2017年度より大分豊寿苑訪問看護ステーション本部が移転、2018年度より看護小規模多機能型居宅介護そらが開設されました。敬和会ヘルスケア・リンクでの在宅拠点として、『(当院の行動指針) その人の価値観に敬意を払い、要望を理解し、患者・家族にとって適切かつ正確なチーム医療・医療連携を行い、その人の命と生き方を最大限に支援する』体制が整備されました。

以前からの取り組みである地域のケアマネージャーとの定期意見交換会、介護職との医療的連携を踏まえた寺子屋『すばる塾』の開催、さらに急性期医療と在宅の連携、高齢者救急の観点から“在宅トリアージ”の提唱とともに当院内の職員配置を含め、よりハイブリットな体制作りを進めています。

また、今年度から地域住民が栄養ケアの支援・指導を受けることのできる拠点として、『栄養ケアステーション（日本栄養士会の認定）』を4月より認可を受けました。これは地域包括ケアシステムの中で、フレイルと食支援を見据えた『挑戦』的な取り組みとなります。

“すばる”は、医師を中心に看護・介護職、検査・レントゲン技師、薬剤師、栄養士等々、事務全般を含めた多職種連携、地域・行政との連携等々、縦横無尽の連携に支援されています。これからもその事を忘れずに、そして常に『挑戦』の姿勢で日々精進してまいります。



# 事業所概要



# 1 沿革

## Ⅱ 事業所概要

1954年5月22日	岡 医 院	岡医院開設（8床） 院長 岡 宗由（産科、婦人科、外科） 住所 大分市大字鶴崎1332の1
1956年2月13日	岡 医 院	岡医院（19床）増床
1963年7月11日	大分岡病院	診療所から病院へ 40床開設
1964年6月2日	大分岡病院	救急病院告示承認
1964年9月9日	大分岡病院	61床に増床
1966年4月17日	大分岡病院	80床に増床
1968年4月1日	大分岡病院	副院長 姫野研三就任
1970年12月2日	大分岡病院	X線テレビ（日立DR-125VT）導入
1978年	大分岡病院	院長 岡宗由 紺綬褒章（内閣総理大臣 福田赳夫）
1981年4月7日	大分岡病院	頭部CTスキャナー（東芝TCT-30）導入（大分岡病院）
1982年1月12日	大分岡病院	病院内温泉掘削工事
1983年3月22日	大分岡病院	110床に増床
1984年10月2日	大分岡病院	140床に増床
1987年12月2日	大分岡病院	180床に増床
1989年1月25日	敬 和 会	医療法人 敬和会設立（代表者 理事長 岡宗由）
1989年8月1日	大分岡病院	事業所内保育所開設
1990年11月1日	大分岡病院	基準看護（基本）承認
1991年10月1日	大分岡病院	基準看護特Ⅰ類承認
1992年8月1日	大分岡病院	基準看護特Ⅱ類承認
1993年5月1日	大分岡病院	基準看護特Ⅲ類承認
1994年10月1日	大分岡病院	院長 姫野研三就任
1995年6月9日	大分豊寿苑	訪問看護ステーションを大分岡病院内に開設（大分豊寿苑訪問看護ステーション）
1995年9月8日	大分豊寿苑	老人保健施設大分豊寿苑開設（入所定員90名、通所定員60名） 施設長 新貝哲一就任
1997年5月1日	敬 和 会	病児保育センターひまわり開設（大分市委託幼児デイサービス）
1998年4月1日	大分岡病院	新看護承認（2.5：1看護（A），10：1補助）
1998年11月1日	大分岡病院	211床に増床
1998年11月3日	大分岡病院	東芝デジタルアンギオシステム導入
1998年12月3日	大分岡病院	MR（シーメンス旭メディック）導入
1999年1月1日	大分岡病院	高気圧酸素治療装置導入
1999年2月12日	大分岡病院	透析室の開設
1999年7月1日	大分岡病院	222床に増床
2000年4月1日	大分岡病院	院外処方箋発行開始 二次救急病院に指定 大分岡病院居宅介護支援事業所開設
	大分豊寿苑	介護保険法施行 通所リハビリテーションの定員を60名へ増員 大分豊寿苑生きがいデイサービス開始（定員15名） 大分豊寿苑居宅介護支援事業所開設
2000年10月2日	大分岡病院	「形成外科外来」新設
2000年10月3日	大分岡病院	誤投薬防止システム導入
2001年2月1日	大分岡病院	地域連携室設置
2001年3月15日	大分豊寿苑	ヘルパーステーション開設
2001年4月1日	大分岡病院	診療情報管理加算算定開始 院内PHSシステム導入



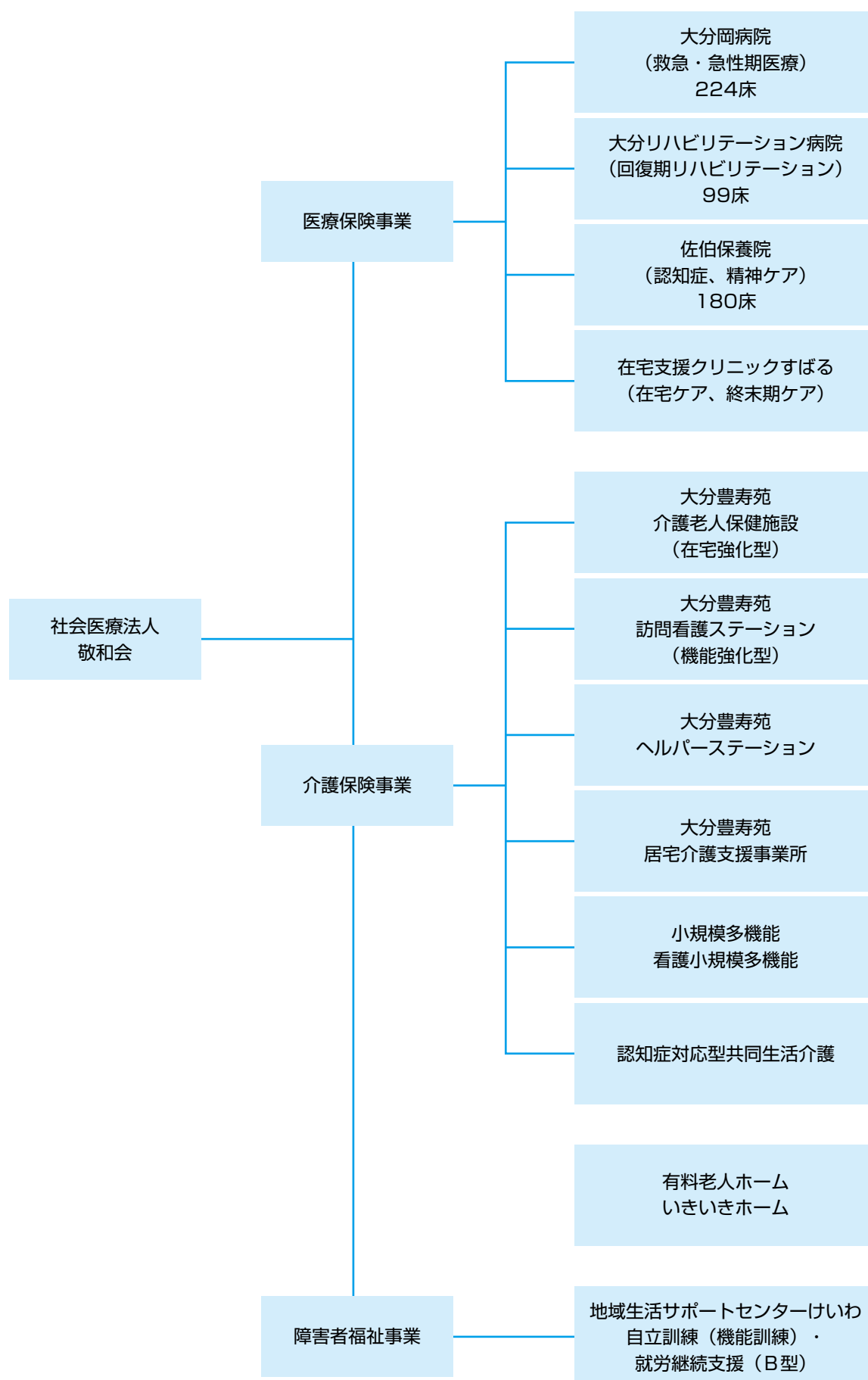
2001年5月1日	大分岡病院	診療科「脳神経外科」標榜
2001年7月1日	大分岡病院	ブッチャー方式ハウスキーピング導入
2001年10月1日	大分岡病院	開放型病院認可（5床）
2002年1月1日	大分岡病院	総合リハビリテーション認可 「ER救急センター」開設
2002年2月1日	大分岡病院	シーメンスRI装置導入
2002年3月12日	大分岡病院	一般病床222床から231床に増床
2002年6月1日	大分岡病院	新看護承認（2：1看護）
2002年9月30日	大分岡病院	日本医療機能評価機構病院認定 Ver3.1
2003年1月1日	大分岡病院	院長 岡敬二、副院長 立川洋一、総院長 姫野研三就任
2003年3月1日	大分岡病院	副院長 岡治道就任
2003年4月	大分豊寿苑	大分豊寿苑ヘルパーステーション開設
2003年5月24日	大分岡病院	「コールセンター」開設
2003年6月25日	大分岡病院	大分サイバーナイフがん治療センター棟の完成
2003年7月1日	敬和会	「創薬センター」設立
	大分豊寿苑	通所リハビリテーションの定員を70名へ増員
2003年7月16日	大分岡病院	地域リハビリテーション支援体制整備推進事業協力の承諾
2003年9月1日	大分岡病院	ICU（6床）設置
2003年10月1日	大分豊寿苑	施設長 衛藤英一就任
	大分岡病院	薬剤部クリーンベンチ運用開始 電子レセプト開始
2003年10月3日	大分岡病院	管理型臨床研修病院に指定
2004年1月1日	大分岡病院	日本救急医学会認定医指定施設
2004年2月1日	大分岡病院	「創傷ケアセンター」開設
2004年4月1日	大分岡病院	電子カルテ導入 マルチススライスCT16列（シーメンス）導入
	大分豊寿苑	大分豊寿苑居宅介護支援事業所に大分岡病院居宅介護支援事業所を統合
2004年6月1日	大分岡病院	「リンパ浮腫治療室」開設
2004年11月1日	大分岡病院	NST稼動施設認定 放射線治療（サイバーナイフⅡ）の使用開始
2004年11月	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問リハビリテーション開始
2004年12月	大分豊寿苑	訪問看護ステーションを大分岡病院内から大分豊寿苑に併設
2005年2月16日	大分岡病院	「マキシロ・フェイシャル・ユニット」開設
2005年4月1日	大分豊寿苑	施設長 柴田興彦就任
2006年1月12日	大分岡病院	第1回大分岡病院学会
2006年2月1日	大分岡病院	「心血管センター」開設
2006年4月1日	大分東部病院	大分東部病院開設（77床） 院長 下田勝広、副院長 岡田さおり・末松俊洋 住所 大分市大字志村字谷ヶ迫765番地 診療科（内科、消化器科、循環器科、外科、肛門科、産婦人科、放射線科）
	大分岡病院	DPC対象病院 日本形成外科学会教育関連施設認可
	大分豊寿苑	大分豊寿苑総合在宅ケアセンター開設、介護予防開始
2006年6月	大分豊寿苑	通所リハビリテーションの定員を80名へ増員
2006年8月1日	大分岡病院	病理解剖室設置
2006年10月5日	大分岡病院	大分岡病院地域医療支援病院の名称使用許可
2006年12月1日	大分岡病院	ヘリカルCT（東芝）よりマルチススライスCT16列（シーメンス）に更新
2007年1月1日	大分岡病院	全館禁煙スタート 土曜日隔週休診実施

2007年3月	大分東部病院	看護体制7：1看護承認 診療情報管理室開設
2007年4月1日	敬 和 会	会長 岡宗由就任 理事長 岡敬二就任
	大分岡病院	院長 葉玉哲生就任 総院長 姫野研三就任 毎週土曜日休診実施
2007年4月16日	敬 和 会	敬和会託児所「敬和会ふたば保育園」開設
2007年5月1日	大分岡病院	看護体制7：1看護承認
2007年5月20日	敬 和 会	第2回敬和会合同学会
2007年6月1日	大分岡病院	MRI1.0Tより1.5Tに更新（シーメンス）
2007年7月1日	大分岡病院	大分岡病院敷地内禁煙、これに伴い「禁煙外来保険適用」
2007年8月21日	大分岡病院	日本医療機能評価機構受審（Ver5）
2008年4月1日	大分岡病院	名誉院長 柳澤繁孝就任（歯科口腔外科）
	大分東部病院	新オーダーリングシステム稼働 助産師外来開始
2008年4月15日	大分岡病院	副院長 山口豊就任
2008年4月19日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練
2008年5月11日	敬 和 会	第3回敬和会合同学会
2008年6月	大分岡病院	「外来化学療法」診療開始
	大分東部病院	「乳腺外来」診療開始
2008年7月1日	大分岡病院	患者用図書室「からだ情報室」開設
2008年8月1日	大分東部病院	リハビリテーション開始（理学療法士 1名）
2009年2月13日	大分岡病院	インドネシア看護師候補者2名就任（ステファニーさん、ブリギタさん）
2009年3月30日	大分岡病院	大分DMAT病院指定
2009年4月1日	敬 和 会	社会医療法人認定（認定要件：大分岡病院救急医療） 理事長 岡敬二就任
	大分豊寿苑	新施設長 岸川正純就任
2009年4月15日	大分岡病院	副院長 迫秀則就任
2009年5月	大分岡病院	診療科「腫瘍内科」を標榜
2009年5月17日	敬 和 会	第1回敬和会合同TQM発表会
2009年6月1日	大分豊寿苑	グループホーム「おおぞい憩いの苑」開設（2ユニット：定員18名）
	大分岡病院	診療科「精神科」を標榜
2009年6月21日	敬 和 会	第4回敬和会合同学会
2009年11月1日	大分岡病院	新規導入ドクターカーの運用開始
2009年11月	大分豊寿苑	フィリピン人介護福祉士候補生2名着任（ランドルフさん、ジェニファーさん）
2009年12月1日	大分岡病院	電子カルテ更新
2010年2月1日	大分東部病院	病院機能評価Ver.6.0認定取得
2010年4月1日	大分岡病院	基幹型医師臨床研修病院に呼称変更 健診センター改築
2010年4月		
2010年4月1日	大分東部病院	全国健康保険協会管掌保険生活習慣病予防健診実施医療機関の認定
2010年5月6日	大分東部病院	健診センターの拡張工事完了
2010年5月23日	敬 和 会	第5回敬和会合同学会
2010年9月5日	敬 和 会	第2回敬和会合同TQM発表会
2010年12月1日	大分岡病院	マルチスライスCT64列より128列CTに更新
2011年3月11日	大分岡病院	東日本大震災へ大分岡病院DMATチーム出動（3/14まで）
2011年4月11日	大分岡病院	泰達国際心血管病医院（中国）との学術・医療交流を促進するため友好協定（天津）
2011年5月14日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練

2011年5月29日	敬 和 会	第6回敬和会合同学会（鶴崎公民館）
2011年6月	大分岡病院	地域医療実習生（大分大学医学部6年生）2週間実習受入開始
2011年7月6日	大分岡病院	姫野研三名誉院長「警察庁長官賞受賞」
2011年8月	大分豊寿苑	通所リハビリテーションの定員を100名へ増員
2011年8月10日	大分岡病院	健康ハートの日（心血管センター主催）
2011年8月23日	大分岡病院	大分県看護協会主催ワークライフバランスモデル事業参加（看護部）
2011年9月4日	敬 和 会	第3回敬和会合同TQM発表会
2011年9月22日	敬 和 会	瀋陽医学院看護学科新入生との交流会（中国瀋陽市）
2011年9月25日	大分岡病院	世界ハートの日 市民公開講座「見て・聞いて・知ろう、心臓の病気」（コンパルホール）
2011年10月1日	大分岡病院	QIKPO（医療質改善推進室）設置
2011年10月		次世代育成支援「子育てサポート企業」認定（大分県7社認定）
2012年1月17日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーションサテライト、ヘルパーステーション開設 訪問看護下郡サテライト 訪問看護大分東部病院サテライト ヘルパーステーション大分東部病院サテライト
2012年5月	大分東部病院	脊椎整形外科診療開始（岡治道医師 大分岡病院より異動）
2012年5月12日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練
2012年6月3日	敬 和 会	第7回敬和会合同学会（コンパルホール）
2012年7月14日	大分岡病院	職場環境改善報告会
2012年8月1日	大分岡病院	MRI（1.5テスラ）更新
2012年8月9日	大分岡病院	第2回健康ハートの日懇話会
2012年9月29日	大分岡病院	日本医療機能評価（Ver.6.0）認定 認定期間（2012.9.30～2017.9.29）
2012年11月2日	大分岡病院	第2回世界ハートの日市民公開講座（コンパルホール）
2013年1月20日	大分岡病院	血管造影室2（造設）稼働（大分岡病院）
2013年4月1日	敬 和 会	人事管理システム稼働
2013年4月5日	大分岡病院	日本経営品質クオリティ認証継続Aクラス認証（2013年8月1日～2016年7月31日）
2013年4月10日	大分岡病院	血管造影室1（改装・新装置）稼働
2013年5月25日	大分岡病院	大規模災害時対応訓練
2013年6月16日	大分岡病院	第8回敬和会合同学会（コンパルホール）
2013年7月1日	大分岡病院	院長 森照明就任
2013年7月	大分豊寿苑	在宅復帰強化型老人保健施設届出（在宅復帰率50%）（大分豊寿苑）
2013年7月3日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーションサテライト（春日）開設
2013年8月7日	大分岡病院	第3回健康ハートの日懇話会
2013年9月7日	大分岡病院	第2回職場環境改善報告会
2013年9月29日	大分岡病院	第3回世界ハートの日市民公開講座（音の泉ホール）
2014年1月1日	敬 和 会	敬和会統括院長 森照明就任（大分岡病院院長兼務）
2014年2月1日	大分岡病院	マキシロフェイシャルユニットが口腔顎顔面外科・矯正歯科へ名称変更
2014年4月1日	敬 和 会	消化器センター開設
	大分東部病院	院長 岡敬二就任（理事長兼務） 回復期リハビリテーション病棟開設（40床） 小児科診療開始（立花秀俊医師 大分岡病院より異動）
	大分豊寿苑	大分豊寿苑総合在宅ケアセンター（新館）完成 通所リハビリテーションの定員を120名へ増員
2014年5月18日	大分岡病院	高血圧の日市民公開講座（コンパルホール）
2014年5月22日	大分岡病院	創立60周年記念日 記念誌発行
2014年6月1日	大分岡病院	一般病床231床から224床に変更
	敬 和 会	第9回敬和会合同学会（コンパルホール）

2014年9月23日	大分岡病院	第4回世界ハートの日市民公開講座（ホルトホール）
2014年10月1日	敬和会	在宅支援クリニックすばる開設（15床） 院長 姫野浩毅就任 住所 大分市大字小池原1021番地 敬和会地域連携統括センター開設 メディカルリンクセンター開設
	大分岡病院	副院長 荒巻政憲就任
	大分豊寿苑	グループホーム「こいけばる憩いの苑」開設（2ユニット：定員18名）
2015年4月1日	敬和会	敬和会学術・研究統括センター開設
2015年5月17日	大分岡病院	高血圧の日市民公開講座（コンパルホール）
2015年6月1日	大分東部病院	院長 山口豊就任
2015年6月14日	敬和会	第10回敬和会合同学会（平和市民公園能楽堂）
2015年8月10日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーション小池原サテライト開設
2015年9月6日	大分豊寿苑	大分豊寿苑開設20周年記念講演会（鶴崎ホテル）
2015年9月27日	大分岡病院	第5回世界ハートの日市民公開講座（ホルトホール）
2015年10月1日	敬和会	敬和会人事管理センター開設 敬和会医事統括センター開設
2016年4月1日	敬和会	会計年度変更 敬和会ダイバーシティセンター開設
	大分岡病院	院長代行 立川洋一就任 KAIZEN室開設
	すばる	在宅療養支援診療所（機能強化型）
2016年4月26日	大分東部病院	リハビリ起工式
2016年7月1日	敬和会	佐伯保養院開設（認知症治療病棟60床、精神療養病棟60床、精神一般病床60床） 院長 廣瀬就信 住所 佐伯市東町27番12号 診療科（精神科、心療内科、老年精神科）
2016年7月11日	敬和会	大分オーラルリハビリテーションケア研究会開設
2016年8月1日	大分岡病院	院長 立川洋一就任
2016年8月31日	大分東部病院	糖尿病内科外来閉鎖
2016年9月20日	大分豊寿苑	有料老人ホーム いきいきホームみなはる開設（入居定員10名）
2016年9月22日	大分岡病院	第6回世界ハートの日市民公開講座（コンパルホール）
2016年9月30日	すばる	入院病棟（病床 15床）閉鎖
2016年10月1日	大分東部病院	84床から99床に増床 「敬和会健診センター」名称変更 敬和会健診センター長 山口 豊就任（院長兼任）
2016年11月1日	大分岡病院	放射線治療（サイバーナイフM6）の治療装置更新
2016年11月30日	大分東部病院	乳腺外科外来閉鎖
2017年1月1日	大分東部病院	全床「回復期リハビリテーション病棟」変更（入院料1）
2017年1月21日	大分岡病院	心臓大血管外科手術1000例達成記念講演会
2017年1月28日	大分東部病院	大分東部病院 リハビリ棟完成竣工式・内覧会・祝賀会
2017年1月31日	大分東部病院	呼吸器内科外来閉鎖
2017年2月1日	大分岡病院	委託型SPDシステム導入
	大分リハビリテーション病院	大分東部病院名称変更『大分リハビリテーション病院』 整形リハビリテーション外来開設
2017年2月5日	敬和会	第11回敬和会合同学会
2017年3月1日	大分リハビリテーション病院	脳神経リハビリテーション外来開設
2017年4月1日	大分岡病院	不整脈・アブレーション専門医医師着任
	大分リハビリテーション病院	在宅支援部おおざい開設（通所リハビリ・訪問リハビリ）

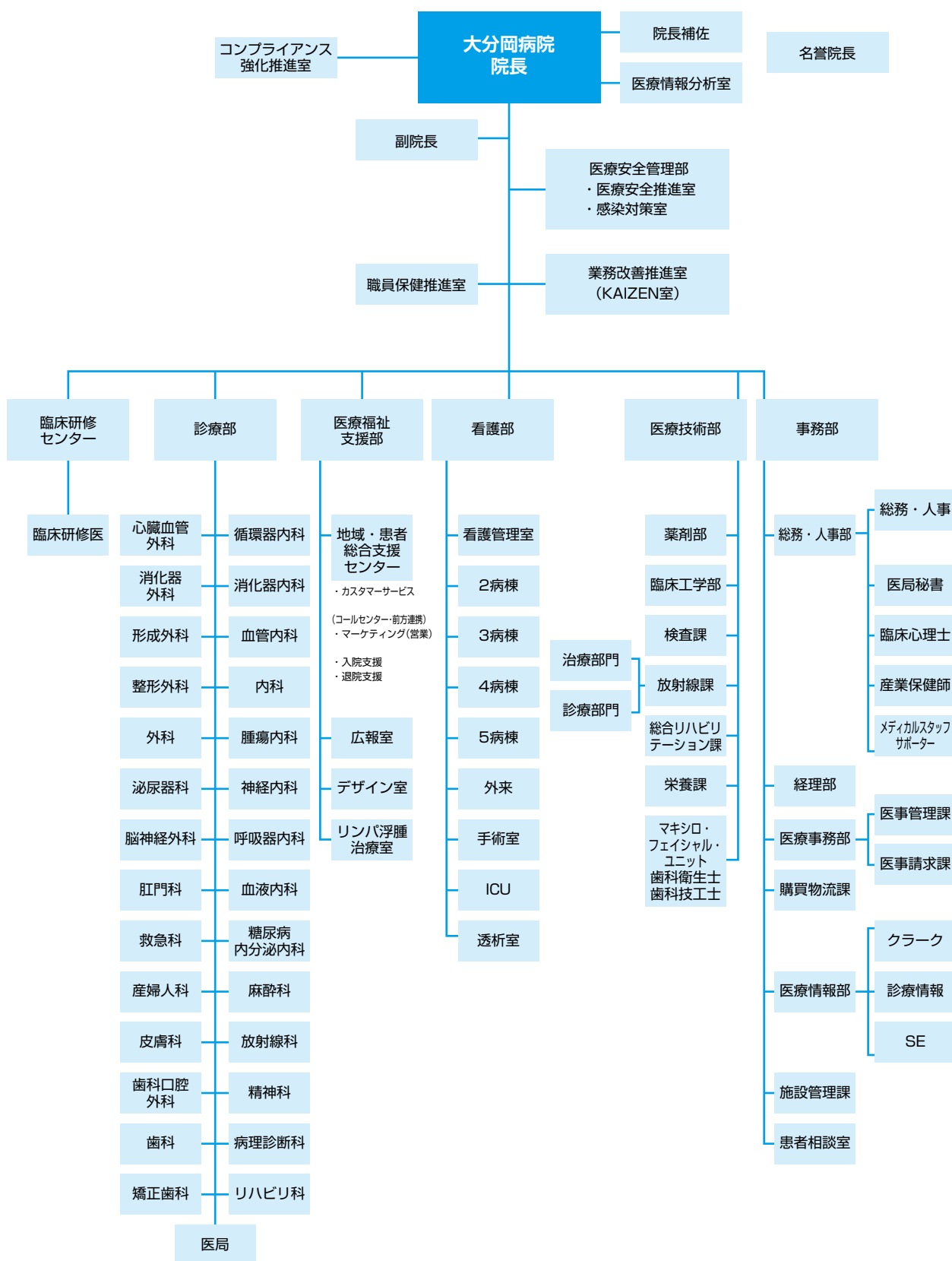
2017年5月1日	大分豊寿苑	自立訓練（機能訓練） 地域生活サポートセンターけいわの開設
2017年5月10日	大分豊寿苑	大分市パワーアップ教室（訪問型サービスC・通所型サービスC）事業の開始
2017年6月1日	大分岡病院	電子カルテ更新
	大分リハビリテーション病院	電子カルテ導入
2017年7月1日	大分豊寿苑	大分豊寿苑訪問看護ステーション本部を小池原に移転 皆春本部を皆春サテライトに変更 大分豊寿苑居宅介護支援事業所こいけばるの開設
2017年7月10日	敬和会	指定居宅介護支援事業 「ケアプランセンター さくら」の開設（佐伯保養院内）
2017年7月23日	敬和会	第1回日本ヘルスケアダイバーシティ学会 大会長 岡 敬二
2017年9月10日	大分岡病院	第12回敬和会合同学会（コンパルホール）
2017年9月24日	大分岡病院	第7回世界ハートの日市民公開講座（ホルトホール）
2017年10月14日	大分豊寿苑	別保あんしんサポートセンター開設 ミニむつき庵ほほえみ開設
2018年2月	敬和会	明野地域包括支援センター事業受託
2018年2月13日	大分岡病院	大分東地域救急ワークステーション運用開始
2018年3月7日	大分リハビリテーション病院	人間ドック機能評価受審
2018年4月1日	大分リハビリテーション病院	副院長 高司由理子就任
	大分豊寿苑	明野地域包括支援センター開設 看護小規模多機能型居宅介護「そら」開設
2018年8月30日	大分岡病院	看護師特定行為指定研修機関認定
2018年8月31日	大分岡病院	生涯健康県おおいた21推進協力 健康経営事業所認定
2018年9月1日	すばる	電子カルテ導入
2018年9月7日	大分岡病院	日本医療機能評価機構病院認定更新 3rd1.1
2018年9月9日	敬和会	第13回敬和会合同学会（コンパルホール）
2018年9月24日	大分岡病院	第8回世界ハートの日市民公開講座（ホルトホール）
2018年10月1日	敬和会	敬和会健診センター長 高司由理子就任
2018年12月1日	大分豊寿苑	就労継続支援B型開設
2019年1月1日	大分岡病院	口腔顎顔面外科・矯正歯科がマキシロフェイシャルユニットへ名称変更
2019年2月13～15日	大分リハビリテーション病院	病院機能評価・付加機能評価受審
2019年9月23日	大分岡病院	第9回世界ハートの日市民公開講座（ホルトホール）
2019年10月1日	けいわ訪問看護ステーション	「けいわ訪問看護ステーション佐伯」開設（佐伯保養院内）
2019年11月1日	敬和会	障がい者雇用優良事業所 知事表彰
2020年1月27日	大分豊寿苑	「ノーリフティング宣言」発信

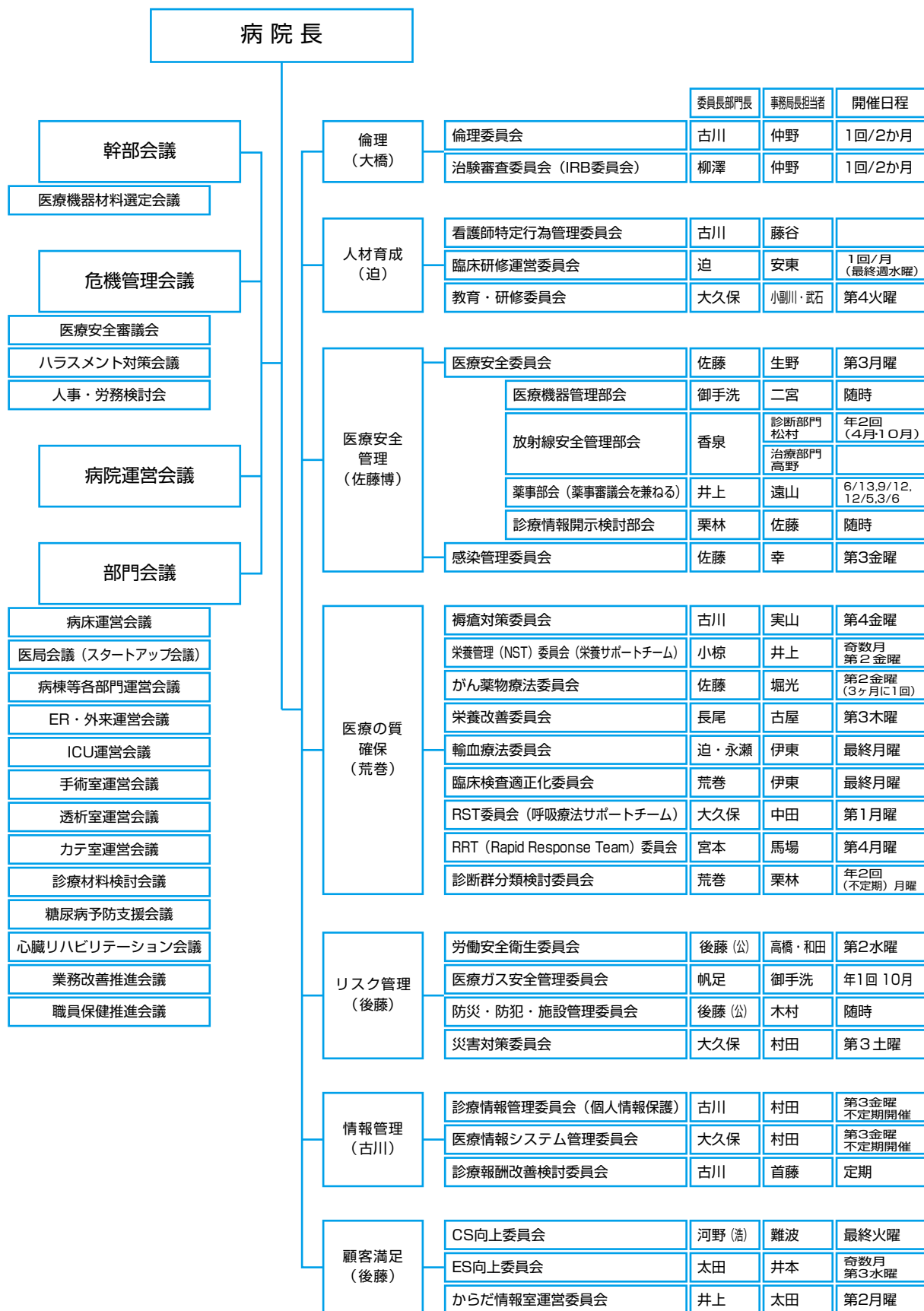


大 分 岡 病 院









## 施設基準

基本診療関連	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1） 臨床研修病院入院診療加算 急性期看護補助体制加算（25対1） 夜間急性期看護補助体制加算（100対1） 看護職員夜間配置加算（16対1） 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1 医療安全対策地域連携加算1 感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算 抗菌薬適正使用支援加算 患者サポート体制充実加算 後発医薬品使用体制加算1 入退院支援加算1 地域連携診療計画加算 総合評価加算 認知症ケア加算 精神疾患診療体制加算	排尿自立指導料 特定集中治療室管理料3 糖尿病合併症管理料 院内トリアージ実施料 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算 開放型病院共同指導料 がん治療連携指導料 医療機器安全管理料1 医療機器安全管理料2 検体検査管理加算1 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ヘッドアップティルト試験 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算2 人口腎臓 導入期加算 透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
手術関連	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 食道縫合術・内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術・胃瘻閉鎖術・小腸瘻閉鎖術・結腸瘻閉鎖術・腎（腎盂）腸瘻閉鎖術・尿管腸瘻閉鎖術・膀胱腸瘻閉鎖術及び陰腸瘻閉鎖術 経皮的冠動脈形成術 （特殊カテーテルによるもの） 胸腔鏡下弁形成術 胸腔鏡下弁置換術 経皮的中隔心筋焼灼術 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 （リードレスペースメーカー）	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術 輸血管理料1 輸血適正使用加算 麻酔管理料1
放射線科	CT撮影及びMRI撮影 外来放射線照射診療料 放射線治療専任加算 外来放射線治療加算 高エネルギー放射線治療	1回線量増加加算 画像誘導放射線治療加算（IGRT） 体外照射呼吸性移動対策加算 定位放射線治療 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
薬剤部	病棟薬剤業務実施加算1 病棟薬剤業務実施加算2	薬剤管理指導料 無菌製剤処理料
リハビリ課	心大血管疾患リハビリテーション料1 脳血管疾患等リハビリテーション料1 運動器リハビリテーション料1	呼吸器リハビリテーション料1 がん患者リハビリテーション料
栄養課	入院食事療養1・入院時生活療養1	
医療情報課	診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算2（15対1）	データ提出加算
歯科	地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科診療特別対応連携加算 歯科外来診療環境体制加算2 地域歯科診療支援病院入院加算 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料 精密触覚機能検査 歯科口腔リハビリテーション料2	手術用顕微鏡加算 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る） 下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る） 歯根端切除手術の注3 クラウン・ブリッジ維持管理料 歯科矯正診断料 顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る）の手術前後における歯科矯正に係るもの）

## 4

## 設置基準

保険医療機関	労災保険二次健診等給付医療機関
地域医療支援病院	腎摘出協力医療機関
第2次救急指定病院	結核予防法指定病院
開放型病院	生活保護法指定病院
小児慢性特定疾病治療研究事業受託	助産施設
管理型新医師臨床研修指定病院	特定疾患治療研究事業受託
原爆被爆者健診委託契約	指定自立支援医療機関（心臓機能に関する医療、歯科口腔外科に関する医療、形成外科に関する医療）
労災保険指定病院	

### Ⅲ

### 大分岡病院

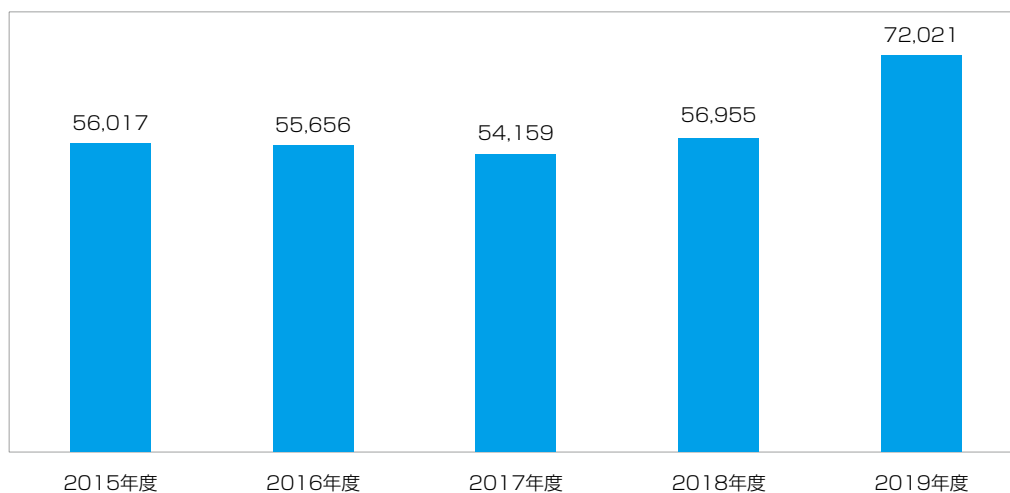
## 5

## 教育研修指定病院関係

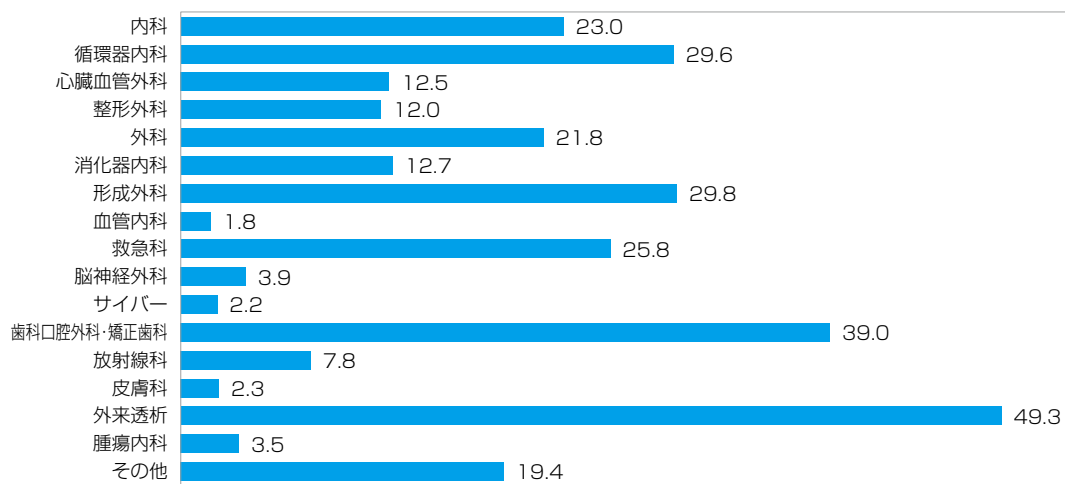
日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本矯正歯科学会臨床研修機関指定
心臓血管外科専門医認定基幹施設	日本消化器外科学会修練関連施設
日本外科学会外科専門医制度指定施設	日本大腸肛門病学会関連施設
日本内科学会教育関連病院	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本循環器学会循環器専門医研修施設	日本医療薬学会認定薬剤師研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設	腹部ステントグラフト実施施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	日本脈管学会認定 研修指定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本消化管学会胃腸科指導施設
日本形成外科学会認定施設	JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設認定
日本整形外科学会専門医研修施設	JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定
日本口腔外科学会専門医制度指定研修施設	看護師特定行為研修指定研修機関（2区分）

## 1) 外来患者の内訳

外来患者数の年度別推移



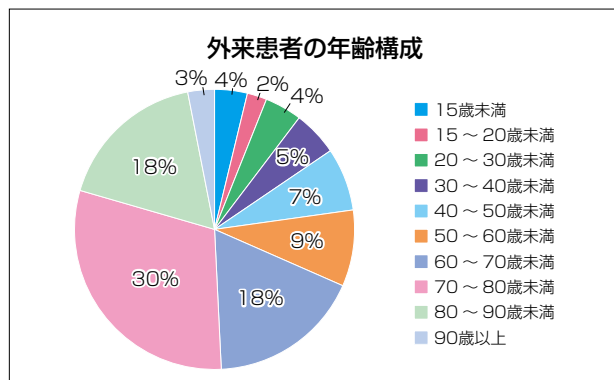
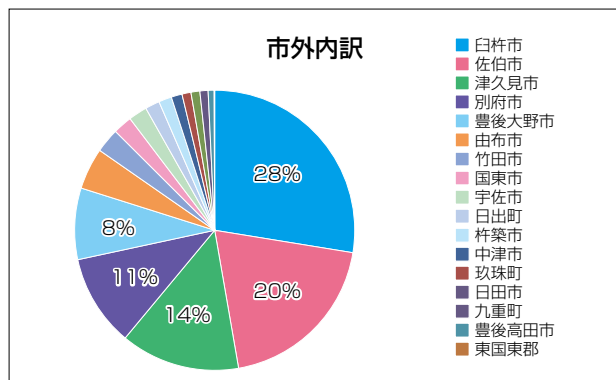
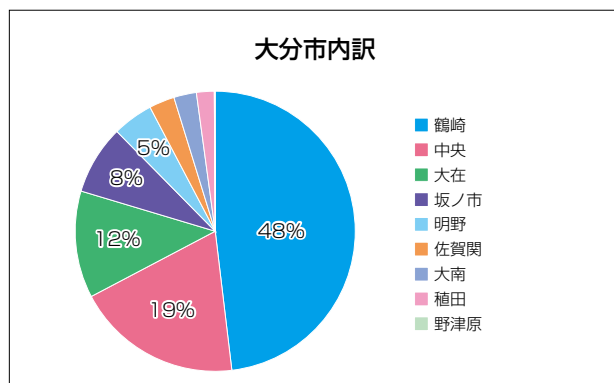
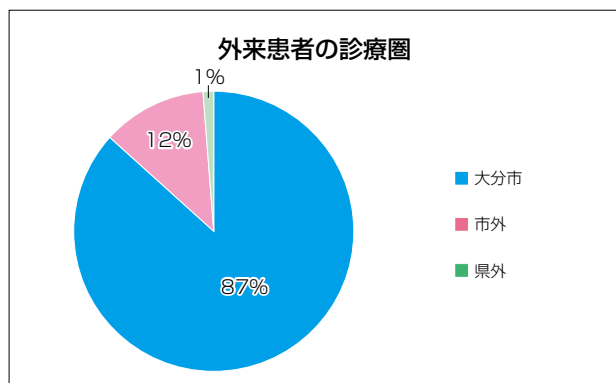
各科別1日当り患者数



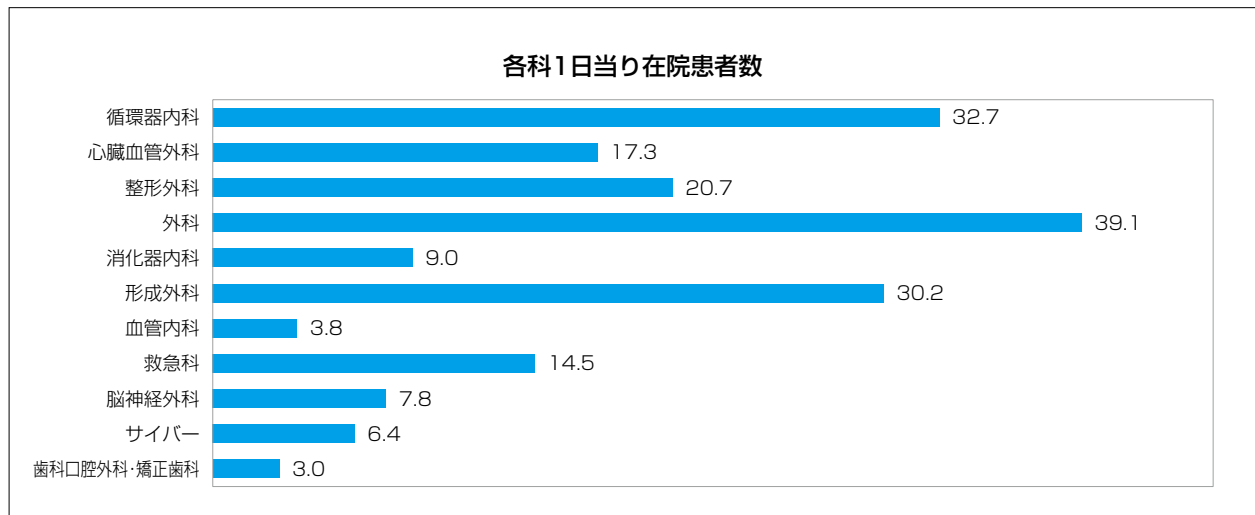
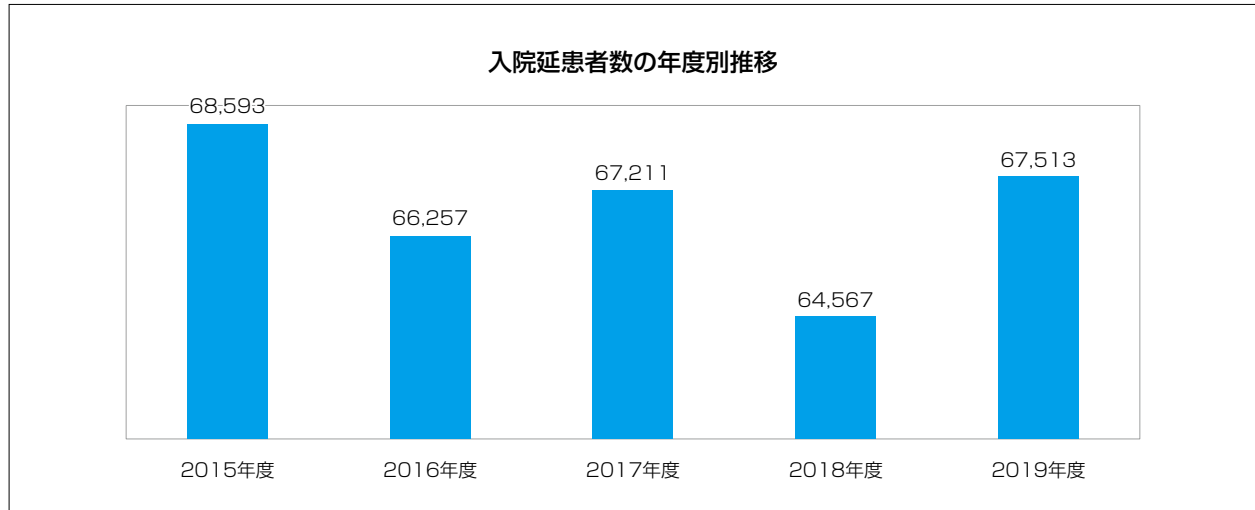
各科別外来患者数（延患者数）

上段：総数 下段：1日当たり

月 日数	4月 20	5月 19	6月 22	7月 20	8月 22	9月 20	10月 20	11月 20	12月 19	1月 19	2月 20	3月 22	合計 243
内科	511	492	484	468	532	461	498	456	477	434	418	369	5,600
	25.6	25.9	22.0	23.4	24.2	23.1	24.9	22.8	25.1	22.8	20.9	16.8	23.0
循環器内科	672	606	627	632	600	552	661	624	581	605	569	453	7,182
	33.6	31.9	28.5	31.6	27.3	27.6	33.1	31.2	30.6	31.8	28.5	20.6	29.6
心血管外科	286	236	254	293	241	245	346	263	258	221	230	173	3,046
	14.3	12.4	11.5	14.7	11.0	12.3	17.3	13.2	13.6	11.6	11.5	7.9	12.5
整形外科	274	258	254	277	257	242	265	234	223	204	244	182	2,914
	13.7	13.6	11.5	13.9	11.7	12.1	13.3	11.7	11.7	10.7	12.2	8.3	12.0
外科	499	471	467	478	452	450	453	412	425	434	382	377	5,300
	25.0	24.8	21.2	23.9	20.5	22.5	22.7	20.6	22.4	22.8	19.1	17.1	21.8
消化器内科	290	257	270	302	222	274	293	252	252	234	233	210	3,089
	14.5	13.5	12.3	15.1	10.1	13.7	14.7	12.6	13.3	12.3	11.7	9.5	12.7
形成外科	613	606	596	687	690	565	664	564	605	633	524	490	7,237
	30.7	31.9	27.1	34.4	31.4	28.3	33.2	28.2	31.8	33.3	26.2	22.3	29.8
血管内科	34	29	40	31	36	31	48	38	35	42	47	28	439
	1.7	1.5	1.8	1.6	1.6	1.6	2.4	1.9	1.8	2.2	2.4	1.3	1.8
救急科	521	524	412	447	567	485	424	503	721	927	424	305	6,260
	26.1	27.6	18.7	22.4	25.8	24.3	21.2	25.2	37.9	48.8	21.2	13.9	25.8
脳神経外科	99	88	89	109	60	62	81	85	71	88	63	42	937
	5.0	4.6	4.0	5.5	2.7	3.1	4.1	4.3	3.7	4.6	3.2	1.9	3.9
サイバー	50	37	39	47	55	51	59	28	43	38	44	45	536
	2.5	1.9	1.8	2.4	2.5	2.6	3.0	1.4	2.3	2.0	2.2	2.0	2.2
歯科口腔外科	895	766	789	910	928	725	846	802	773	744	670	627	9,475
矯正歯科	44.8	40.3	35.9	45.5	42.2	36.3	42.3	40.1	40.7	39.2	33.5	28.5	39.0
放射線科	132	139	142	162	169	188	175	190	164	142	162	138	1,903
	6.6	7.3	6.5	8.1	7.7	9.4	8.8	9.5	8.6	7.5	8.1	6.3	7.8
皮膚科	56	40	42	44	50	47	63	33	47	51	56	37	566
	2.8	2.1	1.9	2.2	2.3	2.4	3.2	1.7	2.5	2.7	2.8	1.7	2.3
外来透析	825	960	895	977	999	1,033	1,051	961	1,091	1,079	1,035	1,071	11,977
	41.3	50.5	40.7	48.9	45.4	51.7	52.6	48.1	57.4	56.8	51.8	48.7	49.3
腫瘍内科	58	76	58	76	70	64	69	74	63	81	69	82	840
	2.9	4.0	2.6	3.8	3.2	3.2	3.5	3.7	3.3	4.3	3.5	3.7	3.5
その他	399	347	382	388	386	346	397	547	442	374	356	356	4,720
	20.0	18.3	17.4	19.4	17.5	17.3	19.9	27.4	23.3	19.7	17.8	16.2	19.4
合計	6,214	5,932	5,840	6,328	6,314	5,821	6,393	6,066	6,271	6,331	5,526	4,985	58,638
	310.7	312.2	265.5	316.4	287.0	291.1	319.7	303.3	330.1	333.2	276.3	226.6	241.3



## 2) 入院患者の内訳

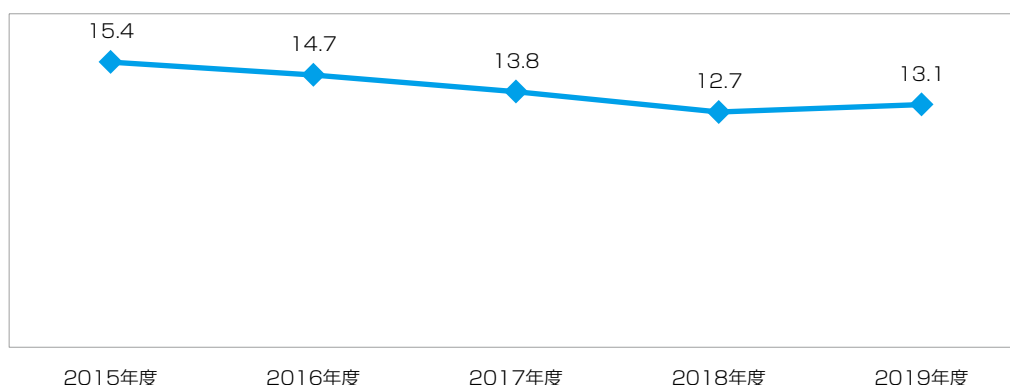


各科別入院患者動向（退院患者含む）

上段：総数 下段：1日当たり

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
循環器内科	1,174	1,055	1,233	1,252	1,236	1,000	1,131	905	1,161	1,074	1,102	929	13,252
	39.1	34.0	41.1	40.4	39.9	33.3	36.5	30.2	37.5	34.6	38.0	30.0	36.2
心臓血管外科	574	539	512	543	562	546	474	656	627	610	542	486	6,671
	19.1	17.4	17.1	17.5	18.1	18.2	15.3	21.9	20.2	19.7	18.7	15.7	18.2
整形外科	691	504	535	576	559	508	1,145	924	527	676	793	553	7,991
	23.0	16.3	17.8	18.6	18.0	16.9	36.9	30.8	17.0	21.8	27.3	17.8	21.8
外科	1,211	1,171	1,303	1,140	1,296	1,329	1,479	1,323	1,281	1,166	1,233	1,453	15,385
	40.4	37.8	43.4	36.8	41.8	44.3	47.7	44.1	41.3	37.6	42.5	46.9	42.0
消化器内科	396	298	297	440	378	405	315	202	239	223	324	312	3,829
	13.2	9.6	9.9	14.2	12.2	13.5	10.2	6.7	7.7	7.2	11.2	10.1	10.5
形成外科	1,060	972	994	1,159	929	923	666	847	910	1,161	965	932	11,518
	35.3	31.4	33.1	37.4	30.0	30.8	21.5	28.2	29.4	37.5	33.3	30.1	31.5
血管内科	71	48	32	105	135	98	67	138	104	241	254	198	1,491
	2.4	1.5	1.1	3.4	4.4	3.3	2.2	4.6	3.4	7.8	8.8	6.4	4.1
救急科	418	508	476	603	490	271	494	518	444	541	500	355	5,618
	13.9	16.4	15.9	19.5	15.8	9.0	15.9	17.3	14.3	17.5	17.2	11.5	15.3
脳神経外科	144	271	285	260	237	263	250	266	306	294	232	233	3,041
	4.8	8.7	9.5	8.4	7.6	8.8	8.1	8.9	9.9	9.5	8.0	7.5	8.3
サイバー	187	508	476	603	490	271	494	518	444	541	500	355	5,387
	6.2	16.4	15.9	19.5	15.8	9.0	15.9	17.3	14.3	17.5	17.2	11.5	14.7
歯科口腔外科 矯正歯科	139	174	162	286	312	286	222	148	212	204	187	199	0
	4.6	5.6	5.4	9.2	10.1	9.5	7.2	4.9	6.8	6.6	6.4	6.4	0.0
合計	6,065	6,048	6,305	6,967	6,624	5,900	6,737	6,445	6,255	6,731	6,632	6,005	69,651
	202.2	195.1	210.2	224.7	213.7	196.7	217.3	214.8	201.8	217.1	228.7	193.7	190.3

平均在院日数の年度別推移



各科別平均在院日数

単位：日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	8.6	9.8	9	9.9	10.3	9	8.3	7.3	9.7	10.6	8.8	10.6	9.3
心臓血管外科	17.7	15.9	19.4	14.5	18.4	20.5	15.1	17.9	25.4	17.6	22	19.9	18.3
整形外科	16.9	19.2	14.4	16.6	24.9	25	21.8	20.3	13	20.7	19.9	22.8	19.2
外科	12.8	14	12.9	11.7	13.4	14.3	14	12.6	13	14.5	14.8	15.3	13.6
消化器内科	6.2	5	5.6	7.3	7.1	6.1	5.2	4.3	4.4	5	6.6	6.7	5.8
形成外科	24.4	26.4	25.8	28.8	23.3	26.5	20.9	21.2	21.6	28.1	20.4	31.2	24.7
血管内科	8.5	3.2	4.9	22.7	9.3	7.6	14	12.2	13.2	16	15.4	19.7	12
救急科	14.3	21.2	17.3	18.6	15.3	14.5	16	17.7	15.8	18.1	20.3	15.4	17.1
脳神経外科	12	13.2	12.4	13.2	13.2	13	12.6	12.5	12.4	14.6	13.7	14.6	13.1
サイバー	9.2	10.8	10.3	12.3	11	11.9	10.8	9.1	8.1	10.2	10.2	8.5	10.2
歯科口腔外科・矯正歯科	4.9	5.6	4.1	4.6	5.9	5.5	4.3	4.5	5	3.1	5.8	4.6	4.9
合計	12	13.2	12.4	13.2	13.2	13	12.6	12.5	12.4	14.6	13.7	14.6	13.1

各科別入院患者動向（退院患者含む）

上段：入院件数 下段：退院件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	119	102	121	117	112	99	123	103	107	101	109	82	1,295
	124	94	125	113	107	100	120	114	109	85	115	78	1,284
心臓血管外科	26	34	23	34	29	27	29	39	18	38	21	17	335
	35	30	27	36	29	24	30	31	29	28	26	29	354
整形外科	28	26	31	28	19	19	57	35	36	28	41	18	366
	48	24	38	37	24	20	44	51	39	34	35	28	422
外科	84	84	96	83	92	87	98	96	87	74	81	85	1,047
	91	73	92	96	88	87	99	99	96	76	75	93	1,065
消化器内科	54	50	49	54	48	58	51	36	44	41	44	41	570
	56	49	42	52	46	57	50	39	45	34	42	40	552
形成外科	37	37	36	42	33	31	33	35	44	43	41	30	442
	46	34	38	36	43	36	28	41	37	37	49	28	453
救急科	30	25	26	37	29	17	37	25	27	33	25	20	331
	25	21	26	25	31	18	22	30	26	24	22	23	293
サイバー	15	18	17	21	27	19	21	13	20	21	15	22	229
	21	12	12	22	25	25	17	16	26	16	18	20	230
歯科口腔外科 矯正歯科	19	19	18	19	24	22	17	17	20	15	12	20	222
	27	17	18	17	27	20	19	17	21	14	12	19	228
合計	433	423	439	458	439	409	481	428	427	430	422	354	5,143
	493	378	443	454	450	412	454	459	457	376	425	384	5,185



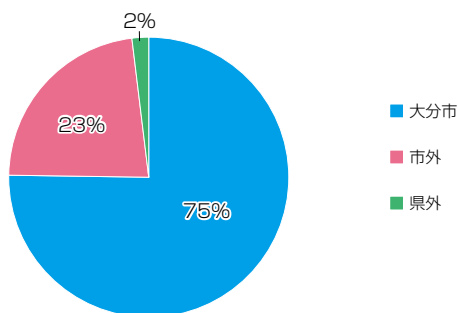
病棟別病床稼働率（退院患者含む）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2病棟 (53)	1,524 95.8%	1,400 85.2%	1,528 96.1%	1,565 95.3%	1,555 94.6%	1,517 95.4%	1,618 98.5%	1,452 91.3%	1,509 91.8%	1,549 94.3%	1,535 99.9%	1,532 93.2%	18,284 94.3%
3病棟 (49)	1,285 87.4%	1,188 78.2%	1,204 81.9%	1,426 93.9%	1,351 88.9%	1,236 84.1%	1,490 98.1%	1,375 93.5%	1,234 81.2%	1,338 88.1%	1,345 94.7%	1,252 82.4%	15,724 87.7%
4病棟 (56)	1,581 94.1%	1,520 87.6%	1,531 91.1%	1,717 98.9%	1,649 95.0%	1,456 86.7%	1,579 91.0%	1,562 93.0%	1,522 87.7%	1,606 92.5%	1,574 96.9%	1,487 85.7%	18,784 91.6%
5病棟 (60)	1,576 87.6%	1,435 77.2%	1,583 87.9%	1,658 89.1%	1,644 88.4%	1,466 81.4%	1,577 84.8%	1,537 85.4%	1,585 85.2%	1,654 88.9%	1,653 95.0%	1,392 74.8%	18,760 85.4%
I C U (6)	99 55.0%	115 61.8%	74 41.1%	97 52.2%	112 60.2%	90 50.0%	75 40.3%	95 52.8%	85 45.7%	102 54.8%	107 61.5%	95 51.1%	1,146 52.2%
全体 (224)	6,065 90.3%	5,658 81.5%	5,920 88.1%	6,463 93.1%	6,311 90.9%	5,765 85.8%	6,339 91.3%	6,021 89.6%	5,935 85.5%	6,249 90.0%	6,214 95.7%	5,758 82.9%	72,698 88.7%

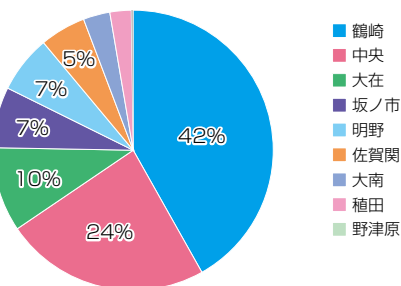
各病棟1日当たり患者数



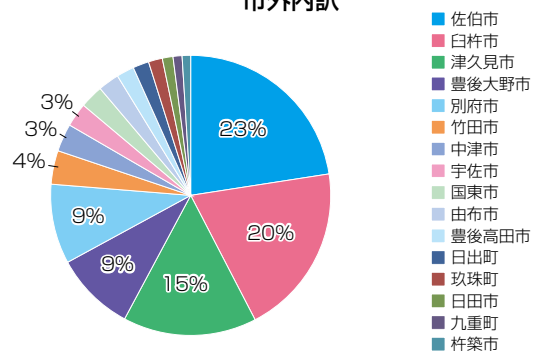
入院患者の診療圏



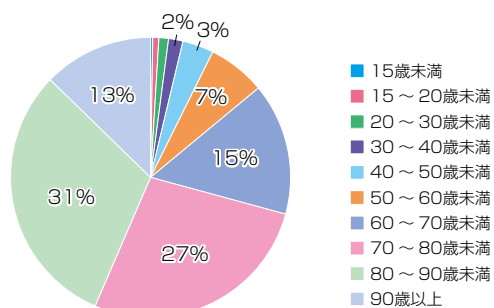
大分市内訳



市外内訳

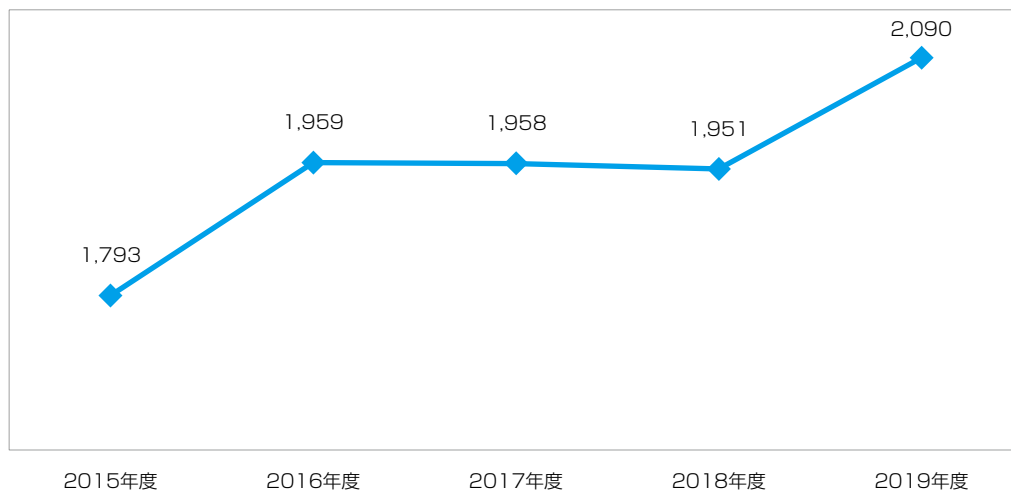


入院患者の年齢構成

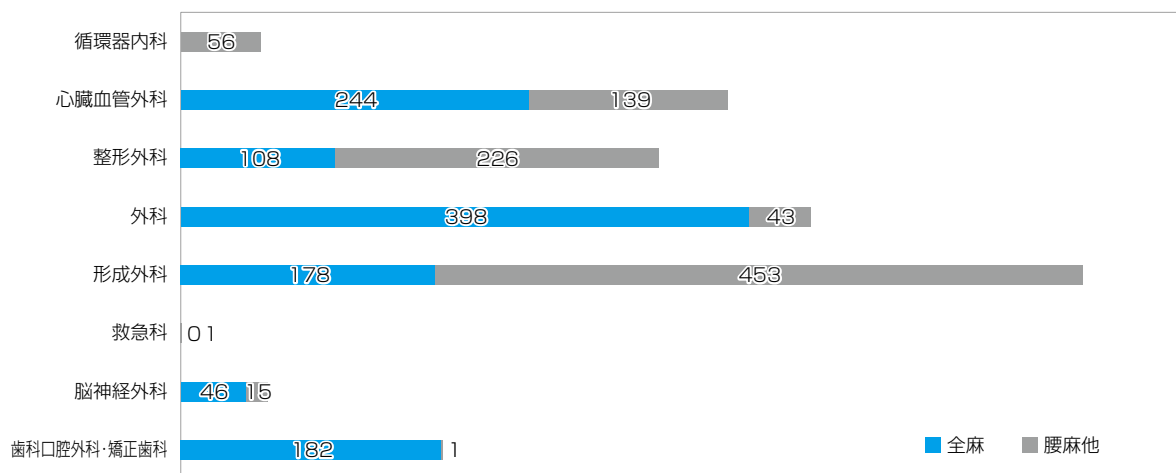


### 3) 手術件数

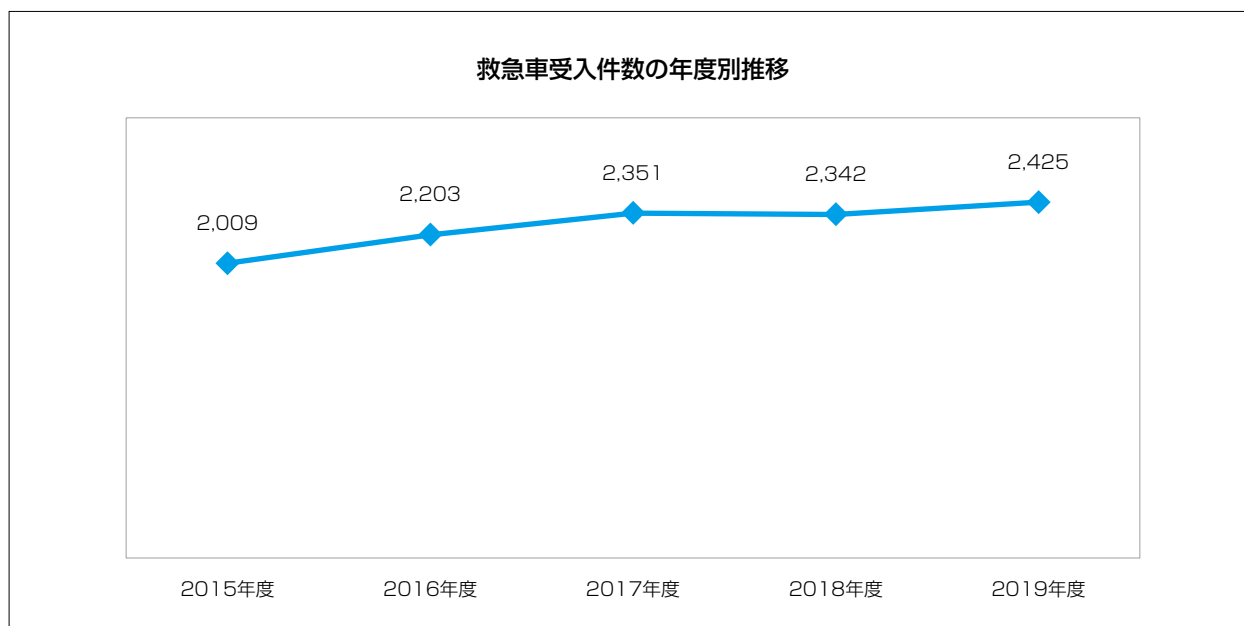
手術件数の年度別推移(手術室実施)



診療科別手術件数(手術室実施)



## 4) 救急車受入件数



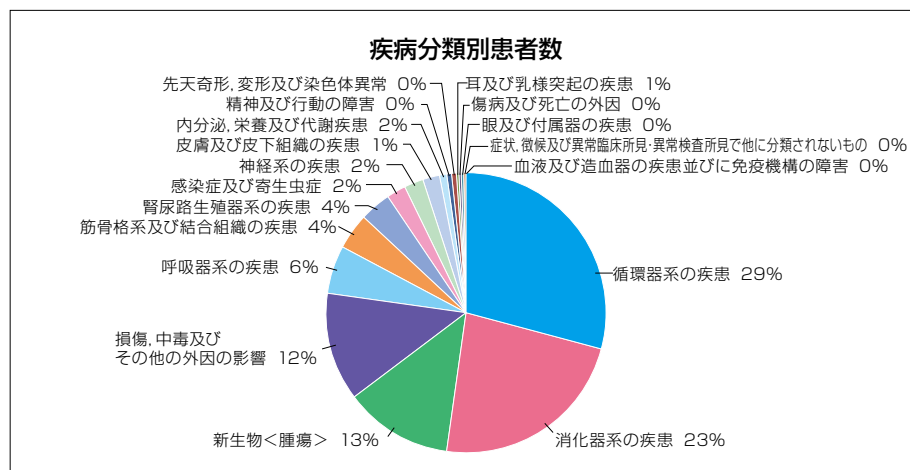
診療科別救急車受入状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病院全体		155	221	201	202	220	202	218	217	204	217	196	172	2,425
外来		78	120	109	95	121	124	101	126	101	104	87	80	1,246
入院		77	101	92	107	99	78	117	91	103	113	109	92	1,179
入院科別内訳	循環器	21	27	21	24	25	19	27	23	29	29	24	28	297
	心外	7	12	3	5	3	6	2	3	5	10	8	5	69
	整形		5	10	12	3	3	21	10	12	10	16	6	108
	外科	11	18	19	16	18	18	24	19	15	12	19	20	209
	消化器内科	7	5	7	8	9	4	4	2	3	4	4	6	63
	形成	5	7	5	5	3	3	7	2	4	8	3	3	55
	血管内科	2	2		3	3	2	1	5	5	6	4	4	37
	救急	18	20	21	27	26	15	27	19	21	25	22	15	256
	脳外	6	5	6	7	8	8	3	7	9	8	9	5	81
	サイバー					1		1						2
	口腔顔面								1		1			2

## 1) 疾病分類別患者数

コード	ICD コード	大分類名称	総数
I	A00-B99	感染症及び寄生虫症	117
II	C00-D48	新生物＜腫瘍＞	651
III	D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	19
IV	E00-E90	内分泌、栄養及び代謝疾患	36
V	F00-F99	精神及び行動の障害	21
VI	G00-G99	神経系の疾患	115
VII	H00-H59	眼及び付属器の疾患	2
VIII	H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	32
IX	I00-I99	循環器系の疾患	1,519
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	289
X I	K00-K93	消化器系の疾患	1,196
X II	L00-L99	皮膚及び皮下組織の疾患	107
X III	M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	210
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	190
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形及び染色体異常	22
X VIII	R00-R99	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	11
X IX	S00-T98	損傷、中毒及びその他の外因の影響	648
X X	V01-Y98	傷病及び死亡の外因	3
合 計			5,188

循環器系の疾患	1,519
消化器系の疾患	1,196
新生物＜腫瘍＞	651
損傷、中毒及びその他の外因の影響	648
呼吸器系の疾患	289
筋骨格系及び結合組織の疾患	210
腎尿路生殖器系の疾患	190
感染症及び寄生虫症	117
神経系の疾患	115
皮膚及び皮下組織の疾患	107
内分泌、栄養及び代謝疾患	36
耳及び乳様突起の疾患	32
先天奇形、変形及び染色体異常	22
精神及び行動の障害	21
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	19
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	11
傷病及び死亡の外因	3
眼及び付属器の疾患	2



## 2) 疾病分類別診療科別患者数

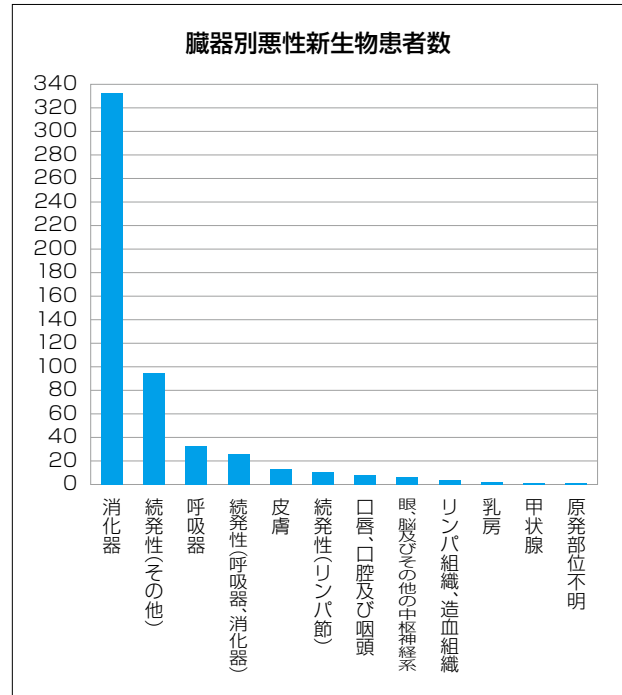
コード	ICD コード	大分類名称	外 科	消化器 内科	整形 外科	放射 線科	脳神 経外科	形成 外科	血管 内科	救急 科	腎臓科 泌尿科	心臓 血管外科	循環器 内科
I	A00-B99	感染症及び寄生虫症	65	17	0	1	0	10	2	11	0	0	11
II	C00-D48	新生物＜腫瘍＞	224	110	1	228	4	66	0	2	9	3	4
III	D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6	3	0	0	0	0	0	0	0	1	9
IV	E00-E90	内分泌、栄養及び代謝疾患	2	1	0	0	2	1	1	14	0	0	15
V	F00-F99	精神及び行動の障害	8	3	0	0	0	0	1	1	0	0	8
VI	G00-G99	神経系の疾患	7	0	1	0	27	2	1	18	0	0	59
VII	H00-H59	眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
VIII	H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	7	4	0	0	5	1	1	5	0	1	8
IX	I00-I99	循環器系の疾患	20	15	1	1	38	111	77	35	0	275	946
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	32	12	0	0	2	4	14	103	1	14	107
X I	K00-K93	消化器系の疾患	623	373	0	0	0	2	0	4	190	1	3
X II	L00-L99	皮膚及び皮下組織の疾患	3	0	1	0	0	91	2	5	1	2	2
X III	M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	6	1	84	0	57	47	0	13	0	0	2
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	17	8	0	0	1	0	4	24	0	45	91
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形及び染色体異常	1	0	1	0	0	1	0	0	19	0	0
X VIII	R00-R99	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	5	0	0	0	2	0	0	3	0	0	1
X IX	S00-T98	損傷、中毒及びその他の外因の影響	38	6	333	0	62	113	2	57	10	9	18
X X	V01-Y98	傷病及び死亡の外因	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合 計			1,065	553	422	230	200	451	105	296	230	351	1,285

## 3) 疾病分類別男女別診療科別患者数

コード	ICD コード	大分類名称	性 別	外 科	消化器 内科	整形 外科	放射 線科	脳神 経外科	形成 外科	血管 内科	救急科	齒科 口腔外科 矯正科	心臓 血管外科	循環器 内科	総 数
I	A00-B99	感染症及び寄生虫症	男	27	6	0	0	0	3	0	4	0	0	6	46
			女	38	11	0	1	0	7	2	7	0	0	5	71
II	C00-D48	新生物＜腫瘍＞	男	151	82	1	137	1	40	0	1	5	1	3	422
			女	73	28	0	91	3	26	0	1	4	2	1	229
III	D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5	12
			女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	7
IV	E00-E90	内分泌，栄養及び代謝疾患	男	2	1	0	0	1	1	0	6	0	0	6	17
			女	0	0	0	0	1	0	1	8	0	0	9	19
V	F00-F99	精神及び行動の障害	男	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	11
			女	6	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	10
VI	G00-G99	神経系の疾患	男	3	0	0	0	20	1	1	11	0	0	45	81
			女	4	0	1	0	7	1	0	7	0	0	14	34
VII	H00-H59	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
VIII	H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	男	3	1	0	0	2	1	0	2	0	0	1	10
			女	4	3	0	0	3	0	1	3	0	1	7	22
IX	I00-I99	循環器系の疾患	男	10	6	1	0	28	54	43	18	0	169	625	954
			女	10	9	0	1	10	57	34	17	0	106	321	565
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	男	17	6	0	0	2	2	6	53	0	10	56	152
			女	15	6	0	0	0	2	8	50	1	4	51	137
X I	K00-K93	消化器系の疾患	男	371	241	0	0	0	0	0	2	78	1	3	696
			女	252	132	0	0	0	2	0	2	112	0	0	500
X II	L00-L99	皮膚及び皮下組織の疾患	男	2	0	1	0	0	56	2	1	0	2	0	64
			女	1	0	0	0	0	35	0	4	1	0	2	43
X III	M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	男	3	0	29	0	43	33	0	7	0	0	1	116
			女	3	1	55	0	14	14	0	6	0	0	1	94
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	男	13	5	0	0	1	0	2	7	0	24	54	106
			女	4	3	0	0	0	0	2	17	0	21	37	84
X VII	Q00-Q99	先天奇形，変形及び染色体異常	男	0	0	1	0	0	1	0	0	11	0	0	13
			女	1	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	9
X VIII	R00-R99	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
			女	4	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	7
X IX	S00-T98	損傷，中毒及びその他の外因の影響	男	23	2	112	0	34	73	1	33	7	8	13	306
			女	15	4	221	0	28	40	1	24	3	1	5	342
X X	V01-Y98	傷病及び死亡の外因	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
合 計				1,065	553	422	230	200	451	105	296	230	351	1,285	5,188

#### 4) 臓器別悪性新生物患者数

臓器分類	件数
消化器	333
続発性（その他）	95
呼吸器	33
続発性（呼吸器、消化器）	26
皮膚	13
続発性（リンパ節）	11
口唇、口腔及び咽頭	8
眼、脳及びその他の中枢神経系	6
リンパ組織、造血組織	4
乳房	2
甲状腺	1
原発部位不明	1



#### 5) 悪性新生物患者数

ICD	分類	件数
C02	舌のその他及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	4
C03	歯肉の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C05	口蓋の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C06	その他及び部位不明の口腔の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C15	食道の悪性新生物＜腫瘍＞	10
C16	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	85
C17	小腸の悪性新生物＜腫瘍＞	9
C18	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	93
C19	直腸S状結腸移行部の悪性新生物＜腫瘍＞	3
C20	直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	37
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	54
C23	胆のう＜嚢＞の悪性新生物＜腫瘍＞	8
C24	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物＜腫瘍＞	19
C25	膵の悪性新生物＜腫瘍＞	14
C30	鼻腔及び中耳の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C31	副鼻腔の悪性新生物＜腫瘍＞	3
C34	気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	27
C37	胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C44	皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞	11
C45	中皮腫	1
C48	後腹膜及び腹膜の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C49	その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C50	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	2
C70	髄膜の悪性新生物＜腫瘍＞	5
C71	脳の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C73	甲状腺の悪性新生物＜腫瘍＞	1
C77	リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	11
C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	26
C79	その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	95
C80	悪性新生物＜腫瘍＞、部位が明示されていないもの	1
C83	非ろ＜濾＞胞性リンパ腫	1
C85	非ホジキン＜non-Hodgkin＞リンパ腫のその他及び詳細不明の型	2
C88	悪性免疫増殖性疾患	1
D04	皮膚の上皮内癌	2

## 診療科別上位疾病分類＜国際疾病分類 ICD10 大分類＞

診療科	順	ICD	病 名	件 数
全診療科	1	K63	腸のその他の疾患	317
	2	I20	狭心症	241
	3	I48	心房細動及び粗動	195
	4	I25	慢性虚血性心疾患	187
	5	I70	アテローム＜じゅく＜粥＞状＞硬化（症）	173
	6	K80	胆石症	157
	7	K07	歯顎顔面（先天）異常〔不正咬合を含む〕	125
	8	N18	慢性腎臓病	119
	9	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	116
	10	I71	大動脈瘤及び解離	105
外科	1	K80	胆石症	130
	2	K63	腸のその他の疾患	95
	3	C18	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	67
	4	K40	そけい＜鼠径＞ヘルニア	65
	5	K56	麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	58
	6	A09	その他の胃腸炎及び大腸炎、感染症及び詳細不明の原因によるもの	53
	7	C16	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	50
	8	K35	急性虫垂炎	39
	9	K57	腸の憩室性疾患	34
	10	K55	腸の血行障害	27
救急科	1	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	75
	2	I46	心停止	15
	2	N39	尿路系のその他の障害	15
	4	S06	頭蓋内損傷	9
	5	G93	脳のその他の障害	6
	5	I71	大動脈瘤及び解離	6
	5	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	6
	5	M62	その他の筋障害	6
	5	T67	熱及び光線の作用	6
	10	A09	その他の胃腸炎及び大腸炎、感染症及び詳細不明の原因によるもの	5
	10	G40	てんかん	5
	10	H81	前庭機能障害	5
	10	N17	急性腎不全	5
	10	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	5
	10	T42	抗てんかん薬、鎮静・催眠薬及び抗パーキンソン病薬による中毒	5
形成外科	1	I70	アテローム＜じゅく＜粥＞状＞硬化（症）	82
	2	L03	蜂巣炎＜蜂窩織炎＞	36
	3	M86	骨髄炎	35
	4	D21	結合組織及びその他の軟部組織のその他の良性新生物＜腫瘍＞	26
	5	S02	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	25
	6	D23	皮膚のその他の良性新生物＜腫瘍＞	16
	7	L97	下肢の潰瘍、他に分類されないもの	15
	7	S68	手首及び手の外傷性切断	15
	9	L60	爪の障害	13
	10	I74	動脈の塞栓症及び血栓症	11
血管内科	1	I70	アテローム＜じゅく＜粥＞状＞硬化（症）	57
	2	J18	肺炎、病原体不詳	6
	3	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	5
	4	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	4
	5	I20	狭心症	2
	5	I21	急性心筋梗塞	2
	5	I25	慢性虚血性心疾患	2
	5	I46	心停止	2
	5	I80	静脈炎及び血栓（性）静脈炎	2
	5	L03	蜂巣炎＜蜂窩織炎＞	2
	5	N39	尿路系のその他の障害	2
	5	K07	歯顎顔面（先天）異常〔不正咬合を含む〕	124
歯科口腔外科・ 矯正歯科	2	K04	歯髄及び根尖部歯周組織の疾患	27
	3	K01	埋伏歯	26
	4	Q37	唇裂を伴う口蓋裂	16
	5	S02	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	9
	6	K10	顎骨のその他の疾患	7
	7	C02	舌のその他及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	3
	7	K05	歯肉炎及び歯周疾患	3



診療科	順	ICD	病 名	件 数
歯科口腔外科・ 矯正歯科	9	D10	口腔及び咽頭の良性新生物＜腫瘍＞	2
	9	Q35	口蓋裂	2
循環器内科	1	I20	狭心症	199
	2	I48	心房細動及び粗動	191
	3	I25	慢性虚血性心疾患	178
	4	I21	急性心筋梗塞	74
	5	N18	慢性腎臓病	69
	6	I47	発作性頻拍（症）	56
	7	J15	細菌性肺炎，他に分類されないもの	44
	8	G47	睡眠障害	39
	9	I49	その他の不整脈	33
	10	I42	心筋症	31
消化器内科	10	I50	心不全	31
	1	K63	腸のその他の疾患	222
	2	C16	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	34
	3	K57	腸の憩室性疾患	27
	4	K80	胆石症	26
	5	C18	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	25
	6	A09	その他の胃腸炎及び大腸炎，感染症及び詳細不明の原因によるもの	15
	6	K25	胃潰瘍	15
	8	D12	結腸，直腸，肛門及び肛門管の良性新生物＜腫瘍＞	14
	8	K55	腸の血行障害	14
心臓血管外科	10	C20	直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	11
	1	I71	大動脈瘤及び解離	89
	2	N18	慢性腎臓病	45
	3	I20	狭心症	39
	3	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	39
	5	I83	下肢の静脈瘤	26
	6	I74	動脈の塞栓症及び血栓症	15
	7	I70	アテローム＜じゅく＜粥＞状＞硬化（症）	14
	8	I34	非リウマチ性僧帽弁障害	11
	9	I25	慢性虚血性心疾患	7
整形外科	10	I05	リウマチ性僧帽弁疾患	5
	10	I08	連合弁膜症	5
	10	I72	その他の動脈瘤及び解離	5
	1	S72	大腿骨骨折	100
	2	S82	下腿の骨折，足首を含む	49
	3	S52	前腕の骨折	44
	4	S32	腰椎及び骨盤の骨折	39
	4	S42	肩及び上腕の骨折	39
	6	M17	膝関節症〔膝の関節症〕	24
	7	M20	指及び趾＜足ゆび＞の後天性変形	20
脳神経外科	8	S22	肋骨，胸骨及び胸椎骨折	19
	9	S92	足の骨折，足首を除く	15
	10	M16	股関節症〔股関節部の関節症〕	6
	10	S83	膝の関節及び靱帯の脱臼，捻挫及びストレイン	6
	1	M48	その他の脊椎障害	37
	2	S06	頭蓋内損傷	24
	3	I63	脳梗塞	16
	3	S32	腰椎及び骨盤の骨折	16
	5	G46	脳血管疾患における脳の血管（性）症候群	12
	5	M51	その他の椎間板障害	12
放射線科	7	I61	脳内出血	9
	8	G99	他に分類される疾患における神経系のその他の障害	5
	8	H81	前庭機能障害	5
	8	I65	脳実質外動脈（脳底動脈，頸動脈，椎骨動脈）の閉塞及び狭窄，脳梗塞に至らなかったもの	5
	8	S14	頸部の神経及び脊髄の損傷	5
	8	S22	肋骨，胸骨及び胸椎骨折	5
	1	C79	その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	91
	2	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	47
	3	C34	気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	22
	4	C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞	19
放射線科	5	C77	リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	11
	6	D32	髄膜の良性新生物＜腫瘍＞	6
	7	C70	髄膜の悪性新生物＜腫瘍＞	5
	8	C31	副鼻腔の悪性新生物＜腫瘍＞	3
	8	C44	皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞	3
	8	D33	脳及び中枢神経系のその他の部位の良性新生物＜腫瘍＞	3



節	区分	解釈番号	名 称	件数
皮膚・皮下組織	皮膚、皮下組織	K0001	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径5cm未満））	106
		K0002	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径5cm以上10cm未満））	49
		K000-21	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達するもの（長径2.5cm未満））	9
		K000-22	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達するもの（長径2.5cm以上5cm未満））	2
		K000-23	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達するもの（長径5cm以上10cm未満））	1
		K000-25	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達しないもの（長径2.5cm未満））	33
		K000-26	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達しないもの（長径2.5cm以上5cm未満））	8
		K000-27	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達しないもの（長径5cm以上10cm未満））	1
		K0003口	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径10cm以上）（その他のもの））	29
		K0004	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径5cm未満））	314
		K0005	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径5cm以上10cm未満））	53
		K0006	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径10cm以上））	17
		K0011	皮膚切開術（長径10cm未満）	136
		K0012	皮膚切開術（長径10cm以上20cm未満）	9
		K0013	皮膚切開術（長径20cm以上）	3
		K0021	デブリードマン（100cm <sup>2</sup> 未満）	24
		K0022	デブリードマン（100cm <sup>2</sup> 以上3,000cm <sup>2</sup> 未満）	21
		K0023	デブリードマン（3,000cm <sup>2</sup> 以上）	1
		K0031	皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術（露出部）（長径3cm未満）	6
		K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	140
		K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	47
		K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	14
		K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	50
		K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上6cm未満）	34
		K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上12cm未満）	22
		K0064	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径12cm以上）	5
		K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	10
		K007-2	経皮的放射線治療用金属マーカ留置術	35
	形成	K0091	皮膚剥離術（25cm <sup>2</sup> 未満）	1
		K0101	瘢痕拘縮形成手術（顔面）	1
		K0102	瘢痕拘縮形成手術（その他）	1
		K0131	分層植皮術（25cm <sup>2</sup> 未満）	5
		K0132	分層植皮術（25cm <sup>2</sup> 以上100cm <sup>2</sup> 未満）	9
		K013-21	全層植皮術（25cm <sup>2</sup> 未満）	16
		K013-22	全層植皮術（25cm <sup>2</sup> 以上100cm <sup>2</sup> 未満）	10
		K013-23	全層植皮術（100cm <sup>2</sup> 以上200cm <sup>2</sup> 未満）	8
		K013-24	全層植皮術（200cm <sup>2</sup> 以上）	1
		K0133	分層植皮術（100cm <sup>2</sup> 以上200cm <sup>2</sup> 未満）	6
		K0134	分層植皮術（200cm <sup>2</sup> 以上）	6
		K0151	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25cm <sup>2</sup> 未満）	15
		K0152	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25cm <sup>2</sup> 以上100cm <sup>2</sup> 未満）	4
		K0153	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（100cm <sup>2</sup> 以上）	2
		K016	筋（皮）弁術	1
		K016	動脈（皮）弁術	8
		K0172	遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付きのもの）（その他の場合）	2
		K019	複合組織移植術	1
		K0211	粘膜移植術（4cm <sup>2</sup> 未満）	1
筋骨格系・四肢・体幹	筋膜、筋、腱、腱鞘	K023	筋膜切開術	1
		K028	腱鞘切開術（関節鏡下によるものを含む）（指）	1
		K029	筋肉内異物摘出術	1
		K0301	四肢・躯幹部腫瘍摘出術（下腿）	1
		K034	腱切離・切除術（関節鏡下によるものを含む）	4
		K035	腱剥離術（関節鏡下によるものを含む）（指）	1
		K037	腱縫合術（指）	6
		K037-2	アキレス腱断裂手術	3

節	区分	解釈番号	名 称	件数
筋骨格系・四肢・体幹	筋膜、筋、腱、腱鞘	K038	腱延長術	2
		K0402	腱移行術（その他のもの）	1
	四肢骨	K042	骨穿孔術	1
		K0432	骨搔爬術（下腿）	1
		K0433	骨搔爬術（足その他）	1
		K0443	骨折非観血的整復術（足その他）	1
		K0451	骨折経皮的鋼線刺入固定術（上腕）	1
		K0452	骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	1
		K0453	骨折経皮的鋼線刺入固定術（鎖骨）	1
		K0453	骨折経皮的鋼線刺入固定術（指（手、足））	10
		K0453	骨折経皮的鋼線刺入固定術（手）	1
		K0453	骨折経皮的鋼線刺入固定術（足）	1
		K0461	骨折観血的手術（上腕）	17
		K0461	骨折観血的手術（大腿）	54
		K0462	骨折観血的手術（下腿）	19
		K0462	骨折観血的手術（前腕）	29
		K046-21	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの）（大腿）	3
		K0463	骨折観血的手術（鎖骨）	9
		K0463	骨折観血的手術（指（手、足））	2
		K0463	骨折観血的手術（手（舟状骨を除く））	2
		K0463	骨折観血的手術（足）	5
		K0463	骨折観血的手術（膝蓋骨）	6
		K047-2	難治性骨折超音波治療法（一連につき）	1
		K047-3	超音波骨折治療法（一連につき）	64
		K0482	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（大腿）	1
		K0483	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（下腿）	21
		K0483	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（前腕）	14
		K0484	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（その他）	1
		K0484	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（鎖骨）	13
		K0484	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（指（手、足））	1
		K0484	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（手）	1
		K0484	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（足）	7
		K0484	骨内異物（挿入物を含む。）除去術（膝蓋骨）	5
		K0492	骨部分切除術（下腿）	1
		K0493	骨部分切除術（指（手、足））	1
		K0493	骨部分切除術（足）	3
		K0503	腐骨摘出術（手）	1
		K0503	腐骨摘出術（足その他）	28
		K0542	骨切り術（下腿）	2
		K0543	骨切り術（足）	2
	四肢関節、靱帯	K060-31	化膿性又は結核性関節炎搔爬術（股）	1
		K0611	関節脱臼非観血的整復術（肩）	5
		K0612	関節脱臼非観血的整復術（手）	1
		K0612	関節脱臼非観血的整復術（肘）	1
		K0613	関節脱臼非観血的整復術（指（手、足））	6
		K0661	関節滑膜切除術（膝）	1
		K066-21	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	2
		K066-22	関節鏡下関節滑膜切除術（足）	1
		K0663	関節滑膜切除術（指（手、足））	1
		K0672	関節鼠摘出手術（手）	1
		K068-2	関節鏡下半月板切除術	4
		K069-3	関節鏡下半月板縫合術	1
		K0701	ガングリオン摘出術（指（手、足））	1
		K0701	ガングリオン摘出術（手）	2
		K0731	関節内骨折観血的手術（膝）	1
		K074-23	関節鏡下靱帯断裂縫合術（その他の靱帯）	2
		K0743	靱帯断裂縫合術（その他の靱帯）	1
		K0753	非観血的関節授動術（指（手、足））	2
		K0772	観血的関節制動術（足）	3

節	区分	解釈番号	名 称	件数
筋骨格系・四肢・体幹	四肢関節、靱帯	K0773	観血的関節制動術（肩鎖）	1
		K0773	観血的関節制動術（指（手、足））	1
		K0782	観血的関節固定術（足）	2
		K0783	観血的関節固定術（指（手、足））	5
		K079-23	関節鏡下靱帯断裂形成手術（その他の靱帯）	2
		K0811	人工骨頭挿入術（肩）	1
		K0811	人工骨頭挿入術（股）	44
		K0821	人工関節置換術（股）	4
		K0821	人工関節置換術（膝）	20
		K082-21	人工関節抜去術（股）	2
		K083	鋼線等による直達牽引（初日。観血的に行った場合の手技料を含む）（1局所につき）	10
	四肢切断、離断、再接合	K0841	四肢切断術（下腿）	7
		K0841	四肢切断術（手）	1
		K0841	四肢切断術（足）	3
		K0841	四肢切断術（大腿）	29
		K0842	四肢切断術（指（手、足））	128
		K0871	断端形成術（骨形成を要するもの）（指（手、足））	3
		K0872	断端形成術（骨形成を要するもの）（その他）	1
	手、足	K0882	切断四肢再接合術（指（手、足））	2
		K089	爪甲除去術	11
		K0911	陥入爪手術（簡単なもの）	36
		K0912	陥入爪手術（爪床爪母の形成を伴う複雑なもの）	19
		K093	手根管開放手術	1
		K0962	手掌、足底腱膜切離・切除術（その他のもの）	2
		K097	手掌異物摘出術	1
		K097	足底異物摘出術	1
		K110-2	第一足指外反症矯正手術	17
	脊柱、骨盤	K116	骨盤骨搔爬術	1
		K1262	骨盤骨（軟骨）組織採取術（試験切除によるもの）（その他のもの）	1
		K1342	椎間板摘出術（後方摘出術）	3
		K1421	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（前方椎体固定）	3
		K1425	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（椎弓切除）	8
		K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（椎弓形成）	25
神経系・頭蓋	頭蓋、脳	K145	穿頭脳室ドレナージ術	2
		K147	穿頭術（トレパナチオン）	2
		K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	10
		K1742	水頭症手術（シャント手術）	2
		K1781	脳血管内手術（1箇所）	2
		K178-4	経皮的脳血栓回収術	1
		K178-5	経皮的脳血管ステント留置術	1
		K1821	神経縫合術（指（手、足））	2
	脊髄、末梢神経、交感神経	K182-31	神経再生誘導術（指（手、足））	1
		K183	脊髄硬膜切開術	1
		K189	脊髄ドレナージ術	3
		K1901	脊髄刺激装置植込術（脊髄刺激電極を留置した場合）	10
		K1902	脊髄刺激装置植込術（ジェネレーターを留置した場合）	5
		K190-3	重症痙性麻痺治療薬髄腔内持続注入用植込型ポンプ設置術	1
		K1931	神経腫切除術（指（手、足））	1
		K196-5	末梢神経遮断術（挫滅又は切断）（後脛骨神経）	1
		K196-5	末梢神経遮断術（挫滅又は切断）（腓腹神経）	1
眼	眼瞼	K2193	眼瞼下垂症手術（その他のもの）	4
	眼窩、涙腺	K227	眼窩骨折観血的手術（眼窩ブローアウト骨折手術を含む。）	9
耳鼻咽喉	外耳	K288	副耳（介）切除術	1
		K2961	耳介形成手術（耳介軟骨形成を要するもの）	1
	中耳	K309	鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	2
	鼻	K333	鼻骨骨折整復固定術	11
		K333-3	鼻骨骨折徒手整復術	20
	咽頭、扁桃	K3692	咽頭異物摘出術（複雑なもの）	1
	喉頭、気管	K386	気管切開術	12

節	区分	解釈番号	名 称	件数
顔面・口腔・ 頸部	顔面骨、顎関節	K427	頬骨骨折観血の整復術	4
		K4292	下顎骨折観血の手術（両側）	1
		K430	顎関節脱臼非観血的整復術	4
		K432	上顎骨折非観血的整復術	1
		K433	上顎骨折観血の手術	2
		K4431	上顎骨形成術（単純な場合）	1
		K4441	下顎骨形成術（おとがい形成の場合）	1
胸部	胸腔、胸膜	K488	試験開胸術	2
		K488-2	試験の開胸開腹術	2
		K494	胸腔内（胸膜内）血腫除去術	1
	気管支、肺	K509-3	気管支内視鏡の放射線治療用マーカー留置術	3
		K5261	食道腫瘍摘出術（内視鏡によるもの）	2
	食道	K526-22	内視鏡の食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	11
		K5292	食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術を併施するもの）（胸部、腹部の操作によるもの）	1
		K533	食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡によるもの）（一連として）	3
		K533-2	内視鏡の食道・胃静脈瘤結紮術	9
	横隔膜	K537-2	腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術	2
心・脈管	心、心膜、肺動 静脈、冠血管等	K543	心房内血栓除去術	3
		K5441	心腔内粘液腫摘出術（単独のもの）	2
		K5441	心腫瘍摘出術（単独のもの）	2
		K5461	経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞に対するもの）	2
		K5462	経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症に対するもの）	2
		K5463	経皮的冠動脈形成術（その他のもの）	15
		K547	経皮的冠動脈粥腫切除術	1
		K5481	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）（高速回転式経皮経管アテレクトミカテーテルによるもの）	15
		K5482	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）（エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの）	3
		K5491	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞に対するもの）	49
		K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症に対するもの）	15
		K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	107
		K550-2	経皮的冠動脈血栓吸引術	2
		K5521	冠動脈、大動脈バイパス移植術（1吻合のもの）	5
		K5522	冠動脈、大動脈バイパス移植術（2吻合以上のもの）	10
		K552-21	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（1吻合のもの）	9
		K552-22	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（2吻合以上のもの）	35
		K553-22	左室形成術（冠動脈血行再建術（1吻合）を伴うもの）	1
		K553-23	左室形成術（冠動脈血行再建術（2吻合以上）を伴うもの）	1
		K5541	弁形成術（1弁のもの）	2
		K5542	弁形成術（2弁のもの）	1
		K554-21	胸腔鏡下弁形成術（1弁のもの）	10
		K554-22	胸腔鏡下弁形成術（2弁のもの）	3
		K5551	弁置換術（1弁のもの）	16
		K5552	弁置換術（2弁のもの）	3
		K5553	弁置換術（3弁のもの）	1
		K555-31	胸腔鏡下弁置換術（1弁のもの）	22
		K555-32	胸腔鏡下弁置換術（2弁のもの）	3
		K5601イ	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（上行大動脈）（大動脈弁置換術又は形成術を伴うもの）	5
		K5601ニ	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（上行大動脈）（その他のもの）	13
		K5602	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（弓部大動脈）	2
		K560-21	オープン型ステントグラフト内挿術（弓部大動脈）	6
		K560-22イ	オープン型ステントグラフト内挿術（上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術）（大動脈弁置換術又は形成術を伴うもの）	1
		K560-22ニ	オープン型ステントグラフト内挿術（上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術）（その他のもの）	2
		K5603イ	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術）（大動脈弁置換術又は形成術を伴うもの）	4
		K5603ニ	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術）（その他のもの）	8
		K5604	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（下行大動脈）	1
		K5605	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（胸腹部大動脈）	1
		K5606	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（腹部大動脈（分枝血管の再建を伴うもの））	16
		K5607	大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）（腹部大動脈（その他のもの））	22
		K5612ロ	ステントグラフト内挿術（1以外の場合）（腹部大動脈）	1
		K5943	不整脈手術（メイズ手術）	13



節	区分	解釈番号	名 称	件数
心・脈管	心、心膜、肺動 静脈、冠血管等	K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術（心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの）	164
		K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術（その他のもの）	48
		K596	体外ペースメーカー移植術	5
		K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）	31
		K597-2	ペースメーカー交換術	6
		K5973	ペースメーカー移植術（リードレスペースメーカーの場合）	7
		K597-3	植込型心電図記録計移植術	6
		K597-4	植込型心電図記録計摘出術	1
		K598	両心室ペースメーカー移植術	2
		K5991	植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの）	4
		K599-2	植込型除細動器交換術	1
		K599-3	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術	7
		K599-4	両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	1
		K599-51	経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）	3
		K6001	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）（1日につき）（初日）	12
		K6002	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）（1日につき）（2日目以降）	36
		K6011	人工心肺（1日につき）（初日）	113
		K6021	経皮的心肺補助法（1日につき）（初日）	1
	動脈	K6072	血管結紮術（その他のもの）	4
		K607-2	血管縫合術（簡単なもの）	2
		K607-3	上腕動脈表在化法	3
		K6082	動脈塞栓除去術（その他のもの（観血的なもの））	22
		K608-3	内シャント血栓除去術	6
		K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	3
		K6093	動脈血栓内膜摘出術（その他のもの）	5
		K610-3	内シャント設置術	52
		K610-4	四肢の血管吻合術	1
		K6105	動脈形成術、吻合術（その他の動脈）	10
		K6113	抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	2
		K613	腎血管性高血圧症手術（経皮的腎血管拡張術）	1
		K6141	血管移植術、バイパス移植術（大動脈）	3
		K6145	血管移植術、バイパス移植術（下腿、足部動脈）	11
		K6146	血管移植術、バイパス移植術（膝窩動脈）	2
		K6147	血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	20
		K6151	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（止血術）	2
		K6152	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	1
		K6153	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（その他のもの）	2
		K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	184
		K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	52
	静脈	K6171	下肢静脈瘤手術（抜去切除術）	16
		K617-2	大伏在静脈抜去術	12
		K6182	中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他に設置した場合）	4
		K620	下大静脈フィルター留置術	5
		K620-2	下大静脈フィルター除去術	2
	リンパ管、リンパ節	K6261	リンパ節摘出術（長径3cm未満）	1
腹部	腹壁、ヘルニア	K6331	ヘルニア手術（腹壁瘢痕ヘルニア）	5
		K633-21	腹腔鏡下ヘルニア手術（腹壁瘢痕ヘルニア）	4
		K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	11
		K6336	ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	1
		K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	55
	腹膜、後腹膜、 腸間膜、網膜	K636	試験開腹術	11
		K636-2	ダメージコントロール手術	1
		K636-3	腹腔鏡下試験開腹術	2
		K6371	限局性腹腔膿瘍手術（横隔膜下膿瘍）	1
		K637-2	経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	9
		K639	急性汎発性腹膜炎手術	8
		K647	胃縫合術（大網充填術又は被覆術を含む。）	1
	胃、十二指腸	K647-2	腹腔鏡下胃、十二指腸潰瘍穿孔縫合術	2
		K651	内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	2

節	区分	解釈番号	名 称	件数
腹部	胃、十二指腸	K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	33
		K653-3	内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	10
		K6534	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ・粘膜切除術）	15
		K654	内視鏡的消化管止血術	103
		K654-2	胃局所切除術	1
		K654-31	腹腔鏡下胃局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）	1
		K6551	胃切除術（単純切除術）	1
		K6552	胃切除術（悪性腫瘍手術）	8
		K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	7
		K6572	胃全摘術（悪性腫瘍手術）	5
		K657-22	腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）	2
		K662	胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む。）	5
		K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	65
		K665-2	胃瘻除去術	2
	胆嚢、胆道	K6711	胆管切開結石摘出術（チューブ挿入を含む。）（胆嚢摘出を含むもの）	1
		K6712	胆管切開結石摘出術（チューブ挿入を含む。）（胆嚢摘出を含まないもの）	2
		K671-21	腹腔鏡下胆管切開結石摘出術（胆嚢摘出を含むもの）	2
		K672	胆嚢摘出術	15
		K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	130
		K6751	胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に局限するもの（リンパ節郭清を含む。））	5
		K6772	胆管悪性腫瘍手術（その他のもの）	2
		K680	総胆管胃（腸）吻合術	3
		K681	胆嚢外瘻造設術	9
		K6822	胆管外瘻造設術（経皮経肝によるもの）	1
		K682-2	経皮的胆管ドレナージ術	3
		K682-4	超音波内視鏡下瘻孔形成術（腹腔内膿瘍に対するもの）	1
		K6851	内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴うもの）	1
		K6852	内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	16
		K686	内視鏡的胆道拡張術	2
		K6871	内視鏡的乳頭括約筋切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	25
		K6872	内視鏡的乳頭括約筋切開術（胆道碎石術を伴うもの）	2
		K688	内視鏡的胆道ステント留置術	49
	肝	K692-2	腹腔鏡下肝嚢胞切開術	4
		K6951	肝切除術（部分切除）	8
		K6953	肝切除術（外側区域切除）	3
		K6954	肝切除術（1区域切除（外側区域切除を除く。））	1
		K6955	肝切除術（2区域切除）	2
	脾	K7021イ	脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術の場合）（脾同時切除の場合）	1
		K7021ロ	脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術の場合）（脾温存の場合）	2
		K7032	脾頭部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術の場合）	1
		K708-3	内視鏡的脾管ステント留置術	2
	空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸	K714	腸管癒着症手術	2
		K714-2	腹腔鏡下腸管癒着剥離術	6
		K7161	小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	10
		K7162	小腸切除術（悪性腫瘍手術）	3
		K716-21	腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	6
		K716-22	腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術）	1
		K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	22
		K718-22	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	3
		K7191	結腸切除術（小範囲切除）	4
		K719-21	腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	1
		K7193	結腸切除術（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）	6
		K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	23
		K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	287
		K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm以上）	44
		K721-3	内視鏡的結腸異物摘出術	2
		K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	25
		K722	小腸結腸内視鏡的止血術	31
		K725	腸瘻造設術	1

節	区分	解釈番号	名 称	件数
腹部	空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸	K726	人工肛門造設術	4
		K726-2	腹腔鏡下人工肛門造設術	1
		K7322	人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴うもの）	3
		K735-4	下部消化管ステント留置術	6
	直腸	K740-21	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	5
		K740-22	腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）	8
		K7421 イ	直腸脱手術（経会陰によるもの）（腸管切除を伴わないもの）	1
	肛門、その周辺	K7433	痔核手術（脱肛を含む。）（結紮術）	9
		K7434	痔核手術（脱肛を含む。）（根治手術（硬化療法（四段階注射法によるもの）を伴わないもの））	4
		K7436	痔核手術（脱肛を含む。）（PPH）	2
		K745	肛門周囲膿瘍切開術	2
		K7461	痔瘻根治手術（単純なもの）	2
		K7462	痔瘻根治手術（複雑なもの）	3
		K753	毛巣洞手術	1
		K8352	陰嚢水腫手術（その他）	1
性器	陰嚢等			
歯科	歯科	J0001	拔牙手術（1歯につき）（乳歯）	24
		J0002	拔牙手術（1歯につき）（前歯）	181
		J0003	拔牙手術（1歯につき）（臼歯）	675
		J000-32	上顎洞陷入歯等除去術（犬歯窩開さくにより行う場合）	1
		J0004	拔牙手術（1歯につき）（埋伏歯）	393
		J0007	下顎完全埋伏智歯（骨性）又は下顎水平埋伏智歯加算（拔牙手術（1歯につき））	361
		J001	ヘミセクション（分割拔牙）	1
		J002	拔牙窩再掻爬手術	4
		J0031	歯根嚢胞摘出手術（歯冠大のもの）	30
		J0032	歯根嚢胞摘出手術（拇指頭大のもの）	7
		J0041	歯根端切除手術（1歯につき）（2以外の場合）	12
		J004-2	歯の再植術	1
		J004-3	歯の移植手術	1
		J006	骨瘤除去手術	1
		J006	歯槽骨整形手術	10
		J0081	歯肉、歯槽部腫瘍手術（エプーリスを含む。）（軟組織に局限するもの）	8
		J0082	歯肉、歯槽部腫瘍手術（エプーリスを含む。）（硬組織に及ぶもの）	3
		J0131	口腔内消炎手術（智歯周囲炎の歯肉弁切除等）	5
		J0132	口腔内消炎手術（歯肉膿瘍等）	3
		J0133	口腔内消炎手術（骨膜下膿瘍、口蓋膿瘍等）	28
		J0171	舌腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	2
		J0172	舌腫瘍摘出術（その他のもの）	5
		J0181	舌悪性腫瘍手術（切除）	2
		J0221	顎・口蓋裂形成手術（軟口蓋のみのもの）	1
		J0222	顎・口蓋裂形成手術（硬口蓋に及ぶもの）	2
		J0223	顎・口蓋裂形成手術（顎裂を伴うもの）（片側）	6
		J0223	顎・口蓋裂形成手術（顎裂を伴うもの）（両側）	1
		J0232	歯槽部骨皮質分離術（コルチコトミー）（6歯以上の場合）	2
		J0241	口唇裂形成手術（片側）（口唇のみの場合）	2
		J0242	口唇裂形成手術（片側）（口唇裂鼻形成を伴う場合）	4
		J024-22	口唇裂形成手術（両側）（口唇裂鼻形成を伴う場合）	3
		J024-23	口唇裂形成手術（両側）（鼻腔底形成を伴う場合）	1
		J0243	口唇裂形成手術（片側）（鼻腔底形成を伴う場合）	2
		J026	舌繫痕性短縮矯正術	1
		J027	頬、口唇、舌小帯形成術	12
		J0301	口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	14
		J0302	口唇腫瘍摘出術（その他のもの）	4
		J0332	頬腫瘍摘出術（その他のもの）	1
		J034	頬粘膜腫瘍摘出術	4
		J0372	上顎洞口腔瘻閉鎖術（困難なもの）	3
		J0431	顎骨腫瘍摘出術（歯根嚢胞を除く。）（長径3cm未満）	10
		J0432	顎骨腫瘍摘出術（歯根嚢胞を除く。）（長径3cm以上）	2
		J044	顎骨嚢胞開窓術	1
		J044-2	埋伏歯開窓術	15

節	区分	解釈番号	名 称	件数
歯科	歯科	J045	口蓋隆起形成術	1
		J046	下顎隆起形成術	2
		J0461	両側加算（下顎隆起形成術）	2
		J0471	腐骨除去手術（歯槽部に限局するもの）	6
		J0472	腐骨除去手術（顎骨に及ぶもの（片側の3分の1未満の範囲のもの））	6
		J0473	骨吸収抑制薬関連顎骨壊死又は放射線性顎骨壊死加算	2
		J0481	口腔外消炎手術（骨膜下膿瘍、皮下膿瘍、蜂窩織炎等（2cm以上5cm未満のもの））	2
		J0481	口腔外消炎手術（骨膜下膿瘍、皮下膿瘍、蜂窩織炎等（2cm未満のもの））	1
		J051	がま腫切開術	3
		J063-21	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家骨移植（簡単なもの））	1
		J063-21	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家骨移植（困難なもの））	13
		J0661	歯槽骨折観血的整復術（1歯又は2歯にわたるもの）	1
		J067	上顎骨折非観血的整復術	1
		J0691	上顎骨形成術（単純な場合）	19
		J0693	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合）	2
		J071	下顎骨折非観血的整復術	5
		J0721	下顎骨折観血的手術（片側）	1
		J0722	下顎骨折観血的手術（両側）	1
		J0731	口腔内軟組織異物（人工物）除去術（簡単なもの）	1
		J0742	顎骨内異物（挿入物を含む。）除去術（困難なもの（手術範囲が顎骨の3分の2程度未満の場合））	47
		J0742	顎骨内異物（挿入物を含む。）除去術（困難なもの（手術範囲が全顎にわたる場合））	1
		J0751	下顎骨形成術（おとがい形成の場合）	10
		J0752	下顎骨形成術（短縮又は伸長の場合）	74
		J0754	下顎骨形成術（骨移動を伴う場合）	2
		J0755	両側同時加算（下顎骨形成術）	74
		J077	顎関節脱臼非観血的整復術	6
		J0821	歯科インプラント摘出術（1個につき）（人工歯根タイプ）	6
		J0824	骨の開さく加算（歯科インプラント摘出術（1個につき））	1
		J0841	創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径5cm未満））	3
		J084-21	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達するもの（長径2.5cm未満））	1
		J084-23	小児創傷処理（6歳未満）（筋肉、臓器に達するもの（長径5cm以上10cm未満））	1
		J0844	後出血処置	14
		J0844	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径5cm未満））	8
		J0845	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径5cm以上10cm未満））	1
		J086	上顎洞開窓術	1



## 1) 循環器内科

所属医師	立川 洋一（院長） 永瀬 公明（心血管センター長・循環器内科部長） 宮本 宣秀（心血管副センター長・循環器内科部長） 脇坂 収（循環器内科部長） 金子 匡行（循環器内科部長） 浦壁 洋太（循環器内科医長） 御手洗和毅（循環器内科医員） 藤田 崇史（循環器内科医員）
特徴等 特筆すべき 事 柄	心臓血管外科・血管内科と共に心血管センター内に属し、主に心疾患の診療を行っている。虚血性心疾患や不整脈に対する治療（経皮的冠動脈形成術・カテーテルアブレーション・ペースメーカー植込術等）を積極的に行い、特にエキシマレーザーを用いてのリード抜去術は大分県で唯一の施設認定病院である。また心臓リハビリ治療に力をいれ、他職種のメディカルスタッフとチーム医療を行っている。 指導医・専門医 日本内科学会総合内科専門医（立川、宮本、脇坂、金子、浦壁） 日本内科学会認定内科医（立川、永瀬、宮本、脇坂、金子、浦壁、御手洗、藤田） 日本循環器学会専門医（立川、永瀬、宮本、脇坂、金子、浦壁） 日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医（立川、永瀬） 日本心血管インターベンション治療学会専門医（宮本、金子） 日本心血管インターベンション治療学会認定医（浦壁） 日本不整脈心電学会認定専門医（脇坂） 日本心臓リハビリテーション学会指導士（宮本、金子） 植え込み型除細動器資格医（宮本、脇坂、金子） 心臓植え込みデバイスリード抜去資格医（宮本、脇坂、金子） ICD制度協議会インфекションコントロールドクター（金子）
実 績	新入院患者数：1,294名 延べ外来患者数：7,609名 経皮的冠動脈形成術（PCI）：219件（うち緊急 73件） 末梢血管インターベンション（EVT）：45件 シャント血管インターベンション（VAIVT）：62件 カテーテルアブレーション（RFCA）：212件 ペースメーカー植え込み術：44件 植え込み型除細動器植え込み術（ICD）：6件 心臓再同期療法/植え込み型除細動器（CRT-D）：11件 ペースメーカーリード抜去術：3件
考 察	PCI・RFCA・ペースメーカー治療は前年とほぼ同等の症例数であった。薬剤溶出ステントの使用によりPCIは再狭窄例はほとんどなく、新規症例だけで200例を超えているのは健闘していると考ええる。カテーテル治療以外にも心不全や循環器疾患以外の一般内科疾患の治療も積極的に行った。また診療以外では、学会発表や健康講座、市民公開講座、地域医療連携関連の講演も随時行った。
今後の展望	これからも虚血性心疾患や不整脈疾患に対し、質の高い医療を提供し、地域医療に貢献していきたい。カテーテル治療等の非薬物治療の症例数の確保に向け、広報活動、営業活動を推進していく。また将来はストラクチャー心疾患に対する治療も行っていければと考えている。

文責：永瀬 公明

## 2) 血管内科

所属医師	石川 敬喜（血管内科医長）
特徴等 特筆すべき 事 柄	<p>末梢血管治療を専門領域として担当し、循環器内科より独立して下肢動脈の血管内治療を中心としている。多くの患者さんが創傷を伴う重症虚血肢であるため、形成外科との連携は密であり形成外科入院患者さんの基礎疾患・内科的合併症に対して副担当医として関わっている。これにより血行再建時のみではなく、一連の治療経過を通して内科医としての関わりを保ち、形成外科平均入院期間短縮が得られている。</p> <p>血行再建術に関しては、下肢のみではなく上肢の虚血や静脈系の治療も実施している。国内の学会およびライブデモンストレーションのファカルティとして座長やコメンテーターとしての学会活動も行っているが、2019年度からは院内でのEVT指導ワークショップを年度内に3回開催し、外部若手医師を中心に技術指導の機会を設けた。</p> <p>循環器疾患に関しては当科および形成外科の患者さん、救急受診された急性心筋梗塞や心不全の一部を担当している。</p> <p>認定資格          日本内科学会認定内科医          日本循環器学会専門医          日本心血管インターベンション治療学会認定医          浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会認定実施医</p>
実 績	<p>2019年度実績</p> <p>末梢動脈カテーテル治療（EVT）186例          当科実施：114例 その他72例は指導症例もしくは循環器内科実施症例</p> <p>血管内科入院患者数 109名</p>
考 察	全国的に徐々に増えている末梢血管の専門科として、また多数の診療科・医療スタッフが参加する必要のある重症虚血肢治療に対して診療科の枠組みなく活動を行っている。血行再建術のみではなく内科医としてのかかわりを継続することで、主なパートナー診療科である形成外科の医師には、外科医としてできるだけ手術に専念していただける状況をサポートできていると考える。
今後の展望	整形外科や脳外科といった領域の病棟管理にも参入していく予定。また2020年度より救急科兼任として、基本領域の専門性を低下させずに診療を行っていく必要がある。

文責：石川 敬喜

### 3) 外科

所属医師	姫野 研三（名誉院長） 荒巻 政憲（副院長、消化器センター長） 佐藤 博（主任外科部長） 薮 由貴（消化器外科医員） 田邊 三思（消化器外科医員）
特徴等 特筆すべき 事柄	<p>外科では消化器・一般外科として胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、胆嚢癌、胆石、急性虫垂炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、癒着性イレウス、腸管壊死、鼠径ヘルニア等の手術を行っている。1991年に腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入して以来、腹腔鏡下手術に力をいれ、現在では胃癌、大腸癌、急性虫垂炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、癒着性イレウス、鼠径ヘルニア等においても積極的に行っており全手術の約2/3を占めている。</p> <p>専門医・認定医</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本外科学会指導医（荒巻）</li> <li>日本外科学会専門医（荒巻・佐藤・薮）</li> <li>日本外科学会認定医（姫野）</li> <li>日本消化器外科学会指導医（荒巻）</li> <li>日本消化器外科学会専門医（荒巻）</li> <li>日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医（荒巻）</li> <li>日本内視鏡外科学会技術認定医（佐藤）</li> <li>日本消化器病学会消化器病専門医（佐藤）</li> <li>日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医（佐藤）</li> <li>日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医（佐藤）</li> <li>日本消化管学会胃腸科指導医（佐藤）</li> <li>日本消化管学会胃腸科専門医（佐藤）</li> <li>日本臨床外科学会特別会員（姫野）</li> <li>日本肝胆膵外科学会評議員（荒巻）</li> <li>ICD協議会インフェクションコントロールドクター（佐藤）</li> <li>日本医師会認定産業医（姫野・佐藤）</li> <li>日本法医学会死体検案認定医（姫野）</li> <li>日本救急医学会専門医（田邊）</li> </ul>
実績	新入院患者数：1,058名 延外来患者数：5,676名 手術件数（手術数）：441件
考察	近年、整容性に優れた低侵襲性手術である単孔式腹腔鏡下手術を胆嚢結石や虫垂炎に対し行っており良好な成績を上げている。また2014年4月からは肝胆膵癌に対する手術を行い徐々に症例数は増加している。
今後の展望	当科では質の高い医療を目指し、早期から低侵襲性手術である腹腔鏡下手術を導入し現在でも多くの手術を腹腔鏡下に行っている。 消化器センター開設後は消化器癌症例が増加していく。今まで培った治療法を基本に消化器疾患全般に対してより安全、安心な治療を提供していく。

文責：荒巻 政憲

## 4) 消化器内科

所属医師	首藤 充孝（消化器内科部長）（大分大学医学部附属病院臨床准教授） 衛藤 孝之（医員）																																												
特徴等 特筆すべき 事柄	2016年10月より大分大学医学部消化器内科学講座より消化器内科医師が派遣されるようになった。2018年4月より現行体制となり、早期胃癌に加えて、早期の食道癌・十二指腸癌・大腸癌に対しても内視鏡的粘膜下層剥離術を導入し、現在、積極的に治療を行っている。  首藤 充孝 専門分野： 早期消化管癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、食道アカラシアに対するPOEM（経口内視鏡的筋層切開術）、食道癌CRT後再発に対するPDT（光線力学的治療）、上下部消化管内視鏡検査、ERCP、医療発展途上国への指導。 資格： 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 H.pylori（ピロリ菌）感染症認定医  衛藤 孝之 専門分野：消化器内科全般																																												
実績	2019年度 実績 <table><tr><th colspan="2">内視鏡</th><th>件数</th></tr><tr><td colspan="2">胃内視鏡検査（GF）</td><td>1,724</td></tr><tr><td colspan="2">大腸内視鏡検査（CF）</td><td>1,119</td></tr><tr><td colspan="2">内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）</td><td>106</td></tr><tr><td colspan="2">経皮内視鏡的胃瘻造設術 経皮内視鏡的盲腸瘻造設術（PEG/PEC）</td><td>64</td></tr><tr><td colspan="2">気管支鏡検査（BF）</td><td>106</td></tr><tr><td colspan="2">超音波内視鏡膵臓・胆管検査（EUS）</td><td>7</td></tr><tr><td colspan="2">腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）</td><td>1</td></tr><tr><td rowspan="4">内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）</td><td>食道</td><td>13</td><td rowspan="4">87</td></tr><tr><td>胃</td><td>40</td></tr><tr><td>十二指腸</td><td>0</td></tr><tr><td>大腸</td><td>34</td></tr><tr><td colspan="2">内視鏡的粘膜切除術（EMR）</td><td>205</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">計</td><td>3,419</td><td></td></tr></table>			内視鏡		件数	胃内視鏡検査（GF）		1,724	大腸内視鏡検査（CF）		1,119	内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）		106	経皮内視鏡的胃瘻造設術 経皮内視鏡的盲腸瘻造設術（PEG/PEC）		64	気管支鏡検査（BF）		106	超音波内視鏡膵臓・胆管検査（EUS）		7	腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）		1	内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	食道	13	87	胃	40	十二指腸	0	大腸	34	内視鏡的粘膜切除術（EMR）		205		計		3,419	
内視鏡		件数																																											
胃内視鏡検査（GF）		1,724																																											
大腸内視鏡検査（CF）		1,119																																											
内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）		106																																											
経皮内視鏡的胃瘻造設術 経皮内視鏡的盲腸瘻造設術（PEG/PEC）		64																																											
気管支鏡検査（BF）		106																																											
超音波内視鏡膵臓・胆管検査（EUS）		7																																											
腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）		1																																											
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	食道	13	87																																										
	胃	40																																											
	十二指腸	0																																											
	大腸	34																																											
内視鏡的粘膜切除術（EMR）		205																																											
計		3,419																																											
考察	2018年4月より早期胃癌に対する内視鏡治療に加え、食道・十二指腸・大腸に対する内視鏡的粘膜下層剥離術を導入し、月に5～10件、年間80例ほど施行しており、県内屈指の癌治療症例数、成績を誇る消化器センターへととなった。 当初、地域の中核としての消化器センターとしてスクリーニング目的の内視鏡検査も多く受け入れていたが、近年、クリニック等では切除不可能な早期癌の切除依頼も増加しており、スタッフ等の人員や設備の制限により、現在の施行件数からの増加は難しい状態にある。																																												
今後の展望	今後、スタッフや設備等の充実を図り、クリニック等で治療不可な疾患の受け入れに重点をおき、スクリーニング検査や、経過観察目的の内視鏡に関してはクリニック等の手を借りる形として、当科は治療専門病院として地域医療に貢献していきたいと考えている。これらの体制確立後は協力病院の拡大を目指し、大分全県の中で大学病院に匹敵する内視鏡治療専門病院としての地位を確立していきたい。																																												

文責：首藤 充孝

## 5) 救急科

所属医師	大久保浩一（救急科部長）
特徴等 特筆すべき 事 柄	<p>外傷、ショック、感染症、内科一般の対応をしている。この他の専門治療が必要な救急疾患についても、各専門診療科と連携して対応が可能である。</p> <p>専門医・認定医          日本救急医学会救急科専門医（大久保）          日本DMAT隊員（大久保）          大分DMAT隊員（大久保）          JATECインストラクター（大久保）</p>
実 績	<p>延外来患者数：1,429名</p> <p>2019年度救急車搬入件数：2,424件</p> <p>新入院患者数：319名</p>
考 察	<p>当院は年間約2,400台の救急車を受け入れることで大分市東部地区の救急医療の中核的役割を果たしているが、当科としてはその受け入れの中心的な役割を果たすのみならず、日中のウォークイン患者の対応も行なっている。</p> <p>一般救急業務以外にも災害医療活動や院内急変時対応チーム、呼吸療法サポートチーム、栄養サポートチーム、Infection Control Teamなど、多くのチーム医療に当科医師が参加して病院の診療機能向上に努める。</p>
今後の展望	<p>2016年4からは大分市消防局を中心としたドクターカーシステムが運用を開始しており、当院においても要請に対して即時に出動が可能のように準備を行なっている。</p> <p>従来のDMATでの災害現場への出動のみならず、「呼びかけに対して反応がない」、「胸が痛い」などのキーワードに応じて内因性疾患に関しても病院前からの医療介入を行える形となった。</p> <p>急性期の患者の予後を少しでも良いものにするために、スタッフの知識・スキルの向上を図るとともに、消防や他医療機関との連携を深めていきたい。</p>

文責：総務・人事部

## 6) 整形外科

所属医師	亀井 誠治（整形外科部長）
特徴等 特筆すべき 事 柄	<p>整形外科は骨、関節、靱帯、末梢神経、筋肉などの運動器に関わる疾患や外傷を治療する診療科である。当院では外傷を主とした一般的な整形外科治療に加え、足の外科専門の常勤医による、専門に特化した診療を行っている。</p> <p>専門医・認定医          日本整形外科学会専門医（亀井）          日本整形外科学会認定リウマチ医（亀井）          日本体育協会スポーツドクター（亀井）          日本人工関節学会認定医（亀井）</p>
実 績	<p>新入院患者数：374名          延外来患者数：2,975名          手術件数（手術室使用）：334件</p>
考 察	<p>診療面では、常勤医一人体制であり、諸事情により手術件数や入院患者数は減少した。救急患者の受け入れに関しても、対応できなかった時期があった。入院患者の管理に関しては、他科の先生や研修医、スタッフの協力により、何とか対応できた。</p> <p>学術面では、昨年は学会発表、論文作成ともできていない。</p> <p>教育面では、研修医が1～2か月の研修を行ったが、手術や診療以外の時間を設けることができず、整形外科の知識を教えることがあまりできなかった。手術見学や手術手技に関しては、比較的経験させることができたと思われる。</p>
今後の展望	<p>入院患者数、手術件数は徐々に以前の数に戻したいが、常勤医一人体制であり、限界がある。看護必要度、在院日数、入院単価を考慮すれば、手術患者の入院を増やし、早期に転院させる方針が望ましい。このためには、連携医療機関、整形外科スタッフ、手術室スタッフの協力が不可欠である。連携医療機関への営業を行うことと、整形外科スタッフの多くが異動したため、スタッフへの教育を行いたい。</p> <p>他院と比較して特化した分野とすれば、足の外科疾患と前方アプローチによる人工股関節手術であり、これらの知識、経験を深め、大分における治療促進を図る。</p> <p>学会発表、論文作成を行う。</p> <p>整形外科に興味をもつ研修医の指導内容を深いものにする。</p>

文責：亀井 誠治



## 7) 形成外科

所属医師	古川 雅英（副院長、形成外科部長・創傷ケアセンター長） 佐藤 精一（形成外科部長）2016年2月～ 2018年10月 部長就任 石原 博史（形成外科部長）2018年4月～ 2018年10月 部長就任 松本 健吾（形成外科非常勤医師） 澁谷 博美（形成外科顧問）
特徴等 特筆すべき 事 柄	臨床、教育：マキシロフェイシャルユニットおよび創傷ケアセンターにおける他科および多職種協働のチーム医療は昨年同様である。 佐藤精一は新専門医制度における指導医としての要件を満たした。また2019年よりKAIZENやDXといった院内の主に業務改善の仕事や敬和会執行役員として研修にも参加している。松本健吾は副業（セカンドキャリア）としての爪ケア、フットケアのスクールを立ち上げ、1期生20名が卒業、院内に自費での爪ケアブースを開業した。澁谷先生には毎週木曜日午後來院いただき、困難症例のアドバイスや定期的外来、手術への参加などお願いしている。 大分県の形成外科専門医の教育は、別府医療センターを基幹病院として、大分大学形成外科、アルメイダ病院、当院が協力機関として行っている。指導医3名となり新専門医制度における形成外科専門医の基幹病院としての準備を行った。  専門医・認定医 日本形成外科学会専門医（古川、佐藤、石原、松本、澁谷）、認定施設 日本皮膚科学会専門医（澁谷） 日本創傷外科学会専門医（古川、佐藤）、認定施設 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医（古川、佐藤）、認定施設 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医（古川）、認定施設 学会活動、研究：精力的に学会活動と臨床研究を行っている。 日本フットケア・足病学会 評議員 古川（リハ委員）、松本（リハ委員、保険委員）
実 績	NCD提出分資料（2019.1.1～12.31）より 新患数：1,225名 入院：456名 総手術件数：1,506件 疾患別手術数： 外傷：636件、先天異常：103件、腫瘍：371件、瘻管：9件、難治性潰瘍：270件、 炎症・変性疾患：97件、その他：12件 大分県では最大の施設である。 治験参加：ASK治験（新しいLDLAカラム開発） カネカ PRP治験（再生医療） ロート製薬 CLBS12（再生医療）治験 カラドリウス社 皮膚潰瘍薬 治験 塩野義製薬 臨床研究：透析患者の下肢血管病重症化予防をめざす地域包括救済ネットワーク構築事業 足病治療のためのリハビリテーションについて保険収載に向けての取り組み
考 察	さらに新患数も手術数も多くなったが、手術室や外来など物理的に上限のものもある。学会活動においても積極的に演題発表を行い、論文も作成し、日本形成外科学会認定施設として十分な機能を果たした。第11回日本下肢救済学会総会では複数シンポジウムや一般演題など多職種で19演題を発表して全国的にも当院の取り組みをアピールできた。再生医療を用いた治験に2件参加しており、全国1,2位の症例数であり、救済施設としての認知度も上がってきていると感じている。敬和会の取り組みとしてパラレルキャリアを推奨しており、その試みとして法人内の希望職員に対して爪ケアの教室を開講し、1期生は上述のように院内で自費でのサービスを提供している。2期目となったが、コロナ感染症の流行により慎重に開催している。
今後の展望	顔面、下肢、では九州で屈指の施設として認知されるようになってきており、患者は県境を越えて来院している。マイクロサージャリー、手の外科に関してもドクターヘリでの受け入れも始まり患者数が増加してきた。認定医の数、手術症例数は大分県最大であり、新専門医制度における基幹施設認定の準備を行っており、2020年度申請予定である。また看護師の特定行為の取得にも積極的に関与し、4病棟の看護師1名（創傷ケアセンター担当）が取得した。デブリードマンと、局所陰圧閉鎖療法の処置ができるため、継続看護の名称で退院後の処置に自宅や施設へ訪問し、処置までできるようになり、地域連携の強化も図っている。本年度は4名の特定行為研修に協力予定である。

文責：古川 雅英

## 8) 心臓血管外科

所属医師	迫 秀則（副院長・心臓血管外科部長・臨床研修センター長） 田中 秀幸（心臓血管外科部長） 高山 哲志（心臓血管外科医長） 内田かおる（心臓血管外科医員） 阿部 貴文（心臓血管外科医員） 安部由理子（心臓血管外科医員）
特徴等 特筆すべき 事 柄	心臓血管外科の2019年の手術症例数は161例/年であった。前年より少し減少である。現在の活動範囲ではこれくらいのが限度かもしれないと感じている。昨年に比べると弁膜症手術症例が減少したが、年ごとの変動範囲内かもしれない。2014年から開始した完全内視鏡下心臓手術の認知度は上がってきていると感じているのでこれを上手く広報できれば症例数の増加は期待できる。手術成績としては変わらず良好な成績を残せているので、今後もさらに進めていきたい。  専門医・認定医 日本心臓血管外科学会・心臓血管外科専門医（迫、田中） 日本外科学会 外科専門医・指導医（迫、田中） 日本外科学会 外科専門医（高山、阿部） 日本脈管学会 脈管専門医（迫、田中） 日本循環器学会 循環器専門医（迫） 日本救急医学会 救急科専門医（迫）
実 績	業績は昨年に比べると飛躍的に伸び、論文も英語論文1編、日本語論文も2編完成することができた。 外来延べ患者数：2,921名 新入院患者数：335名 手術件数（手術室使用）：384名
考 察	当科の実力としての一番は手術成績の安定と考える。待機手術において手術死亡をださないことは絶対であるが、合併症も極力少なくするために引き続き努力していきたい。
今後の展望	手術成績の向上と共に取り組んできた完全内視鏡心臓手術であるが、その成績が安定してきた。当院程度の症例数では、内視鏡下僧帽弁手術は1例/月程度であり、成績を安定させるのが難しかったが、様々な取り組みで成績が向上してきた。特に重要だったのは、大動脈弁に対しても内視鏡手術を行えるようになったことと、済生会熊本病院と連携して手術症例を共有できるようになったこととの2点である。大動脈弁を内視鏡で行うようになり症例数が増加した結果、内視鏡手術特有の手術手技や体外循環技術などが安定した。また、済生会での手術方法を学習できていることと、済生会心臓血管外科の押富先生に来院して頂き手術手技のアドバイスが得られていることにより、僧帽弁形成術の成績が向上した。さらなる発展のために引き続きこの取り組みを続けていきたい。手術症例数をさらに増加させるには、当院の良好な成績、低侵襲手術の取り組みを多くの医師や一般の方々に広くアピールしていく必要があると考える。大学からのローテーションによりメンバーが変わるけれども、今後もチーム全体としての能力を向上させるべく取り組んでいきたいと考えている。

文責：迫 秀則



## 9) サイバーナイフがん治療センター

所属医師	香泉 和寿（放射線科治療部長）
特徴等 特筆すべき 事 柄	県内唯一のサイバーナイフ治療施設で、2014年より本格的に肝・肺に対する定位照射を開始して約6年が経過した。徐々に治療効果が認知されつつある状況で、癌拠点病院を中心に紹介患者が増加傾向にある。 また2016年11月には最新機種であるサイバーナイフM6に更新されている。他施設で困難な高精度放射線治療が期待されており、積極的に患者受け入れを行っている。
実 績	新入院患者数……………227名 外来患者数……………181名 サイバーナイフ治療件数…218件 (2018年度 168件 2017年度 160件 2016年度 132件 2015年度 141件 2014年度 109件 2013年度 91件)
考 察	<p>現状分析及び外部環境の変化への対応</p> <p>1 現状についての分析</p> <p>1-1 全般的な今年度の特徴</p> <p>2011年に赴任して以来照射件数は右肩上がりの増加が続いており、今年度（2019年度）も照射件数としてはセンター開設以来、最も多い年間件数218件となった。順調な件数増加が実現できており赴任当時に言われていたサイバーナイフセンターが赤字の状態からは完全に脱却している。現在でもほとんど（90%以上）が院外からの紹介によって成り立っているため外部環境への依存度が高い構造ではあるものの、長年の取り組みによって近隣施設から見た当センターの評価が上昇しており照射件数の増加に繋がっていると考えている。また保険診療ではあるが患者単価が高い水準にあることから照射件数の増加は当センターの医業収益に直接的な影響を与えている。当センターにとって照射件数の増加は『当施設自体の外部評価』、『財務面での院内評価』の両方を代表した最も重要な指標と考えている。今年度（2019年度）は新しい放射線治療計画装置Precision ver.2 が導入されたため、放射線治療計画に必要な時間が非常に短縮された。実感としては約半分から症例によっては1/3程度にまで短縮されている。また照射時間の最適化も進化したため実際の照射に必要な時間も短縮されている。この2点の改善によって治療のスループットが格段に良くなったため、今期はこれだけの照射件数を最小の残業時間でこなすことができている（従来の計画装置だとこれだけの人数を医師1人の体制でこなすのは不可能だった）。この治療計画装置を追加導入する条件として前年度比15%の収益増加を病院側にcommitmentしたが宣言以上の収益を確保することができた（約21%の増加）。</p> <p>1-2 照射に関する具体的な取り組み</p> <p>前年度までと同様ではあるが、最近の症例増加に最も寄与しているのが2014年から力を入れている呼吸同期下での追尾照射（肝・肺の照射）である。特に肝臓は呼吸性移動が大きな臓器であり、肝臓癌に対する照射範囲をできるだけ絞るためには呼吸追尾下での照射が最も確実性が高いと考えており、周辺施設にもそのメリットが評価された結果と考えている。今年度（2019年度）の実績では肝・肺の体幹部定位放射線治療は79件（全体の約36%）と増加傾向であり、当センターの収益の要として順調に育ってきている。現状はこの追尾照射の分野はサイバーナイフに優位性があると考えており、引き続き重要な治療と考えている。また既存の疾患を対象とするだけでは他施設との競合が発生することになるため、適応拡大が可能であれば積極的に取り組むことが競合のない件数増加への1つの方法と考えている。前立腺癌への定位放射線治療は時期を見て取り組んでいくことを検討しているが、それには泌尿器科医の協力が不可欠である。現状当院には常勤の泌尿器科医がいないため早期実現には近隣の病院との連携しかないと考えている。</p> <p>最も件数が多い頭頸部領域に関しても従来と同様に積極的な患者受け入れを行っている。こちらも徐々に件数の増加はみられており良い傾向だったと考えている。</p>

<p>考 察</p>	<p>2 外部環境の変化について</p> <p>毎年の懸念材料ではあるが、近年高精度放射線治療の需要は増加傾向にありサイバーナイフ以外にも高精度放射線治療が可能な装置が近隣の様々な施設に導入されてきている。当院の症例のほとんどが院外からの紹介で成り立っている現状は今年度も変わらない。今後、他施設に高精度放射線治療機器の導入や機器更新がさらに進んできた場合には当院への紹介が著しく減少してくる可能性があり、今のうちに院内紹介率を上げるべく当院での癌治療体制を整備する必要がある。ここ最近で件数が増加している肝臓癌の定位放射線治療も、他施設の機器更新がなされた場合には確実に件数が減少すると思われる（サイバーナイフに優位性があるのは事実だが、自施設の高精度装置でも治療が可能となればわざわざ他施設へは紹介しない）。サイバーナイフセンターだけの問題ではないので病院全体の取り組みとして今後考えていただくしかない。既に機器更新の時期に来ている大学病院や県立病院も今年度末のコロナウイルスの影響により来年度以降の投資が手控えられることは考えられる。ただ医療施設全般に収益減少がみられているため、今後は今まで以上に他院からの患者紹介に影響が出てくることが考えられる。上記に対応する目的で、今年度は宮崎県内への営業を進めてきた。実際に営業を行ってみると紹介先に困窮している現状が判明したため積極的に営業を行い、宮崎県立日南病院での院内研修の講演もお引き受けして治療のアピールを行った。今年度は宮崎県内の様々なご施設から計7件の紹介をいただくことができた。今後も密な関係性を構築して宮崎県内からの紹介を増やすよう活動していきたい。県外という別ルート of 患者層を取り込むことで紹介患者層が多様化される。急激な外部環境の変化に対する耐性につながるため、数年かけて関係性を育てていきたい。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>今後も『県内唯一のサイバーナイフ施設』という優位性・特殊性を最大限に活用した診療を継続していく予定である。今後県内他施設における機器更新の影響を受けて件数が減少するリスクはあるが、県外からの患者獲得でそれを補完できるよう積極的に取り組んでいく予定である。ただ既に今年度で218件の照射となっており、これ以上はこれまでのような急激な件数増加は難しいと考えている。朗報としては2020年度の診療報酬改定で体幹部定位放射線治療の適応が拡大されていることがある。2020年度は新たに膀胱癌、転移性脊椎腫瘍、オリゴ転移が加えられており、件数の増加はなくても当センターの収益が増加する余地がある。更にこれら適応拡大した疾患に関して積極的に照射をしていきたい。また引き続き県外からの患者獲得を積極的に進めていきたい。ガンマナイフがあるため頭部の症例を獲得することは難しいが、来年度の努力目標として前立腺癌への定位放射線治療に取り組んでいきたい。既に保険収載されているのだが施行開始に関してはIMRTが可能な施設（当院は施設基準を満たしていない）に限るとの学会要請があることや、現状では泌尿器科医が力を入れているロボット手術（da Vinci）と競合しているので常勤泌尿器科医がいない状況では件数増加が難しいことがある。ハードルは高いが潜在的な対象患者が多いため取り組んでみる価値はあると考えている。</p>

文責：香泉 和寿

## 10) 放射線科

所属医師	首藤利英子（放射線部長）
特徴等 特筆すべき 事柄	<p>放射線科は画像診断という診療科としての業務のほか、画像診断装置を利用した局所治療（IVR）など、病院の放射線部門としての業務を担当している。さらに地域医療連携の先生方からの紹介に対しても放射線科専門医師による画像診断、報告書作成を迅速に行っている。</p> <p>専門医・認定医</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本医学放射線学会放射線診断専門医</li> <li>日本核医学会専門医・指導医</li> <li>日本脈管学会認定脈管専門医</li> <li>腹部大動脈ステントグラフト指導医（3機種分）</li> <li>胸部大動脈ステントグラフト指導医（2機種分）</li> <li>日本核医学PET核医学認定医</li> <li>日本IVR学会専門医</li> <li>PET核医学認定医</li> <li>検診マンモグラフィ読影認定医</li> <li>インフェクションコントロールドクター</li> </ul>
実績	<p>放射線科専門医による読影、治療件数（2019年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CT：9,733件</li> <li>MRI：2,167件</li> <li>核医学検査：183件</li> <li>局所治療：38件</li> </ul>
考察	当科の診断医[常勤]は一人で3.5日/週の勤務ではあるが、大分大学からの支援のもと、例年同様、放射線科専門医による迅速な画像診断が可能となっている。また、ステントグラフト実施施設の認定を維持できている。
今後の展望	当院は地域医療支援病院の指定を受けているため、連携施設からの画像診断を推進し、地域への貢献を行っていく予定。また、今後もCT/MRI件数やIVR治療の適応患者が増加する可能性があり、より良い医療を患者さんに提供していきたいと考えている。

文責：首藤利英子

## 11) 脳神経外科

所属医師	戸井 宏行（脳神経外科部長）
特徴等 特筆すべき 事柄	<p>常勤医が着任して2年目を迎えた。脳神経外科一般の診療に加え、脊髄脊椎外科、脳血管内治療、難治性疼痛に対する脊髄刺激療法など、特色をもった治療を行っている。</p> <p>(1) 脊髄脊椎外科 院内他科、連携医療機関からの紹介を中心に腰椎疾患、頸椎疾患の手術治療を行っている。中枢神経系である脳と脊髄の疾患を正確に診断し、脳神経外科医が得意とする顕微鏡手術を行う点に特徴がある。</p> <p>(2) 脳血管内治療 脳血管造影、脳血管内治療ができる体制づくりを行った。バイブレーション血管造影装置を用いて、脳血管障害患者のカテーテル検査、くも膜下出血に対する脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈狭窄症に対するステント留置術、急性期脳梗塞に対する血栓回収術が可能となり、2018年6月以降、各々の治療が開始された。</p> <p>(3) 難治性疼痛に対する脊髄刺激療法 脊髄硬膜外電極を留置し、難治性疼痛を緩和する脊髄刺激療法を開始した。近年本邦で広がりつつある治療であるが、大分県内では当院が唯一の実施機関である。ペインクリニックからの紹介を中心に症例が集まっている。</p> <p>専門医・認定医 日本脳神経外科学会 専門医（戸井） 日本脊髄外科学会 認定医（戸井） 日本脳神経血管内治療学会 専門医（戸井） 日本脳卒中の外科学会 技術認定医（戸井）</p>
実績	<p>延外来患者数：1,121名 新入院患者数：183名 ■手術件数：66件（脊髄 33、血管内 6、疼痛 11、外傷 12、その他 4） ■脳血管造影：14件</p>
考察	<p>手術件数は1年目と比べると、ほぼ倍増した。広い範囲の脳疾患に対応しつつ、コンスタントに脊髄外科手術を行うことができた。脊髄疾患は、院内の循環器内科、血管内科、近隣の脳神経外科および連携医療機関から多く紹介をいただいた。</p> <p>急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法（t-PA静注療法）や血栓回収術、くも膜下出血の血管内治療を行った。救急外来、MRI、血管造影室の動線・連携がよいため、スムーズな診療体制を築くことができています。院内発症の脳卒中症例も多く、当科で速やかな対応ができるようになった。</p> <p>地域の情報誌や連携医療機関への広報活動により、脊髄刺激療法の症例が多く集まった。「痛み相談会」を催し、脊髄刺激療法の啓蒙に努めた。</p>
今後の展望	<p>(1) 院内での脳疾患・脊髄疾患の啓蒙 病棟、外来、手術室におけるスタッフの知識・技能のレベルアップを図り、安全に標準的な診療が行える体制を強化する。</p> <p>(2) 症例の増加 脊髄外科、脳血管内治療、脊髄刺激療法の症例を中心に地域住民、連携医療機関への啓蒙を行い、症例増加を図る。他科とのバランスを取りながら、可及的に症例増加に努める。</p> <p>(3) 学会発表、論文作成 臨床と並行して、学術的活動にも力を入れる。自らの意思で学び、研究するアカデミック・マインドを持ち、1例1例を大事にして、症例報告や原著論文の作成に取り組む。</p>

文責：戸井 宏行

## 12) 麻酔科

所属医師	帆足 修一（麻酔科部長・手術室部長） 早野 良生（麻酔科部長）
特徴等 特筆すべき 事柄	当院は心臓血管外科手術・創傷治療を行っており末梢血管疾患患者・透析患者などハイリスク症例が比較的多い。また救急病院の麻酔科として緊急手術への迅速な対応を心掛けている。  専門医・認定医 日本麻酔科学会 麻酔科専門医（帆足）
実績	2019年度総手術件数 2,088件（全身麻酔 1,155件 脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔 323件）
考察	前年度に比べ総手術件数137件増加している。それに伴い全身麻酔も89件増加している。
今後の展望	2019年10月に麻酔器・モニター更新して頂き、麻酔記録・麻酔サマリーの電子化をおこないまずまず順調に使用できている。 手術増加に伴います手術室の効率的な運用を目指していきたい。

文責：帆足 修一

## 13) マキシロフェイシャルユニット

所属医師	柳澤 繁孝（名誉院長） 松本 有史（口腔外科部長） 小椋 幹記（矯正歯科部長） 中島 康経（口腔外科医員） 大田 奈央（口腔外科医員） 古川 雅英（副院長・形成外科部長・創傷ケアセンター長） 石原 博史（形成外科部長） 佐藤 精一（形成外科部長）
特徴等 特筆すべき 事柄	顔を対象に高い水準の医療提供を目的に口腔外科医、矯正歯科医、形成外科医がチェアサイドでのチーム医療に努力している。 対象は頭蓋顔面の発育異常、口唇口蓋裂、顎顔面外傷・炎症、腫瘍と口腔粘膜疾患、顎関節症、顔面痛、睡眠障害治療装置の作製など多様な疾患に対応している。インプラント治療は徐々に再開している。また、2019年1月から周術期等口腔支援センターを併設し、入院患者の応急的な歯科治療、周術期等口腔機能管理、摂食嚥下等での役割を果たしやすくした。栄養サポートチーム加算の歯科医師連携でも役割を果たしている。 顎変形症では、大分県内外の矯正歯科医と連携して、紹介患者医療圏は宮崎、福岡、兵庫に及んでいる。 口唇・口蓋裂では出生前の両親へのサポートと出生直後から哺乳装置による栄養管理は他が追従できないシステムを確立している。
実績	1. 外来患者数は 9,714名（うち初診 1,817名）、入院延べ患者数 1,095名であった。全身麻酔手術は 186例（前年度 176例）で、疾患別内訳は顎変形症 116、口唇・口蓋裂 24、抜歯 29、顎顔面外傷 9、口腔腫瘍関連 8、他 2であった。 2. 周術期口腔機能管理実施患者数は 260（前年度 257）、その内訳は心臓・血管手術 187、消化器外科手術 65、放射線科 4、整形外科 3、循環器内科 1であった。 3. 学会活動他：論文 1、学会・研究会等発表 7、専門学校での講義 2
考察	2019年1月から周術期等口腔支援センターを併設し、周術期等口腔機能管理を含め、入院患者さんの口腔支援を行いやすい環境になった。診療収益増加だけでなく、学会活動にも取り組んでいる。
今後の展望	主要な疾患の診療圏拡大を連携医の協力でさらに進めたい。また、インプラント治療の増加、スポーツ歯科、口腔乾燥症、摂食嚥下障害などを加えて顔面領域の形態と機能の維持・向上に努め、社会の要請に応えたい。さらに、周術期等口腔支援センターの取り組みを推し進めたい。医療スタッフおよび知識と技術を継承する後継者の養成が重要な課題と考える。

文責：小椋 幹記



## 1) 看護部

構成員数	看護師 238名 准看護師 17名 介護福祉士 16名 ワークエイド 32名 事務 5名 合計 308名（休職者含む） (2019年4月現在)
2019年度 理念、目標	理念 1. 各自が責任をもって適切な看護ケアを行います。 2. 愛情をもって患者さんに接し、あたたかい医療を目指します。 3. 専門職として自己研鑽に努め、看護の質の向上をはかります。 目標 1. やさしく思いやりのある態度で看護を実践します。 2. チャレンジ精神を発揮し、自立した看護を目指します。 3. 入院患者さんに対し責任を持ち退院に向けてチームで取り組みます。 管理目標 1. 急性期病院として安全で質の高い看護の提供を行う。 2. いきいきと働き続けられる職場環境作りに取り組む。
業務（活動） 内容、特徴等	9月より、モデル病棟でセル看護提供方式を導入した。申し送りの廃止、リーダー業務の廃止、Teamsによる指示受けを開始し、業務の効率化と看護師のモチベーションアップへとつながっている。 2018年10月からスタートした大分岡病院での看護師特定行為研修だが、2020年1月に、第1期生3名が、特定行為研修の資格を取得することができた。研修で学んだアセスメント能力や臨床推論能力を現場で発揮し、他の看護師のモデルとなって活躍してくれることを期待している。
実 績	実習受け入れ状況 ふれあい看護体験 大分県立雄城台高等学校・大分県立鶴崎高等学校 大分県立情報科学高等学校 8名 期間 6/7・6/8 明豊高校専攻科2年生 8名 統合実習 実習期間 5/13～6/21 藤華医療技術専門学校3年生 11名 成人看護学 実習期間 5/8～6/14 大分県立看護科学大学4年生 2名 統合実習 実習期間 6/17～7/2 大分県立看護科学大学1年生 6名 初期体験実習 実習期間 7/10～7/13 藤華医療技術専門学校3年生 12名 成人看護学 実習期間 8/26～10/4 藤華医療技術専門学校3年生 8名 統合実習 実習期間 10/15～11/1 藤華医療技術専門学校2年生 5名 基礎看護学Ⅱ 実習期間 11/28～12/17 藤華医療技術専門学校1年生 6名 基礎看護学Ⅰ 実習期間 1/16～1/22 藤華医療技術専門学校2年生 6名 基礎看護学Ⅱ 実習期間 1/27～2/14 明豊高校専攻科1年生 22名 成人看護学・老年看護学 実習期間 11/18～1/31  資格取得者 吉住房美（看護部長）：認定看護管理者  研修修了者 麻生百花（外来師長）：認定看護管理者セカンドレベル 御手洗菊実（5病棟主任）曾宮美香（手術室主任）：認定看護管理者ファーストレベル 津曲杏菜（2病棟副主任）：実習指導者講習会
目標の評価	急性期一般入院料1は取得できた。看護師の人員確保と、重症度、医療・看護必要度30%以上を維持できている。夜勤従事看護師が少ないことが今後の課題である。 労働生産性の向上と、看護師のモチベーションアップを目的にセル看護提供方式®の導入を行った。2019年度2つの病棟に導入することができた。その結果、医師への指示受けや、チーム内でのコミュニケーションはipadのメール機能を活用してスムーズに行えるようになった。また、申し送りを廃止し、看護師の導線を短くすることで患者さんに寄り添う時間の確保ができ、時間外勤務の削減にもつながった。

目標の評価	<p>昨年度、新人看護師の離職が多かったため、今年度は離職率0を目指して取り組んだ。毎月師長会で新人看護師の様子について確認し、早期の対応、看護部全体で大切に育成することを心がけた。新卒22名中1名退職してしまい、残念ながら離職率0は達成できなかったが、成果につながったと考えている。</p> <p>アルコールの遵守率アップを目標にあげていた。インフルエンザのアウトブレイクを防止することを目的にしていたが、1病棟でアウトブレイクが起こってしまった。また、3月末には新型コロナウイルス患者の発生があったが、院内感染を起こすことなく経過できた。新型コロナウイルス陽性患者の受け入れを行うにあたり、院内の整備とルール作り、職員への周知を徹底していく。</p>
今後の展望	<p>セル看護提供方式<sup>®</sup>を全病棟に導入し、労働生産性の向上と、モチベーションアップを図りたい。既に導入している病棟もまだまだ不十分であるため、看護の質の向上を最大の目的とし、患者さんの安全確保に努めたいと考える。また、ナースコールの更新と、スマートベッドの導入を行うため、更なる効率性のアップを目指す。看護部のみならず、多職種で、効率よく患者さんに最高のサービスが提供できるようにチームで取り組んでいきたいと考える。</p> <p>特定行為研修に関しては、第2期生4名の研修が始まる。2020年度は、在宅慢性領域、外科術後病棟管理領域、術中麻酔管理領域の3パッケージの研修を実施予定である。研修生の今後の活躍に期待したい。</p>

文責：吉住 房美

## 2) 医療福祉支援部

構成員数	<p>地域連携室：前方連携 4名（事務 3名、介護福祉士 1名）  入院支援 看護師 5名（内パート 3名）  退院支援・後方連携 8名（看護師 2名、社会福祉士 6名）  リンパ浮腫治療室：看護師 1名  広報室：事務 1名  デザイン室：事務 2名 計21名  (2019年4月現在)</p>
2019年度 理念、目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財務の視点：病院経営に貢献できるように支出の削減に努める。</li> <li>2. 顧客の視点：地域医療連携、マーケティング活動を強化し、院内の情報を地域に発信する。連携医療機関の意見を情報収集し、満足度評価を改善活動に繋げる。地域に健康啓発活動をおこない、知名度を上げる。職員の満足度向上、スタッフのワークライフバランスを整える。</li> <li>3. 業務プロセス：患者・家族が満足される入退院支援の介入を積極的に行う。労働生産性の向上、働き方改革。安全安心で信頼される医療の提供。チーム医療の推進。</li> <li>4. 成長の視点：優れた医療人の育成。組織文化の醸成。</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<p>入退院支援の人員を増やし、介入内容を拡大し徐々に充実させている。</p> <p>入院支援では、予定入院患者の介入に加え、当日の救急入院患者への介入を始めた。退院支援では、セラピスト、病棟の退院支援看護師が参加しての毎日の退院支援カンファレンスも定着し、入院翌日には初回評価、退院支援計画を立て、さらには中間評価を行うなどチームで介入できる体制を構築した。また、移行期ケアと名称を付け、退院1か月以内の患者に対し、スムーズに在宅療養に移行できるように退院後訪問指導を開始し、在宅支援事業者への引継ぎを行う体制を構築した。</p> <p>10月よりコールセンターと前方連携を統合し、地域・患者総合支援センターとして体制を変更し、院内、院外共に更なるサービス向上に努めている。</p>
実 績	<p>【前方連携】</p> <p>紹介件数：9,302（月平均 775） 紹介率：87.8%  逆紹介件数：7,718（月平均 643） 逆紹介率：98.8%  営業訪問件数：1,083（内 医師同行件数：70）  連携登録医：286施設（医科 200、歯科 86） 新規連携施設パンフレット作成：5件  地域医療連携協議会：1回 地域連携研修会等：11回  公民館・企業等への健康講座：16回</p>

実績	<p>【入院支援】  入院支援介入患者：2,201名 入院時支援加算：180件（前年度 95）  ＜院内アンケート調査＞期間：10/1～10/25 回答者 93名  初めてのWebアンケートのためか回答数は減少したが、医師の回答は多かった。  満足度評価：とても満足～満足 41% 普通 51%  業務負担軽減：はい 46% どちらともいえない 41%の結果であった。  ＜患者さんへのアンケート調査＞期間10/1～12/27 回答率 25%（回答数45/180）  入院支援の対応に対する満足度 93%（とても満足 53% 満足 40%）</p> <p>【退院支援・後方連携】  入退院支援加算1：973件（前年度 830） 地域連携診療計画加算：43件（前年度 27）  介護支援連携指導料：72件（前年度 48） 退院前訪問指導料：34件（前年度 34）  在宅患者訪問看護・指導料（移行期ケア）6件 ※2020年1月より開始</p> <p>【リンパ浮腫治療室】  自由診療：217件（前年度 226） 院内対診：613件（病棟 274、外来 339）</p> <p>【広報室】  広報誌Link3回/年発行 vol.14（春号）・vol.15（夏号）・vol.16（冬号）  法人内広報誌 敬和の環（隔月発行）vol.133（4月号）～vol.138（1・2月合併号）  市民公開講座 2回/年〔第9回世界ハートの日（9/23）・第8回ハートアタック救命教室（2/1）〕  病院探検ツアー 1回〔小学生対象：夏休みだ！病院探検ツアー（7/27）・中学生対象：ドクターXプロジェクト中学生春休み病院探検ツアー 3/28予定もCOVID-19の関係で中止となる〕</p> <p>【デザイン室】  制作物：408件（学会支援 68、配布物/掲示物 154、冊子/パンフレット 26、横断幕/垂れ幕 25、患者用サイネージ 27、その他 108）</p>
目標の評価	<p>【前方連携】  計画に沿った営業活動は行えたが、下期はCOVID-19の関係で紹介患者が減少。マーケティング活動も自粛していた。  電話での紹介受け、問い合わせ、予約変更等は、10月からの体制変更（地域・患者総合支援センター）で、院内・院外共にサービスの向上には繋がった。</p> <p>【入院支援】  介入患者を拡大し、入院に関する病棟の業務支援、患者サービスの向上に努めた。</p> <p>【退院支援・後方連携】  組織的な退院支援の体制を構築することができた。</p> <p>【リンパ浮腫治療室】  今年度は講師依頼が多く、広報活動はできたが、新規顧客は低迷。院内対診に対応し補助的な治療促進には大きく貢献できた。</p> <p>【広報室】  広報誌作成、イベント・公開講座等、計画にそった活動の実施。</p> <p>【デザイン室】  4月より1名増員。掲示物が前年に比べて増加。要因はプロジェクト支援（5月～9月）、院内掲示物の更新、インフルエンザ・COVID-19等感染対策ポスター等。</p>
今後の展望	<p>【地域・総合患者支援センター】PFM（Patient Flow Management）の核となり、患者、家族の意向を尊重した介入、支援。地域との連携の窓口となり、情報の集約、発信を行う。</p> <p>【リンパ浮腫治療室】サービス・質の向上と新規顧客の獲得</p> <p>【広報室】病院の情報発信の強化と広報ツール（各診療科パンフレット等）の再検討</p> <p>【デザイン室】質を上げ、クライアントからエンドユーザーまで満足度向上</p>

文責：岡田八重子



### 3) 薬剤部

構成員数	薬剤師 13名、調剤助手 2名
2019年度 理念、目標	<p>【理念】患者に寄り添い 思いやりの心とともに 今できる最良の薬物療法を提供する</p> <p>【目標】①患者一人ひとりに対して最適な薬物療法をマネージングします          ②医薬品の安定供給と適正管理に努めます          ③薬剤師業務の見える化を実践します          ④優れた技能と探究心を備えた思いやりのある薬剤師を育成します          ⑤労働生産性の向上に取り組みます</p>
業務（活動） 内容、特徴等	<p>【調剤業務】医師の処方に基づき、入院患者に投薬される薬の調剤</p> <p>【病棟業務】ICUを含む全病棟に専任薬剤師を配置し、医薬品適正使用の推進</p> <p>【医薬品管理業務】医薬品の適切な管理と安定供給、後発医薬品の導入</p> <p>【学術・研究活動】一人ひとりが課題を持ち、データを集約し公表する</p>
実 績	<p>2019年4月～2020年3月までの実績</p> <p>【病棟薬剤業務実施加算1】 14,084件</p> <p>【病棟薬剤業務実施加算2】 1,093件</p> <p>【薬剤管理指導料1】 5,444件</p> <p>【薬剤管理指導料2】 3,448件</p> <p>【麻薬管理指導加算】 220件</p> <p>【退院時薬剤情報管理指導料】 873件</p> <p>【薬剤総合評価調整加算】 1件</p> <p>【無菌製剤処理料1】 400件</p> <p>【無菌製剤処理料2】 728件</p> <p>【薬学部実習生受入】 1名（九州保健福祉大学）</p> <p>【学会発表】 国内学会 12演題</p>
目標の評価	<p>入院患者に対する薬剤管理指導実施率は82.1%（2019年度平均）であり、多くの入院患者の薬物療法に薬剤師が関与し、医薬品の適正使用に貢献できたと考える。学術・研究活動に関しても取り組み内容をまとめ、学会発表、論文投稿を行った。一人あたりの平均残業時間は75.0%（昨年度比）と減少し、有給休暇取得率も昨年の44.6%から63.1%（全体取得日数/全体付与日数）と増加した。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤師24時間体制（当直業務）の確立</li> <li>・ 病棟薬剤師2人体制の確立</li> <li>・ ポリファーマシー（多剤処方）に対する取り組みの体制整備</li> <li>・ 「薬剤師業務の見える化」に向けた業務・学術活動の活性化</li> <li>・ ワークライフバランスの充実（残業の削減、有給休暇の取得）</li> <li>・ 人材育成（作成した教育カリキュラムの実践と評価）</li> </ul>

文責：井上 真

#### 4) 臨床工学部

構成員数	臨床工学技士 17名
2019年度 理念、目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機器を安全かつ高い信頼性を持って患者さんへ提供する</li> <li>2. 医療機器の適切な使用方法を提供し、修理件数を減少させる</li> <li>3. 優れた医療人の育成</li> <li>4. 迅速な対応、断らない対応を行う</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<p>臨床の現場で生命維持管理装置を中心に、病院内にある様々な医療機器の操作・保守点検・管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・透析業務：透析ベッド数 30床、透析監視装置 32台</li> <li>・心臓カテーテル室：循環器カテ、虚血治療、不整脈治療、下肢治療、脳神経外科治療</li> <li>・手術室・中央材料室：一般手術機器準備、人工心肺操作、滅菌業務、手術介助</li> <li>・高気圧酸素治療室：1種（単身用）2機</li> <li>・植込み型デバイス業務：プログラマ操作、遠隔監視システム操作及び保守</li> <li>・医療機器の管理（中央管理、保守点検の実施） ・各種勉強会開催</li> <li>・24時間365日 緊急対応 ・Teams運用</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透析回数 外来 7,778回 入院 3,575回 総件数 11,353回</li> <li>・紹介透析患者数 275症例</li> <li>・紹介内容：循環器科（89） 心臓血管外科（49） 形成外科（75） 整形外科（8） 消化器外科（12） 消化器内科（5） 血管外科（21） 放射線科（2） 脳神経外科（10） 救急科（4）</li> <li>・新規透析導入：13名 ・持続緩徐式血液濾過：28症例</li> <li>・高気圧酸素治療：入院 470回 外来 27回</li> <li>・体外循環：定例 91症例 緊急 20症例</li> <li>・虚血検査件数：390件 虚血治療：497件 アブレーション治療：220件</li> <li>・脳血管検査治療：37件 ・PCPS：1症例 ・低体温療法：2症例</li> </ul>
目標の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療機器保守点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器の保守点検の実施 ・年間計画にそった定期点検の実施</li> </ul> </li> <li>2) 医療機器の研修会開催：新人・中途職員、病棟スタッフ、ワークエイド対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ガス取り扱い研修、輸液ポンプ・シリンジポンプ研修、人工呼吸器・酸素療法勉強会、透析療法・装置について</li> <li>医療機器修理対応 臨床工学部で修理対応 230件</li> </ul> </li> <li>3) スタッフ育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会参加 28回 ・学会発表 13回 ・学会座長 3回</li> <li>・部内発表会開催 14演題</li> <li>実習生受け入れ2校</li> <li>・大分文理大学医療専門学校 ・平松学園臨床工学技士専門学校</li> </ul> </li> <li>4) 緊急対応 24時間365日 <ul style="list-style-type: none"> <li>Teams運用にて情報共有・カンファレンス時間の短縮</li> </ul> </li> </ol>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環・呼吸・代謝それぞれの分野の専門性を高め、当院独自の高度医療に貢献できるスペシャリストを目指し、日々知識と技術の習得に励む</li> <li>・積極的にTeams運用を行って情報共有と業務の効率化を図る</li> <li>・ワークライフバランスの充実</li> <li>・人材育成</li> </ul>

文責：御手洗法江

## 5) 検査課

構成員数	20名（パート 2名・嘱託 2名・育児時短勤務 1名 含）
2019年度 理念、目標	<p>&lt;検査課理念&gt;</p> <p>患者さんを中心に、チーム医療に関わる、全ての英知を結集し、最良の医療サービスを提供します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療の一員として専門分野の責任を全うし常に医療の質の向上に努めます。</li> <li>2. 患者さん個人の権利を尊重し、地域社会の中で思いやりと信頼ある医療の提供を目指します。</li> </ol> <p>&lt;検査課目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者さんが安心して最善の医療が受けられる環境を作ります。</li> <li>2. チーム医療を意識し、円滑な検査業務・病院業務が行えるよう努力します。</li> <li>3. 研鑽を常に意識し、自己経営できる検査技師を目指します。</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間内業務…①外来採血・咽頭検体採取 ②検体検査（輸血含） ③病理・細胞診検査 ④細菌検査 ⑤生理・超音波（心臓・血管）検査 ⑥心電図モニタリング：負荷心筋シンチ（放射線科）・心臓カテーテル（放射線科）・心肺運動負荷試験（リハビリテーション科） ⑦患者指導…糖尿病教室・心臓病予防教室 等</li> <li>2. 時間外日当直業務…①外来採血・咽頭鼻腔検体採取 ②検体検査（輸血含） ③生理検査（心電図・ABI・肺機能検査・ホルター心電図装着・アプノモニター装着等） ④病理・細胞診検査の検体処理 ⑤細菌検査（検体処理、血液培養のグラム染色）</li> <li>3. 時間外待機業務…主に心臓カテーテル検査  *現在、時間外の業務に日当直者1名、待機者1名を配置。  二次救急病院の検査室として、24時間体制で依頼に対応している。</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 依頼数：検体検査 50,500件・病理細胞診検査 1,980件・細菌検査 10,800件・輸血 3,972本（RBC 2,134本・自己血 37本・FFP 690本・PLT 226本・アルブミン 885本）・生理検査 21,000件（オープン検査 110件含）</li> <li>2. 実習生受入：3年生 4名</li> <li>3. 資格取得：日本不整脈心電学会心電図検定1級 1名</li> <li>4. 学会発表：2題</li> </ol> <p>*RPR院内検査開始（2019.6～）、レジオネラ迅速検査キット変更（2019.6～）  ホルター心電図結果レポートの電子化・ペーパーレス化（2019.8～）  血液ガス検査機器更新（2020.1～）、眼圧検査中止（2020.3～）</p>
目標の評価	<p>今年度の依頼数は昨年度に比べ、検体検査は増減無し、病理細胞診と細菌検査はやや増加、生理検査はやや減少となった。1～3月に外来・入院ともに患者減少という状況下で大きく減ることも無く、中には増加していたものもありほっとした。しかし、昨年辺りから、資格取得者が少ないことが気がかりである。各試験のレベルが上がっていることも一因だが検査課全体での取り組みが必要と考える。</p>
今後の展望	<p>コロナ禍収束はまだまだ先である。発表を考えていた学術集会も中止や延期となり、目標を見失った感があるが、形式をwebへ変更し開催する学会も出始めている。新しい目標を持って新たな気持ちで進んで行きたい。「唯一生き残るのは、変化できる者である。」</p>

文責：伊東 佳子

## 6) 放射線課

構成員数	診療放射線技師：16名 事務員：3名
2019年度 理念、目標	①患者さんやスタッフに思いやりの気持ちをもって接する。 ②地域医療支援病院としての役割を果たす。 ③コスト意識の向上や病院経営に貢献する。 ④目的意識をもち、スキルアップに努める。 ⑤敬和会グループとしての役割を果たす。
業務（活動） 内容、特徴等	一般撮影・CT・透視・超音波・MRI・RI・放射線治療（サイバーナイフ）・血管ANGIOで業務マニュアルを順守し、撮影、診断、治療補助を実施。各種装置の保守管理や、放射線従事者の被ばく管理、放射線管理区域の環境管理を行う。敬和会グループすばるの在宅撮影や放射線管理区域の環境測定を行い、佐伯保養院の撮影業務を行う。地域医療支援病院としての役割を果たすため営業活動を行う。
実 績	年間検査件数 一般撮影：21,881件 CT：9,733件 MRI：2,167件 超音波：1,497件 RI：150件 透視：439件 放射線治療：216件 現在、診療ネットワーク契約施設数 15施設 すばる撮影件数：50件 佐伯保養院撮影件数：200件
目標の評価	個々のスキルアップに努めるために、一部ローテーションを行いスタッフの使用できる機器を増やした。技術向上のため、先輩技師が積極的に指導に当たるようにした。 在宅支援すばる月2回、佐伯保養院月1回撮影を行った。脳血管造影を行い診断・治療の支援を行った。OP室のCアームを数名習得しローテーションを行った。RIやOP室Cアームの入替えを行った。 放射線治療：前年度比15%件数増の目標に対し、31%増を達成。
今後の展望	今後、個々に重点を置き技術や質の向上に努めたい。 地域医療支援病院としての役割を果たし、多くの連携機関に情報を提供していきたい。 電子カルテから両施設の画像の閲覧を可能にする。改正医療法に対応するため、勉強会や資料作成などを行う。サイバーナイフ関連では、前立腺の治療に向け、照射・検証方法や留置（金マーカーやスペースOAR）手順の確立を目指す。その後、泌尿器科クリニック等に営業活動を行いたい。今後のさらなる件数増加は、放射線治療専用CTがないことと、スタッフ不足が課題か。

文責：小川 淳

## 7) 総合リハビリテーション課

構成員数	理学療法士 31名 作業療法士 9名 言語聴覚士 6名 クラーク事務 1名
2019年度 理念、目標	理念：地域包括ケアに寄与できる、信頼あるリハビリテーション医療を提供します。 目標： 1) 早期介入により、在院日数短縮・自宅復帰を支援していきます。 2) 診療科体制に沿って高い専門性を追求し、実践・研究・教育について研鑽していきます。 3) 法人内でヘルスケアリンクに沿って、切れ目のないリハビリテーションを提供していきます。
業務（活動） 内容、特徴等	疾患別リハビリテーション体制の強化にむけて、ICU及び透析室に専任セラピストを配置し、ICU在室期間の短縮及び透析患者の生活能力の維持に寄与できている。さらに退院後の生活を見据え入退院支援業務に参画し、入院初期より生活及び家屋評価の実施、朝のADL介入を全病棟で体系化している。また臨床業務の質的向上を目的に“専門性向上委員会”を発足し、疾患構成に応じたりハ介入の有効性を検証すると共に臨床研究への発展に取り組んでいる。
実 績	<p>《稼働率》平均取得単位数/年 18.6単位/セラピスト/日</p> <p>《処方率》リハビリ処方率 65%</p> <p>《疾患別年間単位取得数》</p> <p>脳血管疾患（Ⅰ）13,614単位、廃用症候群（Ⅰ）33,538単位、 運動器疾患（Ⅰ）46,762単位、心大血管疾患（Ⅰ）48,964単位、 呼吸器疾患（Ⅰ）11,251単位、摂食機能療法 4,024件 がんリハビリテーション 11,703単位</p> <p>《総取得単位》 2019年度 165,832単位/年 (リハ課システムデータより)</p>
目標の評価	<p>2019年度は稼働目標を昨年度より1単位の上乗せ19単位（6時間20分）のリハ介入を目標とした。その結果、平均取得単位18.6単位と過去最高の実績となった。これらは早出勤務の実施や退院後生活を念頭に行う退院前訪問など、セラピストが患者中心の業務改善に真摯に取り組んできた結果であると考ええる。</p> <p>各病棟に配置した入退院支援セラピストは入院初期のADL評価を行い毎朝の三者カンファレンス（退院支援Nsと社会福祉士とセラピスト）が実施できている。</p> <p>また、専門性の追求として学術活動の推進を行い、2019年度は53演題（昨年度46演題）の発表と6作品の論文・執筆活動を実現した。</p>
今後の展望	<p>これまで365日リハビリ、疾患別体制、病棟ADL、入退院支援、専門性向上など各テーマを実務的に取り組んできた。これらはリハ稼働と効率性を上げると共に、実績や効果が顕在化できるものとなっている。今後は「安心」や「安全」をテーマにリハビリテーションサービスの質向上を目指す。ノーリフティングケアの実践により安全な移乗や移動、生活動作の支援を行い、ガバナンスの再構築によりリスク管理の徹底を行う。高齢者、重症者、認知症、一人暮らし、疾病及び社会構造の複雑化・ニーズの多様化に丁寧かつ適切な対応ができるよう研鑽していく所存である。</p>

文責：大塚未来子

## 8) 栄養課

<p>構成員数</p>	<p>病院栄養士：7名 AIMサービス：24名 (管理栄養士：4名 栄養士：2名 調理師：3名 調理員：15名)</p>
<p>2019年度 理念、目標</p>	<p>《理念》 患者さんを中心に、チーム医療に関わる、全ての英知を結集し、最良の医療サービスを提供します。 1. チーム医療の一員として、専門分野の責任を全うし、常に医療の質の向上に努めます。 2. 患者さん個人の権利を尊重し、地域社会の中で、思いやりと信頼ある医療の提供を目指します。 《2019年度目標》 1. チーム医療の中で専門性を発揮しアウトカムを出す。 2. 治療に直結するよう安心・安全で美味しい食事を提供する。 3. 互いに協力しサポートし合える職場作り。</p>
<p>業務（活動） 内容、特徴等</p>	<p>1. 病棟に管理栄養士を常駐させ、入院早期から患者の栄養管理が行える体制をとり、各診療科や、チーム活動に積極的に参加している。{NST・心リハ・褥瘡・創傷・周術期チーム（今年度立ち上げ）等} 2. 栄養食事指導（個人・集団、入院・外来）の実施。患者毎の病態や経過を確認し、退院後の食生活改善に繋がるよう、患者背景を確認し、できるだけ調理担当者にも同席してもらい実施している。生活習慣病や術後だけでなく、高齢化社会の現状を踏まえ、低栄養・咀嚼力低下等がみられる患者においても患者・家族が不安にならないよう相談・指導を行い、場合によりONSサンプル配布や購入ルートも示しており、好評を得ている。 3. 地域活動の一環として在宅訪問栄養指導の実施や、認定栄養ケア・ステーションの立ち上げ準備等を行った。</p>
<p>実 績</p>	<p>【食数】 患者食経口：160,542食 患者食経管：11,598食 特別食加算率：58% 職員食：32,505食 病児・保育所食：7,682食 【個別栄養食事指導件数】 入院時栄養食事指導（初回） 1,652件 (2回目以降) 610件 外来栄養食事指導（初回） 183件 (2回目以降) 37件 在宅訪問栄養指導（居宅） 17件 【集団栄養食事指導件数】※算定分のみ 心臓病予防教室 23件 糖尿病予防教室 12件 家事訓練（減塩） 9件 【栄養サマリー作成・添付件数】570件（NST介入患者以外） 【講師・講演・学会発表】※別紙に記載 【嗜好調査】 3回/年（患者は聞き取り） 【患者行事食及び職員ヘルシーナビ】 患者行事食：15回（月1回以上） 職員ヘルシーナビ：6回/年 【立ち入り調査】 厚生局、保健所</p>



目標の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各診療科でのチーム活動や、所属する学会に関連した研究や症例について計画的に発表することができた。</li> <li>2. 食事提供にあたり、主治医の指示の範囲内で必要に応じて病態・摂取状況・嗜好等に合わせ調整を行っており、患者さんからの栄養士の対応や食事に対する嬉しい言葉は数多く頂いており一定の評価を得ることができている。これには厨房を委託しているAIMの協力が必須であり、日々連携を取りながら継続していきたい。</li> <li>3. 地域活性に向けての取り組みとして在宅訪問指導を展開しており、同法人内のすばるや、他事業所からの依頼も受け実施に繋げた。</li> </ol> <p>その他、栄養指導については外来指導依頼の増加（周術期含む）もあり、2018年度と比較し、入院栄養指導件数はやや減少したにも関わらず、収益は増収した。</p>
今後の展望	<p>2020年の診療報酬改定より、栄養士が関わり、実施することで質向上・収益増収に繋げられる項目が新設されている。急性期病院であるということを意識しその役割を担っていけるよう早期栄養介入管理加算には取り組んでいきたい。また、転院や施設への退院に向けて患者の栄養管理面での情報提供として栄養サマリー作成を行っていたが、今度の改定でも評価されたことから、さらに内容を充実させ退院先と連携をとっていく。社会環境が大きく変化しているが、その時々に応じた最善の対応と仕組みを構築できるよう皆で協力していく。</p>

文責：長尾 智己

## 9) 総務・人事部

構成員数	部長1名、課長1名、課長補佐1名、係長1名、主任1名、臨床研修担当1名、総務・人事担当2名
2019年度 理念、目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>より良い医療を提供するための適切な人材の確保・定着</li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョン <ul style="list-style-type: none"> <li>多様性を受容し、様々な個性を持った人材を雇用し育成する</li> <li>ワークライフバランス実現のための職場環境改善</li> <li>子育て支援の充実、働きやすい職場環境作り</li> <li>職場環境改善（ラウンド同行）</li> <li>外国人患者受入体制サポート</li> <li>パラレルキャリアの推進</li> </ul> </li> <li>業務改善</li> <li>コスト削減</li> <li>敬和会アカデミーの運営サポート</li> <li>人事制度再構築</li> <li>健康経営への参画</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>人材確保を行うため、学校訪問、広報誌送付、院内病院説明会実施、院外病院説明会参加などリクルート活動を継続して行う</li> <li>敬和会ダイバーシティ推進本部のワーキンググループメンバーとして年間計画を策定し活動する 外国人雇用・障がいのある人の雇用 年次有給休暇の取得促進 子育て支援制度周知、研修案内のメール案内 ラウンド時に各部署から挙げられた改善要望事項に迅速に対応する ラグビーワールドカップ開催に伴い、外国人患者受入体制整備のサポート</li> <li>社会保険・雇用保険・住民税などの届出関係書類を電子申請化する</li> <li>人事管理システムを活用し、人事関係書類で紙ベースでの届出を電子申請化する</li> <li>敬和会アカデミーの事務局のサポートを行う、アカデミーミーティング開催サポート、メンター制度の運営サポートなどを行う ・教育研修委員会の事務局として、資格取得支援規程の見直しを行う また同委員会とコラボし研修を企画し開催する ・部内ミーティングで勉強会の実施</li> <li>人事制度を見直し、再構築を行う</li> <li>一次健診受診率100%維持、二次健診受診勧奨 メンタルヘルス対策 職員保健推進室の事務局として活動する</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>必要人材のリクルートのための院外就職説明会参加及び院内就職説明会開催</li> <li>ダイバーシティグループで年間計画を作成し活動実施 各部署に協力を依頼し就労可能な業務を集約、求職者とマッチングを行い障がい者雇用へつなげた、法定人数雇用をクリアし雇用調整金納付額が無くなった 外国人患者受入サポートチームのメンバーとして、「みえる通訳」アプリの導入、院内標記の多言語化、フロアサインの導入など、受入体制を整備した</li> <li>各種届出を電子化することで、移動時間の短縮、作業時間の短縮につながった</li> <li>人事管理システムを活用し電子申請化することでペーパーレス化につながった</li> <li>敬和会アカデミー事務局としてメンター制度運用事務局、21名メンター制度を活用、入職オリエンテーションのe-ラーニング化、その他 全日本病院学会発表2名</li> <li>同一労働同一賃金の法改正に対応するために、運用細則の作成</li> <li>職員保健推進室の事務局としてのサポート、毎月1回ミーティングの開催</li> </ol>



目標の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研修医5名マッチング、新卒看護師17名、薬剤師1名など、必要人材の確保ができた</li> <li>2. 外国患者受入体制の整備ができた 障がいのある人の雇用のサポート、相談窓口 年次有給休暇取得率70%以上維持（75%） パラレルキャリアの推進（実施9名）</li> <li>3. 電子申請化することで業務の効率化が図れた</li> <li>4. 人事管理システムの活用によりペーパーレス化及び書類の保管場所も不要</li> <li>5. 毎月の入職オリエンテーションをeラーニング化することで3時間/月の短縮につながった</li> <li>6. 人事制度再構築は今後も継続して行う</li> <li>7. 職員保健推進室の活動は数値目標を設けて活動を行った</li> </ol>
今後の展望	<p>必要人材の確保・定着・育成・活躍 個々の多様性を活かすダイバーシティ&amp;インクルージョンの取り組みの継続 労働生産性の向上（超過勤務時間の削減） 年次有給休暇取得の促進 敬和会アカデミーの事務局として教育体制を整備する 職員保健推進室をサポートし職員の健康保持増進を図る 人事制度再構築の継続 withコロナを見据えたAI・IT化を進める</p>

文責：武石 智子

## 10) 経理部

構成員数	スタッフ3名
2019年度 理念、目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①予算の適正化と管理</li> <li>②コスト削減の提案と職員1人1人への意識付け</li> <li>③月次処理のスピード化</li> <li>④医療法改正への対応</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	大分岡病院の財務管理等
実 績	<p>実績の見える化 見える化によりコスト削減、問題意識の共有 医療法改正による新会計対応及びガバナンス強化</p>
目標の評価	<p>予算の適正な執行と管理については精度があがり、コストの削減や職員1人1人への意識付けは、運営会議や関係者へ数字を共有することにより、職員の方へ周知、意識付けができたと思う。 月次処理は、新規事業等突発的なことの対応、医事ベースとの同時数値報告が可能となった。 医療法改正に伴う新会計対応は、監査法人の監査が2年目となり2019年度決算において監査証明書をもらうことができた。</p>
今後の展望	<p>安定した経営基盤を築いていくとともに、地域社会へ貢献していくのが大目標だが、深く財務分析及び予算・資金管理等を行い、経営者へ問題点を指摘できる体制を整えたい。 尚、2018年度より始まった医療法改正による会計監査義務付けへの対応を今後の重点課題としたい。</p>

文責：安部 徹也

## 11) 医療事務部

構成員数	部長1名、次長1名 医事請求課（入院事務、外来事務、マキシロ）：18名 医事管理課（施設基準、医事管理業務）：1名 コールセンター：4名※10月から医療福祉支援部へ
2019年度 理念、目標	1) 時間、期日を守り、迅速な対応を行う 2) 業務改善に取組み労働生産性を向上させ、残業削減に努める 3) 常に経費削減を考える 4) 確認を重視し、アクシデントをおこさない体制をつくる
業務（活動） 内容、特徴等	・ 外来患者、入院患者の受付および会計、診療報酬請求業務 ・ 歯科診療部門の診療報酬請求業務 ・ 病院全体の管理指標の作成および統計業務 ・ コールセンター業務（主に診療予約と調整業務） ・ 診療報酬上の施設基準管理業務、個別指導・適時調査対応、レセプト審査管理 ・ 債権管理
実 績	2019年9月 全日本病院学会「EXCELによるDPC分析について」
目標の評価	部内の大きな課題であった時間外削減については協議を重ね、業務内容の分析とプロセスの改善、タスクシフト・シェアを行い2019年3月末での平均時間外38時間は2020年3月末で20時間まで圧縮することができた。またワークライフバランス向上の取組として有給休暇連続取得も実施することができている。 医事請求業務については迅速な対応を心掛けており外来会計待ち時間は平均4分であった。医事業務の基本である診療報酬の適正請求については加算等による増収対策、査定返戻については情報共有と対策を行い平均査定率は0.29%※で推移している。（※0.3%以内は概ね妥当）また今年度は4名がコミュニケーション研修へ参加し接遇面での対応力向上の取組を行っている。 管理業務については施設基準の定期的な管理体制を構築することができた。10月に行われた九州厚生局による適時調査においては返還を伴う指摘事項はなかった。その他、債権管理や査定返戻についても同様に定期的な管理と情報共有ができています。
今後の展望	・ 業務の効率化、時間外削減、労働生産性の向上（IT化の推進） ・ 医療情報分析の精度向上と迅速なデータ抽出体制の構築 ・ 施設基準のランクアップなど企画提案 ・ 後進の育成（重点項目）

文責：高宮 秀朝

## 12) 購買物流課

構成員数	2名 課長1名、課長補佐1名
2019年度 理念、目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療材料比率の低下（目標対前年1.5%）</li> <li>・破損物品の削減</li> <li>・連携施設向けの医療材料のインターネットによる購入システムの構築</li> <li>・安全安心で信頼される医療の提供が行えるための医療機器、医療材料の提供</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPD業者と協力し、メーカー交渉及び物品変更によるコスト削減活動を行った。</li> <li>・2019年7月より循環器内科の材料卸業者を一部変更し、材料費削減活動を行った。</li> <li>・連携医療施設向けの材料購入サイトを充実させ、実績を構築する。</li> <li>・破損報告書の「今後の対策」が順守できているか、ラウンドを実施する。</li> <li>・連携施設向け商品を増やし、案内を発信する。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度は材料委員会の中で、11品目材料変更 年間削減金額 1,656,109円</li> <li>・循環器内科の卸業者をカテゴリー毎に変更 医療材料比率 対前年比 0.28%削減</li> <li>・連携施設向け購入可能材料を90品目に増やし、消費税増税前に連携通信にて案内を送信。</li> <li>・備品破損については、関係部署と一緒にラウンドを行い、所属長に注意喚起を行った。</li> <li>・神経麻酔領域の材料が誤接続防止の観点より、国際規格に準拠した物品に変更になった事により、当院の対象商品は全て変更済。</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療材料については、0.28%の削減には繋がったが、引き続き取り組まなければならない課題である。</li> <li>・連携施設向け通販サイトは、実績がないため、引き続き啓蒙活動が必要である。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療材料については、引き続きの課題である。診療科医師の協力を得て、削減に取り組んでいきたい。</li> <li>・年度末から新型コロナウイルスの影響により、衛生材料の不足が心配された。 今後、備蓄材料について十分確保するための対策が必要である。</li> <li>・連携施設の通販サイトは、新型コロナウイルスの影響でクリニックの材料不足の改善に協力できるよう、運営会社と協力し、改善を行う。</li> <li>・備品破損について、関係部署とのラウンドを継続し、破損防止に努める。</li> </ul>

文責：難波 典子

### 13) 医療情報課

構成員数	診療情報管理士：3名 医師事務作業補助者：17名 システムエンジニア：4名
2019年度 理念、目標	目標：残業時間の削減、学会や研修会への参加、書類作成・学会登録の迅速化・正確性の向上、統計・QI情報の活用・提供、電子カルテやコンピューターの安定利用の継続、業務マニュアルの更新・整頓、省エネ・無駄の削除
業務（活動） 内容、特徴等	診療情報管理士は患者情報や主要な診断名や処置・手術情報等をデータベース化し、各種検索に対応している。医師事務作業補助者は医師の事務作業の補助を行っている。システムエンジニアは電子カルテ等のシステム管理やコンピューター等の管理を行っている。
実 績	学会発表は6件行った。医師事務作業補助体制加算2 15：1を維持している。 退院サマリー2週間記載率90%以上を継続し、診療録管理体制加算1を維持している。 医師の要望により新たに外来診療科へ医師事務作業補助者の配置を増やした。学会や研究発表等の登録業務も増えているため「ICR-Web修了証」を取得している。 日本病院会のQIと日本看護協会DiNQLのデータ提出を継続している。 法人内の各種システムの設定や調整、老朽化した端末のリプレースを継続して行っている。敬和会統合電子カルテとして大分豊寿苑・在宅支援クリニックすばるに電子カルテを導入した。統合されたデータを基にDWHの構築を行い、帳票類の作成自動化を行うための準備を継続している。
目標の評価	残業時間の削減は目標通り達成できている。書類作成・学会登録の迅速化・正確性の向上は達成できている。診療情報管理士による統計・QI情報の活用・提供は日本病院会QI・日本看護協会DiNQLへの参加や、情報提供の依頼に対して提供ができている。電子カルテやコンピューターの安定利用は同時利用する施設が増えたが継続できている。電子カルテ人事管理システム、Office365の安定稼働は想定したダウンタイム内に収まっている。部署の運用や取り組み、システムの統合に関する学会発表を行った。その他、省エネ・無駄の削除に取り組んだ。
今後の展望	診療情報管理士は診療録管理体制加算1を維持したい。 医師事務作業補助者は医師事務作業補助体制加算1の取得を行いたい。また、支援する業務範囲を広げ、整形外科レジストリーJOANR、日本消化器内視鏡外科学会JED-Projectを開始したい。 システムエンジニアは、敬和会全体の対応を継続し、Office365の全職員への配布対応やタブレット・スマートフォンの関係者への配布対応を行いたい。 部門全体としては、ワークライフバランスへの対応をこれまで通り継続していきたい。

文責：岩本 洋子

## 14) 施設管理課

構成員数	課長 1名 係長 1名 スタッフ 2名
2019年度 理念、目標	理念：職員・患者さんに安心安全な施設設備を提供する 目標：光熱費削減 前年度対比 1%削減 ・有給休暇取得平均 80% ・専門資格チャレンジ ・医療ガス設備メンテナンス技術向上
業務（活動） 内容、特徴等	・院内設備修繕・設備機器メンテナンス・改修工事案打診 ・省エネ業務・関連施設設備修理・患者搬送・シャトルカー業務 ・施設メンテナンス計画作成・工事及びメンテナンス価格見直し ・医療ガス設備点検・院内営繕・病院図面作成・各行事準備 (七夕・クリスマス・火災訓練 2回/年・停電点検等)
実 績	病院設備修繕による年間削減額 ¥3,929,805 ・備品修理件数 1,394件 ・患者搬送件数 396件  年間削減提案 ・電力会社契約電氣量変更（九州電力） 契約電力 820kWから756kWへ変更 64kW削減（11月契約更新） 削減額 531,200円（12月～3月の削減額）  ・受水槽・高架水槽メンテナンス契約見直し 削減額 1,000,000円
目標の評価	光熱費削減 前年度対比1%以上削減 ・電氣使用量 115,831kW/年 削減 電氣料金 109,923円/年 削減 ・水道使用量 5,030m <sup>3</sup> /年 増 水道料金 1,597,598円/年 増 ・LPG使用量 583.1m <sup>3</sup> /年 削減 LPG料金 334,124円/年 削減 ・重油使用量 18kℓ/年 削減 重油料金 1,650,920円/年 削減 前年度対比 4.65% 減（497,369円 削減） 水道使用量が極端に増加し7月以降調査していたが原因は地下の蒸気配管を冷やす井戸配管の装置不良だった。 水が表に出ず装置内での不良であったため、発見するのに時間が掛かった。  有給休暇の取得向上 有給使用平均 93.9%取得 残業時間削減 延べ91時間、前年度より36時間削減した。 大きな要因としては空調機更新により不良が少なくなった為。  専門資格取得の推奨 電氣工事士 1名 資格取得  医療ガス点検 業者と院内ラウンドを行い点検場所・要点・異常時対応について意見交換を行った。
今後の展望	今年度医療ガス設備日常点検が義務化されたことにより業者任せのメンテナンスを見直しする事ができた。 医療ガス設備メンテナンス技術向上を目指し講習会等を積極的に利用したい。 今後メンテナンス業務が増大する予定があり、内容は多岐に及んでいる。 専門資格取得を推奨し各個人の技術・知識の向上を図り、より深く専門分野に特化した担当分野の確立を目指す。

文責：木村 幸輔

## 15) 創薬センター

構成員数	治験コーディネーター（CRC）4名、治験文書管理 1名。
2019年度 理念、目標	安全で正確な治験の実施。 各治験のプロトコル遵守。 5プロトコルの治験の新規受託。 敬和会内の大分岡病院以外での治験体制を整備することにより、より広範囲の治験を受託できるようにする。
業務（活動） 内容、特徴等	SMO（治験施設支援機関）と良好な信頼関係構築し、多くの新規治験を紹介して貰う。 新規治験のアンケートに正確な回答を行う。 被験者に治験プロトコルの内容を十分に説明し、且つ理解を得て、被験者の知識不足による不用意なプロトコル逸脱を防止する。
実 績	新規治験3プロトコル受託、既存試験の症例追加。 医薬品、医療機器だけでなく、再生医療の治験を開始した。 受託の窓口を広げるため、新規にSMOと契約。 佐伯保養院での新規治験を開始した。
目標の評価	新規受託治験は目標の3プロトコルにとどまった。 SMOを介さず、製薬メーカーから直接依頼があり、実績が評価されていると思う。 医薬品、医療機器、再生医療の受託に対する体制を整備することができた。 佐伯保養院で新たに治験を開始し、大分岡病院だけでなく、大分リハビリテーション病院、佐伯保養院と法人内での治験拡大ができた。
今後の展望	循環器疾患、形成外科疾患、整形外科疾患、精神科疾患、リハビリテーションなどの広範囲に、より安全で正確な治験を継続して、年間5プロトコル以上の新規治験の受託ができるように努力する。

文責：仲野 悦子



## 16) 職員保健推進室

構成員数	11名 人事・総務部 3名、看護部 1名、感染対策室 1名、公認心理師 2名、管理栄養士 1名、施設管理 1名、理学療法士 1名、産業保健師 1名
2019年度 理念、目標	【理念】 職員の健康・保持増進をサポートします。 企業の健康増進とともに質の高い地域医療の提供と健康で活気にみちた地域づくりに貢献します。 【目標】 各部署と円滑なコミュニケーション・連携を行い、風通しの良い職場づくりを目指します。
業務（活動） 内容、特徴等	職員の健康増進に関連する活動全般と指標の管理を行う。 毎月1回会議を開催し、活動に関する意見交換と方針を検討する。 ①職場環境改善活動（院内ラウンド・熱中症対策） ②職員健康診断の管理（一次健診、二次検診の推奨） ③メンタルヘルスケア・ストレスチェック（相談窓口活動、ストレスチェック実施） ④ハラスメント対策（ハラスメント研修会の開催・管理監督者向け） ⑤職員感染対策（針刺し・皮膚粘膜曝露対策、B型肝炎ワクチンプログラムの実施、麻疹風疹対策、職員手荒れ対策） ⑥腰痛対策（腰痛エクササイズの指導） ⑦過重労働、長時間労働対策 ⑧禁煙活動（世界禁煙デーポスター掲示、日勤時間帯の喫煙自粛の依頼） ⑨疾病治療・就労の両立支援（両立支援コーディネーターの育成とチームの立ち上げ） ⑩健康づくり・普及啓発活動（ニュースレター送信、健康川柳の開催、医療従事者の健康課題解決を考える集いの開催）
実 績	①院内ラウンドの月1回の継続実施 職員熱中症発生数 0名 ②夏季職員健診 受診率 100% 冬季職員健診 受診率 100% 二次検診受診率（人数）38%（2018年度健診受診者分） 二次検診受診報告書 提出数 24名（2017年度） → 39名（2018年度） ③メンタルヘルス相談窓口対応者数 28名（2018年度） → 32名（2019年度） ストレスチェック受検率 91.6%（2018年度） → 87.6%（2019年度） ④ハラスメント研修 開催 1回 ⑤針刺し・切創事故 10件（2018年度） → 21件（2019年度） 皮膚粘膜曝露汚染事故 8件（2018年度） → 21件（2019年度） B型肝炎ワクチンプログラム 接種者数 49名 インフルエンザワクチン接種者数 560名（接種率 99.6%） 職員手荒れ相談者数 9名 うちアルコールパッチテスト実施者数 6名 腰痛エクササイズ 実施者 4名 ⑥過重労働長時間労働者 産業医面談実施者数 0人 ⑦職員喫煙率 15.3%（H30） → 14.5%（R1） ⑧治療と病気の両立支援コーディネーター 研修終了 4名 ⑨大分県健康経営事業所の認定 健康川柳応募数 42名・82句（H30） → 21名・42句（R1） ニュースレター発行回数 4回 医療従事者の健康課題解決を考える集い 開催 1回
目標の評価	3年目の活動に入りデータ集約はまとまってきた。 針刺し・皮膚粘膜曝露汚染事故件数は前年に比べ2倍増加した。 ストレスチェック受検率は前年度より低下したが80%は維持できた。
今後の展望	針刺し・皮膚粘膜曝露汚染事故対応の検討と職員健診の体制整備を行っていくことが急務である。 3年目の活動に入り、各活動の具体的な数値目標を明確にし、活動を進め評価ができるようにする。 今後も各担当者と報告・連絡・相談をこまめに行い、協力体制の維持に努めていきたい。

文責：高橋 あゆ



## 1) 倫理委員会

構成員数	内部委員 8名、外部委員 4名、事務スタッフ 3名
2019年度 目標、方針	大分岡病院において、健常人または患者を対象として医薬品および医療機器等の有効性、安全性、薬理作用を調査・研究することを目的とする臨床研究および未承認薬の臨床使用、その他人を対象とする介入について、ヘルシンキ宣言の趣旨、各種指針、法令等に沿い総合的に審議することを目的とする。
業務（活動） 内容、特徴等	当該委員会は下記の事項を審議する。 1. 臨床研究の目的、方法等の妥当性に関すること 2. 被験者の適切な同意と倫理的配慮に関すること 3. 臨床研究の科学的妥当性に関すること 4. 臨床研究の適切な実施に関し必要と認める事項 5. 未承認薬等の臨床使用に関すること 6. 臨床研究の実施状況に関すること 7. その他臨床研究に関し必要と認める事項 8. その他人を対象とする新たな介入に関し必要と認める事項
実 績	2019年度7回（うち迅速審査5回）の倫理審査委員会を開催し、22を承認した。承認の内訳は、新規18、診療に関するもの1、公表原稿3だった。
目標の評価	当委員会で審査した臨床研究はヘルシンキ宣言の趣旨、各種指針、関係法令等は適正に遵守されている。
今後の展望	当院の臨床研究が、厚生労働省の定める「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」を逸脱しないように研究開始時だけでなく、研究途中、終了時にも審査出来る体制を継続する。

文責：仲野 悦子

## 2) 治験審査委員会（IRB委員会）

構成員数	内部委員 8名、外部委員 4名、事務局 6名
2019年度 目標、方針	臨床試験に於いて、被験者の人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図り、治験の科学的な質及び成績の信頼性を確保することを目的とする。
業務（活動） 内容、特徴等	治験に関する計画、実施、モニタリング、監査、記録、解析及び報告等に関する遵守状況の審査を行う。
実 績	2019年度 7回開催 新規審査治験数 3プロトコール
目標の評価	審査した治験は医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令を遵守されていた。
今後の展望	臨床試験に於いて、被験者の人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図り、治験の科学的な質及び成績の信頼性を確保することを継続する。

文責：仲野 悦子

### 3) 臨床研修運営委員会

構成員数	院長、臨床研修センター長、診療部指導医、事務長、メディカルスタッフ
2019年度 目標、方針	臨床研修医の円滑な質の高い研修をめざす。
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研修運営委員会（1回/1ヶ月）</li> <li>・臨床研修管理委員会（1回/年）</li> </ul> <p>月に一度指導医が集まり、各研修について報告を行い情報共有をする。 円滑で質の高い研修と、より良いプログラムの提供をする為に、様々な面から検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医講習会受講の推進</li> </ul> <p>臨床研修医リクルート活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019/7/7（日）大分県臨床研修病院合同説明会 ブース来場者 18名</li> <li>・2019/8/8（木）大分県病院バスツアー 医学生4名受け入れ</li> <li>・2020/3/1（日）レジナビ福岡開催中止</li> <li>・病院見学受け入れ 5名</li> </ul>
実 績	<p>初期臨床研修医面接者 8名、マッチング者 5名 採用者 合計 5名</p> <p>2019年度初期研修医修了者 4名 たすきがけ1年コース修了者 2名（1名中断）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医レクチャー実施（1回/月）</li> <li>・来年度からの新プログラムに向けて、協力施設の整備。 いしい産婦人科醫院を協力施設に追加</li> <li>・基本的臨床能力評価試験の実施 370位/539施設（1年目、2年目の合計点数）</li> <li>・インターネット評価システム EPOCを使用</li> </ul>
目標の評価	<p>昨年度より大分大学医学部附属病院の研修医が1年間当院で研修を行う「たすき掛け」の受け入れを行った。たすき掛けの研修医が、2年目に大学に戻った時の指導医からの評価や、当院での研修生活が口コミで後輩に伝わったことが功を奏し、今年度は面接者数が過去最高の8名、マッチング数が5名と繋がった。</p> <p>プログラムに関しては、新プログラムに向けてインターネット評価EPOCを採用し、面談も定期的に行いヒヤリングを行うことで、プログラムの改善に努めている。また、昨年に引き続き、大分県全体での研修医確保ということで、病院見学バスツアーに参加し、県と連携を行って大分県での研修生活のPRを行った。</p>
今後の展望	<p>今年度は、大分県で研修を希望する人数も多く、県全体でのマッチング数も多かった。今後は、より良い研修プログラムを提供することが、研修医の獲得につながるため、新しいプログラムに向けての体制作りと、より質の高い研修の提供ができるよう随時検討を行っていく。</p> <p>また、コロナウイルスの流行で来期採用の病院見学者の受け入れが出来なかったため、早急に対応をしていく。</p>

文責：追 秀則

#### 4) 教育・研修委員会

構成員数	診療部1名、各部門1名
2019年度 目標、方針	大分岡病院の組織人として自覚と責任ある行動がとれる人材を育成することを目標に、院内研修会の企画・運営・情報発信を行う。職員個々の組織規範の育成・研修の推進、院外への学会発表の支援を行う。
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>人材育成 新人研修・ミドルマネージャー研修・管理者研修企画開催のサポート</li> <li>研究の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>①各学会等の発表推進</li> <li>②敬和会学会のサポート</li> </ol> </li> <li>資格取得支援規程の見直し</li> <li>敬和会アカデミーの運営サポート</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>人材育成 ・2019年度リーダーシップ研修プログラム実施、サポート</li> <li>研究の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>①・大分県病院学会 発表・参加 ・医療マネジメント学会等への発表・参加</li> <li>②敬和会学会のサポート 学術研究統括センターとコラボし、敬和会学会運営の事務的なサポート</li> </ol> </li> <li>前年度作成した資格取得支援一覧表の見直し</li> <li>敬和会アカデミーとコラボし新人合同研修プログラムの見直し、eラーニング用動画作成</li> </ol>
目標の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>リーダーシップ研修の開催 2019年6月 チーム医療とリーダーシップ 9月 BSC</li> <li>学会での発表者も年々増えてきている。敬和会学会のサポートも主催施設と協力し、滞りなくできている。今後も継続して学会運営をサポートしていく。</li> <li>資格取得支援規程に基づき各部署で運営できている。</li> <li>2019年4月入職新入職員合同研修ではeラーニングの導入ができた。</li> </ol>
今後の展望	今後は敬和会アカデミーとコラボし、新人研修、リーダー研修、幹部研修と教育体系を再構築し、人材育成につなげる。

文責：武石 智子

## 5) 医療安全委員会

構成員数	30名
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配薬、与薬忘れをなくし無投薬ゼロへ</li> <li>・転倒・転落防止対策に取り組み、発生件数減少へ</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①医療安全委員会開催</li> <li>②医療安全全体研修の開催</li> <li>③医療安全対策マニュアルの改訂</li> <li>④インシデント、アクシデントの事例分析</li> <li>⑤医療安全地域連携カンファレンス開催</li> <li>⑥事故防止の対策立案、実施状況の把握</li> <li>⑦院外からの事例、安全情報の収集および伝達</li> </ul>
実 績	<p>①医療安全委員会開催 年12回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月第3月曜日 時間：16：30～ 場所：4階研修センター</li> <li>1. 各部署フィードバック状況</li> <li>2. 全国からの安全情報</li> <li>3. 各関連ミス事例の報告</li> <li>4. インシデント・アクシデント事例報告（注意喚起事例等）</li> <li>5. 検討事項</li> <li>6. その他</li> </ul> <p>②医療安全全体研修 年2回開催</p> <p>第1回：2019/9/13</p> <p>「医療安全に求められる視点と病院における安全管理の実践」</p> <p>講師：医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 情報管理部 医療安全管理課 課長 渡邊 幸子先生</p> <p>研修会当日参加者：123名</p> <p>DVD研修会6回開催し研修参加率：99%</p> <p>第2回：2020/2/21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 「診療報酬とカルテ記載」</li> <li>2. 「2019年個人情報関連報告とスマホの安全対策」</li> <li>3. 「事例から再発防止へ」</li> </ul> <p>研修会当日参加者：134名</p> <p>DVD研修会 コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>③医療安全対策マニュアル改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全推進室業務指針</li> <li>・説明と同意「セカンドオピニオンについて」</li> <li>・手術室マニュアル「手術室での麻薬の取り扱いについて」</li> </ul> <p>④2019年度インシデント・アクシデント 総報告件数：922件 （同一事例に対し複数の報告あり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要</li> </ul> <p>薬剤関連：205件、輸血：9件、治療・処置関連：60件、医療機器：33件、 ドレーン・チューブ：58件、検査：36件、療養上の世話：60件、 転倒・転落：154件、事務・記録関連：151件、その他：15件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者影響レベル</li> </ul> <p>レベル0：244件、レベル1：347件、レベル2：134件、レベル3a：49件、 レベル3b：6件、レベル4-1：1件、レベル4-2：0件、レベル5：0件</p>

実績	<p>⑤医療安全地域連携カンファレンス開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南海医療センター（加算1） 2019/6/20</li> <li>・豊後大野市民病院（加算2） 2019/9/26</li> </ul> <p>⑥院内ラウンドの実施 1回/2ヶ月</p> <p>⑦医療安全推進室院外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度第1回検査・処置・手術安全セミナー画像診断</li> <li>・第14回医療の質・安全学会学術集会</li> <li>・2019年ペイシェントハラスメント合同講演会</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤関連の事例内容で多くの割合を占めているのが無投薬である。患者さんにとっては重要な薬剤であり、ゼロを目標にしているが達成はできていない。</li> </ul> <p>背景には、病棟管理からの配薬忘れ、休薬から再開、配薬カレンダーからの取り忘れが多い。発生要因としては、確認不足、スタッフ間の指示伝達、コミュニケーションエラーとなっている。エラーを防止するためには、まず確認をしっかり行う事が重要である。その一環として、ダブルチェックの意味と方法の見直しを行った。作業に合わせてチェック方法を変えていく事で確認ミス減少へ繋げていこうと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「転倒・転落防止対策に取り組み、発生件数減少へ」薬剤関連の次に報告件数の多い転倒・転落に関しても、対策チームと取り組みを行っている。</li> </ul> <p>結果、転倒による骨折が前年度に比べ4件へ減少。新たに用具選定基準の見直しを行い、院内で統一して実施できるように今後も取り組みを行う。</p>
今後の展望	<p>1件の重大事故の背景には、29件の軽症事故、300件のヒヤリ・ハットが存在すると言われている。重大事故を防ぐには、より多くのインシデント報告が必要であり、そのためには提出しやすい環境整備も重要となってくる。1つ1つのインシデントを分析することにより、対策とその効果を常に検証し、重大事故の未然防止に繋げていきたい。</p>

文責：生野 和徳

## 6) 薬事審議委員会

構成員数	副院長、各診療科の部長、看護部長、薬剤部部長、購買物流課長
2019年度 目標、方針	次の事項を審議し医薬品の適正な使用に寄与する。 ・ 医薬品の採用及び削除に関する事 ・ 購入医薬品の管理に関する事 ・ 使用医薬品の副作用に関する事 ・ 薬剤情報活動に関する事 ・ その他医薬品に関する事
業務（活動） 内容、特徴等	①委員会活動 ・ 定期的な委員会の開催 第1回 2019年 6月12日 第2回 2019年 9月11日 第3回 2019年12月11日 第4回 2020年 3月11日 ・ 医療安全委員会との連携による医薬品適正使用の推進 ・ 委員会資料の事前配布による審議の効率化 ②医薬品の採用及び削除 ・ 一増一減ルール周知徹底 ・ 医療保険制度を考慮した後発医薬品への切替え ・ 口腔内崩壊錠の採用による調剤、配薬業務の改善
実 績	【新規採用医薬品】 内用6品目、外用4品目、注射3品目 【削除医薬品数】 内用5品目、外用2品目、注射0品目 【後発医薬品への切替え】 内用3品目、外用0品目、注射20品目 【後発品使用割合】 90.7%（2019年4月～2020年3月）
目標の評価	委員会を定期的に滞りなく開催することができた。医薬品の採用に関しては、一増一減ルールが遵守できていない部分があったが、新規作用機序の医薬品の申請が多く、削除できる医薬品候補が挙げられなかったことが考えられる。また、本邦の医療保険制度を考慮した後発医薬品への切替えを計画通りに行うことができた。
今後の展望	さらなる円滑な薬事の運営に寄与するとともに、未承認医薬品の使用についても医療安全委員会と連携して運用体制を構築していく。

文責：井上 真

## 7) 感染管理委員会

構成員数	33名（部門単位ではなく部署単位での参加とし、メンバー増員となっている）
2019年度 目標、方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染防止対策活動の推進</li> <li>2. 医療従事者の感染対策に対する意識向上および社会への啓発活動の推進</li> <li>3. 感染防止対策の推進・評価・検討</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染防止対策活動の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多剤耐性菌の隔離・解除基準について</li> <li>2) インフルエンザ対策について</li> <li>3) 新型コロナウイルス感染症について</li> </ol> </li> <li>2. 意識向上および社会への啓発活動の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染対策週間イベントの開催</li> <li>2) 感染管理研修、抗菌薬研修の開催</li> </ol> </li> <li>3. 感染防止対策の推進・評価・検討 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 抗菌薬適正使用支援ラウンドの実施</li> <li>2) ICTラウンド、感染防止対策地域連携相互ラウンドの実施</li> <li>3) サーベイランスの実施（手指衛生サーベイランス） （大分県内ICNを有する病院の手指消毒の現状調査結果から）</li> </ol> </li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染防止対策活動の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多剤耐性菌の隔離・解除基準について <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月以降、培養検査でCRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）が同病棟から検出される症例が散見された。 （19年5月 1名、10月 2名、20年1月 2名、2月 1名） 20年1月の1名と2月の1名は持ち込みであったが、19年の3例は手術後であり、2例は術後の臓器・体腔感染であった。 今回検出された菌種は、染色体上にAmpCを有しており、この過剰産生や菌体外膜タンパクの異常等によつての耐性機序が疑わしいとのことであった（今回はカルバペネマーゼ非産生であり、伝播はしにくい）。</li> <li>・今回の検出については、臨時で感染管理委員会を招集し、対応を検討した。</li> <li>▶同一菌種が検出された患者について、遺伝子検査を実施→1菌種については、両者のPFGEの意パターンは異なっているが、もう1菌種については、バンドが完全に一致しているわけではないため、院内での伝播ではないと考える。</li> <li>▶アウトブレイク対応としてどこまで行のかについては、以下の通りの対応とした。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①病棟閉鎖の対応は行わない。</li> <li>②主治医へ、抗菌薬の使い方や標準予防策・接触予防策については、副院長から指導する。</li> <li>③対象病棟関係スタッフ（医師を含む）への知識の共有という点から勉強会を開催する（CREについて検査課より、感染対策についてICNより）</li> <li>④環境消毒については、腸内細菌に効果が期待できる過酸化水素による噴霧消毒（患者退室後の部屋の消毒）と、毎日の過酸化水素クロスでの清拭を行う。</li> <li>⑤環境培養の実施→SAT計の内側からMRSが多数、流しのシンクや排水口からCREが検出された。その対策として、SAT計は内側まで必ず清掃すること、排水口については、定期的に泡ハイターで消毒することとした。</li> <li>⑥また予防策の遵守状況について、感染対策室のメンバーが直接観察を行い、指導改善に取り組んだ。</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>※多剤耐性菌の感染対策として、隔離基準と解除基準を作成した。</li> </ol> </li> <li>2) インフルエンザ対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザ対応については、昨年アウトブレイクを経験し、フェーズ対応マニュアルを作成しており、今年度は原則それに沿って対応を行った。</li> <li>昨年の時点で課題として検討するようにしていた内容については、以下の通り対応した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>▶面会制限が徹底されていなかった→確実な面会制限ができる体制整備が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>→面会者が使用できるエレベーターと階段を1か所にして対応</li> <li>面会者用として各エレベーター前に、アルコール手指消毒剤、マスク、ゴミ箱を設置し、面会者からの持ち込みを最小限にするための対策も強化し対応</li> </ul> </li> <li>▶職員で、風邪症状のあるスタッフの検査が遅れた→検査しやすい環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>→2回目以降のインフルエンザ検査については病院負担とした</li> </ul> </li> </ol> </li> </ul> </li> </ol>



実 績	<p>▶発症者との同室者のみ予防投与を実施→状況によってフロア全体での予防投与 →検討はしたが、今回は実施せず</p> <p>▶標準予防策の徹底が出来ていなかった可能性→手指衛生、正しいマスクの着用 →感染対策室手指衛生チームからの介入、マスクの着用、着脱について周知</p> <p>※昨年は職員の発症が多く、確定者89名であったが、今年度は職員の確定者25名と減少、 院内発症の患者も30名→13名と減少しており、各個人の感染対策がしっかり行われていたと考える。</p> <p>3) 新型コロナウイルス感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国での新型コロナウイルス感染症患者が確認された以降、「発熱患者対応フロー」の作成、感染対策について、有症状職員の対応等を検討し、院内へ周知した。</li> <li>・2020.3.3大分県で1例目の新型コロナウイルス陽性者が確認されてからは、毎日コアメンバーで状況の確認、当院の対応等について検討を行い、職員へ対策を周知した。</li> <li>・そんな中、大分医療センターでの新型コロナ陽性患者が確認され、当院へ転院となった患者もPCR検査で陽性となった。 その後、陽性患者は指定医療機関へ転院となり、同室患者と濃厚接触職員53名にPCR検査を実施。全員陰性であった。 陽性患者が転院となった後も、病棟閉鎖や外来の一時休止等の対応を行った。</li> <li>・また当院のコロナ対応として、206号室と207号室をコロナ対象の入院病床として届け出を行った。</li> <li>・その後は、COVID-19対応マニュアル（案）を作成、「PCR検査実施に関するフロー」の作成等を行った。</li> <li>・面会については、面会受付を設けて、病院から連絡のあった家族のみ、体温測定を行ったうえで面会可能とし対応を行った。</li> <li>・また、各会議やイベント等も中止とし対応した。</li> </ul> <p>2. 意識向上および社会への啓発活動の推進</p> <p>1) 感染対策週間イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回で9回目の開催。期間は、平成30年10月15日～25日の11日間。 上記期間は、院内に「感染予防に関するポスター」を掲示（職員や近隣幼稚園等から募集し集まったもの）。</li> <li>・また、今年度は受付前に『手指衛生について』『インフルエンザについて』のポスターを掲示し、啓発を行った。</li> <li>・その他、出前手洗い指導で3園に出張し指導を行った。 （もりまち幼稚園、高田のぞみこども園、カトリック鶴崎幼稚園）</li> <li>・感染予防講座については、今年度は希望がなく実施していない。</li> </ul> <p>2) 感染管理研修、抗菌薬研修の開催</p> <p>&lt;感染管理研修&gt;</p> <p>1回目：令和元年6月14日（金）</p> <p>テーマ：「何度聞いても大切な感染対策の基本と欧米の最新情報」</p> <p>講 師：NPO法人 日本感染管理支援協会 土井 英史 先生</p> <p>研修参加率：99.3%</p> <p>2回目：令和元年11月22日（金）</p> <p>テーマ：①「排尿リハ・ケアについて」 ②「抗菌薬の適正使用について」 ③「インフルエンザアウトブレイクを経験して」</p> <p>講 師：①排尿チーム 大嶋 久美子 ②感染対策室 遠山 泰崇 ③感染対策室 幸 直美</p> <p>研修参加率：97.5%</p> <p>&lt;抗菌薬研修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の必須研修とし、以下の日程で開催した。</li> <li>研修医対象、全医師対象（研修医を含む）と2部構成とし、例年同様、大手町病院 山口征啓先生を招聘し開催。</li> <li>1.「感染症診療の原則」 令和2年3月4日（水） 15：30～17：30 ※研修医は必須 参加者：21名程度</li> <li>2.「新型コロナウイルス感染症について」 令和2年2月25日（火） 18：30～19：30 ※全医師必須 参加者：（院内）51名 （院外）12名</li> </ul>
-----	---

実績

3. 感染防止対策の推進・評価・検討

1) 抗菌薬適正使用支援（AST）ラウンドの実施

- ・2019年度の抗菌薬適正使用支援加算の算定は4,925件（4,925,000円）
- ・403症例、917回のASTラウンドを実施し、介入患者率45.9%、介入受け入れ率72.9%であった。

<評価>

●抗菌薬使用量と薬剤感受性

- ▶緑膿菌の感受性は不変～やや改善。
- ▶抗緑膿菌作用のある薬剤の使用率は減少（MEPM20%減）。
- ▶CEZのE.coliとprt.mirabilisの感受性は低下傾向で、尿路感染症には使いにくくなった。
- ▶SBT/ABPCのインフルエンザ桿菌の感受性も低下傾向であり、BLNARでなくても肺炎で検出された場合は、臨床経過に注意が必要と考える。

●AST実績+医師別詳細

- ▶提案の受け入れ率は昨年よりやや上昇（4%程度）しているが、薬剤の中止、検査の追加、培養の追加に対しての受け入れが昨年同様課題となっている。
- ▶広域抗菌薬使用時の培養提出率は96.1%と問題はないが、一方で各医師の広域抗菌薬使用時の血培の提出数は昨年と変化はない。広域抗菌薬使用時（重症患者）の血培提出についての啓蒙が必要と考える。
- ▶広域抗菌薬の投与期間は、前年度より1日短縮できた。

2) ICTラウンド、感染防止対策地域連携相互ラウンドの実施

<ICTラウンド>

- ▶医師、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士をメンバーとし、週1回実施（病棟は必ず毎週、その他は1～2カ月に1回はラウンドできるよう調整）。
- ▶ICTメンバーだけでなく、自部署のラウンドの際はラウンド部署のリンクスタッフにも参加して頂き、実態把握と改善策の検討等を行ってもらった。またラウンド記録については、自部署のラウンド結果と指摘事項に対する改善策をまとめ、感染対策室へ提出していただいた。  
（自部署の課題を把握すること、それに対しての対策を検討し、実行してもらうこと、評価してもらうことを目的とし、記録についても部署に担当してもらった）

<感染防止対策地域連携相互ラウンド>

- ▶昨年に引き続き、大分医療センター、豊後大野市民病院の2施設と相互ラウンドを行った。
- ▶ラウンドでは、病棟、ICU、ER、検査課、透析室、ケモ室等をチェックリストに沿って評価して頂き、今回は大分医療センターさんの希望で、リハビリテーション課のラウンドも追加した。
- ▶リハビリテーション課については、初めてのラウンドであり、チェックというよりは、自施設での対応を確認してみようと興味を持たれていた。
- ▶最近は大きな指摘事項はなく、現場の細かな所についての内容になっているため、現場としては改善に繋げやすいのではと考える。

3) サーベイランスの実施

<手指衛生サーベイランス>

- ▶手指消毒実施回数（1か月の手指消毒剤使用量ml÷延べ入院患者数÷1回の適切量ml）を算出。
- ▶全体の実施回数については、昨年とほぼ変わりがなかったが、昨年インフルエンザのアウトブレイクを経験したこともあるのか、年末から年度末にかけての使用量がどの部署も増加している。
- ▶J-SIPHE（感染対策連携共通 プラネットフォーム：328施設が参加）に参加し、感染防止対策加算区分1の施設と当院を比較すると、1患者1入院当たりの使用量について2019年4月から12月までは他施設に比べ若干少ない傾向であった。翌1月以降は使用量が徐々に増加し、3月には他施設に比べ2～3ml程度増加している。
- ▶また、大分県内の感染管理認定看護師（以下ICN）を有する病院で手指消毒の現状調査（外来部門と入院部門を比較して）を行った。
  - ・対象施設は、ICNを有する大分県内の病院13施設  
（病床数は中央値224、1日の平均外来患者数中央値283）
  - ・結果は、外来部門（0.3ml/患者/日）と入院部門（6.9ml/患者/日）で手指消毒剤使用量には有意差があった。
    - 外来部門は入院部門と比べると、血液・体液に汚染されたものに接触する機会が少ないことが考えられる
    - 当院においては、外来部門では全診療科で診ると0.86と若干多くなっているが、診療科ごとにみると少なくなっているところが多い  
入院部門は、8.38と若干多くなっている

<p>目標の評価</p>	<p><u>1. 院内感染防止対策活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接触予防策については、接触感染するすべての耐性菌、疾患等で隔離対応を行っているわけではない（すべてを隔離するには限界がある）のが現状であった。今回CREについて、隔離基準・解除基準を決めたことで、より重要な耐性菌であること、厳重な対応が必要である耐性菌であることの意識付けと、より確実な隔離対応の実施につながったと考える。ただ、病棟内での隔離対応は確実に実施できていても、関係部署への情報共有が行えていない状況も散見されていたため、口頭で伝えること以外の情報共有の方法（電子カルテ上での共有）についても検討する必要があると考える。</li> <li>また、環境培養を実施したことで、SAT計に対しての清掃方法、排水口に対しての定期清掃についてマニュアル化することができ感染リスク低減に繋がることを期待する。</li> <li>・インフルエンザ対応については、昨年度のアウトブレイクの経験から、面会制限等『持ち込まない』ための対策を強化したこと、職員1人1人の意識で、昨年に比べ職員の発症、院内発症も大幅に減少した。これは、平常時からの標準予防策の遵守、疑った時の経路別予防策の対応等がしっかり行えていたからだと考える。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症について、大分医療センターからの転院患者の陽性が確認されてからは、対応していた病棟、その他のスタッフ全員が不安の中、業務を継続していたと思う。そんな中、濃厚接触者全員のPCR検査陰性が判明したことは、標準予防策での対応が日常的に遵守できていたからであると考え。コロナ対応は現段階では終わりが見えない。今後もやらなくてはならないことを現場と共有し、対策を検討する必要があると考える。</li> </ul> <p><u>2. 意識向上および社会への啓発活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研修会の参加率は、97～99%である。特に今年度2回目の研修会では、昨年度のインフルエンザアウトブレイクをテーマに振り返り、前回の課題と、今年度の対策を全職員で共有することができたと考え。</li> <li>・抗菌薬研修は、昨年度に引き続き2部構成で行った。研修医対象では、例年同様「感染症診療の原則」について、全医師を対象とした研修会では、「新型コロナウイルス感染症について」ということで、大手町病院 山口先生にご講演頂いた。</li> <li>新型コロナウイルス感染症については、院外からの参加も例年より多く、関心の高さがうかがえる。</li> <li>・抗菌薬研修会では、医師の参加率は高いがそれ以外のスタッフの参加が少ないため、改善が必要であり、今後検討が必要であると考え。</li> </ul> <p><u>3. 感染防止対策の推進・評価・検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗菌薬適正使用支援ラウンドについては、定期的な介入が計画的に実施でき、今後改善すべき点は残ったものの、期待以上の結果が得られたのではないかと考える。</li> <li>・ICTラウンドについては、ラウンド部署の感染対策委員さんに同行して頂き、実態把握をしてもらうことで、問題意識を持って、感染対策活動に取り組んで頂けるようになったと感じる。また、相互ラウンドについては院外の方からの指摘事項は部署にとっては大きく、更に問題意識を持って各部署が改善に取り組んでくれたと思う。</li> <li>・手指衛生サーベイランスについては、昨年度に比べほとんどの部署で増加、特に年末から年度末にかけて増加しており、昨年インフルエンザアウトブレイクを経験したことが一因であると考え。まだまだ十分とは言えないが評価できる点であると思う。</li> <li>・手指消毒剤の使用量については、外来部門での使用量が少なく、1患者1日当たりの使用量が1回にも満たない点は問題であると考え。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症は、今後流行してくることが考えられる。疑い患者等が発生した際の対応が迅速に行えるための体制整備とマニュアルの完成を目指したい。</li> </ul> </li> <li>●手指消毒剤使用量について <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内13施設の共同研究からも明らかになった通り、外来部門における使用量に問題がある。どんな感染症を持っているかわからない部門であるため、標準予防策の徹底は必須である。その中の手指消毒剤の使用量については、現場と一緒に対策を検討していく必要があると考える。</li> </ul> </li> <li>●ICTラウンドについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTラウンドが環境中心のラウンドになっているため、患者の処置やケアに関連した対策の確認等、患者中心のラウンドも実施していきたい。そうすることで、院内感染防止に繋がれることを期待したいと考えている。</li> </ul> </li> </ul>

文責：幸 直美

## 8) 褥瘡対策委員会

構成員数	医師 2名・看護師（WOC、NPを含む）25名・薬剤師 1名・理学療法士 2名・栄養士 1名・事務 1名 計32名
2019年度 目標、方針	「褥瘡の原因を除き発生させないように働きかける」 「褥瘡保有者に対し適切な治療を行う」 「常に向上心を持ち自己研鑽に努める」
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 褥瘡回診（月曜日/週）</li> <li>・ 褥瘡対策委員会（1回/月・第4月曜日）</li> <li>・ 新人研修会講義</li> <li>・ 地域研修会、在職者研修会の開催</li> <li>・ 学会や院外のセミナーや勉強会などへの参加</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月→新人研修会にて褥瘡とスキンテアについての講義。入院時PCへの褥瘡管理入力の実技。モルテンよりポジショニングと背抜きの講義と実技を施行。 （新人看護師参加人数：22名）</li> <li>・ 5月→九州褥瘡学会の教育セミナーへ参加（実山）</li> <li>・ 9月→日本褥瘡学会にてポスター発表（実山）参加（芦田、後藤）</li> <li>・ 10月→在職者研修会「褥瘡のあんなときにあんなこと」 （参加人数：63名）</li> <li>・ 10月→地域研修会「褥瘡の基本と落とし穴」 （院外参加人数：40名・院内参加人数：23名）</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院時のPC入力のための観察でOHスケールを正しく付けることができるようになってきている。</li> <li>・ 学会へのポスター発表での参加が出来、新たな予防や対策の学びを得ることが出来た。</li> <li>・ 高齢の入院患者が多く、褥瘡がなくてもスキンテアが増えているので褥瘡と同様に入院時にチェックを行い予防に努めた結果悪化を防ぐことが出来た。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ OHスケールによる正しいマットの選定を引き続き行っていく。</li> <li>・ 体位変換や除圧と共に背抜きの必要性を伝達し予防を行っていく。</li> <li>・ 褥瘡の早期予防に追加してスキンテアの予防にも努めていく。</li> </ul>

文責：実山 昌代

## 9) 栄養管理（NST）委員会（栄養サポートチーム）

構成員数	医師：3名、歯科医師：1名、薬剤師：1名、看護師：3名、管理栄養士：2名、臨床検査技師：1名、ST：1名、歯科衛生士：1名、事務：1名
2019年度 目標、方針	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養療法の意義を患者、職員に理解してもらう。</li> <li>・個々の患者に最適な栄養管理を行う。</li> <li>・円滑なNST活動（運営）を行う。</li> </ul> <p>【方針】</p> <p>医療の最も基本的な栄養管理の重要性と適切な栄養支援を院内に浸透させ、栄養障害のある患者に対し、多職種協働で栄養面からの治療支援を行う。また、委員会としてNSTを組織し、その活動を支援する。</p>
業務（活動） 内容、特徴等	当院では2014年10月に栄養サポートチーム（NST）を立ち上げ、円滑なNST活動を行うために定期的（隔月）に委員会を開催している。2011年11月にはNST加算の算定を開始し、全ての入院患者を対象に栄養状態の評価と栄養支援を行っている。また、院内スタッフを対象とした教育活動やNST専門療法士の育成、学会発表の支援等の取り組みを行っている。
実 績	<p>2019年4月～2020年3月までの実績</p> <p>【NST支援患者数】 400人</p> <p>【NSTラウンド回数】 190回</p> <p>【NST加算算定件数】 857件</p> <p>【栄養管理（NST）委員会開催】 5回（5月、7月、9月、11月）</p> <p>【院内NST勉強会開催】 1回（11月）</p> <p>【院内NSTだより発行】 第33号～38号（隔月）</p> <p>【学会発表】 第35回日本静脈経腸栄養学会 発表1演題、第30回大分NST研究会 発表1演題</p>
目標の評価	全ての入院患者に対して栄養状態の評価を行い、チームによる栄養支援を行うことができた。新型コロナウイルス感染症の流行により、院内勉強会や委員会が予定どおり開催できなかったがNSTだよりは計画どおりに発行することができた。また、活動内容をまとめ、学会発表も行うことができた。課題としては、NSTの栄養支援による具体的な効果について十分な検証を行えていないので引き続き課題として取り組んでいきたい。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースをもとに支援症例を分析し、NST支援の効果を調査する。</li> <li>・NST支援の効果を学会などで積極的に発表していく。</li> <li>・歯科医師との連携により口腔ケアにも力を入れていく。</li> <li>・周術期、緩和、在宅における栄養支援も視野に入れて取り組みを行う。</li> <li>・労働生産性を考慮したラウンドを行っていく。</li> </ul>

文責：井上 真



## 10) がん薬物療法委員会

構成員数	10名
2019年度 目標、方針	全ての患者さんへ、有効で、安全、安心ながん薬物療法を提供し、副作用の予防、早期発見に努める。 職員の安全のため、職業性曝露防止対策に取り組む。
業務（活動） 内容、特徴等	新規レジメン審査 抗がん剤プロトコルオーダー作成 抗がん剤曝露防止対策への取り組み
実 績	2019年新規レジメン審査、抗がん剤プロトコルオーダー作成 * 大腸癌：Pmab+CPT11療法 * 大腸癌：Bev+IRIS療法 * 胃癌：S-1+DTX療法  抗がん剤曝露対策マニュアルの作成 外来化学療法室の増床の起案
目標の評価	ガイドラインに基づいた標準的レジメンの追加、運用を行った。ガイドラインに記載されていないレジメンに関しては、臨床試験の結果に基づいて妥当性を審議し、プロトコルオーダーを作成した。 患者さんへ、投与前の抗がん剤治療の説明を行い、副作用の予防方法や対策の指導を行う事で、副作用の予防や早期発見につながった。 抗がん剤曝露対策マニュアルを作成し、それを基に外来化学療法室の増床についての起案を行った。
今後の展望	抗がん剤曝露対策については、外来化学療法室の増床を提案し、現在決裁書を作成し、提出している。 また、作成した抗がん剤曝露対策マニュアルを基に職員への啓発を行っていく。 化学療法については、今後も外来・入院患者ともに標準的ながん薬物療法が継続できるように各種ガイドラインに基づいたレジメンの審査、運用を行う。

文責：福島 祐子

## 11) 栄養改善委員会

構成員数	医師、看護師（各病棟）、言語聴覚士、管理栄養士、給食委託業者
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者食及び職員食の向上</li> <li>・アクシデント件数減（特にアレルギー）</li> <li>・集団給食における衛生基準の徹底</li> <li>・嗜好調査の結果に基づく改善への取り組みを行う</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嗜好調査の実施 （患者はAIMサービスによる聞き取り調査のため回収・回答率100%）</li> <li>・行事食の提供（月1回以上）、季節の行事毎に時期や行事に合わせて提供</li> <li>・食品衛生関連の周知</li> <li>・職員ヘルシーナビ 6回/年 ※職員保健推進室に報告</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会開催：10回（8月以外は毎月開催、今年度は1月はインフルエンザ流行期であったため開催は自粛）</li> <li>・嗜好調査の実施 患者、職員含む（6月 10月 2月）</li> <li>・ラグビーワールドカップが大分で開催されたこともあり、多国籍料理（フィッシュ&amp;チップス・シーザーサラダ・スイー・フィジー風チーズケーキ）を患者・職員食として提供した。</li> <li>・衛生関連注意事項啓発（保健所からの通知時や、梅雨・残暑時期・ノロ）</li> <li>・ゲル化剤の見直し（ソフティアG→ソフティアRへの移行） 理由：温かいものは温かく提供できる、舌でつぶしやすいなど、試食会も実施</li> <li>・行事食提供 4月：花見弁当 5月：子供の日 6月：うな重 7月：七夕 8月：大分郷土料理（臼杵黄飯） 9月：敬老の日 10月：会長誕生日、ラグビーワールドカップイベント（10/11）、秋御膳 11月：勤労感謝の日 12月：クリスマス、大晦日 1月：正月、七草、鏡開き 2月：節分 3月：ひな祭り}</li> <li>・職員行事食：隔月でイベント・ヘルシーナビを実施、毎月19日を食育デーとして小鉢に食育食材を使用、栄養素について掲示した（啓発）。</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事については年間計画を予定通り実施した。2019年度はラグビーワールドカップが大分で開催されたこともあり、入院中の患者さんにも雰囲気味わってもらいたいとの思いから多国籍料理を提供し、好評を得たのが印象的であった。</li> <li>・アクシデントについては、病棟でのご配膳が数件発生しており医療安全にも相談し注意喚起を行った。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者、職員の食事に対する期待や楽しみにされている部分は大きく、可能な範囲で応えていきたいが、ニーズが違ってきているのも現状であり、献立の見直しや提供の方法は検討が必要であり今後の課題としたい。</li> </ul>

文責：長尾 智己



## 12) 輸血療法委員会

構成員数	12名（診療部、看護部、薬剤部、検査課、医事課）
2019年度 目標、方針	安全で適正な輸血の実施 ①血液製剤使用指針の遵守 ②血液製剤廃棄率の減少 ③輸血事故「ゼロ」
業務（活動） 内容、特徴等	①輸血依頼から実施マニュアルに沿った対応 1. 必要製剤量の確保 2. 副作用管理 ②血液製剤一元管理 ③FFP/RBC比 指導比0.5以下 遵守 ④アルブミン/RBC比 指導比2.0以下 遵守 ⑤血液製剤廃棄率 1.5%以下 ⑥院内MSBOS用の統計作成 各種の現行方法・手順を検証し必要であれば変更・改善する。また、各委員から出された問題点を解決する。
実 績	1. 使用量：RBC 4,268単位/年・自己血 72単位/年・FFP 1,384単位/年・PLT 2,260単位/年・アルブミン 3,678単位/年 *製剤総使用量1,167単位、金額72,676,260円は、昨年・一昨年より減少。 2. 輸血患者数（延べ） 634名/年 *輸血件数も昨年・一昨年よりわずかに減少。 3. 救急要請回数 13回/年 *昨年・一昨年より増加した。 4. 遡及調査依頼 0件/年 5. 副作用記録 38件/年 *2月にアレルギー反応と考えられる副作用があり、報告書を提出した。 6. FFP/RBC比 0.32・アルブミン/RBC比 0.85 *両方共に、良好であった。 7. 血液製剤廃棄率 0.92% *昨年（1.19%）・一昨年（1.11%）に比べ減少。
目標の評価	目標は、達成できていたが、使用量、金額、輸血患者数、製剤廃棄率は、昨年・一昨年に比べ減少していた。4～12月では、一昨年よりは多いのでインフルエンザやコロナウイルスの影響があると考えられる。 持ち越しとなっていた同意書の改訂は、年度始めに行うことができたが、その他の副作用の報告方法の変更や、製剤の納入→検査→使用の流れの見直し、医師確認について等は、残念ながら解決には至らなかった。 輸血事故については、今年度もまた、「ゼロ」で、無事に終えることができて安堵している。
今後の展望	持ち越しとなっている問題については、カルテの制限もあり遅々として進まないが、何とか少しずつでも解決に近づけていきたい。

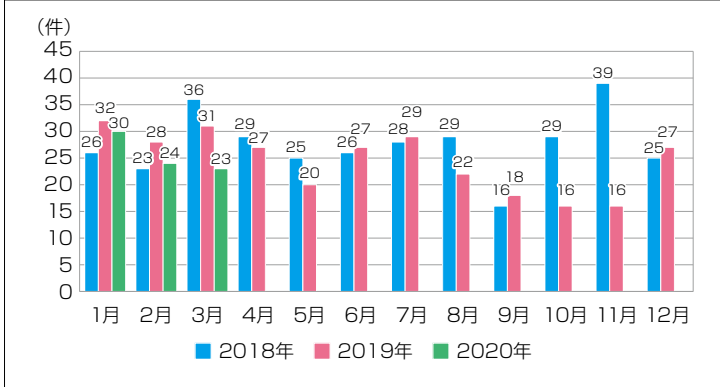
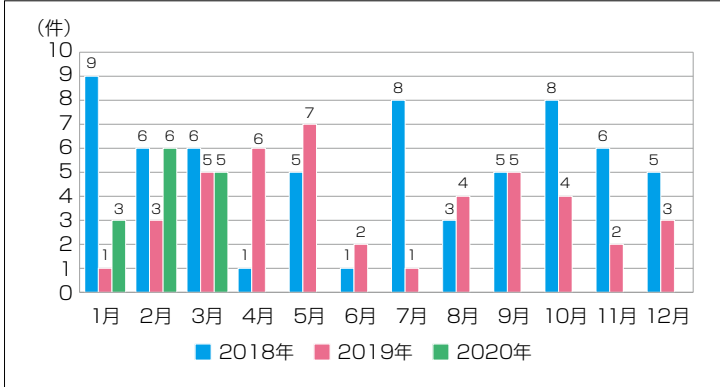
文責：伊東 佳子

### 13) 臨床検査適正化委員会

構成員数	12名（診療部・看護部・薬剤部・検査課・医事課）
2019年度 目標、方針	①適正かつ円滑な臨床検査の遂行 （1）正確・精密な結果提供 （2）迅速な結果提供 （3）情報発信 （4）最新検査の導入 ②業務改善 1. 検査に関する部署間の問題の解決策の提案と実行 2. 部署間の協力による検査に関する業務負担の軽減
業務（活動） 内容、特徴等	①精度管理 1. 外部精度管理（多施設で同一試料を測定し、各施設での測定値を集計解析することで正確度を客観的に評価するもの）に参加し、客観的評価を得る。 2. 内部精度管理（毎日、同一の試料を測定し、測定値がいつでも一定であるかどうかを評価するもの）を実施し、測定値の精度を確認する。 ②機器の保守管理・試薬の在庫管理により滞ることなく迅速に結果を出す。 ③新しい検査項目について試薬会社や研修会・学会で情報収集しそれを提供する。 ④試薬会社や研修会・学会で情報収集し、臨床医から要望を聞いた上で、新しい検査・試薬・検査機器の導入を行う。 ⑤病棟血糖測定器の管理 各種の現行方法・手順を検証し必要であれば変更・改善する。また、各委員から出された問題点を解決する。
実 績	①外部精度管理 3種参加：日臨技と日医で評価Cが1項目ずつあり ②迅速管理加算 54,284件/年（4,524件/月） 外来 時間外の院内検査加算 3,116件/月（260件/月） ③レジオネラ迅速検査キットを新しく出た血清型15種類に反応するものに変更 ④梅毒RPR検査を、外注から院内測定に変更 ⑤病棟血糖測定器保守管理：コントロールを使用し全機種種の測定値の確認を行なった。
目標の評価	①外部精度管理では3種参加し、2種で評価Cが1項目ずつあったが、各々、是正報告書を作成し改善に努めた。 ②3月にコロナ関連で患者数が激減したことが影響し迅速管理加算件数は700件/年減少していたが時間外の院内検査加算はわずかだが増加（40件/年）していた。機器の故障で測定が滞った回数は、凝固検査3回・血液ガス2回・HbA1c2回・免疫検査1回で昨年の10回とほぼ同じであった。 ③感染から助言を受け、レジオネラ迅速検査キットを新しいものに変更した。 ④昨年持ち越しになっていた梅毒RPR検査の院内測定を6月から開始することができた。 ⑤医療法の改正に伴い初めて委員で病棟血糖測定器の保守管理を行った。今後もこの流れで続けていきたい。
今後の展望	生理検査を中心に、機器の劣化が進み色々な機械で故障が多くなってきた。代替機を借りる等、検査を滞らせないことは不可欠であるが、更新機種選択は勿論のこと、更新の是非についての検討が必要な項目もある為、担当の先生方と十分話し合って決めていきたい。

文責：伊東 佳子

## 14) RST委員会（呼吸療法サポートチーム）

構成員数	医師：1名、看護師：12名、臨床工学技士：3名、リハビリ：3名
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RSTラウンドを実施し、呼吸器使用患者の早期抜管を目指す。</li> <li>・ 院内勉強会を実施し、人工呼吸器管理についてのスキルアップを目指す。</li> <li>・ 人工呼吸器の安全運用。</li> <li>・ 人工呼吸器の稼働率を把握し適正台数を目指す。</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RSTラウンド</li> <li>・ 人工呼吸器・呼吸療法関連勉強会の実施</li> <li>・ 病棟別人工呼吸器使用状況の把握</li> <li>・ 人工呼吸器関連のトラブル対応、問題解決</li> </ul>
実 績	<p>RST委員会主催勉強会を看護師対象に実施。2019年度は前年度参加人数の多かった「血液ガスについて」を2回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回目（5月）講師：3病棟溝上Ns、2回目（6月）講師：5病棟小野Ns。計44名の参加</li> <li>・ RSTラウンド5名実施</li> <li>・ 人工呼吸器使用状況（2018年1月～2020年3月）</li> </ul>  <p>2018年度平均 28.0台/月 2019年度平均 23.3台/月</p> <p>・ V60使用状況（2018年1月～2020年3月）及び 2018年度と2019年度の稼働台数およびレンタル費用削減費</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ V60レンタル待機台数の変更 12月～3月は2台（現状維持） 4月～11月は1台（定数変更）</li> <li>・ V60可動状況 2018年度：4.3台/月 2019年度：4台/月</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RST主催の勉強会はRST委員が講師をする事で、受講するスタッフと併せてRST委員のスキルアップにも繋がった。</li> <li>・ V60の待機台数変更は、稼働状況が変わらないものの、レンタル待機台数を適正にすることで、年間¥236,800のレンタル費用の削減に繋がった。</li> <li>・ 2018年度レンタル費用¥2,678,400、2019年度レンタル費用¥2,441,600</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年度よりRSTメンバーの施設基準を満たすことができなくなった為、一時活動休止となります。メンバー充足後活動再開予定。</li> </ul>

文責：中田 正悟

## 15) RRT (Rapid Response Team) 委員会

構成員数	33名（診療部 3名、外来 1名、2病棟 3名、3病棟 2名、4病棟 2名、5病棟 3名、ICU 2名、OP室 3名、透析室 2名、ME 2名、検査課 1名、放射線課 1名、薬剤部 1名、リハビリ課 5名、医療福祉支援部 1名、医療情報課 1名）
2019年度 目標、方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. BLS啓蒙活動の継続（院内、院外研修の開催）</li> <li>2. 急変対応向上に向けての取り組み</li> <li>3. 救急カートの院内統一化に向けての取り組み</li> <li>4. 院内急変前対応の運用（PHS：845）</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1) BLS普及活動：院内必須研修の開催（偶数月/月曜日、奇数月/木曜日） 必須研修以外のBLS講習会での指導、院外活動（救護活動）</li> <li>2) BLS指導スタッフの育成</li> <li>2. 1) 院内急変対応に関する問題点の抽出と改善策の検討</li> <li>2) ハリーコールの現状調査と問題点の抽出、改善策の検討</li> <li>3) 急変時記録用紙の作成と運用</li> <li>3. 1) 救急カート運用の取り決めと運用</li> <li>4. 1) PHS：845を用いた院内急変前対応の運用</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1) 院内BLS研修の開催 （全職員対象（医局、法人本部を除く）：総数550名、受講者数：498名、参加率：91%） BLS講習会 （小中学生病院体験、岩田学園、市民公開講座：ハートアタック救命教室、心臓病予防教室）、救護活動（大野川スマイルラン）</li> <li>2) BLS指導スタッフ育成中。ICLSコース受講しBLSの知識・技術を習得。</li> <li>2. 1) 院内急変対応の際の問題点（初動の遅れ）を抽出するため、アンケート調査を予定したが実施には至っていない。ICLSコースの受講を推進。</li> <li>2) ハリーコールの遅れが指摘されているため、現状調査を予定したが実施には至っていない。</li> <li>3) 急変時の経時記録に、必要な内容が簡易的に記録できるように、専用の記録用紙を検討した。「急変時記録用紙（案）」を作成した。試運用を行う必要がある。</li> <li>3. 1) 救急カートの運用手順について提案した。看護部からの了承は得た。 病棟以外の運用方法について検討する必要がある。</li> <li>4. 1) 院内急変前のコール要請はなかった。</li> </ol>
目標の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内BLS研修の受講率は前年度より増加した。研修の開催日を偶数月と奇数月で開催する曜日を変えたこと。また、前年度の研修参加率が低い部署へ直接アナウンスを行い参加を促したことも受講率増加につながったと思われる。 1年間を通してのBLS研修、講習会の開催は問題なく終了し、アンケート結果からもほぼ満足が得られた内容であったと思われる。 BLS指導者数も少しずつ増えてきている。指導者として自信を持って対応できるように指導の質の向上を図る必要がある。</li> <li>2. 院内急変対応に対する活動が行えていないため、次年度も継続する。</li> <li>3. 救急カートの運用手順の方向性が決まってきた。さらに詳細な運用方法について決定していく必要がある。</li> <li>4. 急変対応のPHS845の活用がなされていないため、急変前対応の運用についてのアナウンスが必要と思われる。</li> </ol>
今後の展望	<p>引き続きBLS啓蒙活動を継続していく。引き続き、BLS研修受講者と指導スタッフの知識・技術の向上を図っていく。</p> <p>急変対応の向上に向けて、職員への教育体制の構築とシステム作りを行い、初期対応の強化を図っていく。</p> <p>救急カートの運用を統一し、急変時に効率的に対応できるように改善していく。</p> <p>また、急変前対応の運用について各部署へアナウンス等を行っていく。</p>

文責：馬場 治恵

## 16) 診断群分類検討委員会

構成員数	10名
2019年度 目標、方針	定期的な委員会の開催 適切なDPCコーディングの推進
業務（活動） 内容、特徴等	DPC/PDPS傷病名コーディングテキストの注意すべきコーディングの事例集の症例確認 DIC、敗血症をDPC病名とした患者について診断基準に準拠しているか確認 詳細不明コードの使用件数報告 診療科別入院期間別割合グラフ提示
実 績	年4回の委員会開催
目標の評価	本委員会、病床運営委員会にてDPCコーディングについて検討を行い、適切なDPCコーディングの推進を行うことができた。
今後の展望	DPC/PDPS傷病名コーディングテキストに沿って適切なDPCコーディングを行っていく

文責：栗林亜希子

## 17) 労働安全衛生委員会

構成員数	30名 院長、産業医、事務長、衛生管理者、公認心理師、産業保健師、各部署担当者で構成
2019年度 目標、方針	健診 職員の健康意識の向上と健康の維持増進 各種健康診断を確実に実施する 職場環境改善 月1回職場環境ラウンド実施 職場での労働者の安全と健康を確保し快適な職場環境を作る メンタルヘルスケア メンタルヘルスケアの体制を整え、組織の風土づくりを行う ストレスチェックの実施及び高ストレス者のフォロー体制を整備する 職員保健推進室との連携 産業保健師を中心に活動を行う
業務（活動） 内容、特徴等	健診 職員の健康管理・二次検診の受診勧奨 職場環境改善 快適な作業環境の実現と労働条件の改善を行うため各部署をラウンドし現状の把握と改善につなげる。 メンタルヘルスケア 職員メンタルヘルスの保持・増進 ストレスチェックの実施及び高ストレス者のフォロー 職員保健推進室との連携 産業保健師を中心に各委員会とコラボし活動する
実 績	健診 定期健康診断、電離放射線健康診断、特定業務従事者健康診断、有機溶剤健康診断の実施 二次検診の受診勧奨 職場環境改善 月1回の院内ラウンド及びラウンド後の改善の確認 施設管理による迅速な対応 メンタルヘルスケア 新入職員・中途入職者に対するオリエンテーションの実施 ストレスチェックの実施及び高ストレス者へのフォローの実施 職員保健推進室との連携 産業保健師を中心に職員保健推進室とコラボする
目標の評価	健診 各種健康診断の受診率は100% 職場環境改善 月1回職場環境ラウンドを実施。感染対策室・医療安全・労働安全衛生・施設管理の視点から改善を行う メンタルヘルスケア ストレスチェック受検率80%と前年に比べ低下したが80%は維持できた。 今後も高い受検率の維持に努める必要がある。
今後の展望	職員保健推進室と各委員会と連携し活動の継続が行えている。今後も協力体制を維持し、活動を行っていく。

文責：高橋 あゆ

## 18) 医療ガス安全管理委員会

構成員数	麻酔科部長：帆足 修一、薬剤師、病棟師長、各部署担当者
2019年度 目標、方針	<p>当院で使用する医療ガスと、その関連施設の安全性と有効性を調査し、医療ガスによる事故を未然に防ぐと共に、診療活動の円滑化を図る事を目的とする</p> <p>医療ガス（酸素、圧縮空気、吸引、笑気、二酸化炭素、液体窒素）の設備、及び使用状況を確認し、安全性が高く、円滑な医療を提供する</p> <p>医療ガス設備の保守点検指針にしたがって、設備保守点検の年4回、日常点検を実施する</p>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ガス設備保守点検を年4回実施（江藤酸素） 医療ガス設備点検行い、故障及び劣化の修繕を速やかに行う</li> <li>・日常点検の実施（施設管理） 警報表示盤、供給設備（マニホールド、定置式超低温液化ガス貯槽（CE）、圧縮空気供給装置及び吸引装置）のチェックリストを作成し、1日1回実施する</li> <li>・医療ガス設備の改善 各部署からの要望に対する調査、及び起案書提出、現状調査を行い、問題点の改善案提示、故障及び劣化の修繕を行う</li> <li>・医療ガス取扱い研修の実施 酸素ボンベ、アウトレットの操作、及び注意点の実施講習</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ガス設備保守点検（2019年6月、9月、12月実施 3月分は延期） ①液体酸素設備 ②予備酸素マニホールド ③窒素マニホールド ④炭酸ガスマニホールド ⑤圧縮空気装置 ⑥吸引装置 ⑦アウトレット ⑧シャットオフバルブ ⑨警報システム</li> <li>・医療ガス取扱い研修の実施 新人看護師対象（2019年4月）、ヘルパー対象（2019年10月） ①酸素ボンベ、アウトレットについて ②CEシステム、マニホールドシステムについて ③酸素ボンベ、アウトレットの操作、及び注意点の取扱い実技講習</li> <li>・医療ガス研修会参加</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ガス設備点検での、不良個所の確認、修理対応の実施</li> <li>・日常点検の実施</li> <li>・設備保守点検を年4回実施</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定設備保守点検を年4回実施し、定期的に老朽化設備の更新を行い安全な医療ガスの提供に努める</li> </ul>

文責：御手洗法江



## 19) 防災・防犯・施設管理委員会

構成員数	責任者：後藤 公成（事務長） 事務局：木村 幸輔（施設管理課長） 難波 典子（購買・物流課長） 各部署代表者 1名
2019年度 目標、方針	・ 防災管理と災害時の対策に関する事項、その他防犯・施設設備の管理及び改善を目的する
業務（活動） 内容、特徴等	・ 駐車場利用状況調査 ・ BCP内容検討 ・ 火災訓練内容検討と説明会の実施（2回/年）
実 績	・ 駐車場利用場所変更（9月） ・ 職員駐車場整備 ・ BCP保存物資量内容検討、飲料備蓄水次回入れ替え2021年7月 ・ 火災訓練内容検討と説明会の実施（6月・11月） ・ 夜間職員入り口、暗証番号の年間変更回数の検討（6回/年 偶数月に変更）
目標の評価	・ 職員駐車場の利用状況調査・草刈り・整地（ゴミ拾い等）を実施。現状は駐車スペースの問題はクリアできているが、来年度新入職員の人数によっては駐車場増設を検討する。 ・ BCP物資内容検討を実施、主に食料（飲料水等）について保有量を再確認した。 ・ 火災訓練について前年度他部署の意見を取り入れたものを検討するとしたが意見が出なかった、アプローチの仕方を再検討して来年度課題とする。 ・ 夜間職員入り口の暗証番号運用（変更回数等）について所属長会議で意見を求めたが変更なし、毎年2月下旬の所属長会議にて利用者の意見を抽出する事にする。
今後の展望	・ 駐車場利用状況調査と違反車両調査 ・ 災害委員会とBCP物資内容検討・更新を行う ・ 防犯体制強化の為、警備日誌の確認と防犯・防災時の対策強化合同訓練実施 ・ 夜間職員入り口運用改善実施

文責：木村 幸輔

## 20) 災害対策委員会

構成員数	<p>診療部：大久保浩一</p> <p>看護部：古賀めぐみ・山村愛・田邊聖子・津曲杏葉・佐藤朋美・古澤尋枝・衛藤美乃里・生嶋綾乃・玉木寛子・伊藤華奈・向井樹里・姫野ひろみ・後藤婦士子・中村聡・小野珠実・竹尾鈴夏・三ヶ尻汐里・玉見美穂・神野優香</p> <p>検査課：窪田典洋・内山田健次</p> <p>栄養課：中野はるひ</p> <p>臨床工学部：中田正悟・安藤昇</p> <p>施設管理：木村幸輔・荒牧俊祐・荻野貴博</p> <p>薬剤部：福島祐子</p> <p>総合リハビリ：田中とも・後藤和也</p> <p>放射線課：阿南亮平・馬場勇之介</p> <p>医事課：菊地祐紀</p> <p>医療情報課：村田顕至・衛藤益子・瀬戸沙也香</p> <p>2階事務室：神矢有太</p>
2019年度 目標、方針	災害医療・災害時組織体制の改善
業務（活動） 内容、特徴等	<p>災害研修会を継続的に実施。</p> <p>奇数月第3土曜日の午前中（9：00～12：00）・災害について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・START法について</li> <li>・トリアージタグの取り扱い</li> <li>・トランシーバーの使い方</li> <li>・机上訓練</li> </ul> <p>病院全体の災害対策訓練を年1回行う。</p> <p>災害対策マニュアルの見直し、災害時組織図・アクションカードの改訂を行う。</p>
実 績	<p>災害研修 第59回（2019.5.18）～第61回（2019.11.16）実施</p> <p>2019年度の延べ参加人数31名。第1回からの延べ参加人数632名</p> <p>災害訓練 2019.8.17実施 参加人数54名</p>
目標の評価	<p>開始後より法人内計632名の修了者となっている。研修内容の見直しを行うため、委員会内で研修チームとマニュアルチームに役割分担を行い、研修内容の見直しを開始している。災害組織図・アクションカードの見直しも継続しており、バージョンアップを行っている。マニュアルはマニュアルチームを中心に改訂を継続中である。</p>
今後の展望	<p>年1回の災害訓練、奇数月の災害研修は継続的に行い、災害対策・災害対応ができる職員を増やしていく。</p> <p>災害対策委員のスキルアップに努める。</p> <p>災害時、DMAT出動時のマニュアルの整備、機材の管理、メンテナンスの徹底を継続する。</p>

文責：神矢 有太

## 21) 診療情報管理委員会（個人情報保護）

構成員数	24名
2019年度 目標、方針	個人情報の適切な管理の継続
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入、中途採用職員の個人情報保護についてのオリエンテーション開催</li> <li>・個人情報保護に関する研修会の開催</li> <li>・個人情報の適切な管理の推進</li> <li>・診療記録等の管理</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入、中途採用職員のオリエンテーション（入職時）</li> <li>・全職員対象の個人情報保護に関する研修会 1回/年</li> <li>・委員会の開催 1回/年</li> </ul>
目標の評価	全職員対象の個人情報保護に関する研修会を行い、新入、中途採用職員に対しては入職時に個人情報保護オリエンテーションを行い、個人情報の保護について指導を行うことができた。
今後の展望	今後も引き続き個人情報の適切な取り扱いに努めたい

文責：栗林亜希子

## 22) 医療情報システム管理委員会

構成員数	なし
2019年度 目標、方針	<p>新版リプレースした電子カルテの安定運用。</p> <p>敬和会内で統合された電子カルテの施設間の運用調整を行う。</p>
業務（活動） 内容、特徴等	電子カルテを安定的に運用できるように各部署と協議し決定内容を伝達する役割を担う。不具合の修正報告や1部署だけでは決定できないような運用変更・電子カルテの設定変更の協議を行う。
実 績	全体で調整が必要になるような事案がなかったため開催せず実績なし。
目標の評価	評価無し
今後の展望	全体での協議が必要がなければ委員会としては休止状態を継続する。

文責：栗林亜希子

## 23) CS向上委員会

構成員数	医師 1名・外来 3名・2病棟 3名・3病棟 3名・4病棟 4名・5病棟 2名・ICU 1名 手術室 4名・検査課 3名・放射線課 1名・リハビリ課 2名・透析ME部 2名 薬剤部 2名・2階事務室 2名・医療情報 3名・医事課 2名・看護管理室 1名 マキシロ 1名・医療福祉連携 2名・心理室 1名・栄養課 1名 計43名
2019年度 目標、方針	患者さんへより良い環境の提供 ・外来アンケート実施（2回/年）：回収枚数・回収率の増・要望への改善 ・入院アンケート回収（随時回収）：回収率の増・御褒めの件数増・要望への改善 ・ご意見箱回収（1回/週回収）：御褒めの件数増・要望への改善 患者さんの満足度調査をはじめ、よりよい環境を提供するため、必要な事項を検討、立案し実行することを目的とし、昨年度満足度より上昇を目標とする。
業務（活動） 内容、特徴等	・外来アンケート 年2回 7月2月 集計報告 ・入院アンケート 集計報告 ・ご意見箱 集計報告 ・七夕、クリスマス会のイベント行事 ・CS委員会実施 ・CSラウンド CS委員会後実施
実 績	・CS委員会 5月7月9月に実施 11月1月3月はインフルエンザ流行期とコロナウイルス感染予防のため中止 ・CSラウンド10月3病棟実施 1月からCS委員会後に行う予定であったが中止 ・外来アンケート実施 7月2月 全館メール報告 ・入院アンケート・ご意見箱 CS委員会で報告、全館メール報告 ・7月七夕、11月日本フィル演奏会、12月クリスマス会 ・1階椅子清掃（受付会計・外来・検査・放射線） ・ペットボトルキャップで世界の子どもにワクチンを届けよう キャップ回収重量157kg ポリオワクチン39.3人分
目標の評価	下期は委員会が中止になり、ラウンドも行うことができなかった。 しかし、入院アンケート・ご意見箱で意見をいただいた内容を改善するため、CSラウンドを行うことを10月に決定し新たな活動を増やせた事は良い事であった。 外来アンケートは、外来満足度72.9%前年比9.9%アップ、回収率27.2%前年比1.6%ダウン 入院アンケートは、入院満足度64.2%前年比2.8%ダウン、回収率15.1%前年比1.1%ダウン 外来満足度はアップしたが、入院満足度と外来・入院アンケート回収率はダウンした。満足度も回収率も目標（外来・入院満足度80%外来回収率40%入院回収率30%）の達成には至らなかった。
今後の展望	CS委員が接遇研修やコミュニケーション能力講座に参加することで接遇向上やコミュニケーションスキル向上に取り組む。CS委員が意識することにより、部署全体に接遇やコミュニケーションの向上が繋がれば患者満足度の向上にも繋がると考える。さらに患者さんが安全安心に過ごせる環境作りにつながる。

文責：河野 浩誠

## 24) ES向上委員会

構成員数	各部署より1名
2019年度 目標、方針	職員がより働きやすい職場環境を構築する 職員間の親睦を深める
業務（活動） 内容、特徴等	福利厚生職員の周知 各部署からの要望事項を集約し改善案を提案する 職員間の親睦を深めるためにレクリエーションを開催 クラブ活動のサポート
実 績	福利厚生についての各部署からの疑問点に対応 レクリエーションの内容についてアンケートの実施 ボウリング大会、ミニバレー大会の実施 クラブ活動をサポート
目標の評価	ボウリング大会、ミニバレー大会を実施したが、それぞれ参加者も多く、職員間のコミュニケーションをはかりチーム力の向上へつながった クラブ活動は敬和会として活動をサポートする
今後の展望	職員が業務を行う中で必要とされるチームワークをレクリエーションを通してより結束の強いものとする よう今後も活動をしていく予定である ミニバレー大会は年々参加者が多くなってきており、今後も継続して開催していく、また今回ボウリング大会を実施したが今後も職員の意見を聞きながらレクリエーションを企画する

文責：太田有美子

## 25) からだ情報室運営委員会（図書委員会）

構成員数	委員長：井上 真 事務局：太田 有美子 医師 1名、看護師 7名、理学療法士 2名、管理栄養士 1名、臨床工学技士 1名、 薬剤師 1名、臨床検査技師 2名、診療放射線技師 1名、事務職 4名 合計20名
2019年度 目標、方針	患者及び家族の利用促進 職員の利用促進 書籍の貸出促進
業務（活動） 内容、特徴等	院内ポスター更新 発行後5年を経過した医療書籍の整理 パンフレットやパソコンでの情報提供 コピー、パソコンからの印刷対応
実 績	2018年度 患者及び家族等の利用、74.8件/月 職員利用、15.4件/月 書籍の貸出、32.3件/月 2019年度 患者及び家族等の利用、73.5件/月 職員利用、11.5件/月 書籍の貸出、24.8件/月
目標の評価	2019年度は2018年度より患者及び家族等の利用件数、職員利用件数、書籍の貸出件数共に減少した。その要因は、新入院患者数が増え、病床稼働率が上がり、平均在院日数が減少したことによるものと考えられる。また年度末は新型コロナウイルスの影響もあったと考えられる。
今後の展望	2015年3月に専従の図書司書が退職し、「からだ情報室」の実務を院内職員が兼務しなければならなくなった。 委員会を活発に行い、専従の図書司書がいた頃と機能を落とさないようにする。 また、医療書籍やパンフレットの更新を行う。

文責：藤澤 智章

## 26) 特定行為研修運営委員会

構成員数	16名
2019年度 目標、方針	看護師の特定行為に係る指定研修機関として、適切な指導体制や安全管理のための体制が確保され研修計画や受講生の履修状況管理・評価を行い、特定行為研修の到達目標が達成できるよう管理・運営を行う。
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定研修機関としての申請書類を医道審議会へ提出、厚生労働省より2区分の指定を受けて21区分38行為の中の「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「創傷管理関連」研修を開講。（共通科目315時間、区分別科目は34時間・72時間）</li> <li>2. 行為別区分の決定、申請書類作成、研修や指導体制の決定（研修形式・指導医決定）、受講者の選考試験及び決定、研修計画やシラバス作成及び要項作成。</li> <li>3. 研修生の履修状況管理や進捗状況の情報共有を行い、研修が適切に運営できるよう評価を行う。</li> <li>4. 年3回の外部委員を含む特定行為研修管理委員会への報告を行う。</li> <li>5. 特定行為に係る手順書・指示書の作成・承認及び運用</li> </ol>
実 績	<p>毎月第4月曜日18：00～定例の運営委員会を開催（累計41回）</p> <p>2018年度 4名の研修受講者についての履修状況や進捗状況を把握し共通科目（7科目）の科目修了試験結果に基づき区分別科目へ進む判定を行った。</p> <p>その後区分別科目（筆記試験、演習・実習の評価、OSCE）科目修了試験を行い3名の修了生の認定を決定。管轄の地方厚生局を経て厚生労働省に認定結果を報告した。</p> <p>年次報告書の作成、助成金申請書類の作成と助成金確保を行った。</p>
目標の評価	<p>適切な指導体制や安全管理のための体制は確保でき運営委員会のメンバーに医療安全対策室長を含め、迅速に対応できる体制を構築。第1期生が患者に行う特定行為の実習においては指導体制も適切に行い事故もなかった。</p> <p>研修生の状況に応じて研修体制も適時対応を行い、運営委員会に進捗状況を報告し情報共有を行った。</p> <p>3名の研修生が認定を受け、臨床現場で活躍できるよう研修終了後のフォローアップ研修を計画し一部実施した。</p>
今後の展望	<p>保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令の変更に伴い、臨床現場のニーズを把握し領域別パッケージ研修の検討及び決定、研修時間の変更申請等の検討を行う。</p> <p>研修生の確保を行い、看護師の臨床推論やフィジカルアセスメント能力の向上を図り看護の質の向上を目指す。</p> <p>医師のタスクシェア・タスクシフトに繋げる。</p>

文責：古川 雅英、藤谷 悦子



## 1) 講演・ポスター発表・講義・指導・表彰

## ① 診療部

## ■ 循環器内科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/4/25 超高齢社会における DOACの有用性に ついて考える会	高齢者における心房細動マネジメント 脇坂 収
2019/5/16 FOOTの会	高度石灰化病変に対する、 俺のwiring 藤田崇史、石川敬喜
2019/6/15 大分冠動脈研究会	労作時胸痛を主訴に外来受診した 中年女性の一例 藤田崇史、御手洗和毅、石川敬喜、 浦壁洋太、金子匡行、脇坂 収、 宮本宣秀、永瀬公明
2019/6/28 大分東 救急カンファレンス	心電図について part II 浦壁洋太
2019/6/29 第126回 日本循環器学会 九州地方会	遠隔モニタリングで 数時間の心房頻拍調律が確認され、 2か月後に左心耳内血栓、 急性動脈閉塞をきたした1例 御手洗和毅、脇坂 収、藤田崇史、 浦壁洋太、金子匡行、宮本宣秀、 永瀬公明
2019/7/18 国東市医師会 学術講演会	心不全合併心房細動のマネジメント 脇坂 収
2019/7/19 大分心血管インターベン ションカンファレンス	バルーンで拡張困難であった 重度石灰化病変に DIAMONDBACKを用いることで 良好に拡張できた1症例 金子匡行
2019/8/24 第29回 CVIT九州地方会	慢性期にDCAによる 医源性冠動脈解離を来した一例 藤田崇史、御手洗和毅、石川敬喜、 浦壁洋太、金子匡行、脇坂 収、 宮本宣秀、永瀬公明
2019/9/20 第22回 佐伯糖尿病研究会	大血管障害 永瀬公明
2019/9/23 第9回 世界ハートの日 市民公開講座	心臓病の予防と治療 ～狭心症・心筋梗塞について～ 永瀬公明
2019/10/24 循環器疾患を考える会	心房細動による 脳梗塞リスクを見直す 脇坂 収
2019/10/31 大分総合診療セミナー	末期心不全患者さんに対する 治療の現状 宮本宣秀

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/11/7 アプレーション関連 秋季大会	Maze術後のリエントリー性 心房頻拍に対して high resolution mappingにより 頻拍回路を同定し得た1例 御手洗和毅、脇坂 収、藤田崇史、 浦壁洋太、金子匡行、宮本宣秀、 永瀬公明
2019/11/11 第10回 大分抗凝固療法懇話会	当院での心房細動合併PCI後の 抗血栓療法 金子匡行
2019/11/12 Medical Cooperation Meeting of Cardiology	AF合併患者PCIの抗血栓療法 永瀬公明
2019/11/15 第37回 大分心臓リハビリ テーションセミナー	心不全ステージC-D患者の 現状と治療 宮本宣秀
2019/11/22 ARIA2019	循環器医による循環器医のための VAIVT～AVFIについて～ 藤田崇史
2019/12/3 心房細動治療 Up To Date	心房細動を見つけたら 脇坂 収
2019/12/7 第127回 日本循環器学会 九州地方会	アナフィラキシーショックにより 冠攣縮が誘発されたと考えられた1例 御手洗和毅、脇坂 収、藤田崇史、 浦壁洋太、金子匡行、宮本宣秀、 永瀬公明
	上腸間膜動脈解離発症より 約一年後に、腹腔動脈解離を 発症した一例 藤田崇史、御手洗和毅、石川敬喜、 浦壁洋太、金子匡行、脇坂 収、 宮本宣秀、永瀬公明
2020/1/28 第30回 日本心血管インターベン ション治療学会 九州地方会	CABG後、SVG-4PD、RA-D1の 2枝急性閉塞に対して PCIを施行した1例 浦壁洋太、永瀬公明、宮本宣秀、 金子匡行、脇坂 収、石川敬喜、 御手洗和毅、藤田崇史
2020/2/1 第8回 ハートアタック	突然おこる心臓発作/BLS (一時救命処置)の方法と実技 宮本宣秀
2020/2/6 植込みデバイス関連 冬季大会	心臓再同期療法が有効であった 右脚ブロック波形を呈する 陳旧性心筋梗塞の1例 御手洗和毅、脇坂 収、藤田崇史、 浦壁洋太、金子匡行、宮本宣秀、 永瀬公明
2020/2/12 第3回 宮崎循環管理セミナー	当院における高齢心不全患者に 対するアプローチ 宮本宣秀



開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2020/2/26 第18回 心不全地域連携 勉強会	心不全患者に対するACPと意思決定支援 宮本宣秀

## ■ 血管内科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/5/18 The 36th Live demonstration in KOKURA	創傷治癒予報!! 血行再建のみで傷が治る確率ほぼ0% 石川敬喜
2019/10/19 第1回 日本フットケア・足病医学会 九州沖縄地方会学術集会	R2Pの注意点 石川敬喜
2019/11/22 ARIA2019	重症下肢虚血A to Z 岡スタイルを学ぶ 石川敬喜、佐藤精一、松 久美、次山航平、麻生 恵

## ■ 消化器センター外科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/5/24～25 第17回 日本ヘルニア学会	First trocar挿入に難渋した 腹腔鏡下mesh修復を行った 高度肥満臍ヘルニアの1例 田邊三思、蔀 由貴、佐藤 博、荒巻政憲
2019/6/1 第234回 大分県外科医会	腹部コンパートメント症候群に対する一時的閉腹におけるABTHERAドレッシングの使用経験 秋篠宏介、田邊三思、蔀 由貴、佐藤 博、荒巻政憲
2019/6/15 第31回 大分内視鏡外科研究会	腹腔鏡・内視鏡合同手術で 胃局所切除を施行した 胃粘膜下腫瘍の1例 蔀 由貴、田邊三思、佐藤 博、荒巻政憲
2019/9/7 第235回 大分県外科医会	粘膜下腫瘍様の形態を呈した 特発性腸重積の1切除例 山本豊貴、蔀 由貴、田邊三思、佐藤 博、荒巻政憲  現在なら助けられたかもしれない 十二指腸球後部潰瘍の1例 荒巻政憲
2019/9/28 第44回 大腸肛門病学会九州 地方会	当院における閉塞性大腸癌に対する術前大腸ステント留置の症例検討 蔀 由貴、田邊三思、佐藤 博、荒巻政憲
2019/12/5～7 第32回 日本内視鏡外科学会	腹腔鏡下に肝鎌状間膜を用いて閉鎖した心嚢内ヘルニアの1例 西依 諒、蔀 由貴、田邊三思、佐藤 博、荒巻政憲
2020/2/8 第47回 大分救急医学会	腹部単純CT検査にて発見され内視鏡的摘出が可能であった経肛門的異物の1例 栗山 周、首藤充孝、田邊三思、衛藤孝之、蔀 由貴、佐藤 博、荒巻政憲

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2020/2/15 第14回 九州ヘルニア研究会	腹腔鏡下修復術を行った傍ストマヘルニアの1例 川原田元亨、田邊三思、蔀 由貴、佐藤 博、荒巻政憲
2019/9/28 第44回 大腸肛門病学会 九州地方会	大腸・悪性2 座長：佐藤 博

## ■ 形成外科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/4/20 第23回 口蓋裂公開勉強会	当施設における口唇口蓋裂の治療戦略における外科的矯正治療 古川雅英
2019/4/11 第62回 日本形成外科学会 総会・学術集会	レーザースペックルフローグラフィの使用経験（1） Blue toe症候群の診断、小切断の高位決定 石原博史  レーザースペックルフローグラフィの使用経験（2） EVTのエンドポイント決定における有用性 古川雅英
2019/5/10 下肢救済足病学会 北海道地方会	特別講演： 遠隔診療と地域医療連携について 松本健吾
2019/5/15 日本形成外科学会総会	シンボ： Allは形成外科に パラダイムシフトをもたらすか 松本健吾
2019/5/17 第62回 日本形成外科学会 総会・学術集会	OASIS®細胞外マトリックスの使用経験 佐藤精一、松本健吾、石原博史、古川雅英
2019/6/1 第5回 塩谷塾研究会	医療とIT/IOTの実践 松本健吾
2019/6/2 第41回 大分腎臓病協議会・総会	元気に歩き続けよう 大分で透析患者の足を守る取り組みと正しいフットケア 古川雅英
2019/6/26 第4回 地域連携勉強会	なおりにくい傷の話 古川雅英
2019/6/27～28 第11回 日本下肢救済・足病学会学術集会	シンポジウム1 在宅を考える 座長：古川雅英  当院の歩行を守り、生活を護るための作業療法士のリハビリテーション 古川雅英  ポスター： 普段からの重症化予防 松本健吾

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/6/27～28 第11回 日本下肢救済・ 足病学会学術集会	シンポ1： 下肢慢性創傷のリハビリテーション が普及するために必要なこと、 診療報酬について 松本健吾
	シンポ2： 下肢慢性創傷のリハビリテーション の未来について考える。 さらなる普及と生活機能への 関わりについて 松本健吾
	シンポ4： 生活を護るための入退院支援とは 松本健吾
	生活を護るためのリハビリの実際 ～医師の役割～ 佐藤精一、松本健吾、石原博史、 古川雅英、迫 秀則、立川洋一
2019/6/30 第66回 日本デザイン学会	感染防御のための 新しいアイシールドの研究開発 松本健吾
2019/7/4 第11回 日本創傷外科学会総会	治療に難渋した透析糖尿病患者の2例 古川雅英
2019/7/13 治験委員会 KANEKA	講義：古川雅英
2019/7/17 第21回 あいカンファレンス	フットケアの診療体制、 糖尿病から足を守る 古川雅英
2019/7/19 津久見医師会 学術講演会	足病変の治療の実際 古川雅英
2019/7/19 第21回 日本医療マネジメント学会 学術総会	医療機関における office365の導入について 佐藤精一
2019/8/17 第77回 大分形成懇話会	成人のHemifacial microsomiaに 対する顎矯正手術Le FortⅠ骨切り、 下顎骨骨延長、オトガイ形成を施行 した1例 古川雅英
2019/8/29 Medtronic IN.PACT Admiral 技術指導 プログラム	多職種連携による下肢救済 ～概要～ 佐藤精一
2019/8/31 長井医院院内講演会	足病のこと 松本健吾
2019/9/7 第1回 フットケア・足病学会 富士山セミナー	隣のフットケア外来： 再発予防のためのフットケア 古川雅英
	パネルディスカッション1 地域連携を考える 座長：古川雅英
	パネル1： 遠方の専門病院、 顔見知りでない専門医と透析室を つなげる遠隔連携について 松本健吾

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/9/24 第10回 北九州透析合併症 カンファレンス	歩いて帰ろう、歩き続けよう 多職種協働による救済治療の実際 古川雅英
2019/10/7 埼玉医大COE	陰圧閉鎖療法に関する研究 松本健吾
2019/10/16 エーザイフットケア カンファ	爪疾患の遠隔診療スクリーニングと 地域医療連携の未来 松本健吾
2019/10/18 センチュリーメディカル カンファ	エコーガイド下穿刺の 新しいデバイス開発について 松本健吾
2019/10/19 第1回 フットケア足病学会九州	遠隔連携ソフトの事例報告 松本健吾
2019/10/24 第5回 大分の透析患者の 足を救う会	closing remarks 座長：古川雅英
2019/10/26 第57回 日本糖尿病学会 九州地方会	遠隔診療ソフトを活用した 足病重症化予防の取り組み 古川雅英
2019/10/31～11/1 第37回 日本頭蓋顎顔面 外科学会総会	上顎骨形成、下顎骨延長、 オトガイ形成術を施行した Hemifacial microsomiaの1例 古川雅英
	顔面多発骨折治療後の睡眠時無呼吸に 対して上下顎骨形成術およびオトガイ 形成術を施行した1例 古川雅英
2019/11/7 北海道市立 千歳市民病院 院内講演会	足のこと 松本健吾
2019/11/22 EVTシンポジウム4. ARIA 2019	重症化し虚血 A to Z ～岡スタイルを学ぶ～ 形成外科の役割 佐藤精一
2019/11/30 ミレニア研究会	足病領域リハビリテーションの 今後の展望 松本健吾
2019/12/19 科研製薬セミナー	爪白癬のこと 松本健吾
2020/1/19 形成外科学会AI部会	Big Dateの収集と活用方法 松本健吾
2020/2/8 九州薬剤師会	薬剤師補助機能をもつ AI-DIの開発について 松本健吾
大分県立看護大学 臨床教授 NP講義	講義：古川雅英
平松学園 言語聴覚士科 講義	講義：古川雅英
ロート製薬 PRP	治験：古川雅英
Caradlius社 幹細胞移植	治験：古川雅英

## ■ 心臓血管外科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/6/29 第126回 日本循環器学会 九州地方会	当院でのMICS-AVRにおける左心耳閉鎖法 高山哲志、迫 秀則、安部由理子、阿部貴文、田中秀幸
2019/7/20 Japan MICS Summit 2019（2019年度）	完全内視鏡下2弁手術の2症例 迫 秀則、安部由理子、阿部貴文、高山哲志、田中秀幸
2019/8/24 第114回 日本血管外科学会 九州地方会	下行大動脈内血栓症に対し胸腔鏡補助下に血栓除去を行った症例 安部由理子、阿部貴文、高山哲志、田中秀幸、迫 秀則
2019/8/29 第52回 日本胸部外科学会 九州地方会総会	完全内視鏡下に大動脈弁位弾性線維腫摘出を行った1例 阿部貴文、迫 秀則、安部由理子、高山哲志、田中秀幸
2019/8/29 九州沖縄 心臓血管外科 症例検討会	当院におけるMICS合併症の数々 迫 秀則、安部由理子、阿部貴文、高山哲志、田中秀幸
2019/9/1 第14回 敬和会学会	低侵襲心臓手術 迫 秀則
2019/9/23 世界ハートの日	低侵襲心臓手術と積極的リハビリ介入による早期社会復帰 迫 秀則、皆田渉平
2019/10/30～11/2 第72回 日本胸部外科学会 定期学術集会	当院におけるMICS-AVRと胸骨正中切開AVRの比較検討 阿部貴文、迫 秀則、安部由理子、高山哲志、田中秀幸
	Off-pump CABG合併左心耳切除は術後の心房細動を予防し得るか 安部由理子、阿部貴文、高山哲志、田中秀幸、迫 秀則
	心臓再手術において右肋間開胸アプローチと正中開胸アプローチとの比較検討 高山哲志、安部由理子、阿部貴文、田中秀幸、迫 秀則
	完全内視鏡心臓手術に伴って行う“PV-LAA isolation”の初期成績 迫 秀則、安部由理子、阿部貴文、高山哲志、田中秀幸
2019/11/23 Heart valve expert meeting 2019	完全内視鏡下SJM機械弁による2弁置換術+PV-LAA isolation 迫 秀則、安部由理子、阿部貴文、高山哲志、田中秀幸

## ■ サイバーナイフセンター

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/11/6 宮崎県立日南病院 研修会	当院のサイバーナイフ治療について 香泉和寿

## ■ 放射線科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/5/31 第48回 日本TVR学会総会	孤立性内腸骨動脈瘤に対する血管内治療の成績 大地克樹、本郷哲央、亀井律孝、清末一路、松本俊郎、川野まどか、岡本啓太郎、和田朋之、宮本伸二、首藤利英子

## ■ 脳神経外科

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/3/9 第55回 大分県脳卒中懇話会	座長：戸井宏行
2019/3/12 金谷公民館 講演会	脳と脊髄の病気 戸井宏行
2019/4/23 地域連携研修会	難治性疼痛に対する脊髄刺激療法 戸井宏行
2019/5/25 第14回 スポーツダイバーシティ 医科歯科研究会	スポーツを受傷機転とした外傷性椎骨動脈解離 戸井宏行
2019/6/17 宮河内公民館 講演会	脳と脊髄の病気 戸井宏行
2019/6/20 第34回 日本脊髄外科学会	頸椎に発生した benign fibrous histiocytoma の1例 戸井宏行
2019/6/25 大分リハ ITB勉強会	痙攣に対するバクロフェン髄注療法 戸井宏行
2019/7/23 OAC Real World Meeting	当院における院内発症脳卒中の検討 戸井宏行
2019/8/31 第21回 NEURO spinal セミナー	新設した脳神経外科における脊髄脊髄外科の役割 戸井宏行
2019/9/10 大分リハビリテーション病院 SCS勉強会	難治性疼痛に対する脊髄刺激療法 戸井宏行
2019/10/24 陽光台公民館 講演会	脳と脊髄の病気 戸井宏行

## ■ マキシロフェイシャルユニット

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/4/20 第23回 口蓋裂公開勉強会 「口唇口蓋裂における外科的矯正治療」	当施設における口唇口蓋裂の治療戦略における外科的矯正治療 古川雅英、松本有史、柳澤繁孝、大田奈央、中島康経、小椋幹記
2019/9～12 藤華歯科衛生専門学校 講義	組織学・生理学講義 柳澤繁孝
2019/5/1 平松学園 言語聴覚士科 講義	古川雅英

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/6/8 第29回 特定非営利活動法人 日本顎変形症学会 総会・学術大会	顎矯正手術直後の経口的食事摂取量 増量への取り組み 中野はるひ、松本有史、小椋幹記、 古川雅英、中島康経、大田奈央
	上下顎の前後の偏位の 非常に大きい片側性唇顎口蓋裂 Ⅲ級症例の外科的矯正治療 小椋幹記、松本有史、古川雅英、 中島康経、大田奈央
	顎矯正手術における術後感染予防 抗菌薬投与期間の検討 中島康経、松本有史、大田奈央、 小椋幹記、古川雅英
2019/9/8 第37回 歯の形態学をめぐる 懇話会	かみあわせの不調への取り組み 小椋幹記
2019/10/25 第64回 公益社団法人 日本口腔外科学会 総会・学術大会	大分岡病院における 周術期等口腔支援センター設立の 経緯と今後の課題について 中島康経、松本有史、小椋幹記、 大田奈央、古川雅英、柳澤繁孝
2019/11/21 第78回 日本矯正歯科学会大会	ラウンド・テーブル・ディスカッション 5.『顎矯正手術直後の矯正歯科治療』 小椋幹記
2020/2/8 第15回 九州矯正歯科学会 学術大会	二次的顎裂部骨移植術前矯正治療 による歯根吸収の臨床的検討 小椋幹記、松本有史、古川雅英、 大田奈央

## ②メディカルスタッフ

### ■ 看護部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/4/27 第14回 日本感染管理 ベストプラクティス	環境整備 木津ちひろ、安部久美子
2019/6/28～29 第11回 日本下肢救済・ 足病学会学術集会	看護部 多職種共同での退院支援 退院にあたり必要だと考えること 松 久美、秋岡貴子、西川悦子  生活を護るための リハビリテーションと看護 秋岡貴子、中村結希、浜野真里菜
2019/7/19～20 第21回 日本医療マネジメント学会 学術集会	急性期病院における 退院支援の取り組み 大嶋久美子、中村抄保子、 岡田八重子  尿道カテーテル抜去にむけての チームアプローチ 大嶋久美子、岡田八重子、 佐藤和子
2019/7/27 第37回 日本手術看護学会 九州地区大会	心大血管手術における入室から 執刀までの時間短縮への取り組み 池田愛美
2019/8/23～24 第21回 日本褥瘡学会・ 学術集会	2病棟スタッフの褥瘡への知識を知る ～褥瘡予防と今後の教育のために～ 実山昌代、古川雅英、松 久美、 田中とも
2019/10/27 排泄リハビリテーション ケア研究会	排泄ケアの質向上に向けての 介護福祉士の取り組み 桃田めぐみ、樋田ちどり、 植村聖子
2019/11/17 第37回 大分県病院学会	術前訪問用ファイル改訂 ～説明用紙の統一を目指して～ 竹尾鈴花、池田愛美  排泄ケアの質向上に向けての 介護福祉士の取り組み 桃田めぐみ、樋田ちどり、 植村聖子  救急外来における臨床倫理の取り組み ～振り返りカンファレンスを通して～ 吉田亜巳
2019/12 ARIA2019 EVTシンポジウム4	重症下肢虚血AtoZ 岡病院スタイルを学ぶ ～看護師の役割～ 松 久美
2020/2/14～15 第35回 日本感染環境学会 総会・学術集会	擦式手指消毒剤の 個人携帯導入による効果 中村抄保子、大嶋久美子、 幸 直美  尿道カテーテル抜去にむけての チームアプローチ ～相対的な患者の早期抜去を目指して～ 大嶋久美子、中村抄保子、 幸 直美、佐藤 博
2020/2/17 第46回 大分県救急医学会	救急外来における臨床倫理の取り組み ～振り返りカンファレンスを通して～ 吉田亜巳

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2020/3/7 第42回 大分県看護研究学会	内視鏡下侵襲手術における 挙上肢献下式固定の有用性 池田愛美

### ■ 医療福祉支援部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/6/26 大分岡病院 地域連携研修会	(講義) 静脈疾患・浮腫における 圧迫療法について 秋好泉美
2019/6/28～29 第11回 日本下肢救済・ 足病学会学術集会	シンポジウム4 生活を護るための入退院支援とは 麻生 恵  サテライト研究会1 第5回下肢慢性創傷の予防・リハビ リテーション研究会 「下肢慢性創傷のリハビリテーション の未来について考える。 ーさらなる普及と生活機能へのかか わりについてー」 症例検討 下肢慢性創傷患者の生活機能への 関わり 麻生 恵
2019/7/19～20 第21回 日本医療マネジメント学会 学術集会	急性期病院における 退院支援の取り組み 大嶋久美子、中村抄保子、 岡田八重子  尿道カテーテル抜去に向けての チームアプローチ 大嶋久美子、岡田八重子、 佐藤和子  入院支援業務の活動と今後の課題 中村抄保子、大嶋久美子、 岡田八重子
2019/9/6 県南・豊肥地区研修会 (臨床検査技師会)	(講義) 弾性ストッキング講習会 秋好泉美
2019/11/17 第37回 大分県病院学会	高齢者への自己導尿 (CIC)指導 ～退院支援を通して～ 西川悦子、大嶋久美子、斎藤保子、 岡田八重子、佐藤和子
2019/11/22 ARIA2019	重症下肢虚血AtoZ 岡スタイルを学ぶ! 麻生 恵
2019/12/7 弾性ストッキング・ コンダクター 大分地区講習会	(講師) 実技指導補助者 秋好泉美
2020/2/14～15 第35回 日本環境感染学会 総会・学術集会	尿道カテーテル抜去に向けての チームアプローチ ～相対的な患者の早期抜去を目指して～ 大嶋久美子、中村抄保子、 幸 直美、佐藤 博、立川洋一  擦式手指消毒剤の 個人携帯導入による効果 中村抄保子、大嶋久美子、 幸 直美、佐藤 博、立川洋一



## 薬剤部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/5 第67回 日本化学療法学会総会	MN基準を用いた Clostridioides difficile(CDI) 感染症治療の現状と治療評価 遠山泰崇
2019/5 第22回 日本臨床救急医学会 学術集会	開心術後急性期水分管理における トルバプタンの有効性と 安全性の検討 遠山泰崇、柴田麻美、井上 真
2019/9 第14回 敬和会合同学会	抗菌薬適正使用支援チーム（AST） の活動評価 遠山泰崇
2019/9 大分県病院薬剤師会 栄養輸液研修会	知っておきたい周術期の栄養管理 井上 真
2019/11 第29回 日本医療薬学会年会	臨床栄養領域における 薬剤師業務の変遷とPBPMを考える 井上 真
	抗菌薬適正使用支援チーム（AST） の活動評価 （薬剤師主導のASとの比較） 遠山泰崇、堀光愛子、福島祐子、 新宮裕美、柴田麻美、小野友香理、 福田智哉、武石優哉、野村一馬、 村上里穂、後藤友里絵、井上 真
	偽性心室頻拍における ビルシカイニド用量設定に心電図を 用いて評価した一例 柴田麻美、遠山泰崇、井上 真
	大分岡病院における 含糖酸化鉄注射剤の使用状況調査 武石優哉、遠山泰崇、井上 真
2019/11 大分県病院薬剤師会 栄養輸液研修会	臨床栄養におけるPBPM （プロトコールに基づく薬物治療管理） を考える 井上 真
2020/1 大分県病院薬剤師会 1月例会	心不全における緩和ケア 柴田麻美
2020/1 第25回 大分県薬剤師学術大会	テイコプラニン血中濃度の 院内測定移行後の評価 村上里穂、福島祐子、柴田麻美、 遠山泰崇、伊東佳子、井上 真
	当院における人工膝関節置換術 クリニカルパスの評価 後藤友里絵、柴田麻美、平山沙和、 新宮裕美、福島祐子、遠山泰崇、 亀井誠治、井上 真
	診療情報提供書の薬剤情報を 用いた持参薬鑑別の問題点 野村一馬、福島祐子、遠山泰崇、 井上 真
2020/2 第35回 日本臨床栄養代謝学会 学術集会	法人施設間における電解質 （Na,K,Cl）データの共有と比較 ～施設機能の違いから見えてくること～ 井上 真

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2020/3 第47回 日本集中治療医学会 学術集会	筋無力症を呈した シベンゾリン中毒の一例 柴田麻美

## 検査課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/10/6 日本超音波医学会 第29回 九州地方会学術集会	動静脈に血栓症を繰り返した 高ホモシステイン血症の一例 大野主税、伊東佳子、椎原百合香
	左心耳入口部に発生し 診断に難渋した乳頭状線維弾性腫 志賀若菜、御手洗理代、 椎原百合香、伊東佳子

## リハビリテーション課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/5/22 第47回 日本血管外科学会	特別企画： 下肢慢性創傷の リハビリテーションの実際 大塚未来子
2019/6/28～29 第11回 日本下肢救済・ 足病学会学術集会	シンポジウム： 生活を護る リハビリテーションの実際 次山航平
	シンポジウム： 生活を護る リハビリテーションの実際 加藤恒一
	関連学会コラボレーションセッション： 下肢・足病患者の歩行を護り、 生活を護る作業療法士の役割と 今後の展開 加藤恒一
	サテライト研究会 第5回下肢慢性創傷の 予防・リハビリテーション研究会： 下肢慢性創傷患者の 生活機能への関わり 加藤恒一
	サテライト研究会 第5回下肢慢性創傷の 予防・リハビリテーション研究会 実技講演： 解剖学・運動学を踏まえた ストレッチング技術 大塚未来子
2019/6/29 第20回 日本言語聴覚学会	言語聴覚士が 矯正歯科と連携して行うMFT ー不正咬合に対する口腔習癖の 改善と口腔機能向上への取り組みー 牧 直美
	嚥下機能と口腔機能の関連性 について ーVF検査を通じた言語聴覚士と歯 科医師との連携ー 二本佑里恵

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/7/13～14 日本心臓リハビリテーション学会 学術集会	透析室における 心臓リハビリテーション スタッフ介入の試み 皆田渉平
	高齢心不全患者における 身体的フレイルと 生活空間域・身体活動量との関係 吉村有示
	術前患者さんに対する 入院前心リハ説明の効果 安部優樹
	AMI患者に対する早期自転車 エルゴメータ導入の検証 佐藤 明
2019/7/19 第21回 日本医療マネジメント学会 学術集会	尿道カテーテル留置患者の ADLに関する実態調査 今岡信介
2019/8/4 第8回 大分県ハンドセラピー 研究会	肩のミカタ 基礎編 ～機能解剖と評価～ 徳田一貫
2019/9/1 敬和会合同学会	三次元動作解析システム～VICON 計測の取り組み 石井寛海
	入退院支援に関わる セラピストの成果 宮川真二郎
2019/9/14 第6回日本糖尿病理学 療法学会学術大会	糖尿病足病変に対する外科的除圧 術後の足底負荷量と再発率 次山航平
2019/9/14 日本心血管管理理学療法学会	心臓血管外科手術を受ける 患者さんへの術後の退院時期の 目安と心臓リハビリテーションの 説明を術前の外来時に行うことの 効果について 安部優樹
	当院心臓血管外科術後における 術後せん妄発症因子の検討 東 義庸
	高齢心不全患者における 身体活動量確保の意義 吉村有示
2019/9/20～21 日本医療マネジメント学会 第18回九州・山口連合大会	入退院支援に関わるセラピストの 育成と成果 宮川真二郎
	リハビリにできる退院支援 ～自宅退院の可否に対するFIM活用 の検討～ 中村亮佑
2019/9/23 世界ハートの日 市民講座	低侵襲心臓手術と積極的リハビリ 介入による早期社会復帰 皆田渉平
2019/9/28～29 第61回 全日本病院学会 in愛知	排尿リハビリテーション・ケアチーム の取り組み ～作業療法士の視点から～ 山形凌央

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/10/5～6 第7回 日本運動器理学療法学会 学術大会	急性腰痛を伴う異常姿勢を呈した 症例に対する姿勢改善の理学療法 鈴木雅也、橋本みなみ、 宮川真二郎、今岡信介、 徳田一貫、大塚未来子
	両側同時人工股関節全置換術前後 の理学療法介入後の歩容変化 ～三次元動作解析での関節角度に 着目した一症例～ 指宿 輝、橋本みなみ、 宮川真二郎、徳田一貫、 大塚未来子
2019/10/5～6 日本転倒予防学会	転倒事例報告書からみた せん妄発症とその課題 東 義庸
2019/10/20 心臓リハビリテーション 学会九州地方会	緊急の心臓血管外科手術施行患者 の自宅退院困難因子の検討 家入竜一
2019/10/24 Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2019	リハビリ室からの関わり 今岡信介
2019/10/25～26 日本糖尿病学会 九州地方会	2年間の外来透析中運動療法が 継続できた糖尿病性腎症患者を 経験して 皆田渉平
2019/11/1 第46回 日本臨床バイオメカニクス 学会	シンポジウム 「足・足関節への足圧接地足跡 計測装置による取り組み」 大塚未来子
2019/11/15 大分心臓リハビリ テーションセミナー	末期心不全患者への 心リハの役割と介入 安部優樹
2019/11/17 日本糖尿病理学療法学会 足潰瘍治療期の 理学療法研修会 (関東)	講演 「足潰瘍患者の理学療法の実際」 大塚未来子
2019/11/17 第37回 大分県病院学会	心臓血管外科手術施行患者に対する 入院前説明の効果 安部優樹
	当院心臓血管外科術後における 術後せん妄発症因子の検討 東 義庸
	当院透析室における理学療法士 介入の効果 皆田渉平
	当院循環器病棟における 入退院支援の取り組み 佐藤 明
	総合リハビリテーション課における 栄養チーム立ち上げの取り組み 吉村有示
	急性期整形外科患者の 在院日数短縮に向けて 後藤和也、大塚未来子、 宮川真二郎



開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/11/22 ARIA	EVTシンポジウム4 重症下肢虚血AtoZ 岡病院スタイルを学ぶ 次山航平
2019/11/24 日本糖尿病理学療法学会 足潰瘍治療期の理学療法 研修会 (関西)	講演 「足潰瘍患者の理学療法の実践」 大塚未来子
2019/12/1 第9回 大分県ハンドセラピー 研究会	「肩のミカタ 応用編 ～実技と実践～」 徳田一貫
2019/12/4 心不全ケア webカンファレンス	当院の心臓リハビリテーションの紹介 安部優樹
2019/12/15 日本糖尿病理学療法学会 糖尿病足病変の予防研修会	講演 「身体機能および歩行活動からみた 足病予防」 大塚未来子
	理学療法対象患者に対する 創傷形成予防とフットケアの実践 今岡信介
2020/1/25 第16回日本整形靴時術 協会学術大会福岡大会 教育講演	足圧計測より診る足と歩行 大塚未来子
2020/1/30 熊本実践フットケア研究会 講演	フットケアのリハビリテーション ～足病変予防にむけた取り組み～ 大塚未来子
2020/2/2 第22回 大分県理学療法士学会	消化器外科のがん患者において 入院期間が延長する因子の検討 小野田純子
	半月板損傷術後に 早期理学療法介入を行い 機能障害なく自宅退院した1症例 ～術後の炎症に着目した介入～ 小若女真也、徳田一貫、 宮川真二朗、指宿 輝
2020/2/6 大分県理学療法士 協会ブロック 症例検討会	乳がん術後補助療法に伴い 心不全を発症した一例 池田千夏
2020/2/23 第10回 日本腎臓リハビリ テーション学会 学術集会	当院における外来透析患者の転倒 経験と身体機能について 工藤元輝
2020/2/29 第9回 日本がんリハビリ テーション研究会	サイバーナイフ治療患者の精神機 能の特徴について 工藤愛弓、橋本みなみ

## ■ 栄養課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/6/9 顎変形症学会	顎矯正手術直後の経口的食事摂取 増量への取り組み 中野はるひ
2019/6/18 地域連携検討会	知ってほしい栄養の落とし穴と 歯科介入の効果 長尾智己
2019/7/11 すばる塾	高齢者の栄養 長尾智己
2019/11/17 大分県病院学会	心臓血管外科手術における新たな取り組み ～管理栄養士による術前介入を開始して～ 東 楓歌
	患者のニーズに沿った 栄養指導を目指して 石渡由夏
2019/12/20 介護職向講義	高齢者及び嚥下障害者の 栄養と食事摂取のポイント 長尾智己、島末智美
2020/1/9 すばる塾	高齢者の栄養 長尾智己
2020/1/18 大分NST研究会	NSTスタッフに対する負担調査 業務改善を実施して 古屋知子
2020/1/26 日本病態栄養学会	心臓血管外科領域における 術前栄養管理の取り組み 長尾智己
	褥瘡回診対象患者の栄養評価 および実態調査から見える 今後の課題 後藤幸代

## ■ 医事課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/9/28 第61回 全日本病院学会 in 愛知	EXCELで作るDPC分析データ 首藤稔久

### ③委員会

#### ■ 感染管理委員会

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/7/29 大分リハビリテーション病院 全体研修会	アウトブレイク対応 ～1人1人の行動が鍵、 インフルエンザアウトブレイクを 経験して 幸 直美
2019/9/14 大分 滅菌及び 感染対策研究会 基礎講座	・標準予防策 ・人工呼吸器関連肺炎予防策 幸 直美
2019/11/25 大分豊寿苑 全体研修会	インフルエンザ 幸 直美
2019/12/20 大分東救急カンファレンス	私と傷病者を守るためにできる 感染対策 幸 直美
2020/1/21 佐賀関病院 職員研修会	インフルエンザ対策と 感染性胃腸炎対策 幸 直美

#### ■ 栄養管理（NST）委員会（栄養サポートチーム）

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2020/1 第30回 大分NST研究会	NSTスタッフに対する 負担調査・業務改善を実施して 古屋知子、後藤幸代、小椋幹記、 大久保浩一、佐藤 博、井上 真、 長尾智己
2020/2 第35回 日本臨床栄養代謝学会	法人施設間における電解質 (Na,K,Cl) データの共有と比較 ～施設機能の違いから 見えてくること～ 井上 真

## 2) 投稿・著書・雑誌掲載

### ①診療部

#### ■ 消化器センター外科

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日腹部救急医学会誌 40(3): 503-506, 2020	臍管ロストステントによる 小腸出血の1例 佐藤 博、荒巻政憲、蔭 由貴、 田邊三思

#### ■ 形成外科

誌名・巻・頁・年	題名・著者
J Jpn Soc Limb Salvage Podiatr Med 11: 42-48, 2019	論文: フィラピーによる慢性創傷改善の試み 古川雅英、佐藤精一ら

#### ■ 心臓血管外科

誌名・巻・頁・年	題名・著者
General Thoracic and Cardiovascular Surgery (2019)	論文: Endoscopic-assisted aortic replacement of the descending aorta through the 8th intercostal space to preserve collateral vessels: a case report Hidenori Sako, Hideyuki Tanaka, Tetsushi Takayama, Takafumi Abe & Yuriko Abe

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日本心臓血管外科学会 雑誌 2019/48/250-253	論文: 胸骨部分切開によるMICS-AVR 15年後に右肋間小開胸 MICS-AVRを施行した1例 阿部貴文、迫 秀則、森田雅人、 高山哲志、田中秀幸、安部由理子、 宮本伸二
日本心臓血管外科学会 雑誌 :2019/48/320-323	論文: 大動脈弁交連部離開により急性大動 脈弁閉鎖不全症、低心拍出量症候 群を来した1例 高山哲志、迫 秀則、安部由理子、 阿部貴文、森田雅人、田中秀幸
AtriCure	執筆: 右肋間小開胸時の経心膜横洞での AtriClip PRO1を用いた左心耳閉 鎖術

#### ■ マキシロフェイシャルユニット

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日顎変形誌 29(4): 263-268, 2019.	顎矯正手術直後の経口的食事・栄 養摂取状況の調査. 中野はるひ、小椋幹記、松本有史、 古川雅英、中島康経、大田奈央

### ②メディカルスタッフ

#### ■ 薬剤部

誌名・巻・頁・年	題名・著者
医療薬学. 2019; 45(4): 222-227	カルペリチド注射液による 血管障害の危険因子の解析 遠山泰崇
九州薬学会雑誌. 2019; 73: 9-12	バンコマイシンとタゾバクタム/ピペ ラシリン又はメロペネム併用による 急性腎障害についての検討 遠山泰崇

#### ■ リハビリテーション課

誌名・巻・頁・年	題名・著者
理学療法. 36巻9号p779 - 788, 2019年	変形性膝関節症患者の 異常歩行の分析結果に基づく 理学療法プログラム立案 谷本研二、徳田一貫、阿南雅也
理学療法. 46巻第6号p457 - 456, 2019	包括的高度慢性下肢虚血(CLTII) の 重症化予防における理学療法 林 久恵、大塚未来子

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日本医療マネジメント学会誌 20巻 2号2019	廃用症候群患者のFIMを用いた 在宅退院に関連する要因の検討 今岡信介
大分県理学療法学会 2019 (印刷中)	血管原性下腿切断患者に対する 義足リハビリテーションの臨床経過 今岡信介
日本フットケア学会雑誌 17巻4号p181-185,2019	糖尿病足病変に対する 足趾屈筋腱切離術後の 足底負荷量の軽減効果 次山航平
排尿プラクティス. Vol27.No1.p43-49.2019	排尿自立指導の実践 ーリハビリテーションの立場からー 平石 卓、佐藤浩二、佐藤和子、 大嶋久美子

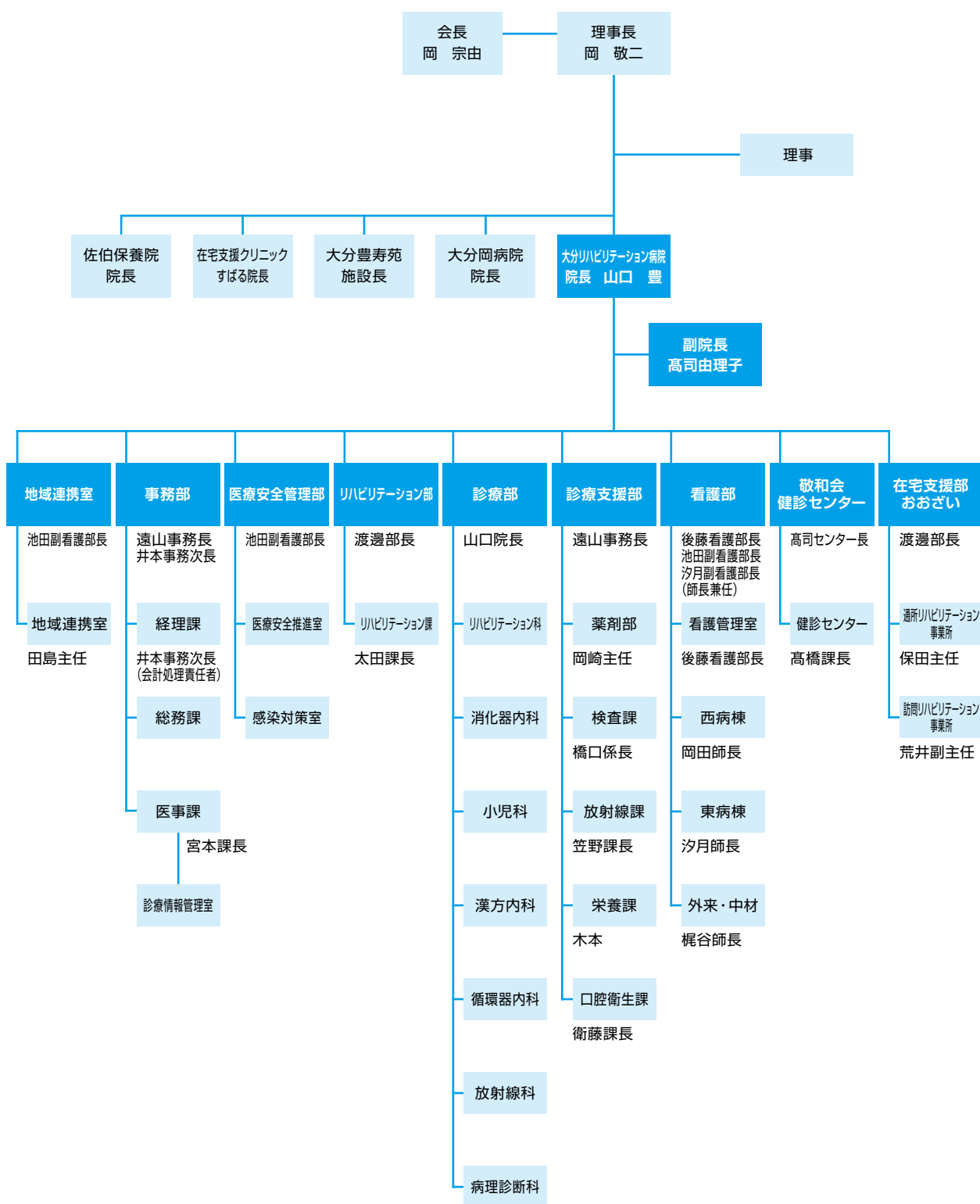
#### ■ 栄養課

誌名・巻・頁・年	題名・著者
日本顎変形症学会雑誌 第29巻 第4号 2019年12月	顎矯正手術直後の 経口的食事・栄養摂取状況の調査 中野はるひ



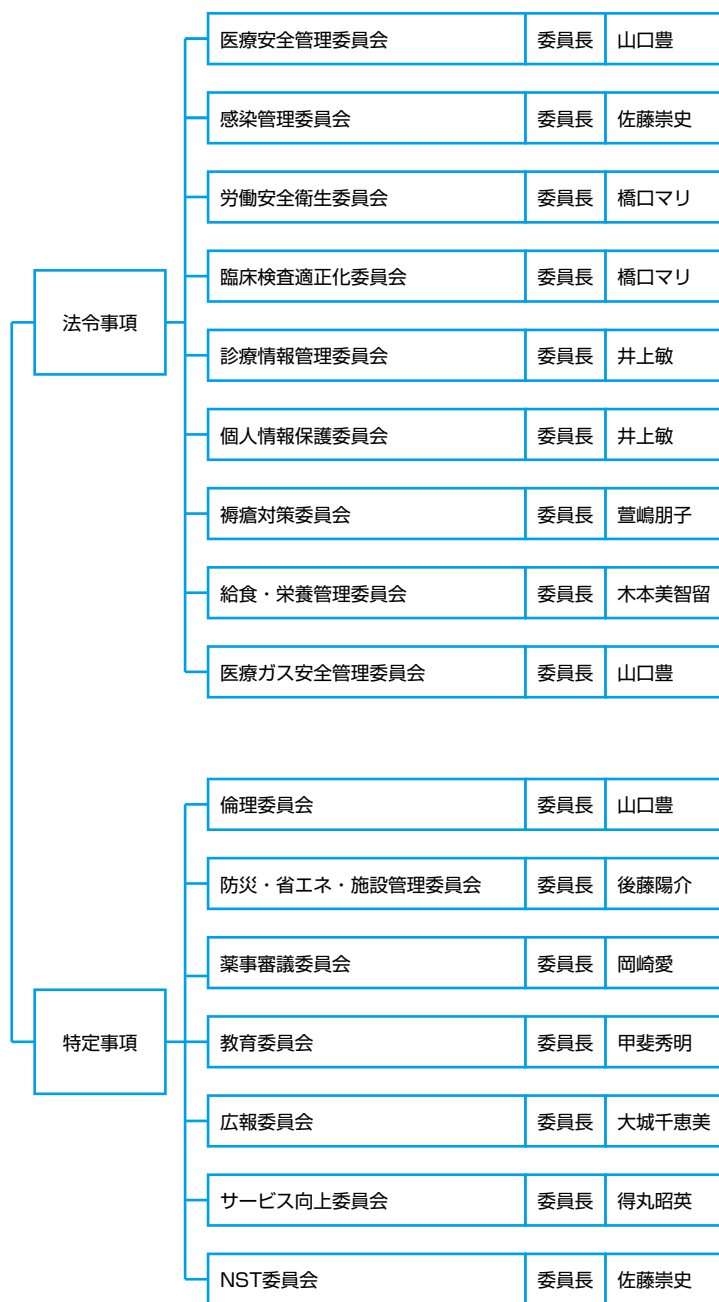
大分リハビリテーション病院



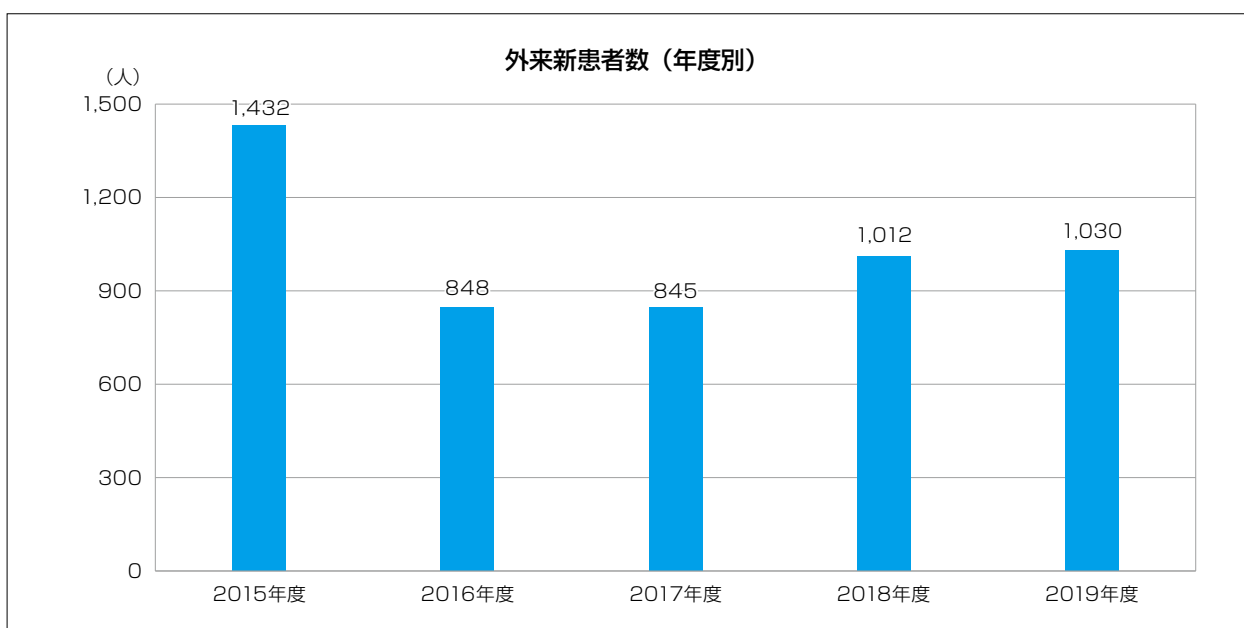
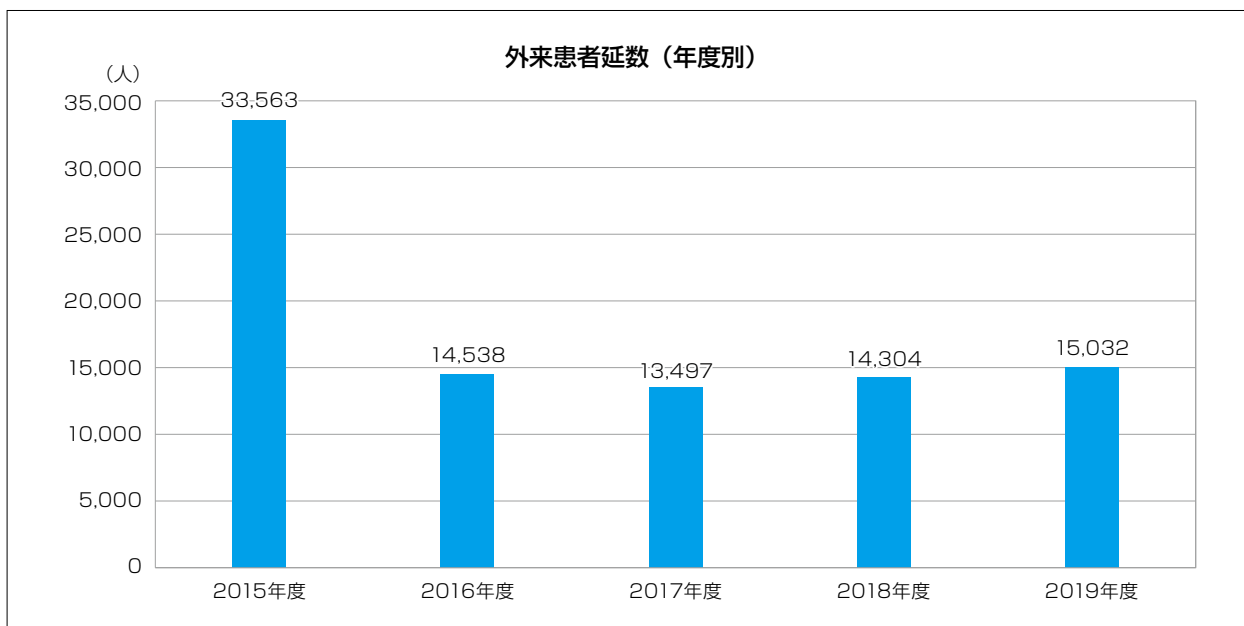


2017年2月1日  
 2017年4月1日改定  
 2017年8月1日改定  
 2018年2月1日改定  
 2018年4月1日改定  
 2018年10月1日改定  
 2018年12月1日改定  
 2019年4月1日改定  
 2019年10月1日改定



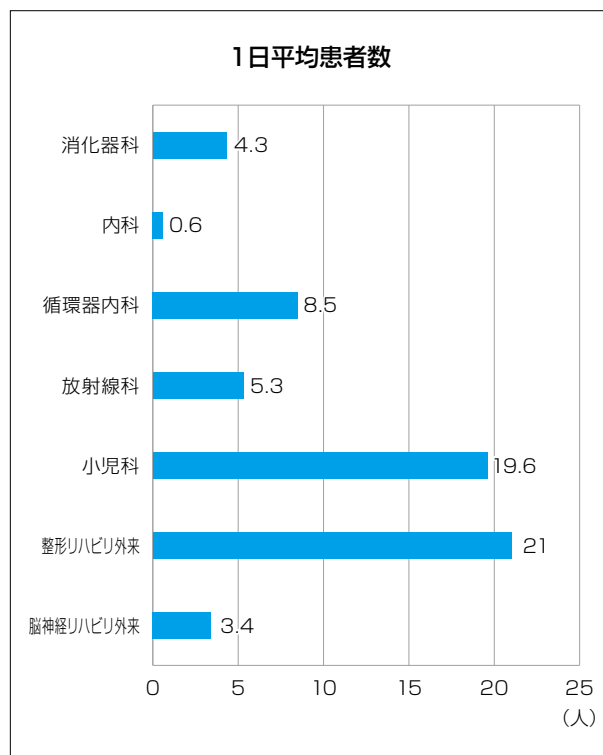
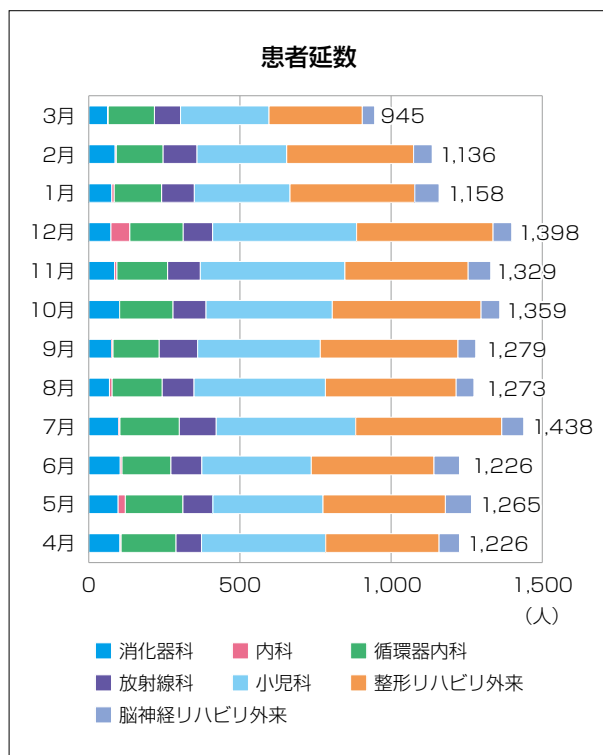


## 1) 外来患者数

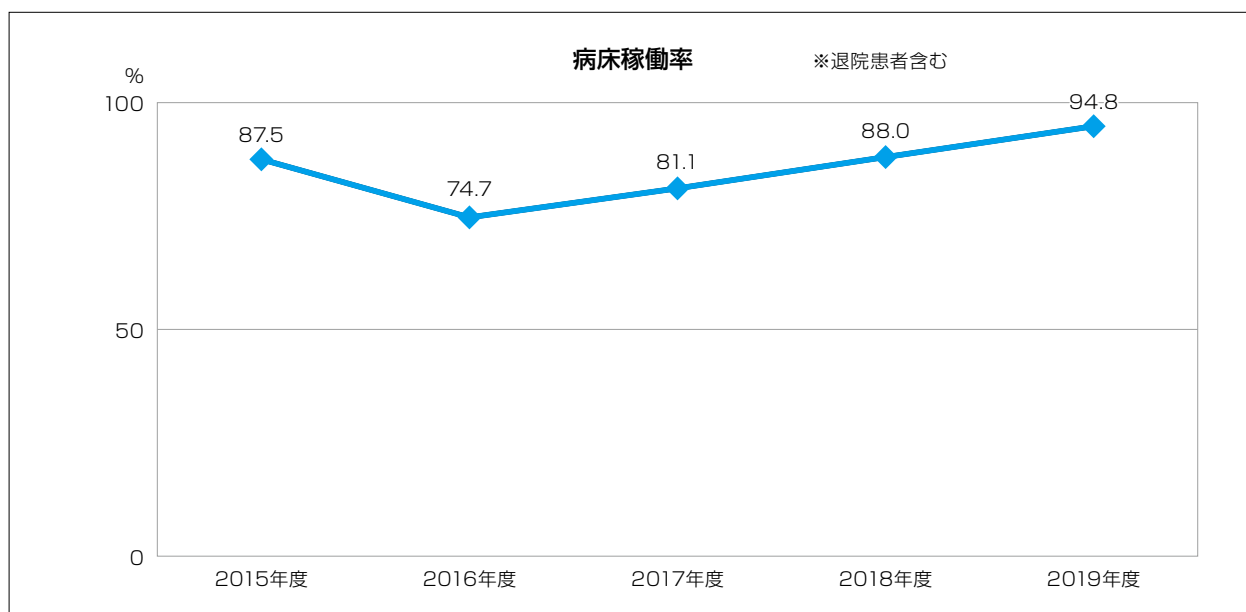
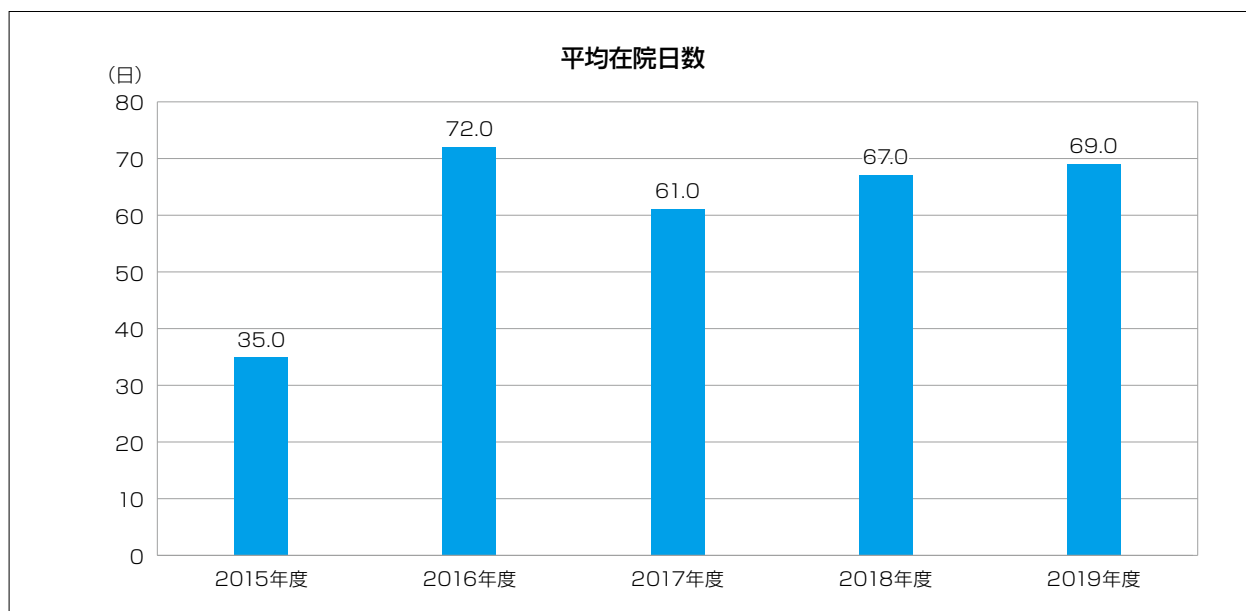
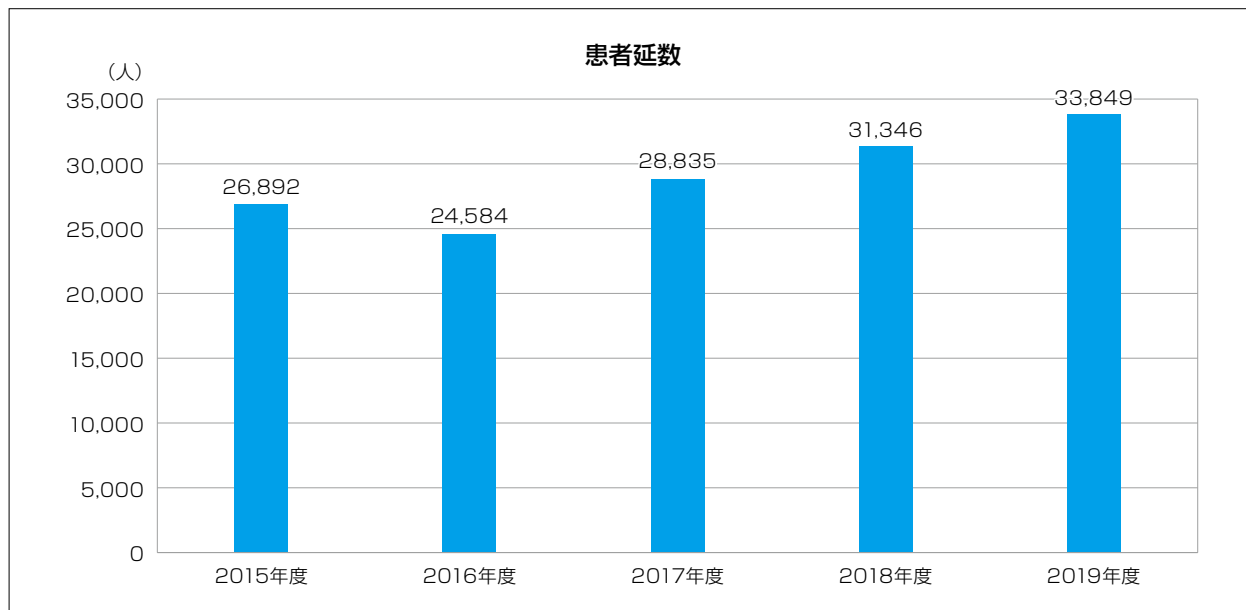


外来患者延数（診療科別）

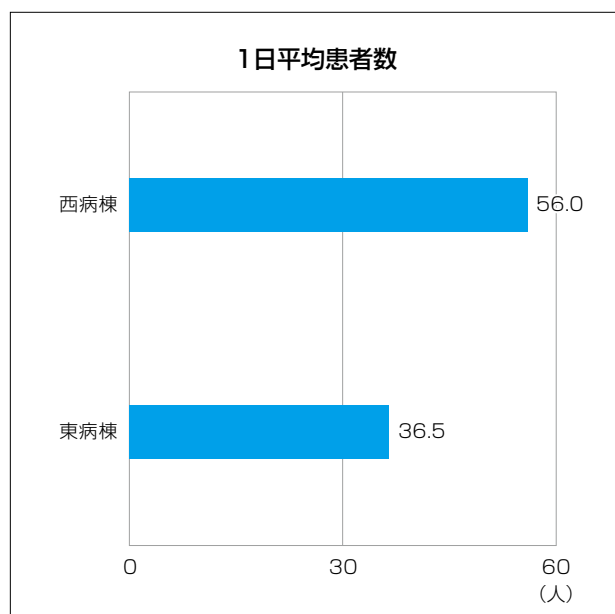
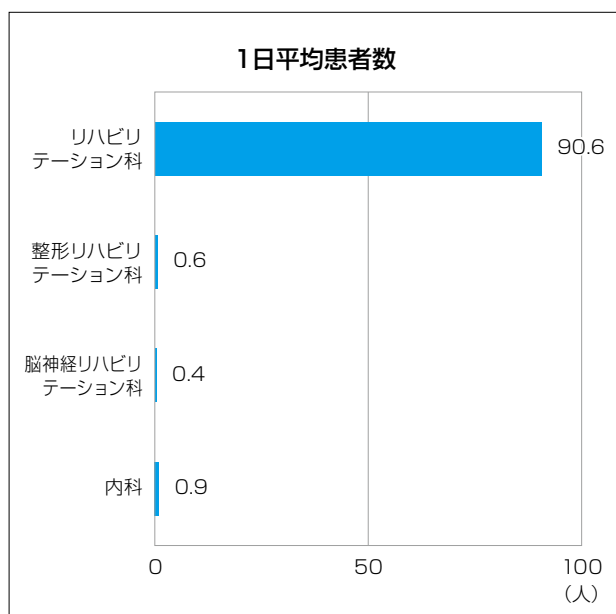
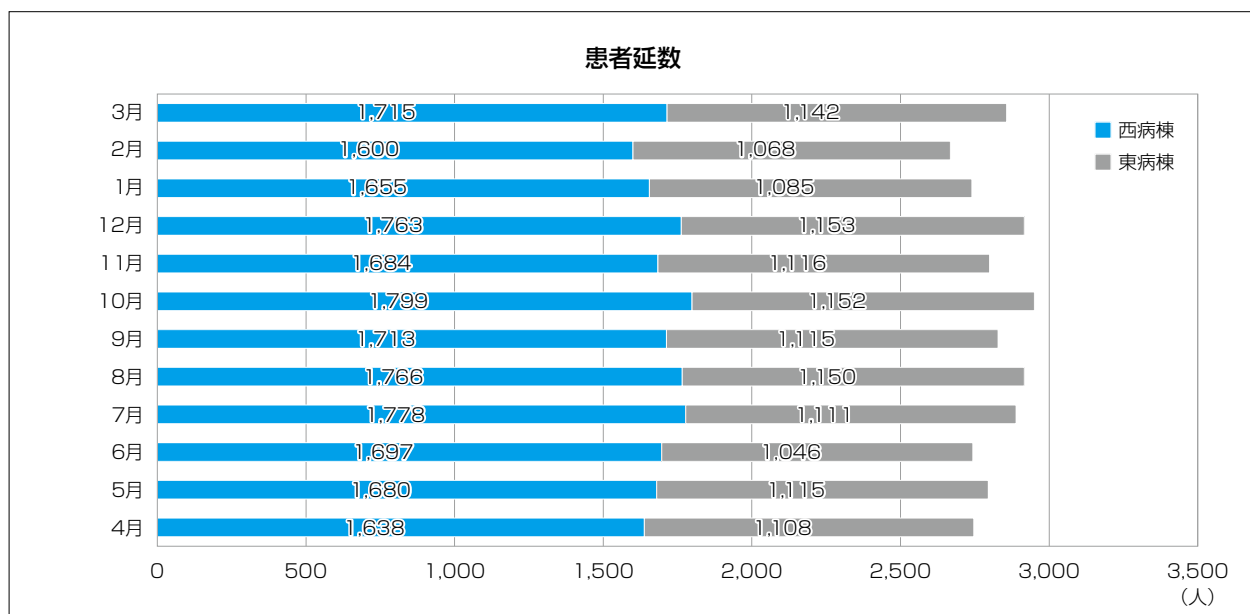
診療科		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実日数		20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	240
消化器科	延数	103	97	104	99	68	76	102	85	73	76	87	62	1,032
	1日平均	5.2	5.1	5.2	4.5	3.2	4.0	4.9	4.3	3.7	4.0	4.8	3.0	4.3
内科	延数	4	24	6	4	9	4	0	8	63	8	4	2	136
	1日平均	0.2	1.3	0.3	0.2	0.4	0.2	0.0	0.4	3.2	0.4	0.2	0.1	0.6
循環器内科	延数	181	190	161	196	166	153	176	168	176	157	155	153	2,032
	1日平均	9.1	10.0	8.1	8.9	7.9	8.1	8.4	8.4	8.8	8.3	8.6	7.3	8.5
放射線科	延数	85	99	103	122	105	127	110	108	97	108	112	86	1,262
	1日平均	4.3	5.2	5.2	5.5	5.0	6.7	5.2	5.4	4.9	5.7	6.2	4.1	5.3
小児科	延数	410	364	362	462	434	406	417	478	477	316	296	293	4,715
	1日平均	20.5	19.2	18.1	21.0	20.7	21.4	19.9	23.9	23.9	16.6	16.4	14.0	19.6
整形リハビリテーション科	延数	375	405	405	483	433	455	492	408	451	413	420	308	5,048
	1日平均	18.8	21.3	20.3	22.0	20.6	23.9	23.4	20.4	22.6	21.7	23.3	14.7	21.0
脳神経リハビリテーション科	延数	68	86	85	72	58	58	62	74	61	80	62	41	807
	1日平均	3.4	4.5	4.3	3.3	2.8	3.1	3.0	3.7	3.1	4.2	3.4	2.0	3.4
小計	延数	1,226	1,265	1,226	1,438	1,273	1,279	1,359	1,329	1,398	1,158	1,136	945	15,032
	1日平均	61.3	66.6	61.3	65.4	60.6	67.3	64.7	66.5	69.9	60.9	63.1	45.0	62.6



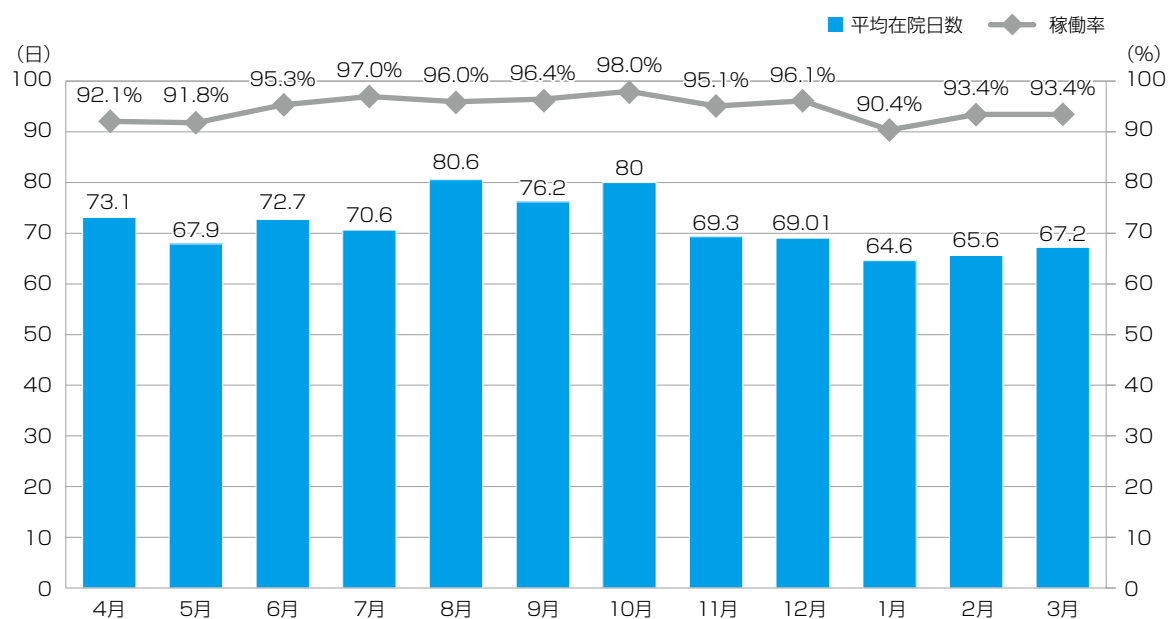
## 2) 入院患者数



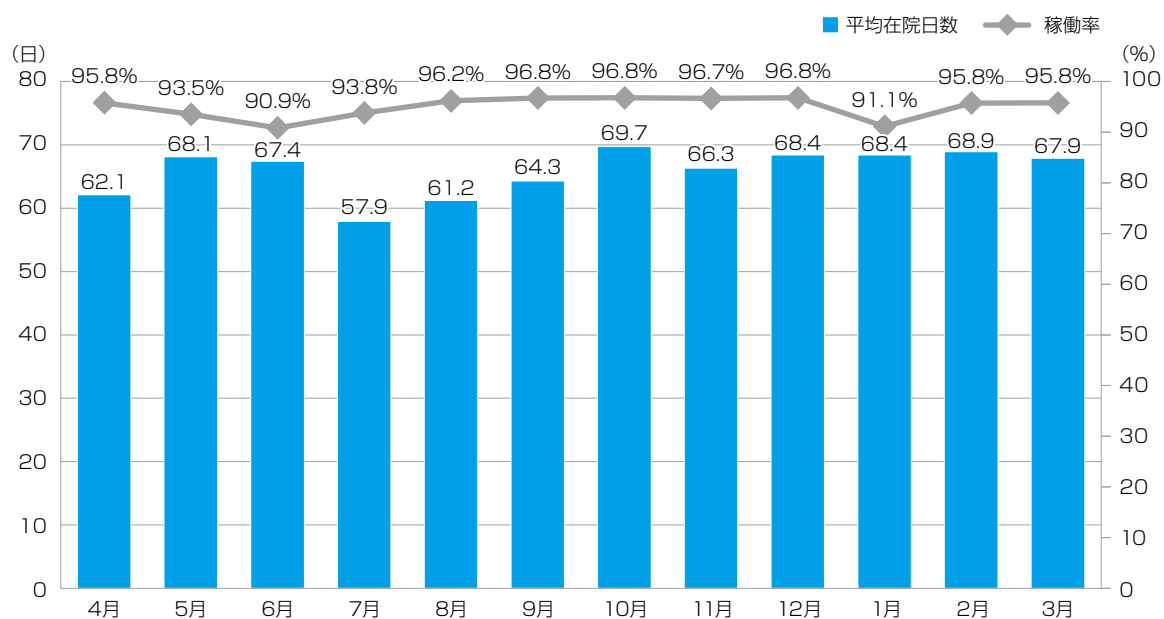
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
西病棟	病 床 数	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	
	在 院 延 数	1,638	1,680	1,697	1,778	1,766	1,713	1,799	1,684	1,763	1,655	1,600	1,715	20,488
	入 院 患 者 数	25	27	19	27	20	23	23	29	23	27	26	20	289
	退 院 患 者 数	20	28	19	26	19	23	24	28	25	26	26	23	287
	病 床 稼 働 率	92.1%	91.8%	95.3%	97.0%	96.0%	96.4%	98.0%	95.1%	96.1%	90.4%	93.4%	93.4%	94.6%
	平均在院日数	73.1	67.9	72.7	70.6	80.6	76.2	80.0	69.3	69.0	64.6	65.6	67.2	71.4
東病棟	病 床 数	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	
	在 院 延 数	1,108	1,115	1,046	1,111	1,150	1,115	1,152	1,116	1,153	1,085	1,068	1,142	13,361
	入 院 患 者 数	15	15	21	21	13	18	19	15	16	18	13	18	202
	退 院 患 者 数	13	16	17	23	13	17	18	15	17	17	15	16	197
	病 床 稼 働 率	95.8%	93.5%	90.9%	93.8%	96.2%	96.8%	96.8%	96.7%	96.8%	91.1%	95.8%	95.8%	95.0%
	平均在院日数	62.1	68.1	67.4	57.9	61.2	64.3	69.7	66.3	68.4	68.4	68.9	67.9	65.9
全入院患者	病 床 数	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	
	在 院 延 数	2,746	2,795	2,743	2,889	2,916	2,828	2,951	2,800	2,916	2,740	2,668	2,857	33,849
	入 院 患 者 数	40	42	40	48	33	41	42	44	39	45	39	38	491
	退 院 患 者 数	33	44	36	49	32	40	42	43	42	43	41	39	484
	病 床 稼 働 率	93.6%	92.5%	93.6%	95.7%	96.1%	96.6%	97.5%	95.7%	96.4%	90.7%	94.4%	94.4%	94.8%
	平均在院日数	68.3	68.0	70.5	65.1	71.8	71.1	75.6	68.1	68.8	66.1	66.9	67.5	69.0



【西病棟】 平均在院日数 / 稼働率

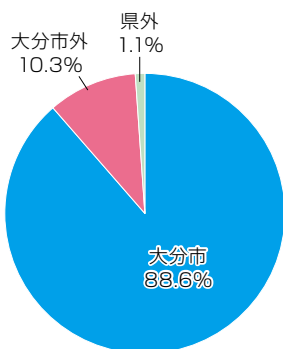


【東病棟】 平均在院日数 / 稼働率

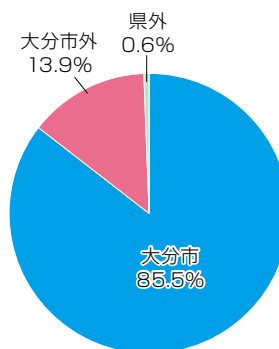


### 3) 診療圏

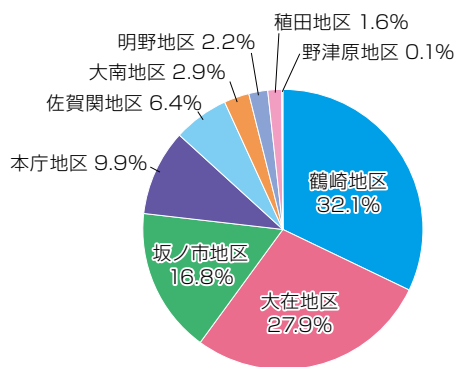
【外来】



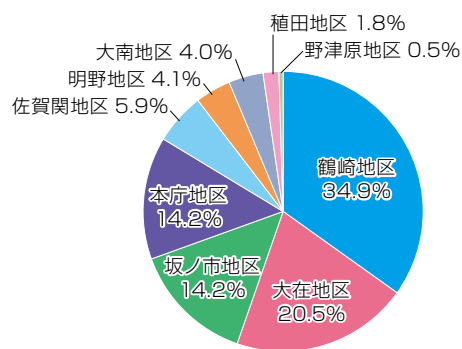
【入院】



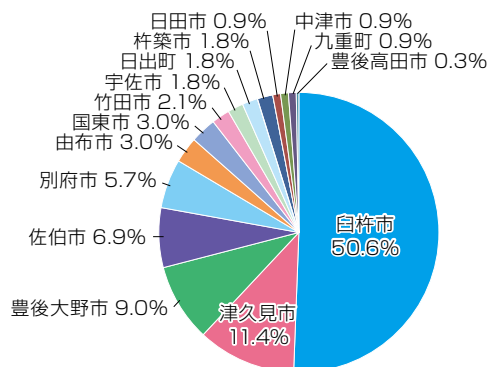
【外来】大分市内



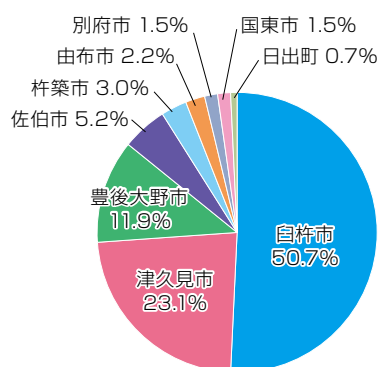
【入院】大分市内



【外来】大分市外

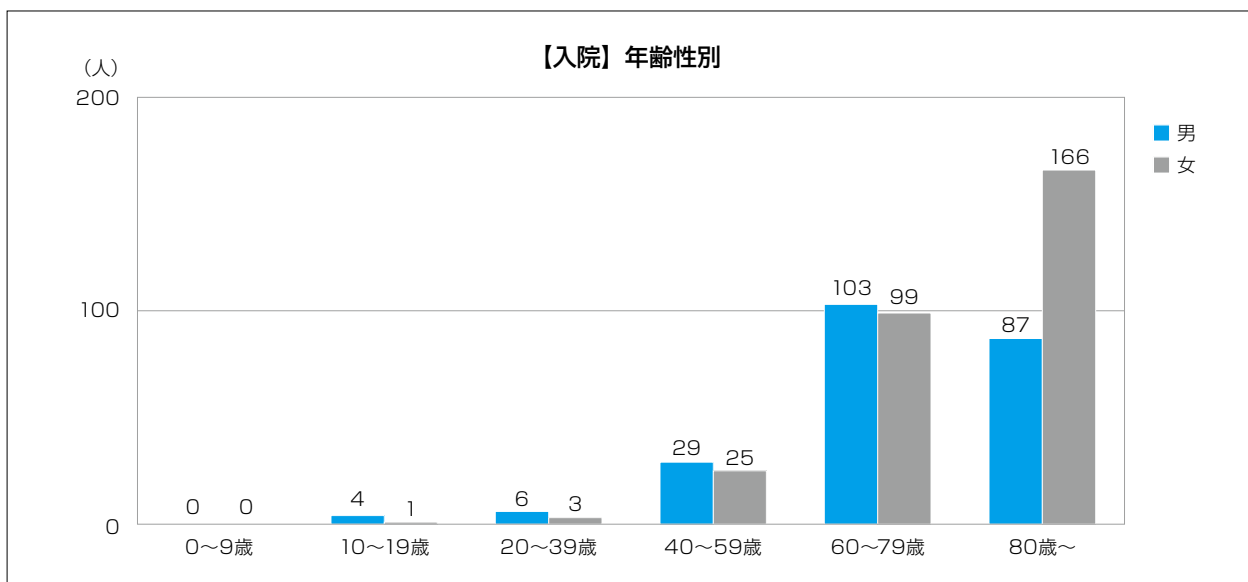
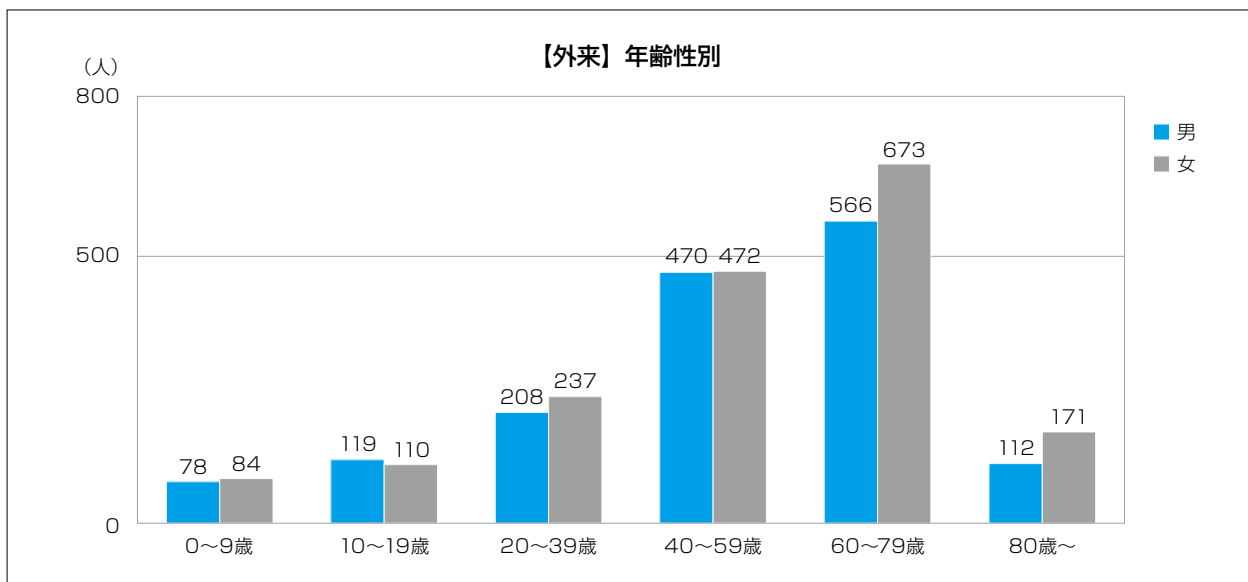
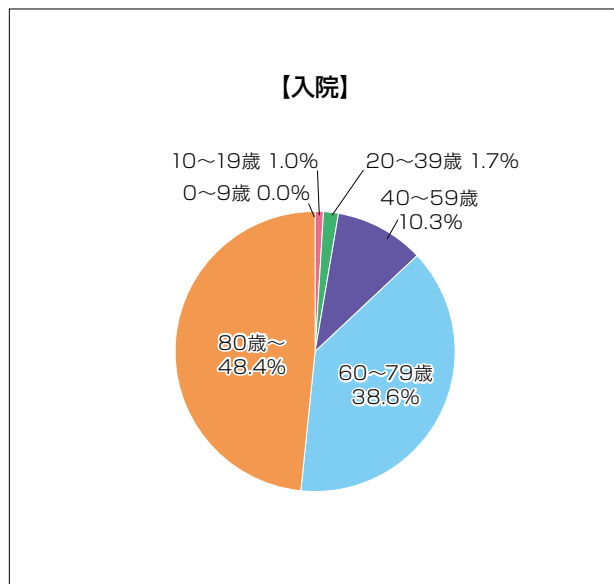
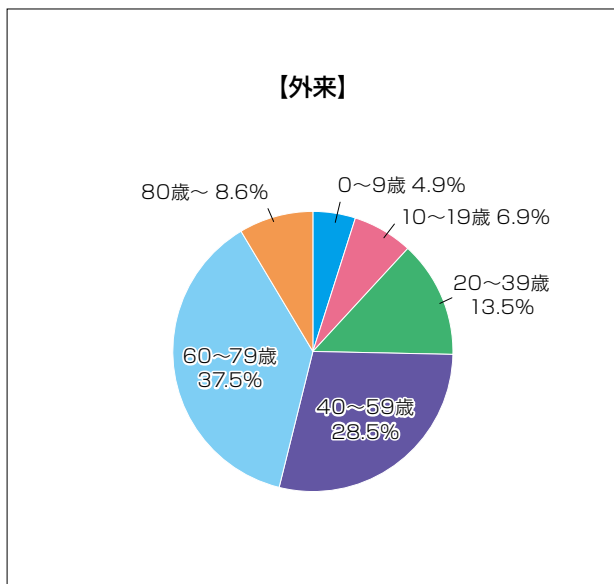


【入院】大分市外





#### 4) 年齢性別

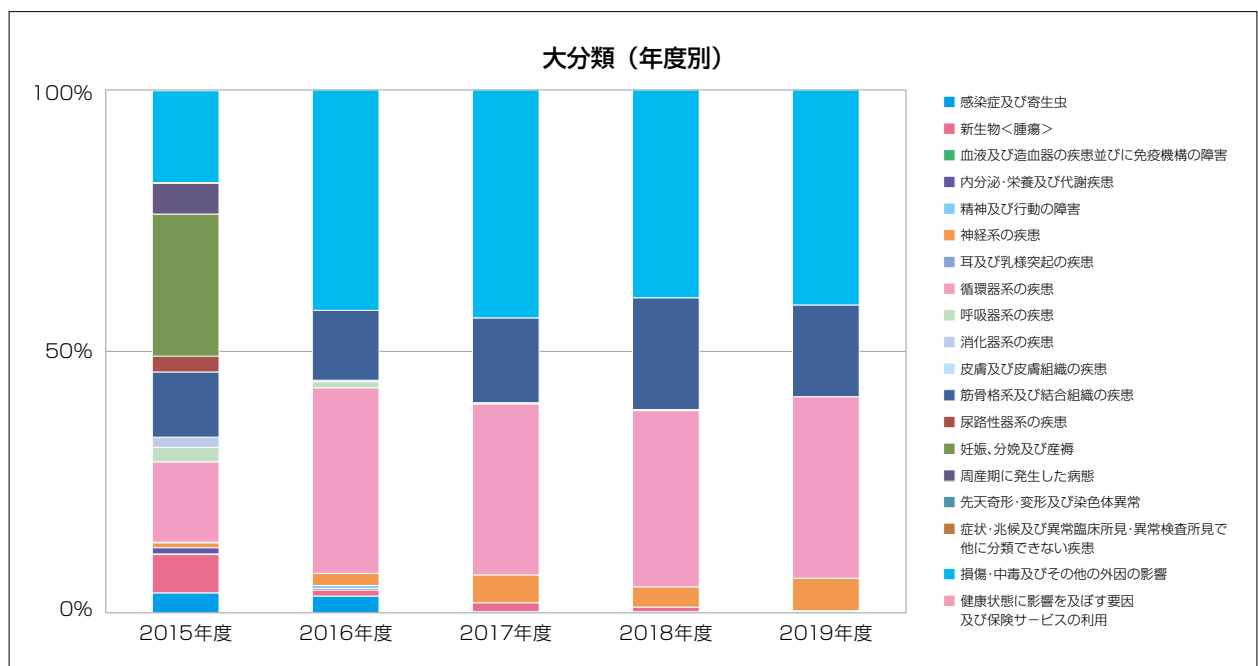
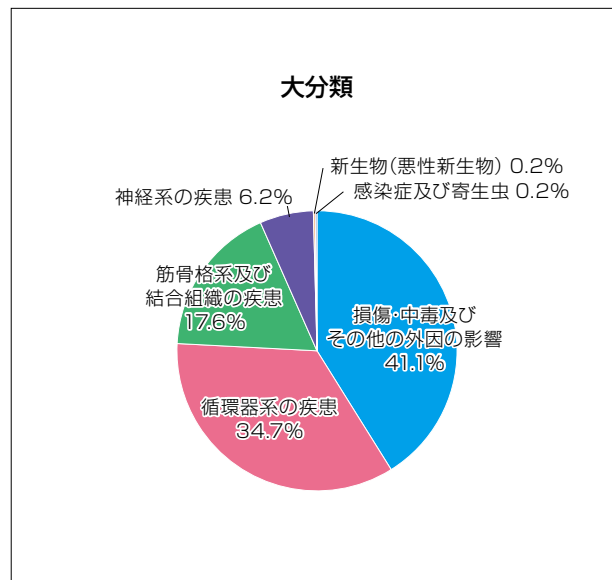


## 5) 疾病統計

### ■ 大分類統計（診療科別）

コード	ICDコード	名 称	総 数	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	整 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	脳 神 経 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	内 科
I	A00-B99	感染症及び寄生虫	1	1			
II	C00-D48	新生物（悪性新生物）	1	1			
VI	G00-G99	神経系の疾患	30	27	1	2	
IX	I00-I99	循環器系の疾患	168	164		3	1
X III	M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	85	78	3	1	3
X IX	S00-T98	損傷・中毒及びその他の外因の影響	199	192	6	1	
合 計			484	463	10	7	4

※統計データは「医療資源を最も投入した傷病名」とする。



中分類統計（診療科別） 病名上位順および在院日数

上位順	ICDコード	病名	総 数	在 日 数	在 平 均	最 高 在 日 数	最 低 在 日 数	中 央 在 日 数	平 均 年 齢
リハビリテーション科									
1	I63	脳梗塞	94	9,642	103	180	13	100	77
2	S72	大腿骨骨折	78	3,460	44	85	8	42	81
3	I61	脳内出血	58	6,399	110	180	6	111	72
4	S32	腰椎及び骨盤の骨折	53	1,887	36	75	4	35	82
5	M62	その他の筋障害	44	3,136	71	90	20	78	81
6	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	17	614	36	73	14	32	85
7	G46	脳血管疾患における脳の血管（性）症候群	16	1,406	88	174	9	87	77
8	M16	股関節症〔股関節部の関節症〕	14	443	32	45	13	32	64
9	S06	頭蓋内損傷	13	971	75	160	6	73	78
10	S82	下腿の骨折、足首を含む	11	457	42	67	6	42	55
整形リハビリテーション科									
1	S32	腰椎及び骨盤の骨折	2	57	29	30	27	29	88
2	G56	上肢の単ニューロパチ＜シ＞ー	1	23	23	23	23	23	78
〃	M24	その他の明示された関節内障	1	16	16	16	16	16	43
〃	M46	その他の炎症性脊椎障害	1	15	15	15	15	15	65
〃	M48	その他の脊椎障害	1	27	27	27	27	27	65
〃	S62	手首及び手の骨折	1	32	32	32	32	32	62
〃	S72	大腿骨骨折	1	55	55	55	55	55	61
〃	S82	下腿の骨折、足首を含む	1	28	28	28	28	28	67
〃	S92	足の骨折、足首を除く	1	28	28	28	28	28	49
脳神経リハビリテーション科									
1	G20	パーキンソン＜Parkinson＞病	2	72	36	42	30	36	81
2	I61	脳内出血	1	191	191	191	191	191	72
〃	I63	脳梗塞	1	62	62	62	62	62	88
〃	I69	脳血管疾患の続発・後遺症	1	34	34	34	34	34	91
〃	M62	その他の筋障害	1	12	12	12	12	12	88
〃	S06	頭蓋内損傷	1	32	32	32	32	32	44
内科									
1	M62	その他の筋障害	3	498	166	263	52	183	35
2	I69	脳血管疾患の続発・後遺症	1	52	52	52	52	52	78

IV

大分リハビリテーション病院

## 6) 実績

### ■ 内視鏡（※健診センター実績数除く）

胃・十二指腸内視鏡検査	321件
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	1件
大腸内視鏡検査	236件
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（直径2cm未満）	111件
内視鏡下生検法（上・下部）	159件

### ■ リハビリテーション

脳血管リハビリテーション（1）	177,316単位
運動器リハビリテーション（1）	79,128単位
廃用リハビリテーション（1）	30,690単位
初期加算（リハビリテーション料）	870単位
早期リハビリテーション加算	18,272単位
退院時リハビリテーション指導料	365件
入院時訪問指導加算	17件
退院前訪問指導料	230件

### ■ 画像（※健診センター実績数除く）

MRI	1,058件
CT	729件
単純撮影	2,249件
超音波検査（胸腹部）	286件
超音波検査（その他）	119件
超音波検査（心エコー）	137件

### ■ 〈介護事業〉通所リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
日数	22	23	20	23	21	21	23	20	21	21	20	22	257
新規利用者数	7	7	5	7	7	9	25	7	6	5	6	3	94
修了者数	2	1	2	0	2	2	1	1	4	4	2	1	22
利用者実数	61	66	69	68	70	75	94	95	91	89	91	89	958
利用者延数	447	469	436	491	441	454	637	578	568	551	546	460	6,078
1日あたり利用者数	20.3	20.4	21.8	21.3	20.0	21.6	27.7	27.5	28.4	27.6	27.3	20.9	23.7

### ■ 〈介護事業〉訪問リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	23.5	308
新規利用者数	4	7	3	6	6	5	10	6	8	3	5	3	66
修了者数	3	3	4	2	8	2	5	5	10	9	3	8	62
利用者実数	22	26	27	25	30	29	36	38	40	33	31	30	367
利用者延数	142	153	145	148	140	166	195	195	203	170	169	145	1,971
1日あたり利用者数	5.5	5.7	5.8	5.5	5.2	6.6	7.2	7.5	8.1	7.1	6.8	6.2	6.4

## ■ 回復期病棟

一日平均 患者数 (全病棟)	入院患者数	93.8
	回復期リハビリテーション対象患者	91.8
	①) 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、脳神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態、又は義肢装着訓練を要する状態	16.9
	①*) 高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	41.0
	②) 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は2肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	20.4
	③) 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	10.0
	④) 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	1.7
	⑤) 股関節または膝関節の置換術後の状態	1.9
	回復期対象外患者	2.0

①	退院患者数	388
(1)	他の保険医療機関へ転院した患者等を除く患者数	353
②	在宅復帰率 (1)/①	91.0%
③	新たに入院した患者数	455
④	上記③のうち、入院時の日常生活機能評価が10点以上であった患者数	164
⑤	新規入院患者における重症者の割合 ④/③	36.0%
⑥	退院患者のうち、入院時の日常生活機能評価が10点以上であった患者	120
⑦	上記⑥のうち、退院時（転院時を含む）の日常生活機能評価が、入院時に比較して4点以上改善していた患者	64
⑧	日常生活機能評価が4点以上改善した重症者の割合 ⑦/⑥	53.3%

①	回復期リハビリテーションを要する状態の患者の延べ入院日数	33,606
②	上記患者に対して提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	272,518
i	心大血管疾患リハビリテーションの総単位数	0
ii	脳血管疾患リハビリテーションの総単位数	174,159
iii	廃用症候群リハビリテーションの総単位数	29,314
iv	運動器リハビリテーションの総単位数	69,045
v	呼吸器リハビリテーションの総単位数	0
③	1日当たりリハビリテーション提供単位数 ②/①	8.11

FIM実績指数	41.20
---------	-------

## IV

### 大分リハビリテーション病院

## 7) 健診センター実績

総受診者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	208	201	142	112	92	78	71	79	69	51	56	30	1,189
がん・生活習慣病健診	363	506	1,066	840	634	729	836	886	848	673	728	661	8,770
その他（ワクチン等）	12	16	13	26	32	16	58	81	19	9	12	11	305
総受診者数	583	723	1,221	978	758	823	965	1,046	936	733	796	702	10,264

検査件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡	332	418	457	485	362	329	406	368	391	371	350	304	4,573
大腸内視鏡	50	49	48	55	46	48	53	44	49	51	60	54	607
胃透視	7	32	73	78	74	64	68	47	36	36	31	25	571
マンモグラフィー	58	98	116	146	125	112	258	177	212	195	176	109	1,782
子宮頸部細胞診	65	67	124	147	118	123	199	179	287	139	125	88	1,661
上腹部・下腹部エコー	265	314	263	248	175	161	167	171	166	141	133	87	2,291
乳腺エコー	73	104	149	154	132	133	240	210	262	198	190	102	1,947
甲状腺エコー	4	3	1	4	4	0	1	3	4	5	1	4	34
心臓エコー	6	1	4	3	10	9	6	11	7	6	13	9	85
頸動脈エコー	9	5	19	33	19	19	16	13	11	11	25	12	192
胸部CT	23	21	29	33	28	37	34	48	50	55	54	52	464
低線量肺がんCT	11	27	13	9	10	3	6	10	13	12	4	1	119
腹部CT	34	25	31	27	21	25	17	26	14	28	26	22	296
頭部MRI+MRA	23	15	31	42	39	28	21	39	27	24	33	16	338
頸部MRA	6	6	7	10	5	5	5	13	8	11	9	3	88
心電図検査	410	586	717	702	590	614	677	554	473	442	504	452	6,721
肺機能検査	215	215	157	151	130	100	99	93	88	80	86	48	1,462
眼底カメラ	222	257	194	200	155	129	166	121	100	81	91	59	1,775
眼圧測定	219	203	144	117	114	82	78	90	72	52	59	30	1,260
CAVI/ABI	39	59	56	56	66	62	55	52	39	55	51	24	614
歯科健診（委託）	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2

二次検診	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象人数	132	227	330	310	246	244	291	216	235	210	243	160	2,844
対象件数	241	387	438	390	343	347	403	282	306	276	339	216	3,968
返信数（受診件数）	80	298	204	203	171	169	175	126	130	109	84	45	1,794
受診内訳	大分リハ	3	3	6	6	4	9	3	4	4	2	4	48
	岡	18	20	36	33	21	31	26	14	12	13	10	239
	他院	59	96	162	164	146	129	146	108	114	94	70	1,328

特定保健指導（初回面談）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
動機づけ支援	1	0	0	5	0	3	3	0	2	1	1	0	16
積極的支援	0	1	2	3	0	2	1	0	2	2	2	1	16
合 計	1	1	2	8	0	5	4	0	4	3	3	1	32

## 1) 整形リハビリテーション科

所属医師	井上 敏、山口 豊、佐藤 崇史
特徴等 特筆すべき 事柄	整形疾患の外来リハビリテーション。
実績	<p>&lt;整形リハ外来&gt;</p> <p>2019年度：一日平均21.7人（一人一回2単位） （2018年度一日平均15.4人、2017年度一日平均12.1人）</p> <p>総合実施計画書算定 750件</p>
考察	<p>新型コロナウイルスやインフルエンザの影響で年度末あたりは午後診療を控えるなど行ったが、それでも前年度に比べ順調に数は増え目標はクリアできた。</p> <p>まだ患者のニーズに完全に対処できないこともあり、外来スタッフを増やすことで対応できればと考えている。</p>
今後の展望	<p>基本的に昨年度の展望と同様であるが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●リハに関しては外来リハのセラピストを増やすことでさらに延べ患者が増えることが期待できる。</li> <li>●さらに、当法人の地域での役割上大きな宣伝等は行えないが、下記のような項目を検討し一般患者増を図っていきたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院の検査機器（骨密度）などを生かした骨粗鬆症治療。</li> <li>・週何回かの時間外枠などを設けスポーツ診療を積極的に行っていく。</li> <li>・診療にエコー（超音波診断）や振動による効率のよい筋力増強効果のある機器などを取り入れ、患者にも納得されるより質の高いリハを行っていく。</li> </ul>

文責：井上 敏

## 2) リハビリテーション科（入院）

所属医師	山口 豊、佐藤 崇史、井上 敏、中元 和孝
特徴等 特筆すべき 事柄	<p>2017年度より、病床数99床の稼働となり、新入院患者数も更に増加した。</p> <p>その多くは回復期入院であるが、連携等で発症時からより短期間の（急性期）患者の入院（回復期入院）や、ADLが低下した患者も受け入れる（一般入院）ことで、空床を減らすようにした。</p>
実績	<p>新入院患者数491人（一般13人）（前年度466人）</p> <p>平均在院日数92.5日</p> <p>FIM効率41.2（前年度44.1）</p> <p>病床稼働率（退院含む）94.8%（前年度88.0%）</p>
考察	<p>急性期、施設等との密な連携、スタッフカンファレンス等で病床稼働率が増えている。入院患者が前年度より増えたにも関わらず、FIM効率は維持され、リハビリテーションの質は同じく維持している。</p>
今後の展望	<p>FIM効率の維持で、回復期1の継続。</p> <p>95%以上の稼働を目指していく。</p> <p>病棟の質（スタッフ増員、個々のスキルアップ等）を更に上昇させる。</p>

文責：中元 和孝



### 3) 消化器内科

所属医師	松井照一郎、沖田 敬
特徴等 特筆すべき 事柄	今年度も、上部消化管内視鏡（以下、GF）全大腸内視鏡検査（以下、TCS）生検、大腸 polypectomy、EMRに伴う大きな合併症はなく、偶発症も穿孔0例、出血0例であった。当院では患者さんの医療安全面を鑑み、日帰り可能な小ポリープのみの治療に特化していることも大きな要因と考えられる。大分リハビリテーション病院での内視鏡検査及び治療は、例年通り高い安全性が担保されていると考えられる。
実績	2019年度の実績は、GF 4,892例、TCS 844例であり、総内視鏡検査数は5,736例であった。大腸ポリープのpolypectomy及びEMRの総計は108例であった。
考察	内視鏡検査数は5,584（2018年度）→5,736（2019年度）例と150例程増加した。健診でのGF数が順調に増加した結果と考えられる。TCS数もほぼ例年通りの数を確保することが出来たが、便潜血の二次検診の拾い上げには更なる工夫が必要と考えられる。
今後の展望	今年度は大分市によるGFの胃がん健診も開始予定で、順調にいけば更なるGF数の増加が期待できるが、本年は新型コロナウイルス感染症の影響がどの程度、そしてどこまで継続していくのか、未だ見通せない状況であり、いかにこの未曾有の感染症拡大に伴う影響、負の連鎖を最小限に抑えていくかが最も大きな課題である。内視鏡検査は、偶発症と背中合わせの検査であり、常に初心を忘れない心構え、態度、そして内視鏡医の肉体的、精神的な健康管理及び日々の修練が必須である。今後も安全でかつ質の高い内視鏡検査を提供していく所存である。

文責：松井照一郎

### 4) 漢方内科・小児科

所属医師	立花 秀俊
特徴等 特筆すべき 事柄	漢方内科・小児科として平成26年4月から新規開設され、5年が経過した。現代医学的検査は充分に行い、治療は漢方薬を主体に、必要な西洋薬を併用していくというスタンスで治療を行っている。またてんかんの100%発作抑制を目指している。
実績	てんかん外来も99%の抑制に至っている（世界的にみても70%が限度である）。漢方外来も多くの患者さんで症状の改善を認めている。
考察	漢方治療を行なっている患者さんの多くが満足できる結果を認めている。今後は「未病を治す」を目指して、健康な未来を目指して治療を継続する。
今後の展望	漢方薬治療も重要であるが、食生活等の生活指導も重要で、今後簡便で分かりやすい指導内容をまとめていきたい。28年5月に新しい抗てんかん薬が発売され、1年が経過したので、発作抑制されている方の変更減量を行なう。 さらに最近日本人の水銀汚染を知るようになり、殆ど全ての疾患に関連があるとわかってきた。タチオンとケイ素でその解決が可能で、効果も上がっている。

文責：立花 秀俊

## 5) 放射線科

所属医師	高司 由理子
特徴等 特筆すべき 事柄	当院外来の縮小に伴いCT/MRIに関しては併設する敬和会健診センターの画像検査と他院からの紹介検査（いわゆるオープン検査）が主となっている。健診およびオープン検査ともに常勤医師による迅速な画像診断が可能である。
実績	令和1年度は単純写真9,721件（うち健診7,472件）、MMG 1,785件（うち健診1,782件）、CT 1,782件（うち健診1,053件）、MRI 1,487件（うち健診429件）、透視検査 576件（うち健診571件）であった。 他院からの検査依頼件数はCT 334件、MRI 941件、DEXA 2件であり、各検査数に占める割合は、CT 18.7%、MRI 63.3%、DEXA 0.3%であった。 また子宮頸がん検診に関しては火・水・木曜日の午前のほか、水曜午後、また職員健診においては月曜午後にも施設内で行えるように対応し、1,289件施行した。
考察	他院からの紹介によるオープン検査数に関しては「おおが耳鼻咽喉科」および「さわたり整形外科」から多くの検査依頼をいただき、MRIを中心に堅調であった。今後も引き続き営業活動を通して新規紹介クリニックの開拓が必要である。 また、健診部門に関しても受診者の年齢や生活習慣に合わせて多様なメニューの中から最適な検査を組み合わせることでドックの受診者数を増やすことが出来るよう、健診部門との連携も強化する必要がある。特に子宮がん検診および乳がん検診に関しては受診率を上げていく必要があり、女性受診者へのはたらきかけを強化していく。
今後の展望	オープン検査あるいは健診数の増加に対応できるよう各部門との連携を密にして業務改善による生産性向上に取り組んでいきたい。

文責：高司由理子

## 6) 循環器内科

所属医師	宮本 涼子
特徴等 特筆すべき 事柄	月曜日から水曜日午前中の外来一人体制。長期継続通院されている方が多く、心理的サポートを含めた包括的な外来診療を心がけている。
実績	生活習慣病の管理が中心であり、外来看護スタッフと協力しながら、問診重視の診察を行っている。 外来患者実人数：352名。ほとんどが長期継続受診。 心エコーは100件・頸動脈エコー98件（心エコーは当方外来患者以外は放射線科 甲斐技師が施行。頸動脈エコーに関しては全例 甲斐技師が施行。健診での心エコー数の増加がみられる） ホルター心電図：6件
考察	心エコー・頸動脈エコーともに昨年より増加した。甲斐技師の研鑽により対応人数が増加した。当方が読影等でバックアップすることにより、さらに必要な方への十分な検査が可能と考える。
今後の展望	限られた診療枠ではあるが、微力ながら地域医療にどのように貢献できるか考えていきたい。

文責：宮本 涼子

## 1) 看護部

構成員数	91名 (R2.3.31時点) 保健師3名 看護師57名 准看護師6名 介護福祉士12名 介護員1名 臨床検査技師1名 ワークエイド11名
2019年度 目標、方針	[理念] 患者・家族の笑顔と安心・安全を守るため、私たち自身も笑顔・思いやり・自己研鑽を忘れずに努力し、質の高い看護を提供します。 [目標] Ⅰ 安全で質の高い看護・介護を提供する Ⅱ 人材育成と能力開発に取り組む
業務(活動) 内容、特徴等	Ⅰ. 安全で質の高い看護・介護の提供 1) 認知症ケアの実践 2) 摂食・嚥下障害ケアの充実 3) 排尿自立ケアの充実 4) 退院支援の強化 5) 継続看護の実践(病棟・外来間) Ⅱ. 人材育成と能力開発 1) リーダー層の育成 2) 中間管理職の育成 3) クリニカルラダーの運用準備
実 績	①認知症ケア加算2を8月より取得できるようになった。延べ算定回数925回・総点数7,754点。また、2月に多職種による事例検討会(GW)を初めて開催した。 ②定期的な嚥下ラウンドが定着。総算定回数1,565回、総点数289,525点と前年度より増加した。10月には外部講師を招いて現場ラウンドとスキルアップ研修を実施。 ③排尿回診を中心に排尿自立に向けた評価・ケアを提供。診療報酬改定により次年度より回復期病棟でも排尿自立支援料が算定できるようになり、これまでの活動の成果が期待できる。 ④SFチームでの退院目標の共有、調整困難事例の個別検討を実施。看護師の家屋調査にも取り組んだが、総件数は7件に留まった。また、入退院支援により平均稼働率は94.8%と前年度(88%)より高稼働となった。 ⑤病棟・整形リハ外来間の情報共有・連携に取り組み、病棟訪問件数は45件。 ⑥リーダー業務・役割の明文化を実施。チームリーダー役割の調査およびリーダーシップ研修を10月に実施。 ⑦回復期リハ認定看護師研修へ1名、生活支援技術研修に2名派遣し、現場でのスキルアップを推進する指導者育成を実施。 ⑧敬和会看護部教育委員会と連動し、クリニカルラダー開始・運用に向けた活動を展開。概ね、準備が整った。 ⑨看護職員離職率6%で前年度より減少(29年度6%、30年度14.8%) 転倒発生率3.5%(前年同値)、新規褥瘡発生率1.45%↑(前年度0.02%) ⑩全職員対象の臨床倫理研修として看護倫理の第一人者である石垣靖子氏を招いて講演会を実施。 ⑪1月に「共同指導」が行われ、事前準備・事後対応に全職種で対応した。

<p>目標の評価</p>	<p>I. 安全で質の高い看護・介護の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアチーム、摂食嚥下チーム、排尿ケアチームを中心にケアの質向上を目指し、活動を推進できた。活動の成果として認知症ケア加算2が取得できたことは大きな成果と言える。摂食機能療法では前年度より加算取得件数が増加したが、共同指導において診療録記載の不備を指摘され、改善の必要性が求められた。</li> <li>・また、次年度より回復期でも排尿自立支援料の算定が可能となり、これまでの活動が認められることとなった。</li> <li>・今年度より皮膚排泄ケア認定看護師による褥瘡ラウンドが週1回可能となり、褥瘡予防やスキンケアの向上が図られつつある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染の影響が当院にも及んだ。3月に他院より転院してきた患者1例が陽性となり、幹部を中心に病院全体で拡大防止に取り組み、患者や職員の安全性確保に取り組んだ。濃厚接触者のPCR検査を実施し全員陰性だったが、複数名の自宅待機により勤務者、特に夜勤者の確保が難しく、所属長中心に全スタッフが協力態勢をとり、困難を乗り越えることができた。</li> </ul> <p>II. 人材育成と能力開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この数年で回復期リハビリテーション病棟としての基盤が整ってきた。これからは質向上の時期と捉え、人材育成・能力開発に取り組んだ。何よりも現場での中堅やトップリーダークラスの看護実践の有り様、リーダーシップの発揮が重要であり学ぶ機会を設けた。学びの振り返りおよび実践への活用・定着が今後の大きな課題と考える。当看護部の場合、中途採用者が多いことから経験学習を主体とした内容に留意する必要がある。</li> <li>・「共同指導」の体験は、主に役職者にとって大きな学びの機会となった。施設基準として整えるべき内容や体制、診療録等への記載のあり方等について改めて学び、課題を明確化できた。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<p>回復期リハビリテーション病院・看護部として、次の5年後・10年後を見据えた活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーション看護の質の充実・向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護・介護10か条の徹底した実践</li> <li>・排尿リハケア、認知症ケア、口腔リハケアの強化</li> </ul> </li> <li>○地域包括ケアシステム推進のための役割発揮 <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院支援の実践と評価</li> <li>・急性期、地域ケアマネジャー等との情報共有と連携強化</li> </ul> </li> <li>○地域にオープンな施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流機会への積極的参画</li> </ul> </li> <li>○人材育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬和会クリニカルリーダーを中心とした育成</li> </ul> </li> </ul>

文責：後藤美貴代

## 2) リハビリテーション部

構成員数	理学療法士 38名 作業療法士 30名 言語聴覚士 12名
2019年度 目標、方針	<p>&lt;目標&gt;</p> <p>自覚：医療人として専門職種としての役割を自覚し行動できる 責任：組織人・医療人・専門職としての責任を持ち行動できる 法令順守：若い組織であっても法律や規則、モラルを守り行動できる 創造：ひとりひとりがあるべき姿を描き、現状に甘えず目標達成に向け、さまざまな事（業務、環境、組織等）を創造できる</p> <p>&lt;方針&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>31年度計画の達成</li> <li>地域リハビリテーションの理念に沿った活動の推進</li> <li>安全・安心で質の高いリハビリテーションの提供</li> <li>活気ある職場づくりとマネジメント力の向上</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 法令順守の徹底と効率的な単位取得による安定した収益確保</li> <li>1-2 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動の推進し、経費削減</li> <li>1-3 計画的な有給・特別休暇の取得</li> <li>2-1 急性期・生活期との連携推進</li> <li>2-2 広域支援センター活動への積極的参加、健康教室等への人材派遣推進</li> <li>3-1 ICFを基本とし客観性に基づく各療法が行える</li> <li>3-2 ガイドライン等客観性に基づく治療プログラムが立案・実施できる</li> <li>4-1 人材育成の推進</li> <li>4-2 職業人として自己研鑽と一人1テーマの実践による専門性の追求</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院提供単位数：254,256単位/年 外来提供単位数：10971単位/年 患者あたりの平均提供単位 8.10単位/年</li> <li>2. 河野脳外科病院との連携会議 2回開催 当院回復期から在宅支援部への移行者 69名</li> <li>3. ICFに関する研修2回/年、記録の整理と効率化</li> <li>4. 新入職員に対するOJTの実践、院外発表34件</li> </ol>
目標の評価	4月は人員増加したものの急遽の退職があった。しかし、機能評価終了後、記録の見直しを行い日常記録業務の効率化を図ったことで入院、外来ともに昨年より提供単位を増加する事ができた。地域リハビリテーション活動は急性期生活期との連携強化、院外での活動強化が図れた。また、今年度より教育体制を見直し、OJTを実践する事ができ、院外発表も昨年以上、若年スタッフの発表が行えた。
今後の展望	<p>入院患者1人あたり8単位以上の提供と、実績指数40以上を目指す。また回復期退院後のフォローアップとして当院通所リハビリ、訪問リハビリ、外来リハビリとの連携を深め利用者を増やす。また、部内教育システムを見直し、昨年導入したOJTに加えOSCEを導入しインシデント件数の減少（特に上期）を目指す。</p> <p>令和2年度の目標を「自覚と専門性」とし、医療人・社会人・組織人としての自覚をもった行動ができるスタッフ教育、加えて理学療法、作業療法、言語聴覚療法が客観的指標に基づく訓練が実施できるよう各専門職での教育体制の構築、実践を目指す。</p>

文責：渡邊 亜紀



### 3) 敬和会健診センター (Keiwakai Health Checkup Center)

構成員数	13名：保健師3名（内1名産休）、看護師3名、事務6名、ワークエイド1名
2019年度 目標、方針	<p>安全で質の高い健診の提供と効率的かつ受診者満足度向上に向けた運用・体制を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財務の視点：経費節減と費用対効果を常に意識し安定経営を目指す。</li> <li>2. 顧客の視点：受診者の視点で検討・判断・行動し、受診者満足度向上を目指す。</li> <li>3. 業務プロセスの視点：効率的かつ効果的な業務体制を常に意識して構築する。</li> <li>4. 学習・教育・研究の視点：各種研修会・勉強会へ積極的に参加しスキルアップを目指す。</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<p>健診センターでは、人間ドックを始め各種がん検診・生活習慣病健康診断・法定健康診断・特殊健康診断などを行う。</p> <p>&lt;トピックス&gt;</p> <p>4月：すぎもと歯科 歯科健診業務提携 サービス検討グループ発足 子宮の日 女性向けがん検診イベント開催 便潜血検査 機械法開始 大腸腹部CT検査開始（大腸内視鏡にて便秘症の方）</p> <p>6月：採血業務 検査課対応開始 7月：特別室運用開始 8月：乳がん検診ウィーク開催（5～9日） スペシャル人間ドックウィーク開催（13～15日） 低線量肺がんCTウィーク開催（19～23日） 子宮頸がん検診2診体制開始 健診部門情報共有会（反省会）開始</p> <p>9月：マンモグラフィ装置更新 10月：ジャパン・マンモグラフィー・サンデー開催 大分リハマルシェ 無料身体計測実施</p> <p>12月：女性向けがん検診イベント開催 1月：スペシャル人間ドックお正月キャンペーン開催</p> <p>&lt;健診勉強会&gt;</p> <p>4月「特定健診について」：首藤 5月「たばこがん」：佐藤 6月「仕事の効率化について」：橋本 7月「アレルギーについて」：棚成（検査課） 8月「便秘について」：浦山 9月「接遇マナーサービスレベル」：衛藤 10月「大腸の病気」：小野 11月「乳がん検診について」：泊（放射線科） 12月「婦人科疾患について」：後藤 1月「当日オプション追加における健保補助について」：大城 2月「運動について」：窪田 3月「協会けんぽ生活習慣病予防健診変更点について」：橋本</p>
実 績	<p>受診者数：10,264人 &lt;内訳&gt;人間ドック：1,189人、がん・生活習慣病健診：8,770人、その他：305人</p>
目標の評価	<p>健診センター創設以来、過去最高の売上・受診者数となり年度目標・計画を達成し、中期目標としていた受診者数1万人を超える結果となった。また健診キャンペーン・イベント開催や各部署と協働して受診勧奨等を行い、乳腺エコー、子宮頸部細胞診、大腸内視鏡検査が前年より10%以上増加した。</p> <p>保健師活動については、地域の方々へ生活習慣病の予防と病気の早期発見のための健診の重症性について講話をして健康啓発を行った。</p>
今後の展望	<p>受診者の増加と社会環境の変化や企業のニーズに対応すべく、さらに各部門と協働して健診業務の標準化と効率化、職員のスキルアップ（知識、技術、接遇等）をはかり、健診全体の質向上を行い、最良かつ質の高い安全な健診を提供していく事とする。</p>

文責：高橋 秀好

#### 4) 放射線課

構成員数	診療放射線技師6名																																								
2019年度 目標、方針	<p>&lt;理念&gt; 地域医療に携わる放射線の専門家としての誇りと責任を自覚する</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <div><div>1) 財務の視点</div><div>・資源を有効活用し、収益性の向上に努めます</div><div>・コスト削減に取り組みます</div><div>2) 顧客の視点</div><div>・適切で安心な高品質な医療の提供をします</div><div>・オープン検査の受入れを積極的に行い、紹介元医師の満足度を高めます</div><div>3) 業務プロセスの視点</div><div>・医療の質を高め、効率性を追求します</div><div>・他部署との関係を強めチーム医療を推進します</div><div>4) 学習・教育・研究の視点</div><div>・自己研鑽に励み、研修会など積極的に参加します</div><div>・組織と人材の成長、発展を目指します</div></div>																																								
業務（活動） 内容、特徴等	<p>放射線課業務として、画像撮影業務全般および他院からの紹介検査（オープン検査）の受入れ、佐伯保養院での撮影業務などを行なう。健診受診者増加に対応すべく、健診に携わる各部門によるグループワークを行い一丸となって業務改善に取り組んだ。これをきっかけに、健診業務の円滑な運営が可能となりサービス面において質の向上が図れたと考える。</p> <p>今年度は超音波装置（6月）およびマンモグラフィ装置（9月）を一新し、さらなる収益向上を目標に撮影業務の他、健診部門と協力し新規オプションの提案および積極的な受診勧奨活動（企業への営業、ポスティング）を行なった。とくに乳がん検診受診者増加を目標としたワーキンググループ（健診看護師および乳腺検査担当技師）の受診勧奨の取り組みもあり、健診部門においてマンモグラフィ検査数および乳腺エコー検査数は過去最高となった。</p> <p>他院からの紹介検査であるオープン検査件数においても、積極的な当日検査の受入れ、紹介元医師の要望にも柔軟に対応し、こちらにおいても過去最高件数となった。</p>																																								
実 績	<table><tr><td>一般撮影</td><td>9,721件（前年度比</td><td>106.2%）</td></tr><tr><td>CT撮影</td><td>1,782件（前年度比</td><td>102.4%）</td></tr><tr><td>MRI撮影</td><td>1,487件（前年度比</td><td>109.1%）</td></tr><tr><td>マンモグラフィ撮影</td><td>1,785件（前年度比</td><td>105.7%）</td></tr><tr><td>透視撮影</td><td>576件（前年度比</td><td>111.6%）</td></tr><tr><td>骨密度測定検査</td><td>646件（前年度比</td><td>101.4%）</td></tr><tr><td>腹部超音波検査</td><td>2,578件（前年度比</td><td>102.4%）</td></tr><tr><td>（肝線維化検査）</td><td>24件</td><td></td></tr><tr><td>乳腺超音波検査</td><td>1,950件（前年度比</td><td>115.6%）</td></tr><tr><td>心臓超音波検査（健診分）</td><td>85件（前年度比</td><td>88.5%）</td></tr><tr><td>頸動脈超音波検査</td><td>293件（前年度比</td><td>157.5%）</td></tr><tr><td>その他超音波検査</td><td>52件（前年度比</td><td>86.7%）</td></tr><tr><td>うち紹介件数（オープン検査）</td><td>1,275件（前年度比</td><td>107.6%）</td></tr></table>		一般撮影	9,721件（前年度比	106.2%）	CT撮影	1,782件（前年度比	102.4%）	MRI撮影	1,487件（前年度比	109.1%）	マンモグラフィ撮影	1,785件（前年度比	105.7%）	透視撮影	576件（前年度比	111.6%）	骨密度測定検査	646件（前年度比	101.4%）	腹部超音波検査	2,578件（前年度比	102.4%）	（肝線維化検査）	24件		乳腺超音波検査	1,950件（前年度比	115.6%）	心臓超音波検査（健診分）	85件（前年度比	88.5%）	頸動脈超音波検査	293件（前年度比	157.5%）	その他超音波検査	52件（前年度比	86.7%）	うち紹介件数（オープン検査）	1,275件（前年度比	107.6%）
一般撮影	9,721件（前年度比	106.2%）																																							
CT撮影	1,782件（前年度比	102.4%）																																							
MRI撮影	1,487件（前年度比	109.1%）																																							
マンモグラフィ撮影	1,785件（前年度比	105.7%）																																							
透視撮影	576件（前年度比	111.6%）																																							
骨密度測定検査	646件（前年度比	101.4%）																																							
腹部超音波検査	2,578件（前年度比	102.4%）																																							
（肝線維化検査）	24件																																								
乳腺超音波検査	1,950件（前年度比	115.6%）																																							
心臓超音波検査（健診分）	85件（前年度比	88.5%）																																							
頸動脈超音波検査	293件（前年度比	157.5%）																																							
その他超音波検査	52件（前年度比	86.7%）																																							
うち紹介件数（オープン検査）	1,275件（前年度比	107.6%）																																							
目標の評価	<p>今年度は撮影総件数が前年度と比較し6.9%増加、総売上は8.8%増加、オープン検査紹介件数は7.6%増加した。健診部門と協力し、受診勧奨や営業活動を積極的に行い収益向上に繋げることができた。またオープン検査においては、積極的に紹介検査を受入れるだけでなく、安全にかつ円滑に受入れが行えるよう医事課と調整し、サービス面においても質の向上を図ることができたと考える。</p>																																								
今後の展望	<p>受診者層や企業のニーズに合わせたオプションメニューの提案などに取り組み、新たな検査数獲得に繋げたい。また、安心で満足な医療サービスが提供できるよう、個々人の知識と技術の習得および接遇の向上にも努めていきたい。来年度は営業活動の強化により新規紹介元医療機関の開拓を目指したい。</p>																																								

文責：笠野 祐樹



## 5) 検査課

構成員数	臨床検査技師3名
2019年度 目標、方針	<p>&lt;理念&gt; 患者さん・受診者さんが安心して検査を実施できるよう診療部・健診部門と連携し自信を持って医療の提供を行う。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者さん、受診者さんの安全に配慮した検査環境の提供を行う。</li> <li>2. 日常業務において目的意識をもち業務効率を上げる。</li> <li>3. 報告・連絡・相談を確実にを行い迅速な検査を目指す。</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	昨年度人間ドック学会より指摘のあった、便潜血検査の検査方法を手手法から機械法へ変更し、陽性率の見直しを行った。6月から、健診受診者の採血業務を検査課で行う様に変更した。これにより、検体量不足や業務の見直しを行う事で結果報告までの時間の短縮につながった。病棟、通所で使用している簡易血糖測定器の保守・精度管理を実施する。
実 績	<p>生理検査：心電図7,589件（健診6,823件、保険診療766件）          肺機能1,518件（健診1,463件、保険診療55件）          眼底検査1,779件（健診のみ）          精密眼圧検査1,261件（健診のみ）          ABI検査705件（健診615件、保険診療90件）          その他26件</p> <p>採血業務：外来2,009件、健診（6月から）6,732件</p>
目標の評価	<p>健診受診者の増加に伴い、健診部門や多部門と協力し業務内容の見直しを行い結果報告までの時間の短縮、採血室の見直し、検査についての説明等を行う事ができた。</p> <p>年度初めに比べ報告・連絡・相談が出来るようになり、それぞれが考えながら目的を持って業務を行う事ができた。</p>
今後の展望	今後、チーム医療の一員として何が必要で何が出来るかを検討しながら、検査技師として更なる成長を目指していきたい。

文責：橋口 マリ

## 6) 薬剤部

構成員数	2名			
2019年度 目標、方針	1. 患者さんの安心・安全を守るため、最適な薬物治療を提供する 2. 常に最新の知識を習得するため、継続的な自己研鑽を行う 3. 働きやすい職場環境を整える 4. 病院経営に参画し、収益の維持、コスト削減に努める			
業務（活動） 内容、特徴等	薬剤部2名とも病棟・調剤兼任とし積極的に病棟業務を行っている。 病棟では、入院してきた患者さんの持参薬鑑別、初回面談を行う他、病室へ訪問し薬剤管理指導を行っている。また初回カンファレンスにもほぼ全例参加し、薬剤師の視点からの情報提供等を行っている。安全な薬物治療の推進はもちろん、退院後の服薬管理を見据えた服薬指導や用法の検討、ポリファーマシー対策等も積極的に行っている。調剤業務では、薬剤の管理方法や患者さんへの投薬方法によって一包化や粉碎調剤などの対応を行っている。持参薬の管理も行っており、なるべく持参薬を利用することでコスト削減に繋げている。			
実 績	2019年4月～2020年3月 【調剤業務】			
	入 院		外 来	
	処方箋枚数	12,511枚	院内処方箋枚数	459枚
	調剤件数	32,437件	院内調剤件数	493件
	注射箋枚数	988枚	注射箋枚数	706枚
	注射調剤件数	1,952件	注射調剤件数	791件
	【薬剤管理指導業務】			
	指導料1	43件		
	指導料2	18件		
	退院時薬剤情報管理指導料	11件		
薬剤総合評価調整加算	9件			
目標の評価	定期処方の支援入力、ワルファリンの検査オーダー等の支援業務も引き続き行い、定期調剤の効率化、医師の負担軽減、安全な薬物治療に寄与できたと考える。他部署の協力も得て、カンファレンスや回診への参加など、薬剤師の職能発揮の機会を増やすことができた。Teamsを利用し岡病院と医薬品の在庫の共有を図ったことにより、期限切迫品の交換や薬剤の小分けの頻度が上がり、昨年度以上に廃棄額を削減することができた。			
今後の展望	診療報酬改定によりポリファーマシー対策の評価の見直しが行われた。当院では6剤以上の内服を4週間以上継続している患者が新規入院患者の約半数を占めている。退院後のアドヒアランスや副作用の回避、また経済的な面からのポリファーマシー解消に向けて今後より積極的に活動していく。			

文責：岡崎 愛

## 7) 通所リハビリテーション事業所・訪問リハビリテーション事業所

構成員数	<p>【通所リハビリテーション事業所】</p> <p>理学療法士2名 言語聴覚士1名（リハビリテーション部と兼任） 看護師1名 介護福祉士3名 介護助手</p> <p>【訪問リハビリテーション事業所】</p> <p>理学療法士1名 作業療法士1名（リハビリテーション部と兼任） 言語聴覚士1名（リハビリテーション部と兼任）</p>
2019年度 目標、方針	回復期病棟退院直後の在宅生活定着と心身機能、活動・参加における残された当面の課題を解決し、その人らしい新たな生活を獲得する基盤作りの支援をする
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションマネジメント加算Ⅲ取得に向けたリハビリテーションマネジメント会議の開催</li> <li>2. 次年度、社会参加支援加算取得に向けての実績作り</li> <li>3. 事業所交流会の開催</li> <li>4. 部署内、院内での勉強会の開催</li> <li>5. 複数担当制の画一</li> <li>6. デイサービスとの合同勉強会の開催と顔の見える関係づくり</li> <li>7. 地域ケア会議の参加</li> <li>8. 有給休暇の計画的取得とワークライフバランス実現に向けた取り組み</li> <li>9. 修了者と現利用者の交流を目的としたイベントの開催</li> </ol>
実 績	<p>【通所リハビリテーション事業所】</p> <p>2019年度142名の利用があり、43名の方が目標達成に伴い修了となっている。修了者の平均利用期間は304日。修了後の移行先としては、デイケア10名・デイサービス6名・地域サロン/サービスなし6名、身障デイ4名、入院や施設入所者6名であった。</p> <p>【訪問リハビリテーション事業所】</p> <p>2019年度に68名の利用があり、43名の方が修了し、90%以上が目標達成であった。平均訪問期間は、65日であった。目標に合わせた訪問期間の設定を行う事で、高い目標達成を行う事が可能となった。</p> <p>【在宅支援部】</p> <p>前年度に引き続き、近隣居宅支援事業所や地域包括支援センター、介護保険事業所などへの周知度を上げる為に、4月に事業所交流会を実施。16事業所より17名の参加者が来所され、実績値の説明や利用者の声などを伝える機会を設けた。</p> <p>デイサービスとの合同勉強会では、2事業所と行い合計7回実施。運動機能評価機能方法や介助指導、また口腔機能に関しても資料や実技を踏まえ行い、お互いの事業所同士が連携を深める一助となったと考える。</p> <p>また、院内への勉強会の開催2回、全国学会での発表1回、地域ケア会議の参加が2回など自己研鑽と事業所交流を図っている。</p>
目標の評価	<p>当院回復期リハビリテーション病棟とのシームレスな連携や地域との連携は、開所より3年を迎え周知が図れている。特に周辺地域の居宅支援事業所や地域包括事業所とは、密に連携を図れており、一定数の外部利用者の獲得が図れている。</p> <p>今後も、当事業所を知って頂くためには、院内外へ向けた勉強会や研修会などを通し、広報的な活動を継続して行う必要がある。</p>
今後の展望	<p>通所・訪問リハビリテーション事業所の利用者人数の確保には、院内と院外への働きかけが重要である。院内では、定期的に事例紹介や勉強会を通し、入院スタッフに在宅退院後の利用者の生活状況の変化や支援方法について報告し、在宅生活での支援の重要性を周知する。院外に対しては、既に大在・坂ノ市・鶴崎地区にて多くの利用者があるため、事業所交流会や合同勉強会では、周辺の事業所のみならず東陽・大東・明野地区へ実績の報告や取り組みの様子などを紹介し、多くの地域から選ばれる事業所作りを行う。</p> <p>在宅支援部は、退院後も安心して在宅生活が送れるよう、質の高いリハビリテーションの提供を通所・訪問リハビリテーションを通して行うことで、病院の質向上にも寄与していく。</p>

## 8) 口腔衛生課

構成員数	3名												
2019年度 目標、方針	<p>【目標】</p> <p>患者・家族・多職種から学ぶ姿勢を大切にチーム医療を推進し、リハビリテーション専門病院の歯科医療従事者として患者の自立支援に寄与する</p> <p>＜基本方針＞</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医科歯科連携の更なる推進と、この連携を基盤としてリハビリテーション専門病院における歯科医療ニーズの把握と根拠に基づいた安心・安全な歯科医療を提供する</li><li>2. 専門職として高い倫理観を持ち実践する</li><li>3. 医科歯科連携および歯科医療の質的向上に努める</li><li>4. 口腔機能向上および食支援のチーム医療醸成に寄与する</li><li>5. 歯科領域の専門職として研鑽を深めチームに還元する</li></ol>												
業務（活動） 内容、特徴等	<p>歯科保健指導</p> <p>口腔健康管理、口腔機能向上および摂食機能療法算定への参画（看護の摂食機能療法へのケアプラン提示）</p> <p>歯科疾患の予防</p> <p>医科歯科連携調整業務</p> <p>入院患者・家族への口腔ケア・リハビリの助言</p> <p>職員への口腔ケア・リハビリ技術の助言</p> <p>地域住民への口腔リテラシー向上とこれによる地域包括ケアの推進</p>												
実 績	<p>口腔ケア研修3回</p> <p>口腔ケア実施述べ件数3,757件</p> <p>大分リハビリテーション病院 訪問歯科診療件数</p> <table><tr><td>敷戸グリーン歯科</td><td>実人員85人</td><td>述べ件数194回</td></tr><tr><td>おかはら歯科</td><td>実人員94人</td><td>述べ件数245回</td></tr><tr><td>なりやす歯科</td><td>実人員70人</td><td>述べ件数144回</td></tr><tr><td>すぎもと歯科</td><td>実人員65人</td><td>述べ件数162回</td></tr></table> <p>昨年の延べ件数：793件 今年の延べ件数：745件</p> <p>対外的な活動 講演10件、発表2件、投稿1件 大分県福祉保健部高齢者福祉課</p> <p>自立支援型ケアプラン相談会2件 資格取得1件 地域サロン2件</p> <p>＜まとめ＞</p> <p>口腔衛生課としては、歯科のニーズに対応ができ一定の成果が上げられたものの、歯科衛生士のマンパワー不足から入院患者への口腔ケア・リハの実践に加え定期カンファレンス等の参加に課題がある。医科歯科連携については歯科医院との橋渡しとしての役割を果たすことができ良好な関係を継続できている。</p>	敷戸グリーン歯科	実人員85人	述べ件数194回	おかはら歯科	実人員94人	述べ件数245回	なりやす歯科	実人員70人	述べ件数144回	すぎもと歯科	実人員65人	述べ件数162回
敷戸グリーン歯科	実人員85人	述べ件数194回											
おかはら歯科	実人員94人	述べ件数245回											
なりやす歯科	実人員70人	述べ件数144回											
すぎもと歯科	実人員65人	述べ件数162回											
目標の評価	<p>10月から3名体制となり口腔ケア・リハの介入件数は増加。訪問歯科件数は若干減少しているが、歯科医師と連携して歯科医療の提供が行えたことは、患者・家族の満足度に寄与できたと考える。看護の摂食機能療法算定に参画し目標は達成できたと考える。また、摂食・咀嚼・嚥下チーム活動も積極的に行えた、また、誤嚥性肺炎の減少による医療費及び入院患者の確保にもつながったと考えられる。</p>												
今後の展望	<p>医科歯科連携の推進を基盤とし、口腔に問題を抱える患者や利用者の口腔環境を改善させることに努め、そのための知識・技術の更なる習得行う。摂食嚥下の認定資格を生かし摂食機能療法算定に向けその道筋の確保と積極的な算定に向け他部署とも協業する。また、地域活動にも参画し口腔への関心（口腔リテラシー）を高める事など歯科保健領域の活動においても、講演だけでなくあらゆる機会を利用して実践する。</p>												

文責：衛藤 恵美

## 9) 栄養課

構成員数	管理栄養士4名 株式会社エームサービス 管理栄養士2名、栄養士1名、調理師1名、調理員8名
2019年度 目標、方針	院内における給食サービスに関する事項や栄養管理に関する事項について積極的に検討し、サービス向上、栄養の適正化を図り、患者や家族、職員が笑顔になれる栄養サポートを実践する。多職種と連携、情報共有し、よりよいチーム医療を目指す。適切な栄養管理、指導を実践するため、専門性を向上させる。
業務（活動） 内容、特徴等	病棟管理栄養士専任配置への取り組み（栄養管理計画、栄養評価（低栄養状態・その他重点的な栄養管理が必要なものについては週1回以上の再評価）、リハビリテーション実施計画書又はリハビリテーション総合実施計画書の作成への参画、定期カンファレンスへの参加、栄養指導、食事内容や形態の検討・提案等）、給食管理（食数管理、衛生管理、献立確認、検食、補助食品や濃厚流動食の発注・管理、食事アンケート、行事食の提供） 入院患者個々に対し栄養評価を行い、嗜好や栄養状態を確認し、その都度多職種と連携、調整を行い、患者満足度をあげるよう努める。
実 績	一般食数 64,745食 特別食 25,867食 濃厚流動食 9,152食 入院時食事栄養指導件数 174件 外来栄養指導件数 2件 通所リハビリテーション栄養改善加算算定件数 12件 栄養サマリー作成件数 6件 実習生受け入れ 8月：1名（別府大学短期大学部食物栄養科） 厚生局共同指導 立入調査 対応
目標の評価	令和元年9月中旬より、管理栄養士1名増員となり、病棟配置、西病棟2名・東病棟1名体制とし、前年度に引き続き、努力義務である病棟専任配置の取り組みをおこなった。リハビリ総合実施計画書への参画や低栄養状態・その他重点的な栄養管理が必要なものについては週1回以上の再評価も定着し、再評価の結果を踏まえた栄養管理を行い、栄養状態の改善を図ることができている。入院栄養指導を実施し、通所リハビリテーションにおいても、継続して栄養改善加算算定を行っている。 給食委託会社エームサービスと献立検討会を実施し、献立の定期的な見直しや改善を行った。行事食以外に年に4回のイベント食を実施し、満足度向上にも繋げることができた。
今後の展望	今年度は令和2年度の診療報酬改定により、回復期リハビリテーション入院料1において、病棟管理栄養士専任配置が努力義務より、1名以上の常勤管理栄養士の専任配置が義務づけられた。栄養情報提供書についての加算の新設もあり、入院栄養指導の実績を上げ、栄養情報提供書の作成に取り組んでいきたいと考えている。 給食管理については、よりよい食事が提供できるよう献立や調理方法等の定期的な見直しを行いイベント食の実施を行っていきたい。

文責：木本美智留

## 10) 医事課

構成員数	管理者：1名 外来事務：2名 入院事務：2名 診療情報管理室：1名
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務の視点：人的・物的資源を有効活用し、業務改善を行います</li> <li>・顧客の視点：笑顔を決やさず、接遇の向上を目指します</li> <li>・業務プロセスの視点：チーム医療を实践し、他部署との連携を強化します</li> <li>・学習・教育・研究の視点：向上心と向学心を持ち、スキルアップを目指します</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合案内 ・受付 ・カルテ管理 ・入院時案内 ・会計 ・診療報酬請求</li> <li>・診断書受付 ・診断書作成補助 ・相談窓口 ・未収金管理 ・診療情報管理</li> <li>・管理指標/統計 ・施設基準管理 ・システム管理補助</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者延数：33,849人/年（92.5人/日 稼働日366日）前年度比 108.0%</li> <li>・外来患者延数：15,032人/年（62.6人/日 稼働日240日）前年度比 105.1%</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率向上に寄与する資料作成や施設基準対応、部門間調整などについて業務分配を行うことで各職員のスキルアップが図れた。</li> <li>・勉強会や講演会などに積極的に参加。得た知識/情報の内容によっては他部署と共有する事で連携の強化が図れた。</li> <li>・厚生労働省の共同指導においては、他部署との連携を密にし対策が行えた。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容や業務量、適材適所を考慮しつつ、業務集約/担当異動を積極的に行うことで能力の向上と業務の効率化を目指します。</li> <li>・来年度の診療報酬改定に向けて、当院の状況を踏まえた施設基準取得の提案を行うとともに、実際の業務運用に関し他部門と十分な調整を行う。</li> <li>・統計分析能力を高め、経営に寄与する情報の発信を課題とする。</li> <li>・事務部全体での労働生産性向上に寄与する提案を行う。</li> <li>・研究会、勉強会に積極的に参加し、他病院との情報交換を行う。</li> </ul>

文責：宮本恵一郎



# 11) 経理課

構成員数	2名
2019年度 目標、方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財務の視点 収入・支出の迅速・的確な状況分析を行います 健全経営のため、問題意識をもち、あらゆる提案、施策を講じます 経営上の戦略を高めます</li> <li>2. 顧客の視点 笑顔、おもいやりの接遇で安心を与えます 金銭に係るミスをなくし、信頼を勝ち得ます きれいな病院環境作りを率先して推進します</li> <li>3. 業務プロセスの視点 正確・迅速・適正・安全な処理を行います 財務・管理会計の見える化を図ります 透明性の確保に努めます</li> <li>4. 学習・教育・研究の視点 会計・経理の専門性を向上させます 業務の枠にとらわれず、積極的に病院運営に携わります 人材育成を通して、人としての成長を促します</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<p>経理業務として、出納業務、日計業務、伝票業務、銀行業務、支払集計、売上集計、未収管理、決算業務などを主に実施。</p> <p>また、経営管理業務として、予算作成・管理、財務管理、管理会計、経理報告、各種シミュレーション・資料作成などを行う。</p> <p>その他、電話交換や非常勤医師報酬計算、401K・マイナンバー関連、出張手配・旅費の管理、入職時諸対応、ユニホームの管理など、総務、人事等事務全般におよぶ。</p>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業計画に基づいた予算管理の確実な実行</li> <li>2. 消費税増税対応、対策</li> <li>3. 空調・照明設備のスムーズな導入（リプレイス）</li> <li>4. 出張精算のルール化、効率化</li> <li>5. 予算編成プロセスの明確化</li> </ol>
目標の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財務の視点 計画より収益は増収、経費は削減が図れ、結果的に計画を上回る利益確保となった。適正な予算管理が図れた。今後さらに質の向上を目指す。</li> <li>2. 顧客の視点 引き続き接遇、業務の面では十分な対応が図れ、目標は十分達成できた。院内の環境整備にも引き続き取り組み、安心して利用できる環境づくりを行った。</li> <li>3. 業務プロセスの視点 予算編成や出張精算などの業務を再確認することで、業務の明確化、効率化が図れた。</li> <li>4. 学習・教育・研究の視点 研修については今後の継続課題としたい。引き続き人材育成の観点から、継続的かつ計画的な研修の場を確保していきたい。</li> </ol>
今後の展望	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中長期計画に基づくこの4年間は、計画的かつ確実な事業経営が果たせている。 今後も確実に経営成績を残し、財務体質の改善を図って行く。</li> <li>2. 2020年度は、屋上の改修や過去延期してきた投資案件の実行などもあり、経費面では昨年に続き大変厳しい年度となっている。ただ今後、修繕や投資も一周し一段落してくることから、病院の将来を見据えた中長期展望を踏まえ、適正な投資を計画していく必要がある。</li> <li>3. 収益については、稼働の安定によりほぼ計画する収益確保が図れている。経費の上昇傾向は引き続き続いており、今後の病院収益をどのように増やしていくかが課題となる。</li> </ol>

文責：井本 裕之



## 12) 総務課

構成員数	2名
2019年度 目標、方針	1. 財務の視点 病院経営に貢献できるコスト削減の提案 2. 顧客の視点 患者・職員の環境をより良いものに整備 3. 業務プロセスの視点 業務改善・効率化を行いムダを省く 4. 学習・教育・研究の視点 業務に必要な知識の向上につとめ年1回研究発表
業務（活動） 内容、特徴等	・医療品、一般物品、備品、購入及び管理 ・施設管理全般 ・システム管理 ・総務・人事管理 ・医師名簿、従業員名簿の作成 ・標榜診療科、医師等の変更に伴う届出 ・当直の依頼、調整 ・立入調査等に伴う資料作成 ・月間予定表の作成 ・麻薬関係書類手続き、管理 ・郵便物管理 ・電話交換業務
実 績	・空調、LED本館リニューアル更新 ・施設管理見直し（消防点検 業者変更 → 年間13万円削減） （医療ガス 点検内容見直し → 年間7万円削減） （害虫駆除 業者変更 → 金額同額 施工範囲拡大） ・物品購入先見直し（コピー用紙・封筒・名刺 → 年額約5万円削減） ・NTT固定電話機リース見直し ・設備更新&修繕工事 （社用車・排煙窓・非常発電機・ボイラーポンプ・本館EVバッテリー交換）
目標の評価	<p>今年度は本館の空調とLED更新を各部署の協力により無事終了することが出来た。            導入後削減目標の3.5割には届いておらず、現状約2割ベースで電気量の削減となっており課題が残る。</p> <p>その他の設備更新修繕では、法令順守や館内の業務に支障が出ない事を優先事項とし、行うことが出来た。例年継続出来ている機器選定や業者選別は勿論、費用対効果や今必要なものなのかを考え経費削減に努めてきた。</p> <p>物品購入に関しては増税前の対策や業者見直して削減出来ているが、増税の影響による業者見直しまでは出来ていなかったため、来年度は改善する必要がある。</p> <p>使用電力が増加した際に各部署への呼びかけを行う体制作りも、オルゴールを全館放送で流すなど変更が出来た年でもあり、その取り組み等についても部署発表や学会発表を通し院内外へ情報共有できた。</p>
今後の展望	<p>電気量削減に向けて、無駄がないか業者と密に連携を取り情報収集を行い、各部署への協力呼びかけを総務課発信でこまめに行い削減を図っていく。</p> <p>物品については、価格変更があった際には相見積を取ることや、再利用可能な物品がないか等を各部署への呼びかけを行う事でコスト削減を行っていく。</p> <p>今後も部署内でも仕事の共有化を進めていくとともに、仕事内容の見直し・効率化をこまめに行っていく。</p> <p>病院経営に少しでも寄与できるよう、備品の管理・修繕等を早急に行うことや意見集約で他部署との連携を強化していき、患者さんや職員が利用しやすい環境づくりに努めていく。</p>

文責：後藤奈津実

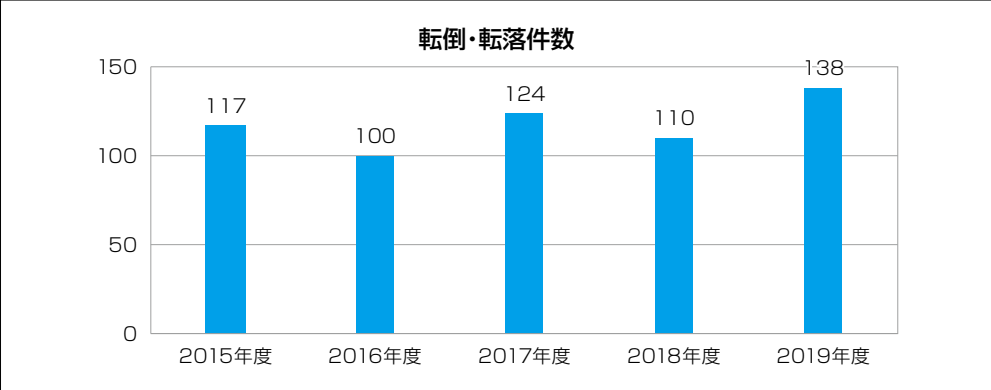
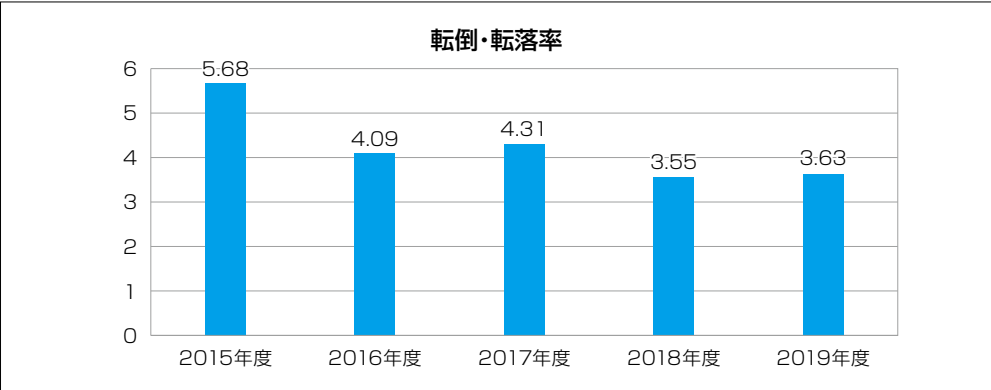
## 13) 地域連携室

構成員数	6名（室長：1名 MSW：4名 事務：1名）										
2019年度 目標、方針	<p>①地域の医療福祉機関との連携をより一層強化し、患者さんにとっての安心な医療、健康増進に貢献する</p> <p>②前方と後方連携の役割を機能させ、紹介患者の受け入れと連携の円滑化を図る</p> <p>③入退院支援体制の強化をする為に院内外の多職種と連携・協働を深め、患者様にとって退院後の生活が安心して送れる退院支援を行う</p> <p>④地域連携室の役割を患者・家族、院内スタッフに周知し、相談しやすい環境を整える</p> <p>⑤大分リハビリテーション病院の地域貢献の機能を他部署と連携し、地域に向けて情報を発信する</p> <p>※院内目標…計画的な入退院支援を行い、稼働率95%を目標に病院の経営的な安定に貢献できるよう努める</p>										
業務（活動） 内容、特徴等	<p>【相談業務】 外来・入院患者に対し、アセスメントを行ない退院先の検討、経済的・心理的援助、制度説明、社会資源の情報提供等を実施。</p> <p>【介護連携業務】 入院・家屋調査・外出・外泊訓練・施設動作確認時のケアマネージャーや各事業所等との調整。退院前カンファレンスの開催。</p> <p>【紹介・逆紹介】 紹介元と紹介先の医療機関との調整。</p> <p>【集計業務】 実績の集計と分析。</p> <p>【連携通信発行】 連携医療機関・施設へ当院のトピックスや病床等の情報を提供。</p> <p>【営業活動】 定期的に医療機関へ、紹介患者の経過報告を兼ねた営業活動を実施。</p> <p>【医療機関との連携】 病院交流会開催と他院交流会へ参加。回復期リハビリテーション病棟連絡協議会と東部医療福祉協議会等の活動。脳卒中/大腿骨連携パス参加。</p>										
実 績	<p>【年間相談件数】 826件</p> <p>【紹介件数】 入院：491（+25）件（回復期478件 一般3件） 外来：1,468件</p> <p>主な紹介元医療機関（入院）：</p> <table border="0"> <tr> <td>大分岡病院133（-18）件</td><td>河野脳外科病院93（+9）件</td></tr> <tr> <td>大分医療センター100（+22）件</td><td>大分大学医学部附属病院32（-7）件</td></tr> <tr> <td>大分県立病院36（+1）件</td><td>アルメイダ病院34（+15）件</td></tr> <tr> <td>永富脳神経外科病院7（+5）件</td><td>大分整形外科病院7（+1）件</td></tr> <tr> <td>大分赤十字病院5（-10）件</td><td>臼杵市医師会立コスモス病院5（-1）件</td></tr> </table> <p>【逆紹介件数】 入院：608（+56）件 外来：283（+52）件</p> <p>【年間病床稼働率】 94.75%</p> <p>【年間在宅復帰率】 90.97%</p>	大分岡病院133（-18）件	河野脳外科病院93（+9）件	大分医療センター100（+22）件	大分大学医学部附属病院32（-7）件	大分県立病院36（+1）件	アルメイダ病院34（+15）件	永富脳神経外科病院7（+5）件	大分整形外科病院7（+1）件	大分赤十字病院5（-10）件	臼杵市医師会立コスモス病院5（-1）件
大分岡病院133（-18）件	河野脳外科病院93（+9）件										
大分医療センター100（+22）件	大分大学医学部附属病院32（-7）件										
大分県立病院36（+1）件	アルメイダ病院34（+15）件										
永富脳神経外科病院7（+5）件	大分整形外科病院7（+1）件										
大分赤十字病院5（-10）件	臼杵市医師会立コスモス病院5（-1）件										
目標の評価	地域医療機関や事業所との連携を図っており、データ化し分析を行えるよう取り組んでいる。また、患者・家族が相談しやすい環境を整え、相談支援を行なっている。										
今後の展望	地域医療機関や介護事業所との定期的な情報交換等連携強化に取り組んでいく。また、大分リハビリテーション病院の認知度向上のため、広報活動に取り組んでいく。ソーシャルワーカーの専門的知識・技術の向上を図り、他職種との連携や入退院支援を効率的に行えるよう努めていく。										

文責：田島 景介

## 1) 医療安全管理委員会

構成員数	院長（医療安全管理者）、看護部長、事務長、医療安全管理部室長、各部門代表者 計18名																																						
2019年度 目標、方針	<b>【目標】</b> 事故の発生及び再発防止に努める。 <b>【方針】</b> 1. マニュアル・システムの整備。 2. 事例検討と要因分析し再発防止に努める。 3. 転倒・転落予防を強化し、院内の転倒・転落の低減を目指す。 4. 院内ラウンドを定期的の実施し、医療安全の質向上を図る。																																						
業務（活動） 内容、特徴等	・ 定例委員会の開催（1回/月 第3火曜日 16：00～） ・ 医療安全必須研修の開催（2回/年） ・ 医療安全ラウンド（1回/月 第2金曜日 16：00～） ・ 医療安全マニュアル、システムの整備																																						
実 績	<p>①年度別インシデント・アクシデント件数</p> <div><p>年度別インシデント・アクシデント</p><table><thead><tr><th>年度</th><th>インシデント</th><th>アクシデント</th></tr></thead><tbody><tr><td>2019年度</td><td>298</td><td>2</td></tr><tr><td>2018年度</td><td>255</td><td>5</td></tr><tr><td>2017年度</td><td>261</td><td>5</td></tr><tr><td>2016年度</td><td>207</td><td>4</td></tr><tr><td>2015年度</td><td>226</td><td>4</td></tr></tbody></table></div> <p>②事故の種類</p> <div><p>事故の種類</p><table><thead><tr><th>事故の種類</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 薬剤</td><td>18%</td></tr><tr><td>2. 検査</td><td>4%</td></tr><tr><td>3. 転倒転落</td><td>46%</td></tr><tr><td>4. 事務処理</td><td>3%</td></tr><tr><td>5. 食事</td><td>9%</td></tr><tr><td>6. 療養上の世話</td><td>3%</td></tr><tr><td>7. 診療・治療・処置</td><td>1%</td></tr><tr><td>8. ドレーン・チューブ</td><td>2%</td></tr><tr><td>9. その他</td><td>14%</td></tr></tbody></table></div>	年度	インシデント	アクシデント	2019年度	298	2	2018年度	255	5	2017年度	261	5	2016年度	207	4	2015年度	226	4	事故の種類	割合	1. 薬剤	18%	2. 検査	4%	3. 転倒転落	46%	4. 事務処理	3%	5. 食事	9%	6. 療養上の世話	3%	7. 診療・治療・処置	1%	8. ドレーン・チューブ	2%	9. その他	14%
年度	インシデント	アクシデント																																					
2019年度	298	2																																					
2018年度	255	5																																					
2017年度	261	5																																					
2016年度	207	4																																					
2015年度	226	4																																					
事故の種類	割合																																						
1. 薬剤	18%																																						
2. 検査	4%																																						
3. 転倒転落	46%																																						
4. 事務処理	3%																																						
5. 食事	9%																																						
6. 療養上の世話	3%																																						
7. 診療・治療・処置	1%																																						
8. ドレーン・チューブ	2%																																						
9. その他	14%																																						

実績	<p>③転倒・転落 ・転倒・転落件数</p>  <table border="1"> <caption>転倒・転落件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015年度</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td>2016年度</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>138</td> </tr> </tbody> </table> <p>・転倒・転落率（％）</p>  <table border="1"> <caption>転倒・転落率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>率（％）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015年度</td> <td>5.68</td> </tr> <tr> <td>2016年度</td> <td>4.09</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>4.31</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>3.55</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>3.63</td> </tr> </tbody> </table> <p>各部署より提出されるインシデント・アクシデント報告について、医療安全管理部が組織横断的立場で事実の確認を行った。データの集積と問題点を分析し多職種の所属長で構成される委員会で連携を図り、事例の検証や情報共有、対応策の検討・提案を行った。</p> <p>■医療安全必須研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 令和元年10月2日（補講：10月11日、10月15日） <ul style="list-style-type: none"> <li>【テーマ】医療安全の現状と取り組み</li> <li>院内のインシデント・アクシデントの動向</li> <li>医療安全管理委員会の取り組み～成果と課題～</li> <li>【講師】医療安全管理部 池田 智美</li> </ul> </li> <li>・第2回 新型コロナウイルス流行期のためDVD視聴研修に変更 <ul style="list-style-type: none"> <li>【テーマ】過去の事例からリハビリ病棟の転倒・転落対策を見直そう</li> <li>【講師】リハビリテーション部 川井 康平</li> </ul> </li> </ul> <p>■医療安全ラウンド</p> <p>医療安全管理委員会メンバーによる月1回（第2金曜16：00～）実施。ラウンド結果は、委員会で部署にフィードバックし、多職種での視点から院内環境の確認と規範の順守についての指導を行えた。</p>	年度	件数	2015年度	117	2016年度	100	2017年度	124	2018年度	110	2019年度	138	年度	率（％）	2015年度	5.68	2016年度	4.09	2017年度	4.31	2018年度	3.55	2019年度	3.63
年度	件数																								
2015年度	117																								
2016年度	100																								
2017年度	124																								
2018年度	110																								
2019年度	138																								
年度	率（％）																								
2015年度	5.68																								
2016年度	4.09																								
2017年度	4.31																								
2018年度	3.55																								
2019年度	3.63																								
目標の評価	<p>急変時、迅速に対応できるよう救急カートの院内統一を行った。薬品、物品の標準化にもつながり成果があった。毎月、転倒・転落チームと事例についての振り返りや現場検証を行った。発生の背景を整理し対策を立案・実施したことによりアクシデント発生が2件/年に抑えられた。医療安全ラウンドで提案した改善案件は運用できていた。</p>																								
今後の展望	<p>患者の生活や働くスタッフの業務が安全・安心して行えるよう医療安全活動を継続していき、院内全体の医療安全文化の醸成を目指していく。また、職種に隔たりなくヒヤリハット・インシデント報告が行える体制を構築していきたい。</p>																								

文責：池田 智美

## 2) 感染管理委員会

構成員数	院長、看護部長及び各部門の代表を構成員とする計27名 (委員長：佐藤崇史医師 副委員長：看護師 小坪 知子)
2019年度 目標、方針	・ 感染防止対策マニュアルに沿って適切な感染予防策を行い、院内感染を防止する。 ・ 感染症の発生に対して、早期対策に努める。
業務（活動） 内容、特徴等	1. 委員会の開催 1回/月（最終週の金曜日16時開催） 2. 感染管理全体研修 2回/年 3. 全職種を対象にした手洗い、手指衛生の実技研修 1回/年 4. 中途採用者研修 2回/年 5. 感染管理実務者協議会 6. 感染管理統括センター活動及びカンファレンス参加 1回/月 7. 院内感染管理ポスターの作成・管理・掲示 8. 感染環境ラウンドの実施 1回/週 9. 厚生局共同指導
実 績	1. 委員会開催 ・ 感染防止策マニュアル追加・改訂 ・ 感染レポート ・ 抗菌剤使用状況 ・ 擦り込み式手指消毒剤使用量のサーベランス・手指衛生の5つのタイミング実施遵守の取り組み ・ 院内、大分市内、全国の感染発生状況の報告、検討 2. 感染管理全体研修開催（7月・12月開催 全職員参加） ①1回目…「アウトブレイク対応 1人1人の行動が鍵 インフルエンザアウトブレイクを経験して」 講師：岡病院感染認定看護師 幸 直美 ②2回目…「嘔吐物処理方法と実践」DVD視聴後に実技 講師：感染管理委員会 3. 中途採用者研修（7月開催） 3名受講（東病棟ワークエイド1名、西病棟介護福祉士2名） 4. 感染管理実務者協議会参加 （大分日赤病院・大分医療センターにて協議。合同ラウンド実施） 5. ベストプラクティス研修参加（西病棟：高原、東病棟：川野愛） 集尿器の洗浄・片付け方の手順書作成。3/27感染管理委員会にて報告。 6. 新型コロナウイルス感染対応マニュアル作成
目標の評価	・ 12/22入院患者3名のインフルエンザ発症によりアウトブレイク対応とした。面会制限、個室隔離、濃厚接触者の予防投与等を行った。院内感染は2月に終息し面会制限解除とした。 （感染者数：入院患者4名12/19～12/25、職員16名11/25～2/4） ・ 新型コロナウイルス流行に伴い院内対応マニュアルを作成し感染管理委員会、全館メールにて院内職員への周知を行った。院内感染が発覚した病院より入院した患者1名が陽性と診断されたが、診断日に専門病院へ転院となり感染拡大を防ぐことができた。濃厚接触者（入院患者1名、職員39名）に対してPCR検査実施。全員が陰性であった。 面会禁止、手指消毒の徹底、入院患者・職員全員のマスク着用、除菌クロスによる環境清拭や定期的な換気強化等により感染拡大防止に繋がった。
今後の展望	・ 院内インフルエンザフェーズを完成し、アウトブレイク防止に繋げる。 ・ 新型コロナウイルス感染対策の強化。 ・ 感染防止に対する職員の意識向上に向けた教育体制の構築。

文責：小坪 知子、池田 智美

### 3) 労働安全衛生委員会

構成員数	院長、産業医、衛生管理者、各部門代表者 計19名
2019年度 目標、方針	職員の健康診断を確実に実施し各種ワクチンの接種、疾病予防等に取り組む メンタルヘルスケア、ストレスチェックの実施、フォロー 職場環境の見直し
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 月1回委員会の開催（第3月曜日 16時）</li> <li>2. 職員健診の実施、受診勧奨</li> <li>3. 各種ワクチンの実施</li> <li>4. ストレスチェック実施</li> <li>5. 作業関連疾病予防事業</li> <li>6. メンタルヘルスケア</li> <li>7. 針刺し・皮膚粘膜汚染発生後のフォロー</li> <li>8. 職員ご意見箱の管理</li> <li>9. 職場環境ラウンドの実施</li> </ol>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員健診受診率：100%</li> <li>・ 各種ワクチンの接種：100%</li> <li>・ ストレスチェックの受検率：97.3%（前年度同等）</li> <li>・ メンタルヘルスケア</li> <li>・ 作業関連疾病予防事業：職員に身体負担に関する労働実態アンケートを実施 今年度は腰痛予防について病棟・リハビリテーション 中心に実施</li> <li>・ 針刺し・皮膚粘膜汚染発生後のフォロー：針刺し2名、皮膚粘膜汚染：7件</li> <li>・ 職員ご意見箱：7件</li> <li>・ 職場環境改善（月1会）：8月より開始</li> </ul>
目標の評価	<p>職員健診、ワクチンの接種共に100%ではありましたが、細かい事で改善が必要と考えられる点があった。</p> <p>途中からではありますが、環境改善ラウンドを開始し院内の危険箇所等の把握を行う事で改善へのきっかけとなった。</p> <p>作業関連疾病予防事業では、実態調査を行う事で何が必要とされているのかを知り研修などを行った。</p> <p>健康経営事業所の認定を受けた。</p>
今後の展望	<p>各部署のメンバーと連携し、環境の改善や職員健診、ワクチン接種等様々な場面で円滑に実施できるように協力して行っていく。</p> <p>様々な職員の声を拾い上げていける様に活動していく。</p>

文責：橋口 マリ



## 4) 臨床検査適正化委員会

構成員数	医局、看護部（西病棟、東病棟、外来、健診）事務部、検査課各1名 計7名
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正確、迅速な検査結果の報告</li> <li>・ 新規機器の導入による効率化を図る</li> <li>・ 他部署と連携を行い検査業務の見直し、効率化、円滑な検査を進めていく</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月1回委員会の実施（第2木曜日）</li> <li>・ 外部精度管理、内部精度管理の実施・報告</li> <li>・ 機器の保守管理、試薬の在庫管理の実施</li> <li>・ 現行試薬、検査方法、検査機器の見直し</li> <li>・ 輸血後フォローの実施</li> <li>・ 他部署からの要望改善</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部精度管理参加（日臨技、日本医師会、大分県医師会）</li> <li>・ 外来迅速検体管理加算9,075件、検査管理加算3,199件</li> <li>・ 輸血後フォロー検査の実施10件</li> <li>・ 新規検査機器の導入：便潜血測定装置、血液ガス分析装置、心電計</li> <li>・ 動脈硬化検査：脈波伝播速度から心臓足首血管指数に変更</li> <li>・ インフルエンザキットの変更</li> <li>・ 簡易血糖測定器の管理</li> </ul>
目標の評価	参加した外部精度管理では概ね良好であった。 大きな機器のトラブル等も無く結果報告に遅延をきたす事がなく迅速に対応する事が出来た。 輸血フォローに関しては前年度と比べ、関係部署と連携を取りながら比較的スムーズな運用が出来るように取り組んだ。
今後の展望	精度管理の精度の向上を目指し、今年度よりもさらに良い結果が得られるようにメンテナンスや試薬管理等に重点を置き活動を行っていく。 また、他部署からの要望に速やかに対応できるように取り組んでいきたい。 新しい検査の提案や必要な情報を提供できるようにしていく。

文責：橋口 マリ

## 5) 診療情報管理委員会

構成員数	診療部1名、看護部（看護管理室1名 外来1名 西病棟2名 東病棟3名） リハビリテーション部3名、薬剤部1名、事務部1名 （必要時）検査課、放射線課、栄養課、健診センター
2019年度 目標、方針	診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理に関する事項の検討を行い、改善を図る。 個人情報の適切な管理を行う。
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な委員会開催（奇数月）</li> <li>・ 診療録帳票類の新規申請又は改訂に関する審議と承認</li> <li>・ 診療録記載方法についての検討</li> <li>・ 診療録の管理と運用方法についての検討</li> <li>・ 個人情報保護に関する管理 等</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師退院サマリー完成率の報告、作成促進</li> <li>・ 診療録帳票類の新規申請、運用変更申請</li> <li>・ 診療録管理・記載方法についての検討、注意事項等の報告</li> <li>・ 個人情報保護研修（2019/9/25）</li> </ul>
目標の評価	帳票類の修正や電子カルテ運用の見直しなどを行いつつ、適正な診療録管理を行えている。 また、個人情報保護の管理・取扱いの周知徹底の強化を行った。
今後の展望	診療録の記載方法と記録の重要性等について啓発活動を行い、診療録の質の向上を目指す。 個人情報保護について、病院全体の更なる意識向上に向けて取り組んでいきたい。

文責：丹生 恵子



## 6) 褥瘡対策委員会

構成員数	診療部、看護部（管理室・西病棟・東病棟）、薬剤部、栄養課、口腔衛生課、リハビリ・在宅支援部、事務部。 合計15名
2019年度 目標、方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 褥瘡発生件数の把握、及び褥瘡発生率の算出</li> <li>2. 褥瘡対策用具の選定</li> <li>3. 研修会の開催</li> <li>4. 褥瘡対策マニュアルの見直し</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例の委員会開催（1回/月 毎月第1金曜日 16時～）</li> <li>2. 褥瘡発生率、対策、処置内容等の情報共有</li> <li>3. 褥瘡対策マニュアルの見直し</li> <li>4. 院内研修実施</li> <li>5. 褥瘡対策用具の導入</li> <li>6. WOCラウンドの導入</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 定期委員会で患者状況報告を実施し対策検討。 褥瘡発生率（H31年4月～R2年3月）：1.26%（総合発生率平均） 西病棟：1.50%、東病棟：1.42%</li> <li>3. 褥瘡対策マニュアル見直しの継続。 変更点については褥瘡対策チームを中心に各部署スタッフへ情報伝達を行った。</li> <li>4. 研修会開催 テーマ「～車椅子・クッションについて知ろう～」 講師：リハビリテーション部 PT西山 OT長尾 開催日：R2年1月28日（火）17：45～18：30 リハパーク1階 当院の車椅子とクッションの種類・特性について勉強会を行った。 参加者：28名</li> <li>5. 耐圧マット（アルファープラスくつとRe5枚、Fores3枚）新規8枚購入。</li> <li>6. 1回/週（木曜日）WOCによる病棟ラウンド。</li> </ol>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期の委員会で電子カルテ内の褥瘡計画書を参照（写真評価）しながら、情報共有を行い、対策について褥瘡チームで検討した。</li> <li>・ 1回/週のWOCラウンド開始に伴い、早期に褥瘡予防策や処置方法について指導を受けることができ褥瘡悪化防止と知識向上に繋がった。</li> <li>・ 重症患者受け入れに伴い、耐圧マット8枚を新規購入した。必要な患者にマットの選定ができるようになった。</li> <li>・ 車椅子・クッションの取り扱いについての研修をおこなうことにより、当院の車椅子とクッションの種類・特性について周知することができた。</li> <li>・ 褥瘡対策マニュアルの見直しを行い、チーム主体で部署スタッフに情報提供を行った。</li> </ul>
今後の展望	<p>高齢者で麻痺や廃用症候群などADLが低下している患者の入院が多いことから、今後も褥瘡やスキントラブルの発生率が高くなっていくと予測される。入院時より褥瘡対策チームが介入し褥瘡発生・増悪の予防に努めていく。急性期病院からの継続症例に対しては、患者の栄養状態を評価しながら治癒に向けたケアを行い、院内発生がゼロになるよう褥瘡予防に努めていく。</p> <p>継続して研修を開催し、知識・技術の向上に繋げていく。</p>

文責：萱嶋 朋子、池田 智美

## 7) 医療ガス安全管理委員会

構成員数	10名
2019年度 目標、方針	病院で使用する医療ガス（酸素、吸引）とその関連施設の安全性と有効性を調査し、医療ガスによる医療事故を未然に防ぐとともに、診療活動の円滑化を図ることを目的とする。
業務（活動） 内容、特徴等	1) 医療ガス安全管理委員会 開催日：平成31年4月17日 2) 日常点検 各部署によるアウトレットバルブ等の点検。 3) 総合安全点検 年1回 九州エアウォーター（株）による医療ガス設備保守点検を平成31年1月25日に実施。
実 績	医療ガス設備点検での、不良箇所の確認、修理対応の実績 日常点検の実施 設備保守点検年4回実施は1年点検のみ実施
目標の評価	各部署とも毎月定期的に点検表の提出を行っていただいた。今後も実施していただくよう声掛けを行う。 また日常点検は簡易的であり、総合点検も年1回実施のみとなっている。
今後の展望	厚生労働省通知 医療ガスの安全管理について出来る範囲で行なってきたが、今回保健所の立ち入りにて点検4回の実施と院内研修の実施が望ましいとの回答であった。今後対応できるよう業者と打ち合わせを行い計画や変更していく。

文責：後藤 陽介

## 8) 防災・省エネ・施設管理委員会

構成員数	15名
2019年度 目標、方針	防災管理業務及び防災応急計画について検討し、火災、地震及びその他の災害の予防並びに人命の安全、災害の防止を図ることを目的とする。また、院内の省エネルギーの徹底、改善を促し、患者さんや職員が利用しやすい施設作りを目指す。
業務（活動） 内容、特徴等	夜間を想定した訓練を秋に実施し、昼間を想定した訓練を春に実施した。 省エネや施設面に関しては参加メンバーや院内メール365を通じ、全体に情報共有。 また本館の空調・LED更新。
実 績	夜間や日中の火災と津波を想定した避難・通報・総合訓練。実施要綱を基にしたマニュアル訓練。消防点検会社の指導による消火訓練。新入職員など訓練未経験の職員をはじめ最大60名が参加。本館の空調とLED更新をR1.6月～R2.1月で無事終了することができた。
目標の評価	消防訓練では、前回の課題であった、初動が分からないなどがあり、1つ1つ機器の取り扱い方やポイントについて確認した。 また津波を想定した火災訓練を数年ぶりに行うことができ、昨年の課題であった取り組みを行うことが出来た。 また、省エネについて機器更新を通してハード面の問題は大きく解消された。
今後の展望	災害時の避難方法等を再検討して、より実戦的な内容で訓練に組み込んでいきたい。また近年では南海トラフ地震が懸念され、台風被害、土砂災害被害も各地で発生している。そのような内容を盛り込んだ防災訓練についても今後検討していきたい。 省エネ面においては今後機器の効率的な運用を目指し、経費削減につなげることができるよう努める。

文責：後藤 陽介

## 9) 薬事審議委員会

構成員数	診療部常勤医師・薬剤部責任者
2019年度 目標、方針	1. 薬剤費のコスト削減に向け、後発医薬品への採用変更を積極的に行う 2. 岡病院との採用医薬品の統一化を図り、廃棄額の削減に努める
業務（活動） 内容、特徴等	当委員会は、院内における医薬品の採用可否の検討を行い、新規採用、採用削除、採用変更と同時に、後発品への採用変更検討も積極的に取り組んでいる。 今年度も昨年同様、医療費の削減を目的に積極的に後発医薬品の採用検討を行った。
実 績	○2019年度医薬品採用状況 【新規採用医薬品数】 6品目 【削除医薬品数】 13品目 【後発医薬品への変更品数】 8品目 【採用身分変更数】 7品目
目標の評価	後発品への積極的な変更と共に、岡病院との採用薬の統一化も進めることができた。さらに、採用削除により不動態在庫の整理もすることができた。
今後の展望	今年度は5月と7月に開催した。前年度より少ない開催回数となったが、削除品目数、後発医薬品への変更は例年以上の品目数となった。後発医薬品の割合は概ね90%以上であった。引き続き後発品への変更等は積極的に行っていく。

文責：岡崎 愛

## 10) 給食・栄養管理委員会

構成員数	医師1名、管理部1名、西病棟4名、東病棟3名、薬剤部2名、リハビリテーション部4名、事務部1名、栄養課1名、エムサービス1名
2019年度 目標、方針	給食サービスや栄養管理における改善点などの検討を行い、安全で美味しい食事を提供できるよう努める。
業務（活動） 内容、特徴等	食事アンケートの実施と結果について検討 行事食や食育についての報告 栄養管理に関する事項の検討 給食食事提供に関する事項の検討
実 績	委員会開催：11回（8月以外は毎月開催） ・食事アンケート、4回（6月、9月、1月、3月）実施し、結果を検討した。 ・行事食提供 （4月：春の弁当 5月：子供の日 6月：あじさいゼリー 7月：七夕・土用の丑の日 9月：敬老の日・栗ご飯 12月：クリスマス・大晦日 1月：正月・七草 2月：節分 3月：ひな祭り） ・月1回寿司の日の実施。 ・イベント食として、今年はラグビーワールドカップにちなんだ料理（ニュージーランド料理・フィジー&ウェールズ料理）を10月に、吉野家とのコラボメニューを1月に、四国の郷土料理を2月に実施を行った。 ・エムサービスの取り組みとして19日を「食育の日」とし、毎月委員会でテーマの食材、献立の紹介、報告を行った。 ・職員ヘルシーナビ、「血管年齢」を10月に実施。65名の参加。職員食も血管によい食事を提供し、展示を行った。
目標の評価	食事アンケートの実施と結果について、エムサービスと献立検討会を行い、献立に反映させることができた。四季折々の行事食を提供し、年に4回のイベント食を実施することができた。今年度は職員に対するヘルシーナビ「血管年齢」を実施した。参加者も多く、次回も参加したい等の声も聞かれ、今後も継続していきたい。
今後の展望	イベント食の実施と、食事アンケートの定期的な実施（年4回）を行い、食事に対する患者満足度向上に繋げていく。職員食については、イベント・ヘルシーナビの継続と、職員食に対するアンケートの実施を行い、職員食満足度向上に繋げていく。食器の補充・入れ替えを行い、患者満足度向上に繋げたいと考えている。 病棟栄養管理を円滑に行う為、栄養管理に関する事項の検討を行っていく。

文責：木本美智留

## 11) 教育委員会

構成員数	リハビリテーション部 事務部 外来 東病棟 西病棟 放射線課 健診 栄養課 看護管理 医局 各1名 10名で構成
2019年度 目標、方針	職員に求められている研修の企画・実施と参加の促進 BLS研修の実施 接遇研修の実施
業務（活動） 内容、特徴等	院内研究発表会の開催 敬和会合同学会の開催協力・準備 研修会の企画・実施（接遇研修・BLS研修） 事業報告書取りまとめ 学術・研究統括センターとの橋渡し
実 績	院内研究発表会 7月2日、4日の2日に分けて17：40以降の時間に実施 敬和会合同学会（令和元年9月1日（日）あけのアクロスホール） BLS研修 今年度は全職員対象に当院チームスタッフのみの指導で初開催を準備していたが、諸事情により中止した。 接遇研修（接遇研修 1.0：令和元年6月12日 27名） （接遇研修 2.0：令和2年1月30日 26名） 2016年から開始した接遇研修は職員全員がおよそ受講したので、職員への聞き取りを元に内容を更新し、新シリーズとして再開した。 各部署より選抜した研修未修職員に対して実施 17：45より90分 講師 大分岡病院 検査課顧問 後藤部長
目標の評価	接遇研修は1巡したので、内容を刷新し2巡目を開始した。職員の知りたい内容をヒアリングし、1巡目で得た感想を元に講師である後藤顧問に新しい内容を構成して頂いた。 BLS研修は今年度、当院スタッフのみで全職員対象の研修を開催するべく準備をしていたが、新型コロナウイルスの状況を鑑み中止した。来年度は開催したい。
今後の展望	2020年10月25日 敬和会合同学会予定（当番：大分リハビリテーション病院） 院内研究発表会兼敬和会合同学会予選会の開催（7月頃） BLS研修実施 全職員対象の研修を計画実施（BLSチーム） 接遇研修 昨年同様、大分岡病院 検査課顧問 後藤部長に講師を依頼する 年2回を目標。昨年度開始した二巡目を継続 教育体制の強化 一般共通項目・専門項目について教育研修環境の構築・整備 出張報告会 新年度より出張報告会の開催。出張（学会、研修会等）した人の中から厳選し職員へフィードバックする機会を設ける

文責：甲斐 秀明

## 12) 広報委員会

構成員数	西病棟3名 東病棟3名 外来1名 事務2名 健診2名 放射線課1名 検査課1名 リハビリ部3名
2019年度 目標、方針	理念、基本方針に基づいた当院の活動を、広く院内外に対して広報、啓発する事を目的とする
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合同広報誌（Link）の原稿依頼・原稿作成・編集・校正・配布</li> <li>・ 敬和の環（大分リハビリテーション病院記事）の原稿依頼・原稿作成・編集・校正・配布</li> <li>・ メディカルリンクセンター会議の参加</li> <li>・ 月1回の委員会</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Linkの発行 原稿作成 配布 <ul style="list-style-type: none"> <li>第14号 予防をテーマに4月発行 (女性にお勧めする年齢に応じたがん検診を担当)</li> <li>第15号 働き方改革をテーマに7月発行 (働きながら学ぶを担当)</li> <li>第16号 敬和会が取り込むデジタル化をテーマに12月発行 (3次元動作解析システム、レシピを担当)</li> </ul> </li> <li>・ 敬和の環の発行 <ul style="list-style-type: none"> <li>第133回～138回 (2019.4.1～2020.3.31 計6回)</li> </ul> </li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Linkでは第16号を大分リハビリテーション病院が担当した。</li> <li>・ 敬和の環では月の委員会で記事の内容や検討ができ、担当部署を振り分けて、スムーズに発行する事が出来た。</li> </ul> <p>2つの広報誌ともに院内外へ予定通り発行でき、当院の活動を広報、啓発する事ができた。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後とも、Link、敬和の環の発行を行い、それぞれの施設の活動を繋げていきたい。</li> <li>・ 担当部署以外にも協力を仰ぎ毎月毎の担当を割り振るなど、どの部署も携わりながら情報共有を行い、円滑かつ計画的に進めていく。</li> </ul>

文責：阿部舞季子

### 13) サービス向上委員会

構成員数	医師1名・看護部5名・放射線課1名・検査課1名・リハ部2名・健診センター1名・事務部1名・歯科衛生士1名
2019年度 目標、方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者サービスの向上を図る</li> <li>2. 職員の親睦を図る</li> <li>3. 病院の環境改善を図る</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夕涼み会およびハンドベル演奏会の企画と開催</li> <li>2. 「ご意見箱」に対する対応</li> <li>3. 患者満足度調査（外来患者）の実施</li> <li>4. 職員を対象としたレクリエーションの企画・開催 バレーボール大会・バス遠足・ボウリング大会</li> <li>5. 構内美化活動の実施</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夕涼み会：8月8日（水）、職員による鶴崎踊りの披露。 および患者によるカラオケ実施。概ね好評であった。</li> <li>2. ハンドベル演奏会：11月27日（水）、職員によるハンドベル演奏の披露。 5曲演奏する。また患者によるカラオケ実施。概ね好評であった。 昨年同様、インフルエンザ流行期を考慮し、11月開催とした。</li> <li>3. 「ご意見箱」回収数：9件（28年度17件、29年度12件、30年度10件） 約7割が病棟設備（乾燥機、冷蔵庫等）に関する意見であった。 設備に関する不満（×評価）が9割と増加した。</li> <li>4. 外来患者満足度調査：12月2日～12月13日。対象者262名。 職員の説明、対応については8割以上が「満足」「ほぼ満足」と回答。 また待ったと感じた患者は14名であり、30分を超えると待ったと感じる傾向にある。総じて どの項目も前回調査時より改善し、外来患者に対する関係職種の対応や調整の成果といえる。</li> <li>5. 職員レクリエーション ミニバレーボール大会：6月14日、支援学校体育館で実施。参加数35名。 バス遠足：10月26日（土）に竹田、久住方面へ出かけた。参加数27名。 ボウリング大会：3月13日（金）に予定するもコロナウイルスのため中止。</li> <li>6. 構内美化活動：5月、7月に病院玄関前の除草作業および清掃を実施。</li> </ol>
目標の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画した行事は予定通り実施できた。今年度は外来患者を対象に患者満足度調査を実施した。 全体的満足度は高いが、「ご意見箱」の声も加味し、接遇面の更なる改善を行う。</li> <li>2. 職員の親睦では2行事を通し交流が図れた。しかし参加者に偏りがあり、より多くの職員が 参加できるような企画・働きかけが必要である。</li> <li>3. 構内美化活動は定期的に実施。今後も定期的に環境ラウンドを実施する。</li> </ol>
今後の展望	<p>患者サービスの向上は病院の質評価として位置づけられているため、今後もサービス向上に継続 的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○患者および職員を対象としたイベントの企画・実施</li> <li>○患者満足度調査の実施と改善策の検討・実施</li> <li>○環境ラウンドの実施</li> </ul>

文責：得丸 昭英



## 14) NST委員会

構成員数	医師1名、西病棟4名、東病棟3名、リハビリテーション部4名、 薬剤師2名、口腔衛生師1名、事務部1名、栄養課3名
2019年度 目標、方針	リハビリテーション栄養をチームで実践し、入院患者の栄養状態の改善や栄養管理上のトラブル 防止を図り、リハビリの効果を最大限発揮できるよう努める。
業務（活動） 内容、特徴等	定期的（月2回）に委員会を開催する。 低栄養の患者にチームで介入し、改善と訓練効果のアップを図る。栄養状態に見合った訓練量か、 または訓練量に見合った栄養量かの確認を行う。 その他、摂食・嚥下障害や消化器症状、排便状況、褥瘡等を改善するための栄養介入の検討を行う。 勉強会の開催。
実 績	介入人数12名。 12名中7名が改善。4名が退院により介入終了となったが改善もみられている。
目標の評価	NST活動開始より3年目となる。昨年度より引き続き少人数の介入であるが、一人一人時間をか けて検討を行った。開催曜日を変更したことにより、NST委員会メンバーの出席率もよく、委員 会として定着し、継続することができている。委員会にて新たな栄養補助食品の紹介や試食をし、 検討を行った。 3月に予定していた病院全体の勉強会「排便コントロールについて」は新型コロナ流行期であっ たため自粛となり、委員会メンバーのみでの勉強会を行った。NST委員会の役割や各職種の役割 を明確にし、多職種により検討を行っている。
今後の展望	NST委員会は定着したため、IT等の活用を行い、効率の良い介入方法の検討を行っていく。リハ ビリテーション栄養の実践にむけて円滑なNST活動（運営）を行えるよう体制を整えていく。来 年度も知識向上のため、勉強会の開催や参加も行っていきたい。院内における活動や栄養管理に ついての周知や浸透を図り、実績を出していきたいと考えている。

文責：木本美智留



## 7 大分リハビリテーション病院教育活動

### 1) 講演・ポスター発表・講義・指導・表彰

#### ①メディカルスタッフ

##### ■ 看護部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/8/7・22、9/20 [指導] 大分県看護協会	認定看護管理者研修 ファーストレベル演習支援 後藤美貴代
2019/9/1 敬和会合同学会	看護師を中心とした多職種連携による 摂食機能療法の取り組みと成果 甲斐久美、松本みなど 久多良木茜、衛藤恵美、岡田清美、 後藤美貴代
	びまん性脳損傷患者の 排尿自立に向けたケア 笠野和代、森山しのぶ、太田久美、 岡田清美、後藤美貴代、佐藤和子
	よりよい大腸前処置に向けて 大西勇紀、大下亜紀穂、村上瑞希、 羽田野千怜、篠原明子、梶谷純子
2019/10/27 第15回 大分県排泄リハビリ テーション・ケア研究会	手術後に脳梗塞を併発し 尿道カテーテル抜去までに時間を 要した患者の排尿自立に向けたケア 安部純佳、村井朋美、宮成美穂、 岩崎有梨、高原友美、岡田清美、 河野真太郎、吉永裕紀、太田有美、 後藤美貴代、佐藤和子
2019/11/17 第37回 大分県病院学会	よりよい大腸前処置に向けて 篠原明子、大下亜紀穂、村上瑞希、 羽田野千怜、大西勇紀、梶谷純子

##### ■ リハビリテーション部

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/6/15 森町公民館	森町健康講話 「運動継続のコツ第2弾」 河野銀次
2019/7/4 大分キャンノンマテリアル	職員に対する 腰痛予防・健診についての講話 渡邊亜紀、河野銀次、橋口マリ 小西理恵
2019/9/14 坂ノ市中学校	ふれあいPTA 西山幸太郎、鴨川孝介、高橋麻美、 山本彩加、河野奈緒美、松本昂平、 後藤慎吾、甲斐義宏
2019/10/5 大分銀行	健康経営事業 「ダイエットと運動療法について」 河野銀次、指宿春菜
2019/12/15 上志村公民館	防災に講話と避難所での 廃用予防について講話と運動 山口 豊、遠山文子、鴨川孝介、 長尾夏音、衛藤恵美
2019/12/28 大分県テニス協会	競技者への怪我予防の評価・指導 山本彩加、横濱亮太、榎原正起、 荒木勇太、衛藤充晴、伊藤美紅

##### ■ 敬和会健診センター

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/10/15 常行公民館	胃がん・大腸がんについて 松井照一郎 参加人数：25名
2019/12/8 宮谷公民館	身近なことから始めよう ～生活習慣病の予防～ 窪田真子 参加人数：17名
2019/12/21 新田公民館	身近なことから始めよう ～生活習慣病の予防～ 窪田真子 参加人数：18名
2020/2/3 金谷公民館	身近なことから始めよう ～生活習慣病の予防～ 窪田真子 参加人数：21名

##### ■ 放射線課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/9/11 敬和会合同学会	40歳代乳がん検診における 超音波検査の有用性 泊 一美、甲斐秀明
2019/11/17 第37回 大分県病院学会	40歳代乳がん検診における 超音波検査の有用性 泊 一美、甲斐秀明

##### ■ 通所リハビリテーション

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/4～ 藤華医療技術専門学校 看護学科 2年生	基礎看護学Ⅱ フィジカルアセスメント 安部涼子
2019/7/12～13 第40回 全国デイ・ケア研究大会 2019in宮崎 ポスター発表	大浴場にはいっちゃった ～ケアマンションに入所されたA氏 とデイケアCWの記録～ 川越ひとみ
2019/9/17 公益財団法人 介護労働センター大分支部 短期専門講習 第14回 補助講師	糖尿病とフットケア 安部涼子
2019/12/19 科研製薬株式会社 社外講師勉強会	デイケアでの足病変 新しい爪ケアサービスの紹介 安部涼子
2020/1/15 第11回 東部地域症例検討会	「あれ、最近様子がおかしいぞ。」 小さな気づきから始まる MCIの方への対応 安部涼子

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2020/1/30 藤華医療技術専門学校 看護学科 3年生	看護師国家試験対策講義 安部涼子
2020/2/2 第22回 大分県理学療法士学会	口述セッション 座長：保田

## ■ 口腔衛生課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/6/29 第20回 日本語聴覚学会	シンポジウム4 「医科歯科連携とその後」 回復期から在宅生活における 医科歯科連携の現状と課題 ～言語聴覚士と一緒に考えたいこと～ 衛藤恵美
2019/6/30 医科歯科連携活動 報告会	医科歯科連携における 歯科衛生士の取り組み 衛藤恵美、甲斐久美、久多良木茜
2019/7/7 モリタ： 歯科衛生士フォーラム	DHが担う 「口腔ケアと口腔機能改善の役割」 衛藤恵美
2019/7/18 自立支援型ケアプラン 相談会 (大分市個別地域ケア会議)	助言者：衛藤恵美
2019/7/21 食のリハビリテーション 研究会	摂食・嚥下リハビリテーションⅡ ～口腔ケア実際～ 衛藤恵美、大分県歯科衛生士会
2019/9/22 全国訪問歯科研究会	繋がる多職種連携 ～多職種協働による口腔機能への取り組み 衛藤恵美
2019/9/24 棕の木デイサービス ～口腔ケア・リハビリ勉強会～	口腔ケア・リハビリ（患者体験と オーラルリハビリテーション） 衛藤恵美
2019/9/26 明野地域包括支援センター 介護予防教室	口から支える健康寿命 ～お口の大切さについて～ 衛藤恵美
2019/11/2 メディアセミナー	多職種連携による 黒岩メソッドでの取り組み 衛藤恵美
2019/11/17 日本歯科先端技術研究所	回復期リハビリテーション・老健施 設での取り組み 衛藤恵美
2019/11/17 スポーツ医科歯科研究会	回復期リハビリテーション病院にお ける転倒と口腔機能の関係 衛藤恵美
2019/12/15 防災の日 上志村	災害時の口腔管理について 衛藤恵美
2020/1/26 大分県言語聴覚士室協会 第18回大分県言語聴覚士 学術研究会	摂食咀嚼嚥下あれこれ ～口腔機能から考える食支援～ 衛藤恵美
2020/2/7 明野地域包括支援センター 介護予防教室	口から支える健康寿命 ～お口の大切さについて～ 衛藤恵美

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2020/2/27 自立支援型ケアプラン 相談会 (大分市個別地域ケア会議)	助言者：衛藤恵美

## ■ 総務課

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/9 敬和会学会	見える化による業務効率改善 後藤陽介
2019/11 大分県病院学会	見える化による業務効率改善 後藤陽介

## 2) 投稿・著書・雑誌掲載

### ■ 看護部

誌名・巻・頁・年	題名・著者
リハビリナース 第12巻3号・80-83・ 2019	リハビリ患者さんの ゴール設定&退院支援 ～慢性疾患があり、気管内吸引へ の不安のため自宅退院が 困難であった事例～ 岩崎里恵、山崎嘉恵、汐月真由美

## 3) 資格取得

### ■ 医局

取得日	資格名・資格取得者名
2020/1/1	インфекションコントロールドクター (ICD) 認定 佐藤崇史

### ■ 西病棟

取得日	資格名・資格取得者名
2020/1/1	回復期リハビリテーション看護師 認定 中尾博美
2020/2/16	看護職員認知症対応力研修 修了 岡田清美

### ■ 東病棟

取得日	資格名・資格取得者名
2020/1/23	大分県看護協会認定看護管理者 教育課程セカンドレベル 修了 汐月真由美
2020/2/16	看護職員認知症対応力研修 修了 汐月真由美

### ■ 放射線課

取得日	資格名・資格取得者名
2019/6/7	医療機器安全基礎講習会 (第41回ME技術講習会) 修了 笠野祐樹

### ■ リハビリテーション部

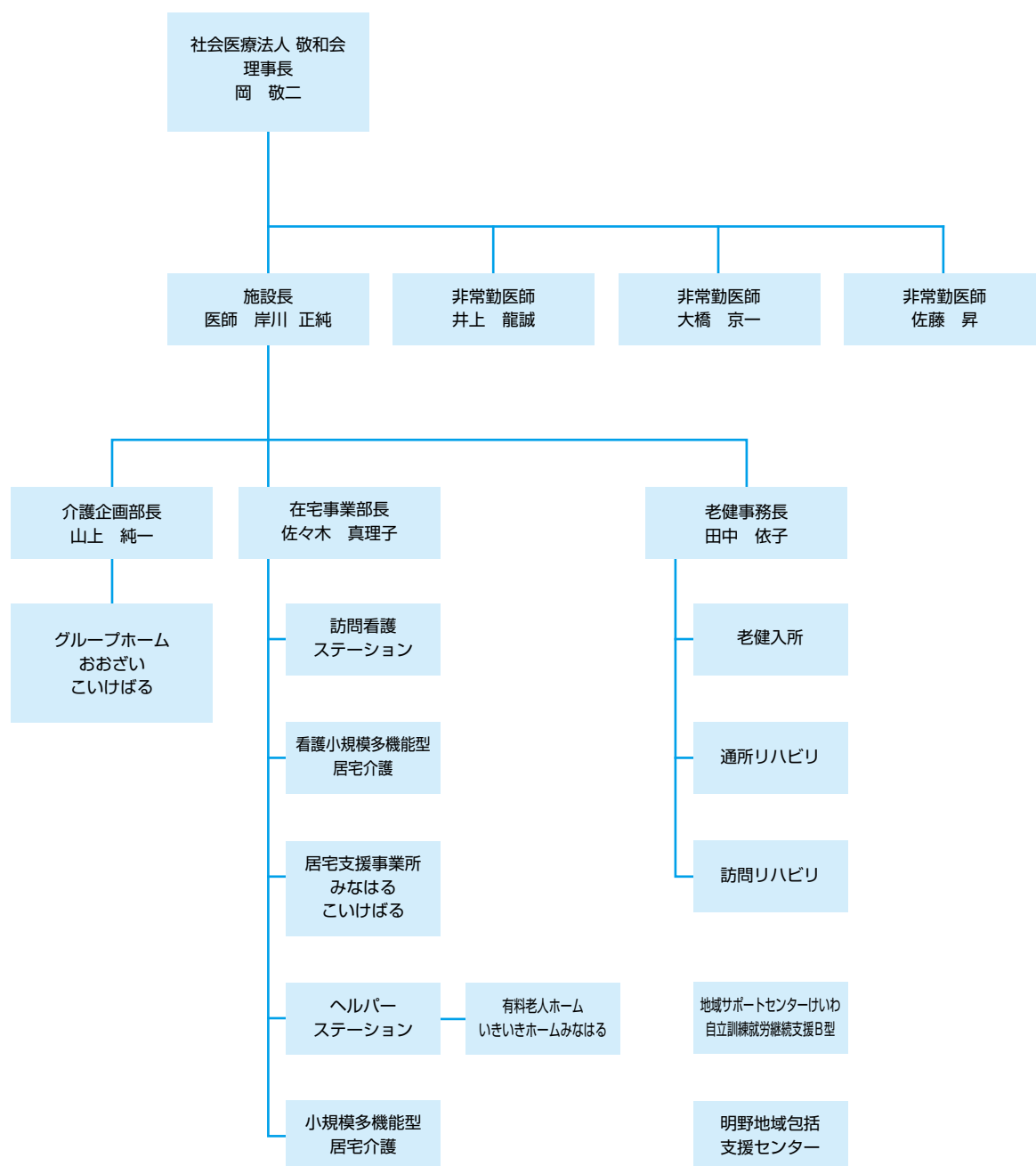
取得日	資格名・資格取得者名
2019/4/1	認定理学療法士 【領域名：健康増進・参加】 河野銀次
2019/10/3	臨床実習指導者講習会 修了 安藤将孝 和田里奈

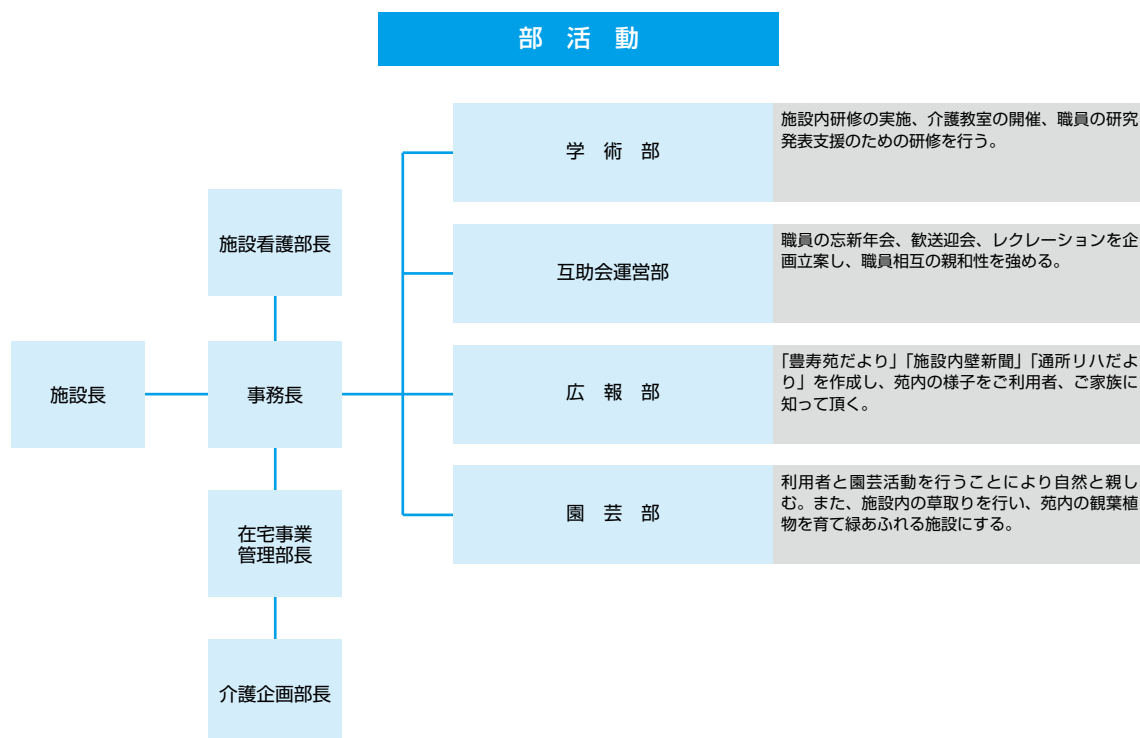
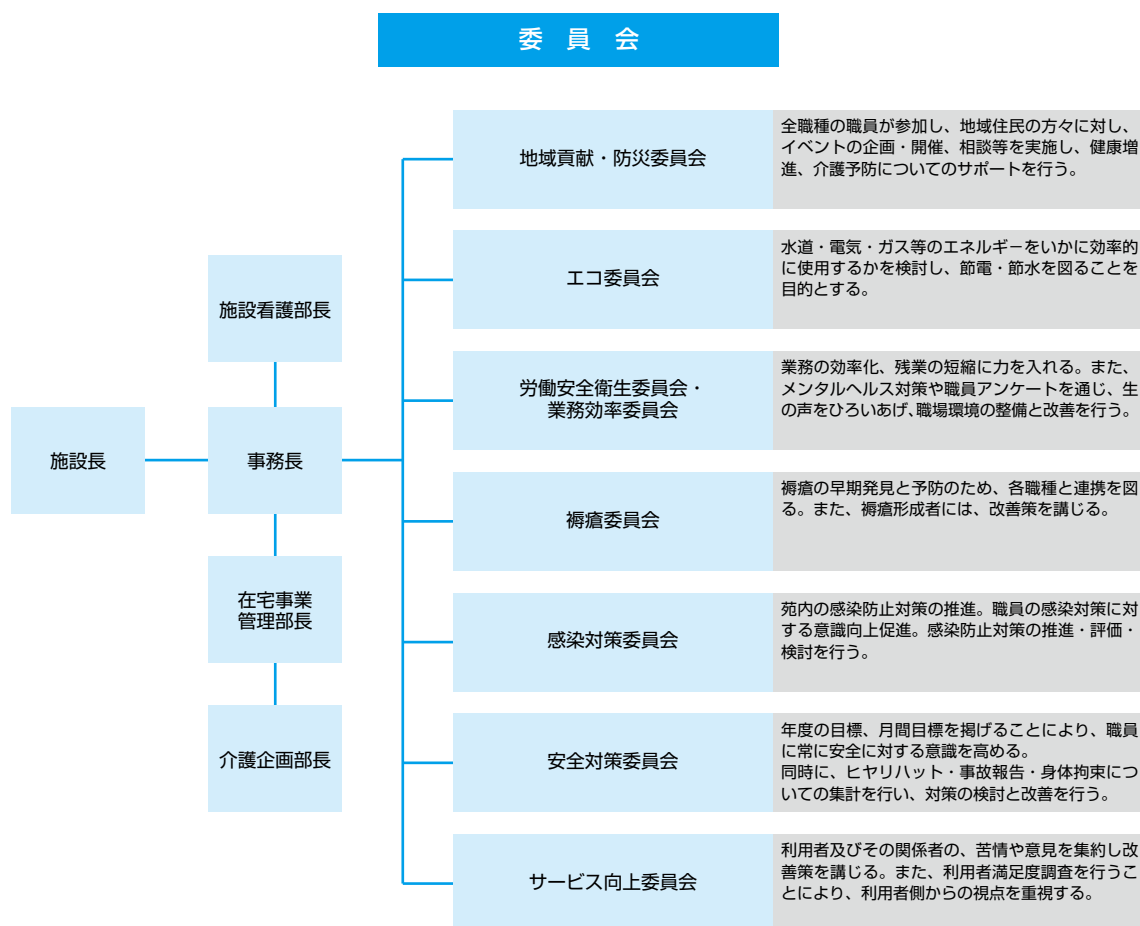
### ■ 在宅支援部

取得日	資格名・資格取得者名
2019/4/1	認定理学療法士 【領域名：地域理学療法】 保田晋一
2019/5/11	全国デイ・ケア協会 認定管理者 保田晋一
2020/2/9	スマート介護士資格試験 Basic (初級) 公式認定 保田晋一、高橋麻美、榎本拓也、 安部涼子、藤本敏子、川越ひとみ

大 分 豊 寿 苑









	行 事	その他（研修・見学・学会・地域行事等）
4月	・ 入社式（4/1）	・ ハイカラ食堂ラジオ放送（OBS） ・ OAB国際人材について取材 ・ 大分リハマルシェ（バザー出店）
5月	・ 豊寿苑新人歓迎会（5/23） ・ 通所利用者家族会（5/25） ・ 入所利用者家族会（5/26）	・ 敬和会ジュニアボード研修キックオフ（介護事業参加 4名） ・ 新規学卒者採用ガイダンス（5/21） ・ 安全運転管理協議会通常総会（5/31）
6月	・ JICWELS巡回訪問（6/27）	・ バラマウントねむりスキャン勉強会（6/18） ・ 地域事業所交流会（6/20） ・ 医科歯科連携記念講演会（6/30）
7月	・ 夏の事故ゼロ運動 街頭活動（7/16）	・ 大分南高等学校福祉ネットワーク（7/4） ・ 九州山口医療マネジメント学会（7/19） ・ プロジェクトZ活動開始 ・ 皆春夏祭り 皆春児童公園（7/21）
8月	・ 大分豊寿苑供養祭（8/9）	・ 福祉のしごと就職フェア 介護研修センター（8/11） ・ 別保校区盆踊り大会（中止） ・ 本場鶴崎踊り大会（中止） ・ DWHヒアリング開始
9月	・ 敬和会合同学会 あけのアクロスホール（9/1） ・ 大分豊寿苑夏祭り（9/8） ・ リレーフォーライフ（中止） ・ 大分豊寿苑介護教室（9/29）	・ 大分市シェイクアウト訓練 実施（9/2） ・ 部署別経営会議開始 ・ 第2期5S活動打合せ開始 ・ 通所リハ映画カフェサービス開始
10月	・ けいわ訪問看護ステーション佐伯 OPEN（10/1）	・ 大分市訪問リハ（老健）実地指導（10/1） ・ 黒岩先生ラウンド・口腔ケア研修（10/5～6） ・ サングレイス香々地見学来苑（10/9） ・ 下鶴崎ふれあいグランドゴルフ大会（10/10） ・ 老健協会事務部会 全国大会準備会議（10/11）
11月	・ 第2期5S活動キックオフ 1Fホール（11/1） ・ 全国老健施設大会in大分（11/20～22） ・ 消防避難訓練（11/25）	・ 介護老人保健施設指定更新（11/25提出） ・ 健康保険委員功労者表彰（11/26） ・ 大分市火災予防査察（11/27） ・ 稲田タツヨ氏家族申立（虐待疑い）
12月	・ 敬和会忘年会 レンブラントホテル（12/11） ・ 豊寿苑クリスマス会（12/15・22） ・ 大掃除（12/27） ・ 御用納め式 地域交流センター（12/27）	・ コンチネンス協会種田先生ラウンド・排泄セミナー（12/13）
1月	・ 御用始式 地域交流センター（1/6） ・ 通所リハビリ（初詣）（1/21）	・ 日清医療食品みんなの日曜日開始（1/19） ・ アクティブシニア 介護の仕事魅力発信イベント参加 豊の国健康ランド（1/21） ・ 老健大分市現地確認（1/29） ・ 有料老人ホーム事業終了スケジュール開始
2月	・ 有料いきいきホーム家族説明会（2/9） 「事業終了について」	・ 訪問看護ステーション大分市実地指導（2/26） ・ グループホーム料金検討開始 ・ 敬和会COVID-19対策本部活動開始
3月	・ 防災・消防訓練（3/11） ・ 第2期5S活動報告会（延期）	・ 看護小規模そら大分市実地指導（3/3） ・ コロナ感染疑い患者大分赤十字病院搬送（陰性）

## 4 統計

### 介護老人保健施設

老健) 入所

定員90床

平均利用者数（人/日）		87.9
稼働率（短期入所を含む）		97.5%
評価指標（70以上で超強化型）		81
在宅復帰率		64.5%
新規入所者数（人）		162
内 訳	居宅	40
	岡病院・大分リハビリテーション病院	55
退所者数（人）		160
内 訳	居宅（有料老人ホームを含む）	83
	岡病院・大分リハビリテーション病院	37
	死亡	4
利用延べ人数（人）		31,163
平均要介護度		3.1

老健) 短期入所療養介護

稼働日数 (日)	366
平均利用者数 (人/日)	3.2
利用延べ人数 (人)	1,174
空床充足率	69.6%
平均要介護度	3.2

老健) 通所リハビリテーション

稼働日数（日）		307
平均利用者数（人/日）		79.1
平均登録者数（人/月）		241
平均要介護度		2.2
利用延べ人数（人） 予防含		23,988
時間別	2時間未満	25
	2時間以上～ 3時間未満	1,065
	3時間以上～ 4時間未満	1,192
	4時間以上～ 5時間未満	368
	5時間以上～ 6時間未満	1,179
	6時間以上～ 7時間未満	14,548
	7時間以上～ 8時間未満	2

老健) 訪問リハビリテーション

稼働日数 (日)	253
平均登録者数 (人/月)	35
開始利用者数	34
終了利用者数	32
延べ訪問回数	2,175
平均要介護度	3.3

地域生活サポートセンターけいわ (障がい)

稼働日数 (日)	287
自立訓練平均利用者数 (人/日)	9.3
就労B型平均利用者数 (人/日)	3.9
相談支援プラン作成数	256
利用延べ人数 (人)	3,479

明野地域包括支援センター

相談件数	1,762
予防プラン作成数	2,716
開始利用者数	62
終了・休止利用者数	86

有料 いきいきホームみなはる

平均利用者数 (人/日)	9.1
利用延べ人数 (人)	3,334
稼働率	90.6%
平均要介護度	3.4

### 総合在宅ケアセンター

訪問看護ステーション

稼働日数（日）		293
医 療	延べ訪問回数	20,737
	看護師（再掲）	14,833
	リハビリスタッフ（再掲）	5,904
介 護	延べ訪問回数	12,991
	看護師（再掲）	9,799
	リハビリスタッフ（再掲）	3,192
	平均要介護度	2.6
	緊急時訪問加算算定数	1,971
	ターミナルケア加算算定数	46

居宅介護支援事業所

介護計画作成数	3,005
平均要介護度	2.3
予防プラン作成数	289
開始利用者数	188
終了・休止利用者数	154

ヘルパーステーション

稼働日数（日）		366
平均登録者数（人/月）		68
訪問数	介護給付	4,214
	総合事業	681
	障害者支援	2,303
平均要介護度		3.4
開始利用者数		51
終了・休止利用者数		27

陽だまりの郷みなはる

稼働日数（日）		366
平均登録者数（人/月）		27
稼働率		87.6%
平均要介護度		2.8
提供内容	訪問	5,566
	通い	2,571
	泊り	5,281

看護小規模多機能そら

稼働日数（日）		366
平均登録者数（人/月）		18.9
稼働率		57.3%
平均要介護度		3.2
提供 内容	訪問	3,061
	訪問看護	986
	通い	3,004
	泊り	1,099

おおざい憩いの苑

利用延べ人数 (人)	6,372
平均利用者数 (人/日)	17.4
入院延べ日数	253
稼働率	96.7%
平均要介護度	3.3

こいけばる憩いの苑

利用延べ人数 (人)	6,492
平均利用者数 (人/日)	17.7
入院延べ日数	60
稼働率	98.5%
平均要介護度	3.1

## 1) 入所

構成員数	看護師 13名 介護職 34名 リハビリスタッフ 7名 歯科衛生士 2名 介護支援専門員 2名
2019年度 理念、目標	ミッション「ロボット等の最新技術を活用し、チームアプローチで利用者・家族の目標実現」 ビジョン 「地域に寄り添い信頼されるトータルケア施設を目指す」
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 超強化型老健としての機能を強化し、質の高いケアを提供し在宅復帰を支援</li> <li>2. 退所後の在宅生活の支援体制づくり、連携の強化</li> <li>3. ICTの活用、5S活動の継続による業務効率の改善</li> <li>4. 人材育成および接遇改善</li> <li>5. 地域貢献</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅復帰率 64.5% 稼働率 97.5%、超強化型老健の評価指数 81 入所受け入れから退所まで、ケアプランに基づいた各専門職のケアの提供 褥瘡対策に関するケア計画書を全入所者に作成、加算算定の実施 褥瘡ラウンド（皮ふ創傷排泄ケア認定看護師）1回/週による褥瘡ケアの質向上 SSEC：口腔機能評価からケア介入、歯科医師への連携の実施。 ミールラウンド、ミール会議による介入方法、食事形態の検討等、他職種協働で口腔機能維持、向上に努めた。 排尿リハケア：排尿日誌、リアムαによる膀胱機能評価しケア計画書作成 泌尿器科専門医の介入による排尿自立支援 排泄支援加算 405件/年（月平均33.7件）</li> <li>2. 入所前後、退所前訪問を実施、早期より在宅復帰を視野に入れた他部署との連携を図りサービスに繋ぐことができた。</li> <li>3. 電子カルテ、オフィス365による情報共有、5S活動による職場環境、効率の改善。ノーリフティングケア宣言をし研修、取り組みの開始</li> <li>4. 新人教育の実施、勉強会の実施。実習生の受け入れによる後進の育成 利用者・家族に退所時アンケートを郵送し介入の評価、指標とする。</li> <li>5. 家族会、介護教室の企画運営。福祉避難所、CMATの研修参加</li> </ol>
目標の評価	できる限り入所前後および退所前後訪問を実施し在宅を視野に入れた超強化型老健の役割は果たせたが、安定したベッドコントロールに課題が残る。COVID-19の感染対策で面会制限、入退所に影響があったが、感染者発生なく経過できたことは評価できると考える。各々の取り組みについては、計画書の更なる充実、実践の記録、評価等の改善が必要である。また、電子カルテの導入により情報共有は容易になったが、今後は記録内容の充実が課題である。
今後の展望	高齢化がすすむ中、今後は積極的な看取りへの取り組みが必要と考える。また、介護人材不足の昨今、限られた人材でケアの質を維持していくことや職員のモチベーションを維持していくためにも、ICTや介護ロボットの活用、介護サポーターの活用を推進していくこと、また、ノーリフティングケアを推進していき、利用者、職員双方に優しいケアの実現を目指していきたい。

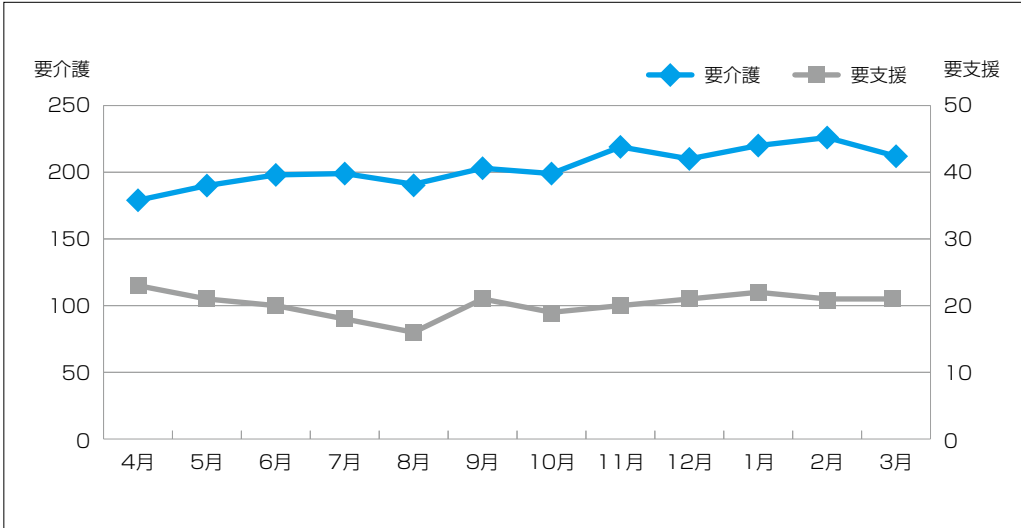
文責：渋谷 智子

## 2) 栄養室

<b>構成員数</b>	構成員数 施設管理栄養士 2名（常勤2名） 業務委託先 日清医療食品株式会社 11名
<b>2019年度 理念、目標</b>	＜理念＞ 『食』を通じて利用者のQOLを維持・向上させ在宅復帰を支援する ＜目標＞ ①日々の給食や行事食やイベントの実施により食べる楽しみを提供し心身を元気にする ②適切な栄養管理を実施し在宅支援を行う ③他職種と連携し経口摂取の支援と安全な食事の提供を行う ④日々の業務で学んだことを社会貢献に役立てる
<b>業務（活動） 内容、特徴等</b>	嗜好調査（1回/年）行事食（1回/月） 4月 花見                      5月 端午の節句御膳                      6月 あじさい膳 7月 七夕・そうめん流し                      8月 行事弁当                      9月 夏祭り 10月 季節のメニュー                      11月 握り寿司                      12月 クリスマス会 1月 正月料理                      2月 節分                      3月 おでんバイキング 栄養管理、喫食調査、衛生管理、食数管理、給食会議、地域サロン健康教室業務（栄養士主催）
<b>実 績</b>	＜年間食数＞ 老健                      28,028食 短期入所                      2,674食 通所リハビリテーション                      17,826食 いきいきホームみなはる                      5,353食 ひだまりの郷                      12,862食 ＜加算＞ 経口維持加算                      136件 経口移行加算                      52件 通所栄養改善加算                      55件 退所時連携加算                      5件 栄養改善加算                      6件
<b>目標の評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育と連携したイベントを企画し、利用者のQOL向上に貢献</li> <li>・施設内での健康講話を実施し自立支援のための栄養教育の実施</li> <li>・栄養ケア・マネジメントにより在宅復帰のための適切な栄養管理を提供</li> <li>・ミールラウンドの回数を増加させ誤嚥性肺炎の予防や低栄養の早期発見・介入について他職種と連携</li> <li>・電子カルテの導入</li> <li>・残菜減少へ向けて委託業者と連携し、財務改善に努めた</li> </ul>
<b>今後の展望</b>	1. 嚥下調整食分類2013（摂食・嚥下リハビリテーション学会）に基づいた食形態の提供を行う 2. 他職種連携を積極的に行うためのシステムを向上させる 3. 研修会・学会へ積極的に参加する 4. 地域へ向けて情報を発信する

文責：高橋 綾奈

### 3) 居宅介護支援事業所（特定相談支援事業所）

構成員数	管理者1名 介護支援専門員6名（主任ケアマネ1名）																																							
2019年度 理念、目標	1. 自立支援の強化 2. 在宅重視の支援 3. 公益性を地域社会に明確にする																																							
業務（活動） 内容、特徴等	（業務） ・ 要介護認定申請及び介護保険関係の様々な手続きの代行 ・ 介護保険サービスを利用する為の居宅サービス計画書（ケアプラン）作成 ・ 介護サービスを提供する事業所との連絡調整 （特徴） ・ 地域包括支援センターや主治医との連絡強化 ・ 病院、包括支援センター、サービス事業所を訪問し、広報活動の実施 ・ 研修に参加しスキルアップ体制の確立																																							
実 績	<div><div><div>要介護</div><div>250</div><div>200</div><div>150</div><div>100</div><div>50</div><div>0</div></div><div><div>要介護</div><div>要支援</div><div>要支援</div></div><div><div>4月</div><div>5月</div><div>6月</div><div>7月</div><div>8月</div><div>9月</div><div>10月</div><div>11月</div><div>12月</div><div>1月</div><div>2月</div><div>3月</div></div><table><thead><tr><th>月</th><th>要介護</th><th>要支援</th></tr></thead><tbody><tr><td>4月</td><td>180</td><td>22</td></tr><tr><td>5月</td><td>190</td><td>20</td></tr><tr><td>6月</td><td>200</td><td>18</td></tr><tr><td>7月</td><td>200</td><td>15</td></tr><tr><td>8月</td><td>190</td><td>12</td></tr><tr><td>9月</td><td>200</td><td>20</td></tr><tr><td>10月</td><td>200</td><td>18</td></tr><tr><td>11月</td><td>220</td><td>20</td></tr><tr><td>12月</td><td>210</td><td>22</td></tr><tr><td>1月</td><td>220</td><td>22</td></tr><tr><td>2月</td><td>230</td><td>20</td></tr><tr><td>3月</td><td>210</td><td>20</td></tr></tbody></table></div> <div>・ 加算の増加を目指す 初回加算、入退院加算、ターミナル加算 ・ 研修参加（参加者から伝達講習） ケアマネレベルアップ研修、介護予防日常生活支援総合事業研修、自立に向けた生活機能の評価、包括支援センター主催の研修参加 ・ 地域ケア会議への事例提供と積極的な参加</div>	月	要介護	要支援	4月	180	22	5月	190	20	6月	200	18	7月	200	15	8月	190	12	9月	200	20	10月	200	18	11月	220	20	12月	210	22	1月	220	22	2月	230	20	3月	210	20
月	要介護	要支援																																						
4月	180	22																																						
5月	190	20																																						
6月	200	18																																						
7月	200	15																																						
8月	190	12																																						
9月	200	20																																						
10月	200	18																																						
11月	220	20																																						
12月	210	22																																						
1月	220	22																																						
2月	230	20																																						
3月	210	20																																						
目標の評価	・ 地域ケア会議への積極的な参加と事例提供を行い地域課題の把握や新たな資源の模索を行う。 また、制度の概要や支援の流れのノウハウの取得に努めた。 ・ 自宅で生活したいという本人の気持ちに寄り添い、様々な介護保険のサービスや障害サービスを紹介するとともに、主治医の連携、早期の医療サービス介入を図るなどし、出来るだけ長く在宅生活が送れるための援助を行った。																																							
今後の展望	・ 包括支援センターと連携を強化し、利用者様が住み慣れた地域で安心して生活が送れるように支援に努める。 ・ 社会資源の把握や発掘に努めて、慣れ親しんだ地域で生活が続けられるよう支援の実践。																																							

文責：木崎 智子

#### 4) 居宅介護支援事業所こいけぼる

構成員数	管理者1名 介護支援専門員2名																																							
2019年度 理念、目標	1. 自立支援の強化 2. 在宅重視の支援 3. 地域資源の開発																																							
業務（活動） 内容、特徴等	(業務) ・ 要介護認定申請及び介護保険関連の様々な手続きの代行 ・ 介護保険サービスを利用するための居宅サービス計画（ケアプラン）作成 ・ 介護サービスを提供する事業者との連絡調整  (特徴) ・ 地域包括支援センターや主治医との連携強化 ・ 病院、包括支援センター、サービス事業所を訪問し、広報活動の実施 ・ 研修に参加しスキルアップ体制の確立																																							
実 績	<div><p>プラン作成数</p><table><thead><tr><th>月</th><th>介護</th><th>予防</th></tr></thead><tbody><tr><td>4月</td><td>35</td><td>2</td></tr><tr><td>5月</td><td>35</td><td>2</td></tr><tr><td>6月</td><td>35</td><td>2</td></tr><tr><td>7月</td><td>42</td><td>3</td></tr><tr><td>8月</td><td>45</td><td>7</td></tr><tr><td>9月</td><td>45</td><td>5</td></tr><tr><td>10月</td><td>48</td><td>4</td></tr><tr><td>11月</td><td>55</td><td>3</td></tr><tr><td>12月</td><td>57</td><td>8</td></tr><tr><td>1月</td><td>55</td><td>6</td></tr><tr><td>2月</td><td>54</td><td>6</td></tr><tr><td>3月</td><td>68</td><td>5</td></tr></tbody></table></div> <p>・ 研修参加（研修参加者から伝達講習） ケアマネレベルアップ向上研修、自立支援に向けた生活機能の評価、 包括支援センター主催の研修参加</p> <p>・ 月1回 地域のサービス事業所等への情報収集と挨拶、見学の継続。</p>	月	介護	予防	4月	35	2	5月	35	2	6月	35	2	7月	42	3	8月	45	7	9月	45	5	10月	48	4	11月	55	3	12月	57	8	1月	55	6	2月	54	6	3月	68	5
月	介護	予防																																						
4月	35	2																																						
5月	35	2																																						
6月	35	2																																						
7月	42	3																																						
8月	45	7																																						
9月	45	5																																						
10月	48	4																																						
11月	55	3																																						
12月	57	8																																						
1月	55	6																																						
2月	54	6																																						
3月	68	5																																						
目標の評価	・ H31年4月より2人体制となりプラン数が一時的に減少したが、その後は、徐々に増加している。 ・ 退院時にカンファレンスへの積極的な参加の継続。退院退所加算数23件。 ・ ターミナル利用者への積極的な受け入れ支援。 訪問看護ステーションと協力、助言を頂き、多職種連携が図れた。 ・ 研修、地域ケア会議への積極的な参加。 他事業所との勉強会の継続による圏域内の事業所との顔の見える関係作りが行えた。																																							
今後の展望	・ 地域包括支援センター主催の研修に積極的に参加し、連携を強化していく。 同時に、介護予防プランの委託を積極的に受け入れる。 ・ 利用者が住み慣れた地域で、安心して生活が送れる支援作りに努める。 ・ 社会資源発掘の為、病院、サービス事業所等への訪問を継続する。 ・ 緊急災害に備え、利用者ファイル作成を継続する。 ・ 訪問看護を利用している利用者様を支援することで、医療ニーズの高い方の在宅生活を長期で 支援できる体制作りに努める。 ・ 今後もターミナル利用者様の支援を訪問看護ステーションと共に行う。																																							

文責：高見 麻美



## 5) 通所リハビリテーション

構成員数	介護職23名 看護師3名 運転手10名 セラピスト7名 支援相談員3名																																																																	
2019年度 理念、目標	①生活機能の維持・向上を目指し活き活きとした生活が送れるよう支援する ②1日平均利用者数80名を目標にサービス提供、営業を行う ③趣味活動の継続や行事等への参加を通して活動範囲の拡大を図る																																																																	
業務（活動） 内容、特徴等	①リハマネ会議とユニット会議を通じて個別の状態確認と目標設定とケアの統一を図る ②月2回の営業会議、居宅介護支援事業所への営業活動（訪問、内覧会、情報提供）、ご利用者様の満足度アップ ③クラブ活動 （詩吟・生花・麻雀・囲碁・将棋・書道・カラオケ・手芸・絵手紙・ボッチャ 9月オープンの映画カフェ） 行事 （初詣・花見・節分・夏祭り・クリスマス会・餅つき・ボランティアによる歌と踊り・社会参加型のリハビリ外出）																																																																	
実 績	①リハマネⅠ：30.3% リハマネⅡ：27% リハマネⅢ：42.7% ユニット会議 ユニット毎に毎月1回 ② <div><div><div>■ 1日平均利用者数</div><div>▲ 新規受け入れ人数</div><div>■ 問い合わせ件数</div><div>✕ 利用休止・中止者数</div></div><table><thead><tr><th>月</th><th>1日平均利用者数</th><th>問い合わせ件数</th><th>新規受け入れ人数</th><th>利用休止・中止者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>4月</td><td>70</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr><tr><td>5月</td><td>72</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr><tr><td>6月</td><td>71</td><td>15</td><td>10</td><td>15</td></tr><tr><td>7月</td><td>73</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr><tr><td>8月</td><td>72</td><td>25</td><td>10</td><td>15</td></tr><tr><td>9月</td><td>74</td><td>15</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>10月</td><td>78</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>11月</td><td>80</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>12月</td><td>82</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr><tr><td>1月</td><td>80</td><td>15</td><td>10</td><td>20</td></tr><tr><td>2月</td><td>79</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr><tr><td>3月</td><td>70</td><td>10</td><td>5</td><td>45</td></tr></tbody></table><div>・満足度アンケート 体験後アンケート実施 ・コロナ感染予防で利用休止されている方に対しては、状況確認の電話連絡や自宅、施設で行えるホームプログラムの送付を行った。 また、利用中は手指消毒・検温・マスク使用・うがい手洗い声かけ（マスク不足の為、デイでの作業の一つとしてマスク製作）、机上にホワイトガード設置・定時の換気を行った。 ③昨年度より映画カフェを実施し、映画館のような場所を作り、約10名程参加。 人気のあるカラオケは時間拡大。</div></div>	月	1日平均利用者数	問い合わせ件数	新規受け入れ人数	利用休止・中止者数	4月	70	10	5	10	5月	72	10	5	10	6月	71	15	10	15	7月	73	10	5	10	8月	72	25	10	15	9月	74	15	10	10	10月	78	10	10	10	11月	80	10	10	10	12月	82	10	5	10	1月	80	15	10	20	2月	79	10	5	10	3月	70	10	5	45
月	1日平均利用者数	問い合わせ件数	新規受け入れ人数	利用休止・中止者数																																																														
4月	70	10	5	10																																																														
5月	72	10	5	10																																																														
6月	71	15	10	15																																																														
7月	73	10	5	10																																																														
8月	72	25	10	15																																																														
9月	74	15	10	10																																																														
10月	78	10	10	10																																																														
11月	80	10	10	10																																																														
12月	82	10	5	10																																																														
1月	80	15	10	20																																																														
2月	79	10	5	10																																																														
3月	70	10	5	45																																																														
目標の評価	①リハビリ会議・ユニット会議にて個別の状態確認と目標設定を図り、ご利用者様の努力でできることが増えご家族の負担も軽減できたと思う。 ②コロナウイルスの影響で利用人数の減少があったものの状況確認の電話連絡にて状況把握できた。また、ホームプログラムにて自宅での運動を継続したことで、状態変化なく利用再開できた利用者様が多かった。 満足度アンケートでのご意見はフィードバックすることで、通所リハビリの良い点と改善すべき点が把握できた。 利用後アンケートの結果や問い合わせから新規に結び付かなかったケースとしては、規模の大きさや中重度者の受け入れ状況をみて消極的になった意見が挙がった。 ③映画カフェやカラオケの時間拡大を行うことでご利用者様の選択肢が増えたと思う。																																																																	
今後の展望	リハビリ会議・ユニット会議にて一人一人に合わせたサービスを提供する事で、生活機能の向上、満足度アップを今後も目指していきたい。 ご利用者様のご意見、アンケートを業務や接遇、サービスに反映できるよう努めていきたい。 営業活動の継続や利用休止中の方へのフォローを行うことで新規利用者獲得と1人でも多くの方に利用継続して頂けるよう努めていきたい。																																																																	

文責：安東 昌彦



## 6) けいわ訪問看護ステーション 大分

構成員数	看護師35名    理学療法士4名    作業療法士6名 言語聴覚士2名    介護福祉士11名    事務員3名
2019年度 理念、目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護・リハビリテーション・介護の専門的知識・技術を活かすことで、在宅療養者・家族の自己実現を支援し、在宅療養生活が豊かなものとなることを目指す。</li> <li>・地域の医療関係機関と連携し、機能強化型訪問看護ステーションとしての役割を遂行することで地域貢献を果たす。</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療依存度の高い療養者の受け入れ</li> <li>2. 在宅医療関連機関からの相談対応（コンサルテーション）</li> <li>3. 病院の医療関係職種に対し、在宅医療の理解を深めるための研修受け入れおよび、教育機関からの実習生受け入れ</li> <li>4. 地域住民に対して、在宅療養に関する情報提供及び相談対応</li> <li>5. 看護の質向上を目的に、外部研修、学会に参加する。</li> <li>6. 大分県訪問看護ステーション協議会及び大分県看護協会、大分県緩和ケア認定看護師研究会、県内の訪問看護ステーションの質向上に努める。</li> <li>7. 全国機関の調査研究に協力し、これからの在宅医療・在宅看護の質の向上に協力する。</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規受け入れ利用者数 216名/年    利用者総数 621名/年    延訪問件数 33,728件/年（医療保険対象者 20,737件、介護保険対象者 12,991件）であった。</li> <li>2. コンサルテーション依頼は、医療機関等の専門職 4件    介護・福祉関連機関 7件</li> <li>3. 訪問看護体験研修および訪問看護実習受け入れ総数 63名（9医療機関 14名、5教育機関 49名）</li> <li>4. 地域住民からの相談対応 2件 高齢者サロンでの情報提供 7件（総参加者数 30名）</li> <li>5. 精神科訪問看護療養費算定研修修了者 2名 在宅ホスピスケア研修修了者 2名、訪問看護基礎研修修了者 2名 大分県看護研究学会で口演発表予定であったが、新型コロナウイルス感染対策により学会が中止となったため、発表に至らなかった。</li> <li>6. 大分県下保健所等や大分県看護協会の依頼で、在宅療養支援に関係する専門職に対する教育を担った。大分県下で開催された地域ケア会議のアドバイザー（佐伯市・臼杵市・豊後大野市・大分市）として参加した。大分大学および大分県立看護科学大学、藤華医療技術専門学校の外部講師を担い県内看護学生の育成に寄与した。</li> <li>7. 厚生労働省による老人保健モデル事業「要介護高齢者等に対する看護介入による効果検証」に事業推進時より委員として関わり、事業所としても調査参加を行った。</li> </ol>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療依存度の高い利用者の受け入れに関しては機能強化型訪問看護療養費Ⅰの算定維持及び体制維持ができたことから、重症者に対応できるステーションとして評価できると考える。看護小規模多機能型居宅介護そらと協働し、本人が望む自宅での療養の延長や、仕事を続けながら介護する生活を支えることができた。</li> <li>・地域の医療保健福祉機関や住民からの相談件数の増加や、医療福祉の専門職や地域住民に対する研修等の増加から在宅療養推進に資する役割を果たしていると評価する。また、行政機関から県内および市内訪問看護ステーションの機能強化を目的に会議等の出席依頼があり、研修の企画や事業推進を協働したことで社会貢献できたと考える。</li> <li>・厚生労働省の調査研究に参画・協力することは、将来迎える少子高齢化社会における課題の明確化や、高齢者の人生最終段階の在宅療養生活の質向上の糸口を見出すに貢献するものと言える。</li> </ul>
今後の展望	機能強化型訪問看護ステーションの機能維持、拡大することで、地域での療養体制を強化できる。地域の方々が望む場所で生活を継続し、家族も仕事を続けながら介護できる生活を実現するため、看護小規模多機能型居宅介護事業所と協働支援してゆく。大分市の在宅医療推進体制構築に寄与するため、訪問看護サービス提供に限らず様々な視点で必要な資源を考え提案し事業への参画をしていきたい。

文責：稲生 野麦

## 7) けいわ訪問看護ステーション 佐伯

構成員数	看護師4名 事務兼介護1名																											
2019年度 理念、目標	住み慣れた地域で生活出来るよう想いに寄り添った看護の提供を目指す。 新規訪問看護ステーションの安全な事業開始。																											
業務（活動） 内容、特徴等	1. 佐伯市の医療機関や居宅介護事業所への挨拶回り、新規受け入れの営業活動。 2. 精神科病院に隣接したステーションであるため、精神科看護を学ぶため外来診察に同行する。 3. 大分県精神障がい者の計画に基づく、退院後支援の実施、および南部保健所との協働。 4. ターミナルケア実施者4名、在宅医との連携の元3名を自宅で看取った。																											
実 績	<div>・新規受け入れ利用者数34名（10月～）</div> <div><p>合計訪問件数・新規利用者数</p><table><thead><tr><th>月</th><th>新規利用者数</th><th>合計訪問件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>10月</td><td>14</td><td>50</td></tr><tr><td>11月</td><td>5</td><td>60</td></tr><tr><td>12月</td><td>4</td><td>70</td></tr><tr><td>1月</td><td>4</td><td>80</td></tr><tr><td>2月</td><td>5</td><td>110</td></tr><tr><td>3月</td><td>3</td><td>100</td></tr><tr><td>4月</td><td>6</td><td>90</td></tr><tr><td>5月</td><td>8</td><td>80</td></tr></tbody></table></div>	月	新規利用者数	合計訪問件数	10月	14	50	11月	5	60	12月	4	70	1月	4	80	2月	5	110	3月	3	100	4月	6	90	5月	8	80
月	新規利用者数	合計訪問件数																										
10月	14	50																										
11月	5	60																										
12月	4	70																										
1月	4	80																										
2月	5	110																										
3月	3	100																										
4月	6	90																										
5月	8	80																										
目標の評価	<div>・佐伯保健院外来に同行させていただき、開設時より新規利用者の訪問が可能となった。しかし精神科訪問看護師としての経験は浅く、症状アセスメント、薬の影響、環境による変化の対応に苦慮している現状があり今後の課題である。</div> <div>・地域の病院・事業所等への営業を行うことで南海医療センターからのターミナルケースの依頼があり、在宅での看取りも実現できた。南海医療センター地域連携室とはケースを通じて信頼関係が深まったと考える。</div> <div>・大分県精神障がい者の計画に基づく退院支援の実施に対しては、困難事例が対象であり、対応に苦慮した。しかし、行政との連携は不可欠であると実感し、同時に精神科看護の専門的技術向上を図りたいと強く感じた。</div>																											
今後の展望	<div>・精神科訪問看護のスキルアップを行い、精神科看護に強いステーションを目指す。</div> <div>・佐伯の地域に求められるステーションとして、他事業所および行政と積極的に情報交換を行い、スムーズな連携・協働を図る。</div>																											

文責：高橋さおり

## 8) 看護小規模多機能型居宅介護 そら

構成員数	看護師 常勤換算2.5人以上 介護職 11名
2019年度 理念、目標	看多機の機能を強化し、稼働の安定で運営を軌道に乗せ中重度の要介護者の在宅生活を支える体制の強化を図る。
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅での要介護者、医療依存度の高い利用者の受け入れ</li> <li>2. 利用者の状態に応じた「通い」「訪問」「泊まり」の臨機応変の組み合わせと、看護と介護の協働で地域での生活継続を目指す</li> <li>3. 地域活動への参加</li> <li>4. 共生型サービス（共生型短期入所）の継続的な利用</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規受け入れ利用者 44名（共生型 22名） 平均要介護度 3.15 終了者 43名（共生型 22名） 看取り 13名 看護小規模多機能型居宅介護の広報のため中核病院や近隣病院の地域連携室、近隣地域包括支援センターへ営業、12月からは事業所の登録状況を地域連携室へFAX。病院を中心に問い合わせ、相談件数が増加してきている。</li> <li>2. 通い総数延べ 3,007回 訪問件数（訪問介護 3,445件 訪問看護 586件） 泊まり総数 1,150回（63.8%） 看護と介護の協働による事業所加算の算定 4月～ サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ 640単位/月 訪問体制強化加算 1,000単位/月 看護体制強化加算（Ⅰ）3,000単位</li> <li>3. 大分市認知症家族支援事業の受託（9月～12月 4回開催 参加人数 62名） 事業所周辺の地域清掃の実施（週2回） 認知症独居利用者の地域住民参加の地域ケア会議の開催（2月）</li> <li>4. 大分豊寿苑訪問看護ステーション利用者限定 1～3名/月 延べ 22名利用</li> </ol>
目標の評価	<p>開設2年目で看護小規模多機能型居宅介護の広報で病院からの退院をスタートとする利用者の紹介が増えてきた。年度後半からの稼働が上がってきたが新規と終了数がほぼ横ばいであった。そら利用後に要介護認定から要支援認定となるケースも3件あり、まだ中重度の要介護者の割合は低い。訪問看護ステーションとの協働で在宅での看取りは医療、介護の両面から支えることができ、本人や家族の意向に沿ったサービス提供が形成されつつある。またスタッフの看護小規模多機能型居宅介護の役割理解が浸透してきている。</p> <p>地域貢献に関しては認知症家族支援事業を行なうことで、事業所の周知にも繋がったと思われるがその後の展開がなく課題として残る。</p>
今後の展望	<p>中重度要介護になっても在宅生活を望む利用者、家族に看護小規模多機能型居宅介護のサービスを知って利用につながるように広報とケアの充実を図ってゆく。特に看取りに関しては積極的な取り組みとして病院だけでなく、地域住民にも広げてゆきたい。医療依存度の高い利用者増加に対しての事故への対策や医療マネジメント対策も高め、事業所の基盤を固めてゆく。地域活動に関してはふれあい保健室やこいけばるグループホームとの協力のもとで展開してゆきたい。</p>

文責：安部 寿美

## 9) 介護企画部

構成員数	構成員：2名 協力者：全スタッフ
2019年度 理念、目標	各部署が目標に掲げる在宅及び施設において安心して生活を送れるサービス提供の整備を行う上で、社会医療法人として公益性を保ち、地域ニーズにあった事業の展開を実施するとともに共生型サービスの提供を行い、地域のヘルスケアリンクの構築を目指し、地域福祉・医療に貢献する。事業経営の安定化及び継続、各種経費の削減
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老健及び医療機関からの在宅復帰者を24時間365日、複合的に支えることのできる在宅サービスの整備を行うことにより、老健における在宅復帰率の維持・向上ならびに医療機関における在院日数の短縮に貢献。</li> <li>・ 在宅医療との連携による在宅看護・介護の拠点づくり。</li> <li>・ 予防から要介護、終末期までをトータルで支える体制の整備。</li> <li>・ 各種制度の融合（共生型社会の実現）</li> </ul> <p>高齢者や障がい者、子どもといった既存の制度の垣根を越えて、困難を抱える人を一体的に支えることのできる事業を展開、行政機関及び関係機関と折衝及び手続き等全般、また、最新情報の収集による国の方針及び地域ニーズに沿った効率的かつ効果的な事業の展開や経費削減を行い、安定した事業経営を構築。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政機関との連携・委託事業等の実施により地域を支える事業の展開</li> </ul>
実 績	<p>不採算部門の事業見直しに伴い、有料老人ホームから地域密着型通所介護へ事業転換立案、事業転換に伴う諸問題を行政機関と折衝、次年度7月1日開設に向けた準備に至る。</p> <p>他法人から事業継承した特定施設建築物に該当する事業所について、法的根拠に基づく是正事項を行政関係機関と折衝、最小限の投資で是正を行い事業継続が可能となる。</p>
目標の評価	<p>有料老人ホームは不採算部門から脱却することによる経営の安定化ができず事業の見直しとなるが地域密着型通所介護へ短期間で転換することが可能となった。</p> <p>行政関係機関との折衝による事業継続に伴う法的な懸念事項が解消され事業運営に専念することが可能となった。</p>
今後の展望	<p>介護予防事業（保険外事業含む）の実施により地域住民による自助・互助力の向上に寄与し、地域密着型事業所としての役割を構築。</p> <p>施設及び在宅サービス等、それぞれの特徴を活かした組織作り、拠点の構築。</p> <p>地域住民との交流スペースの確保、各地域のニーズに沿った共生型サービスの提供。次期介護保険改定の重点項目にあげられる「健康寿命の延伸」に伴い、地域包括支援センターとの連携も視野に入れた介護予防への取り組みによる敬和会ヘルスケアリンクの再構築。</p>

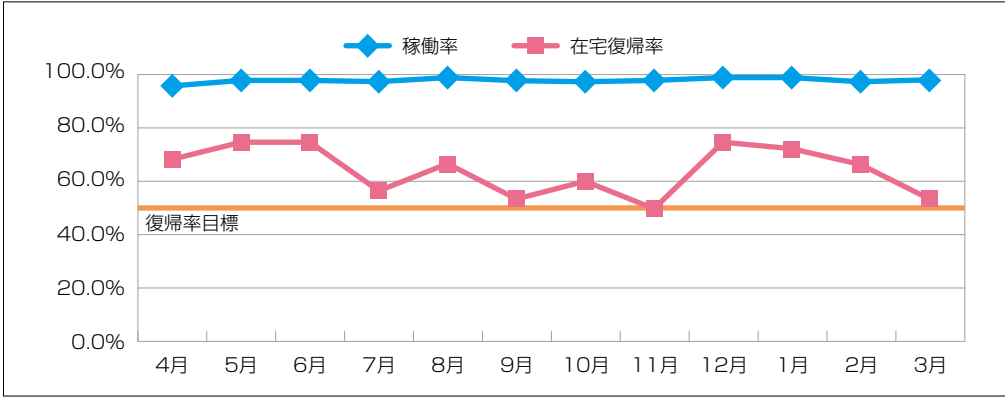
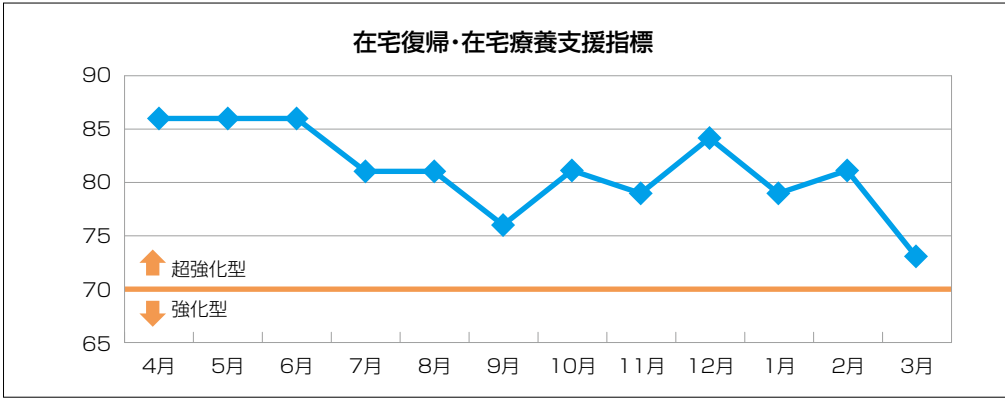
文責：山上 純一

## 10) 事務室

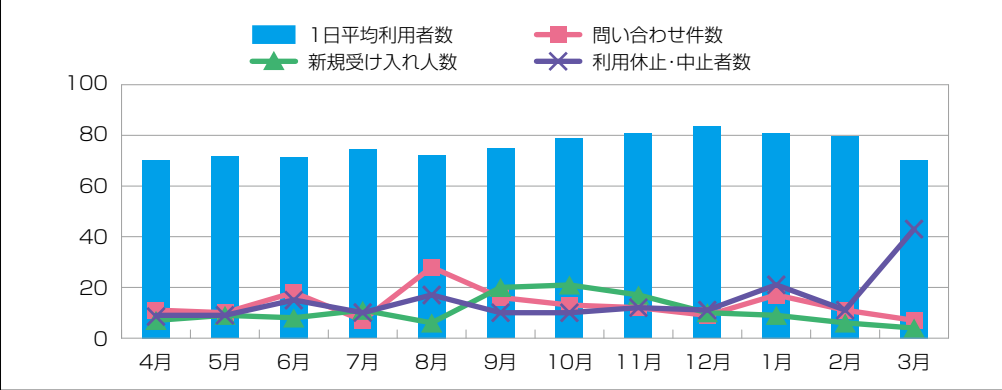
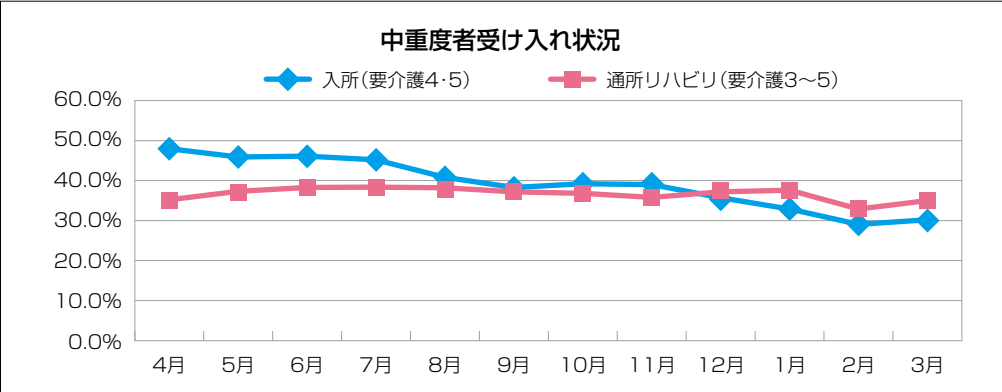
構成員数	事務長1名、事務職員5名 ・平成31年2月1日より1名 産休取得 ・令和2年1月1日より1名 佐伯保養院異動
2019年度 理念、目標	「地域に信頼され、利用者のニーズに応える」 「安心して生活が送れる地域づくり」
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の方に対する窓口対応（面会、お支払い、入所契約等）</li> <li>・請求業務</li> <li>・電子カルテ、利用者情報管理業務</li> <li>・経理業務（日計、月報、決算、諸払い・買掛、起票、入力）</li> <li>・入職、退職に関わる人事業務</li> <li>・冠婚葬祭に関する業務</li> <li>・制服の手配</li> <li>・苑内の設備、営繕に関わる業務</li> <li>・社用車の定期点検、車検に関わる業務</li> <li>・職員の出張手配</li> <li>・豊寿苑日報の作成と送信</li> <li>・物品発注業務と業者選定</li> <li>・大分岡病院への薬剤の引取等外回り業務</li> <li>・電話交換</li> <li>・売店業務</li> <li>・朝礼・終礼</li> <li>・朝掃除</li> <li>・日曜・祝日の窓口当番</li> </ul> <p>「利用者の方・ご家族」「職員・施設」に関わる業務全般を担う。</p>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ導入により、入退所ほか加算項目等の入力が現場で行われることで、請求業務の効率化が図れた。</li> <li>・法人内の各種センターの役割も果たしながら、Teamsを活用し業務の効率化を推進している。</li> <li>・スタッフの異動に伴う欠員期間については、業務負担の増加が見られたが次年度の新体制に向けての準備を行えた。</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加など地域交流・地域貢献活動へ積極的に関わった。</li> <li>・事故や苦情への対応に苦慮した年度であった。 窓口で連絡を受け、担当へつなぐ際の配慮や注意を再度徹底。</li> <li>・人員の異動による業務の引継ぎ等に不備がありマニュアルの見直しが必要。</li> </ul>
今後の展望	<p>※事務職員のキャリア推進と働き方改革、業務改善の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当業務にとらわれず、敬和会の中で広くキャリアを重ねる機会を提案。</li> <li>・効率的な事務作業により残業を減らし、ワークライフバランスを尊重した働き方の実現を図る。</li> <li>・業務の複数担当の徹底とデータ化を推進し、少数人員での管理が安定的に行えるよう業務内容と情報の共有化を推進。</li> <li>・業務環境改善については、5S活動の継続。</li> </ul>

文責：田中 依子

## 11) 支援相談室

構成員数	支援相談員 7名
2019年度 理念、目標	ミッション) 地域に信頼され、利用者のニーズに応える ビジョン) 安心して生活が送れる地域づくり
業務(活動) 内容、特徴等	①超強化型老健として在宅復帰に向けた取り組みの強化、在宅を想定したサービスの情報提供やスムーズに引き継ぎができるよう多部署との連携。また在宅での生活が少しでも継続できるよう多部署・多職種での支援体制 ②地域に向けた介護予防や広報活動(サロンや行事の参加、研修会の案内) ③各居宅介護支援事業所・医療機関・施設等との連携強化と広報活動
実績	① 支援相談室担当事業所年間実績 ★老健入所(短期入所療養介護含む)  



<p>実績</p>	<p>★通所リハビリ 実績</p>   <p>②地域に向けた広報活動 ふれあい保健室の同行、サロン活動、施設見学会、介護教室の開催、別保あんしんサポートセンター、夏祭り等行事への参加</p> <p>③連携強化と情報提供 ・居宅介護支援事業所、地域包括ケアセンターへの営業活動：月1回 ・医療機関、クリニックへの挨拶、パンフレット配布：3～6ヶ月に1回 ・居宅介護支援事業所向け内覧会の開催：8回開催（下期はインフルエンザ、コロナ感染対策の為、実施せず）</p>
<p>目標の評価</p>	<p>①(入所) 超強化型老健としての機能が果たせるよう、また（家族と施設・スタッフ間）入所から退所までスムーズに取り組み、課題や情報共有ができるようケアパスの導入を行なった。 （通所リハビリ）2週間に1回の営業会議で挙げられた課題を各職種で取り組むことや事業所への訪問、内覧会等の営業活動を行うことで問い合わせや受け入れ人数が増加傾向にあった。 ※入所、通所リハともにコロナウイルス感染拡大による受診控え、自粛生活により年度末から入所待機者減・通所リハ利用者減となった。 また、要介護3～4のご利用者様が入院・有料老人ホーム入居・永眠等で老健退所、通所リハビリ終了し、重度者数の低下がみられた。</p> <p>②サロン、地域行事への参加などで大分豊寿苑や介護保険の情報発信は行なえた為、今後も引き続き行なっていきたい。</p> <p>③連携強化と情報提供 各事業所向けの内覧会の開催、訪問による営業活動は定期的に実施でき、担当者との関係作りが行なえた。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>前年度も超強化型老健として在宅支援、各種サービスの情報提供や連携強化等を多部署・多職種で取り組んできた。</p> <p>また、業務の効率化を目指し、入所は退所までの流れの再構築やミーティング回数を減らして情報共有を密にできる仕組みづくりを始めたところである。</p> <p>年度末からの感染症の影響で稼働率の低下、営業活動への影響が出たが、新しい形での営業活動や感染予防の取り組みをアピールすることでご利用者様の新規獲得を目指していきたい。</p> <p>また、アンケートによるご利用者様・ご家族の声をサービスに反映していくこと、外部との連携やSW勉強会にて支援の振り返りを行なうことで相談員としてのスキル向上を目指したい。</p>

文責：吉岡真理子



## 12) 有料老人ホームいきいきホームみなはる

構成員数	常勤准看護師 1名 ヘルパーステーションスタッフ（兼務）14名
2019年度 理念、目標	・家族のつながりと利用者の自立をささえる『すまい』の提供 ・最期まで地域で生きる暮らしの空間
業務（活動） 内容、特徴等	・有料老人ホーム入居者の受け入れ ・介護保険給付対象外のサービス提供 ・行事の開催にて交流や季節を感じられる機会の提供 ・スタッフの人材育成
実 績	○介護保険給付対象外のサービス ①身体介護 ②身の回りの生活援助 ③健康管理 ④食事の提供 ⑤生活相談、アドバイス、各種書類準備 ○開催行事 ・お誕生日会・お雛祭り等の行事 ○スタッフの育成 ・喀痰吸引研修 ・毎月のミーティングにてご利用者様の現状の確認や各種サービスの情報共有を行なうことで 今後のケアの見直しを実施 ○退去後の空床期間短縮のため、退院・退所後の受入れや入所待機の間としての後方活動を実施。
目標の評価	24時間、喀痰吸引等の必要な重度者の方、精神疾患、認知症のある方等、様々な対応を求められ、職員のスキルアップにつながった一方で、介護保険サービスの算定の難しい内容もあり、なかなか黒字化にはできなかった。 多職種と連携を図り、スタッフ一丸となって幅広いケアが展開できた。
今後の展望	2020年 4月末閉所

文責：赤坂くみこ

## 13) リハビリテーション課

構成員数	PT 7.6名 OT 8.4名 ST 1.5名 鍼灸師 1名 介護助手 0.8名
2019年度 理念、目標	「対象者が望む地域で暮らし続けることができるよう、質の高いリハサービスを提供する。 広い視野でテーマを持って仕事に取り組む。」 ①老健におけるリハ課の役割を意識しSPDCAサイクルを活用した業務を構築する。 ②在宅部門のリハチームとして連携を強化する。 ③地域に対して貢献できるリハスタッフを目指す。
業務（活動） 内容、特徴等	1. 超強化型老健としての取り組み（訪問指導、リハ介入増） 2. 通所リハにおけるリハビリテーションマネジメントの強化・推進（リハマネⅡ～Ⅳ） 3. 訪問リハ業務の効率化の推進（兼務スタッフの増加、入所・通所からの継続） 4. 地域活動への参加・貢献（サロン活動、外部講師等） 5. 学術発表・研究の推進
実 績	1. 訪問指導 89件（平均7.4件/月）、3回以上/週のリハ介入実施 2. リハマネⅡ 544件（平均45.3件/月）、Ⅲ 854件（平均71.2件/月） 3. 入所からの継続件数 7件 4. 地域活動への参加数 18件（サロン、講師、助言等） 5. 学術発表数 8件
目標の評価	老健： 超強化型老健として入退所前後訪問指導等への関わりを継続し、3回/週以上の個別介入に対して基準を下回ることなく取り組むことができた。通所リハでは継続したリハ会議の実施によりリハマネ加算件数を維持できた。入所・通所・訪問の横断的な関わりを意識し、対象者の利用サービスが変わっても継続的なリハサービスの提供が可能となるよう取り組みを継続した。訪問リハは営業日の変更・追加を行い、実施件数の増加に取り組んだ。  地域生活サポートセンターけいわ： 人員配置を2名に増員し、リハサービスの充実に取り組み、学会発表等での広報活動も継続的に実施できた。  地域活動への参加は、延べ18件と前年を上回る取り組みを展開できた。昨年まではサロンへの活動支援が最も多く、全体の70%を占めていたが、今年度は研修会講師・助言者などの活動が73%を占め、在宅に関わるリハスタッフとしての専門性を活用する機会に恵まれた。
今後の展望	2020年度 大分豊寿苑 リハビリテーション課 目標 「対象者が望む暮らしを継続できるよう支援する」 「専門職としての目標を持って仕事に取り組む」 介護・障害福祉ともに、対象者に有益となるリハサービスを提供する。また、老健運営・障害福祉事業所運営に貢献できるよう質の高いリハサービスを目指す。 対象・介入の幅が広い在宅部門でスタッフが専門性を活かしつつ、より質の高いリハサービスが提供できるよう人材育成に注力していく。

文責：谷口 理恵

## 14) ヘルパーステーション

構成員数	介護福祉士 12名（常勤） 1名（非常勤）																										
2019年度 理念、目標	利用者に寄り添い、各関係機関と連携を深め、自立支援と生活意欲を引き出せるよう日々の支援に取り組む。																										
業務（活動） 内容、特徴等	①多職種間との連携を図りながら在宅サービスの提供 ②喀痰吸引の必要な利用者宅の訪問 ③障害福祉サービス、重度心身障害者（児）訪問の拡大 ④兼務事業所、有料老人ホーム「いきいきみなはる」の運営																										
実 績	<p style="text-align: center;"><b>新規件数</b></p> <table border="1"> <caption>新規件数（月別）</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>新規件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>6</td></tr> <tr><td>5月</td><td>5</td></tr> <tr><td>6月</td><td>10</td></tr> <tr><td>7月</td><td>3</td></tr> <tr><td>8月</td><td>4</td></tr> <tr><td>9月</td><td>4</td></tr> <tr><td>10月</td><td>4</td></tr> <tr><td>11月</td><td>7</td></tr> <tr><td>12月</td><td>2</td></tr> <tr><td>1月</td><td>3</td></tr> <tr><td>2月</td><td>1</td></tr> <tr><td>3月</td><td>2</td></tr> </tbody> </table> <p>※年間訪問件数：11,694件 年間稼働率：72.9%</p>	月	新規件数	4月	6	5月	5	6月	10	7月	3	8月	4	9月	4	10月	4	11月	7	12月	2	1月	3	2月	1	3月	2
月	新規件数																										
4月	6																										
5月	5																										
6月	10																										
7月	3																										
8月	4																										
9月	4																										
10月	4																										
11月	7																										
12月	2																										
1月	3																										
2月	1																										
3月	2																										
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先での緊急時、体調不良時の連携の強化。</li> <li>・常勤12名中、11名が喀痰吸引従事者認定済。</li> <li>・障害福祉サービス利用者の訪問依頼の増加。</li> <li>・有料利用者の日常のケア、体調不良時、感染の対応、各機関との連携。</li> </ul>																										
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度利用者の増加に伴い、精神疾患の利用者も増加。個々のニーズに応じた知識とサービスを提供していきたい。</li> <li>・障害児の入浴介助等の依頼の問い合わせが増加。対応できる職員を増やす。</li> <li>・ターミナルケア依頼の受け入れ、訪問開始の円滑化。</li> </ul>																										

文責：赤坂くみこ

## 15) 小規模多機能型居宅介護事業所陽だまりの郷みなはる

構成員数	管理者（介護支援専門員兼務）1名 介護従事者 10人 非常勤（パート）3人 看護師 1名 非常勤看護師 1名																										
2019年度 理念、目標	小規模多機能居宅介護の役割を理解し、家族や地域の結びつきとともに、住み慣れた地域でこれまでの暮らしを継続できるように支援する。																										
業務（活動） 内容、特徴等	「通い」「泊まり」「訪問」を臨機応変に提供することで、在宅での介護を支え、在宅介護の限界を引き上げ、高齢者の地域での生活を支える。 ・認知症予防（くもん学習療法の提供）・充実したレクリエーション・地域交流																										
実 績	<p>①登録者の推移</p> <table border="1"> <caption>登録者の推移</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>27</td></tr> <tr><td>5月</td><td>25</td></tr> <tr><td>6月</td><td>25</td></tr> <tr><td>7月</td><td>24</td></tr> <tr><td>8月</td><td>27</td></tr> <tr><td>9月</td><td>26</td></tr> <tr><td>10月</td><td>29</td></tr> <tr><td>11月</td><td>25</td></tr> <tr><td>12月</td><td>24</td></tr> <tr><td>1月</td><td>25</td></tr> <tr><td>2月</td><td>27</td></tr> <tr><td>3月</td><td>27</td></tr> </tbody> </table> <p>②レクリエーション 花見食事外出（吉四六ランド・食事処「どんこ」）紅葉外出（原尻の滝）等 クリスマス会（利用者家族・地域の方の参加）等</p> <p>③地域交流 ボランティアによるレク 学童合同そうめん流し 地域の行事に参加（夏祭り・サロン）地域の方を招いてのクリスマス会 認知症カフェ 認知症サポーター養成講座 等</p> <p>④スタッフの育成 ・学術部研修（コンプライアンス/眠りについて/メンタルヘルス向上/リスクマネジメント/感染管理/介護ラダー/認知症/災害研修 等） ・小規模多機能連絡会研修 ・東陽圏域事業所交流会・勉強会 ・サービス事業所実践力向上研修会（訪問型・通所型） ・その他…学習療法研修/介護職員中堅研修会/認知症キャラバンメイト/小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 等</p>	月	登録者数	4月	27	5月	25	6月	25	7月	24	8月	27	9月	26	10月	29	11月	25	12月	24	1月	25	2月	27	3月	27
月	登録者数																										
4月	27																										
5月	25																										
6月	25																										
7月	24																										
8月	27																										
9月	26																										
10月	29																										
11月	25																										
12月	24																										
1月	25																										
2月	27																										
3月	27																										
目標の評価	利用者の入院や、重度認知症により在宅での生活が困難となり施設入所を選択する事例が増加していった為、目標である登録数29名の達成が困難だった。しかしその中でも、訪問支援を必要とする利用者が増え、臨機応変な対応が増えたことでスタッフの対応力が上がっていった。会議等での発言が多くなり、個々のレベルアップが図られている。																										
今後の展望	地域密着型事業所としての役割を深める為、自治会や地域の長寿会との連携を図り、出張サロンを開催し、地域を活性化し、介護予防に努めていきたい。																										

文責：相良 円香

## 16) グループホームおおざい憩いの苑

構成員数	管理者：1名　看護師：1名　准看護師：1名　介護支援専門員：2名 介護福祉士：8名　介護職員：1名　介護パート：2名
2019年度 理念、目標	理念：家庭的な雰囲気の中で、いきがいと一人一人の尊厳を重んじ、地域社会との交流を図りながら、住み慣れた地域で、安心した生活が過ごせる環境を提供する。 目標：入居稼働率100%を目指す 喀痰吸引取得の継続 苑内外の研修に参加し、自己研鑽する。
業務（活動） 内容、特徴等	①地域行事参加 4月志村神社神幸祭　5月大在地区体育祭・萬弘寺の市 6月大野川コスモス種まき　7月大分リハマルシェ 10月コスモスふれあい祭り　1月志村神社初詣 ②苑内行事・外出（お花見、ドライブ、そうめん流し、夏祭り、敬老会、クリスマス会、初詣、食事作り、おやつ作り等） ③毎日の行事（ラジオ体操、食前嚥下体操、個別リハビリ、個別レク等） ④ボランティアの慰問（津留芸能協会、青空、サンフラワーフレンズ等）
実 績	入居者数：96.4% 看取り者数：7月/1名 スタッフ研修 ・認知症ケア専門士取得　・オムツフィッター2級取得　・認知症サポーター講座 ・認知症対応型サービス事業者管理研修修了・権利擁護推進養成研修修了 ・他　学術部主催、介護部会主催の研修に参加
目標の評価	7月から12月まで入居者数が安定せず稼働率を下げってしまった。入居者・待機者獲得の為に、情報の発信力の強化、地域の事業所への積極的なアプローチが必要。 また、事故等で退所に繋がり稼働率に影響もあったので職員の意識・技術の向上、未然に防げる事故等はなくして稼働率を下げない努力が必要。
今後の展望	・空室が出た場合の情報の発信力 ・入居者数の安定と入居待機者の確保 ・喀痰吸引等研修の受講継続 ・重度認知症の方の受け入れができるように職員のスキル向上 ・苑内勉強会・研修、外部研修への参加

文責：首藤 彰仁

## 17) グループホームこいけばる憩いの苑

構成員数	管理者：1名 看護師：3名 介護支援専門員：2名 介護福祉士：7名 介護職員：2名 契約介護職員：1名 介護福祉士パート：3名 介護パート：1名
2019年度 理念、目標	理念：家庭的な雰囲気の中で、生きがいと一人一人の尊厳性を重んじ、地域社会との交流を図りながら、住み慣れた地域で安心した生活が過ごせる環境を提供する。 目標：入居稼働率100%を目指す 痰吸引者修得の継続
業務（活動） 内容、特徴等	①苑内行事・季節行事 （お花見、そうめん流し、夏祭り、敬老会、クリスマス会、初詣、おやつ作り等） ②外出 誕生日、食事、買い物、ドライブ等 ③毎日の行事 体操、食前の嚥下体操、個別リハ、個別レク等 ④実習生受け入れ 医大学生、看護学生 中学生職場体験
実 績	入居者稼働率：99% 看取り死亡者数：2020年3月/1名
目標の評価	痰吸引修得：0名（現在1名研修中）  体調不良による入院者1名あり、コロナウィルスの影響で2カ月の長期入院となるが、契約継続にて、大幅に稼働率を下げることはなかった。 1名看取り後、1か月間1名空きがでても、すぐに次の契約に繋がり、大幅に稼働率の減少にはならず。
今後の展望	1. 介護職による各痰吸引等研修の受講継続 2. 入居待機者の確保と共に、稼働率100%を目指す 3. 苑内勉強会計画実施 4. 外部研修参加

文責：土田由紀子

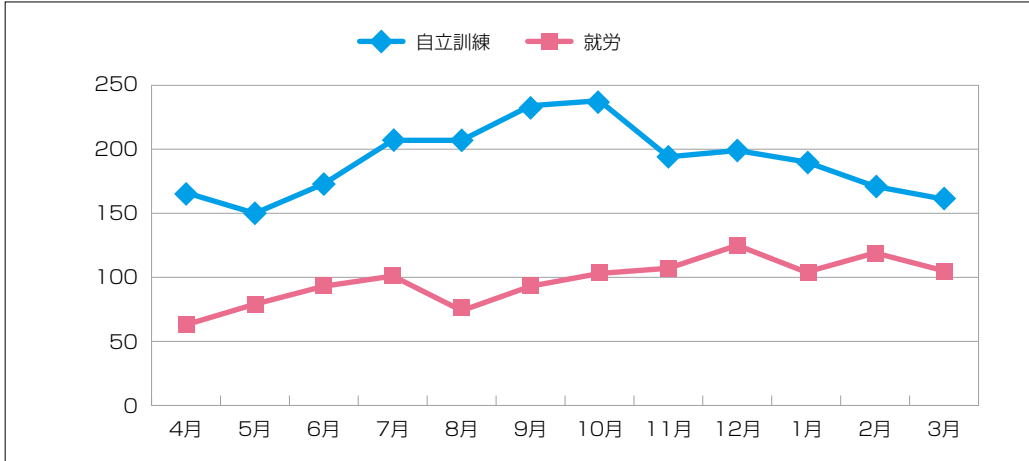
## 18) 明野地域包括支援センター

構成員数	主任介護支援専門員：1名 保健師：2名 社会福祉士：2名 介護支援専門員：1名 事務員：1名
2019年度 理念、目標	目標：地域包括ケア構築に向けた活動を行う。 自治委員・民生委員等との連携を図り、地域の実態調査を行い、地域課題、個別の課題の把握を行う。
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談</li> <li>・権利擁護</li> <li>・認知症対策事業</li> <li>・包括的・継続的ケアマネジメント</li> <li>・介護予防ケアマネジメント</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談：年間相談件数 1,788件 民生委員との定期的な交流会を実施し、支援が必要と思われる高齢者の把握に努めた。</li> <li>・権利擁護：相談対応件数 37件 成年後見、消費者被害の普及啓発は1つのサロンで実施。</li> <li>・認知症対策事業：認知症サポーター養成講座を明野中学校と介護事業所で実施。 認知症サポーターフォローアップ講座 1回開催。</li> <li>・包括的・継続的ケアマネジメント：自立支援ケアプラン相談会 3回開催 介護支援専門員研修 4回開催 明野鶴崎認知症カンファレンス 1回開催</li> <li>・介護予防ケアマネジメント：介護予防教室 3回開催。 6カ所のサロン、老人会での普及啓発 15回開催。</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座を開催するため、地域の認知症キャラバンメイトとの交流を行い協働での講座実施に向けた働きかけを行った。</li> <li>・地域における関係者とのネットワークを構築するため、民生委員との情報交換会を定期的に開催することで、顔の見える関係作りを行い、何かあれば、情報交換などがスムーズに行えるようになった。</li> <li>・高齢者の心身の状況や生活の実態を幅広く把握するため、地域の資源などの情報収集は行ったが、防災体制などの情報収集までには至っていない。</li> <li>・相談をうけ、地域における適切な保健医療福祉サービス機関又は制度につなげる等の支援の実施は行えた。</li> <li>・権利擁護事業のネットワークを構築するための、認知症予防や消費者被害、成年後見制度に関しての啓発活動を行ったが、一部エリアに限られた。</li> <li>・困難事例の実態把握に努め、高齢者虐待等地域や関係者からの相談通報届け出に速やかに対応し、早期発見に努めた。</li> <li>・地域住民が認知症を正しく理解し、認知症の予防・早期発見・早期対応に繋げるための、サロンへの講話や中学校へのサポーター養成講座を行った。</li> <li>・個々の介護支援専門員のサポートを行い、自立支援型ケアプラン相談会を開催し、地域課題についての抽出に努めた。</li> <li>・地域の実情に応じた介護予防教室を企画し自立支援に向けた活動を行った。</li> </ul>
今後の展望	この1年間は、大分市の包括的支援事業方針に沿って、活動に取り組んだが、まずは地域との関係性構築につとめ、顔の見える関係になってきたが、まだまだ不十分と感じている。高齢者が地域で暮らし続けるためには、地域の実態を把握していく必要があるため、今後も関係構築に努め、地域包括ケアシステムの推進に向けた活動を継続していく。

文責：齋藤 卓也



## 19) 地域生活サポートセンターけいわ【自立訓練(機能訓練)・就労継続支援B型】

構成員数	管理者1名 サービス管理責任者1名 看護師1名 作業療法士1名 理学療法士1名 職業指導員1名 生活支援員3名
2019年度 理念、目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的なりハビリテーションの提供により、様々な「不自由さ」「生きにくさ」を経験している障がい者の皆さんの社会参加と地域での活躍を支えます</li> <li>・障がいを持つ方の社会参加、働く機会を創造する</li> </ul>
業務(活動) 内容、特徴等	<p>(自立訓練)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期、回復期病院等の新規営業先を開拓し広報活動を強化する</li> <li>・施設外での活動プログラムを充実させ、社会参加の場の提供を行う</li> </ul> <p>(就労)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用者獲得のため支援学校、相談支援事業所へのアプローチ</li> <li>・工賃向上を目標に、共同受注外での新規作業の開拓を行う</li> </ul>
実績	 <p>目標達成率：自立訓練57% 就労54%</p> <p>延べ登録利用者数：自立訓練 29名 就労 11名</p> <p>自立訓練終了者13名（介護保険へ移行6名 就労3名 生活介護1名 入院3名）</p>
目標の評価	<p>(自立訓練)</p> <p>居宅介護支援事業所、相談支援事業所への営業と併せて、利用者の疾患の傾向から急性期、回復期病院へのアプローチを強化した。紹介元の病院へは定期的な報告を行い、関係性を築くよう努めた。</p> <p>(営業件数年間33件のうち新規営業先13件)</p> <p>施設内での活動、機能訓練だけでなく、社会参加の機会として地域の社会資源を活用した施設外でのスポーツリハビリを実施した。</p> <p>(就労)</p> <p>自立訓練卒業者以外での新規利用者獲得に向け、支援学校の進路指導担当に対して事業所の紹介を行った。相談支援事業所にも、継続した営業が行えた。</p> <p>共同受注センター、内部作業外での新規作業の開拓を目標とし、地域の企業へ広報活動を行ったが、受注には至らず、今後方法の検討が必要と考える。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域及びヘルスケアリンクにおける「けいわ」の役割、強みを多方面へ広報し、新規利用者獲得に努める。</li> <li>・それぞれの専門性を活かした支援に努め、対象者の地域での生活を支える。</li> </ul>

文責：谷口 理恵

## 1) 労働安全衛生委員会

構成員数	20名
2019年度 目標、方針	<p>職員の健康管理および労働環境の整備促進</p> <p>①業務の効率化とワークライフバランスの促進</p> <p>②健康管理とメンタルヘルスで健全な職場づくり</p> <p>③職場環境分析と改善に向けての意識づけ</p>
業務（活動） 内容、特徴等	<p>①定期的に有休消化実績報告 時間外労働時間の実績報告</p> <p>②健診、ストレスチェックの実施による健康管理</p> <p>2次健診受診促進活動</p> <p>B型肝炎ワクチンプログラムの実施</p> <p>全職員にインフルエンザワクチン接種</p> <p>職員の喫煙状況調査</p> <p>③職場環境分析のためのアンケート調査実施・5S活動の実施</p> <p>現状を把握し改善に活かす</p>
実 績	<p>①時間外労働削減にむけ、月1回（第3水曜日）のノー残業デイの実施。全体的月平均残業時間数 3.9h、有給休暇取得率 67.9%であった。</p> <p>②職員の健康管理</p> <p>ストレスチェックを全職員対象に実施</p> <p>B型肝炎ワクチンプログラムを10名に実施</p> <p>就業時間後に短時間通所施設を週1回（水）開放し職員向けフィットネスの実施およびおおいた歩得参加</p> <p>新型コロナウイルス感染予防対策の実施</p> <p>職員の喫煙調査の実施および施設外喫煙所の廃止</p> <p>③令和1年12月職員アンケート実施</p> <p>ノーリフティングケア宣言をし施設全体でケアの実践への取り組みを開始した。</p> <p>5S活動を実践（7部署）し、職場環境改善、効率化に取り組んだ。</p>
目標の評価	<p>①時間外労働については大きな変化はなかったものの、申請時間と打刻時間に乖離がみられたため、今後分析し対応が必要である。</p> <p>②2次健診受診率は前年より低下しており、改善が必要である。しかし、協会けんぽの保健指導はほぼ100%受講できた。今後も引き続き健康に対する意識付けが必要である。また、職員の喫煙状況調査を実施し、受動喫煙防止のため敷地内喫煙所の廃止を実施した。今後も喫煙状況の推移を観察する。</p> <p>③様々な取り組みを実践し職場環境の改善、効率化を図ることができた。</p>
今後の展望	<p>①ICT、介護ロボットの導入による業務の効率化促進およびノーリフトケアの取り組みを加速し、職員が笑顔で働ける労働環境の整備に繋げる。</p> <p>②健康管理、感染管理、メンタルヘルスの徹底。</p> <p>③職員アンケートを継続的に実施し、課題の分析、問題解決、改善に繋げる。</p>

文責：渋谷 智子

## 2) 褥瘡対策委員会

構成員数	14名（看護師・介護福祉士・栄養士・PT）
2019年度 目標、方針	褥瘡の早期発見・予防に努める。 褥瘡形成者の改善策を立案する。 褥瘡対策に関するケア計画書の管理。
業務（活動） 内容、特徴等	毎月1回（第一火曜日）委員会の開催。 褥瘡に関する用具の管理、整理整頓。 毎週金曜日褥瘡ラウンド。 写真にて経過管理。処置の見直し。 全体会議にて褥瘡形成者・要注意者の周知。 褥瘡対策に関するケア計画書の管理。 各職との連携を図り褥瘡の早期発見、予防。
実 績	体圧分散マット等の管理について使用状況の把握、適切に使用できるよう管理、状況に合わせた必要性の見直しを行った。 褥瘡形成の恐れや、悪化などみられた際は、委員会への報告・連絡・相談等の連携を図る事ができた。 褥瘡対策ケア計画書の作成、継続の運営。 褥瘡に関する研修参加。
目標の評価	他職種との連携にて褥瘡の有無、過去の形成歴などの情報の共有ができ、事前に対応できた。 体圧分散マット等の管理について、使用状況把握（盤にて掲示）、状況に合わせ必要性の見直しを行った。 他職種との連携を深め専門的な関わりを図る事が出来た。 褥瘡に対する危険性の認知・判断・観察・予測能力など個人差が顕著にみられ何らかの対策が必要である。 栄養士へ相談し家人協力のもと補助食の提供等を行った。
今後の展望	3か月毎の褥瘡対策に関するケア計画書の評価の継続。 褥瘡形成者の早期治癒にむけての対策。 褥瘡予防対策の継続。

文責：小堀 美香

### 3) 感染対策委員会

構成員数	15名
2019年度 目標、方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苑内感染対策</li> <li>2. 職員の感染対策に対する意識向上</li> <li>3. 感染防止対策の推進・評価・検討</li> </ol>
業務（活動） 内容、特徴等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苑内感染防止対策活動の推進 感染統括センター（以下KICC）と連携し衛生物品や感染対策関連物品の検討</li> <li>2. 職員の感染防止対策に対する意識向上促進 ・感染症流行期の利用者、職員に対する注意喚起 ・職員研修（インフルエンザ） ・針刺し事故防止に向けた職員教育</li> <li>3. 感染防止対策の推進・評価・検討 ・利用者・職員の感染発生状況報告、検討 ・定例会議の開催 毎月第一金曜日</li> </ol>
実 績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職員研修 11月 ①インフルエンザについて 講師：幸 直美（岡病院感染対策室） ②各部署で吐物処理の勉強会（感染委員メンバー指導）</li> <li>2. アルコールの手指消毒剤の使用量増加に向けた取り組み。 携帯用ポシェットの全員配布</li> <li>3. 部署ごとの感染症流行状況の確認、注意喚起</li> <li>4. 11月：KICC苑内ラウンド</li> <li>5. マニュアルの作成、見直し（KICC介入）</li> <li>6. COVID-19感染についての注意喚起や対応</li> </ol>
目標の評価	利用者・職員にインフルエンザの発症や、入所者の感染性胃腸炎や偽膜性腸炎の発症がみられたが、アウトブレイクには至らず経過した。COVID-19の感染拡大に伴い感染環境表面の清掃消毒策の厳格化や部署間の移動制限や入所者の面会制限を冬季より継続している。感染対策意識の向上もあり風邪やインフルエンザの報告件数は例年に比べ減少した。
今後の展望	引き続きKICCとの連携を強化し、感染症対策を継続。 COVID-19への対応を継続して、利用者の生活の質も重視しつつ新たな生活様式、施設利用様式を確立する。

文責：小野 幸代

#### 4) サービス向上委員会

構成員数	21名
2019年度 目標、方針	①接遇の向上と良質なサービスが提供できる環境作りに努める。 ②安心してサービスを利用していただけるように法令遵守の周知、徹底を図る。 ③快適な環境で過ごして頂けるよう5S運動の推進。
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇の向上によるよりよいサービスの提供 またその為の具体的施策の考案、実施</li> <li>・満足度調査の実施</li> <li>・苦情、意見の改善策検討</li> <li>・5S運動の推進（クリンネスの実施）・法令遵守の周知</li> <li>・個人情報保護の職員の周知、マニュアルの見直し</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5S活動およびクリンネス見周りの実施（3カ月に1回）</li> <li>・部署別満足度調査の実施（各部署1回／年）</li> <li>・苦情、意見の改善策検討（毎月）</li> <li>・具体的な接遇施策の考案</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5S運動を全館で行い、当委員会がラウンドと勉強会を行い全部署への報告等を実施した。各部署で大幅に整理、清掃による業務改善も見られた。 今後もラウンドを継続して実施することで現状を維持、向上出来るよう努める。</li> <li>・前年度よりご意見箱が活用されていないとの報告を受け、箱の設置場所の見直しを各部署で行った。それにより意見ゼロだった部署に意見書を数枚頂く事などがあり、一定の効果が見られたが、意見用紙を切らしているといった事も見受けられた為職員の意識改善も必要だと思われる。</li> <li>・満足度調査の実施・報告を全体で行い意見や改善策の共有を行った。 今後はTEAMSを利用し、有効な意見や施策を全体で共有していければと思う。</li> <li>・今期よりマニュアルの見直しや自己評価の回数を大幅に削減し会議での内容を5Sや苦情に対する意見討論の時間に割くよう変更した。 今後も現在必要とされる内容を会議やTEAMSにて検討し改善していく必要がある。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度も同様の目標を掲げ、サービス向上に努めるとともに、職場環境にも引き続き着目し、5S運動を推進する。</li> <li>・苦情やご意見を参考にし、具体的な接遇施策を各部署で考案し実施していく。</li> </ul>

文責：阿部 俊介

## 5) 安全対策委員会

構成員数	18名																																																																	
2019年度 目標、方針	毎月のインシデント報告・身体拘束の件数を見直し、対策案を各部署にフィードバックし、再発を防ぐ。																																																																	
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"><li>毎月1回会議を開催。ヒヤリハット報告、事故報告、身体拘束者の件数と発生状況、対策の見直しと状況把握を行い、各部署へのフィードバックを行う。</li><li>ヒヤリハットの発生内容の分類化を行い、当月発生の多かったものについて、会議にてディスカッション、対策の再検討を実施。</li><li>ヒヤリハット報告が電子カルテ入力に変更。 安全管理指針の周知（インシデント・アクシデントの区分、安全管理の基本的な考え方等）</li><li>転倒ワーキンググループ（FP隊）のラウンド。危険個所のリストアップし対策案を考案する。</li><li>転倒転落件数を前年度の20%減（月14.7件）を目標にする。</li></ul>																																																																	
実 績	<ul style="list-style-type: none"><li>ヒヤリハット報告、事故報告、身体拘束者、身体拘束予備軍の年間件数。</li></ul> <table><tr><td></td><td>ヒヤリハット報告</td><td>事故報告</td><td>身体拘束者</td><td>身体拘束予備軍</td></tr><tr><td>2019年4月</td><td>69</td><td>25</td><td>3</td><td>12</td></tr><tr><td>5月</td><td>52</td><td>3</td><td>4</td><td>12</td></tr><tr><td>6月</td><td>66</td><td>8</td><td>2</td><td>12</td></tr><tr><td>7月</td><td>23</td><td>7</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>8月</td><td>46</td><td>8</td><td>3</td><td>19</td></tr><tr><td>9月</td><td>72</td><td>17</td><td>5</td><td>17</td></tr><tr><td>10月</td><td>72</td><td>12</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>11月</td><td>66</td><td>5</td><td>4</td><td>19</td></tr><tr><td>12月</td><td>62</td><td>10</td><td>3</td><td>11</td></tr><tr><td>2020年1月</td><td>74</td><td>16</td><td>5</td><td>15</td></tr><tr><td>2月</td><td>42</td><td>6</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>3月</td><td>56</td><td>12</td><td>1</td><td>18</td></tr></table>		ヒヤリハット報告	事故報告	身体拘束者	身体拘束予備軍	2019年4月	69	25	3	12	5月	52	3	4	12	6月	66	8	2	12	7月	23	7	3	4	8月	46	8	3	19	9月	72	17	5	17	10月	72	12	-	-	11月	66	5	4	19	12月	62	10	3	11	2020年1月	74	16	5	15	2月	42	6	-	-	3月	56	12	1	18
	ヒヤリハット報告	事故報告	身体拘束者	身体拘束予備軍																																																														
2019年4月	69	25	3	12																																																														
5月	52	3	4	12																																																														
6月	66	8	2	12																																																														
7月	23	7	3	4																																																														
8月	46	8	3	19																																																														
9月	72	17	5	17																																																														
10月	72	12	-	-																																																														
11月	66	5	4	19																																																														
12月	62	10	3	11																																																														
2020年1月	74	16	5	15																																																														
2月	42	6	-	-																																																														
3月	56	12	1	18																																																														
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"><li>昨年度より、インシデント報告が電子カルテへの記載となった。入力手順等で慣れない部分があり、内容が分かりにくい記載や記載漏れ等が多くあったが徐々に改善しつつある。</li><li>転倒転落件数について、前年度の20%減（月14.7件）を目標に取り組んできたが、今年度は年間277件の転倒報告があり、月平均23.1件と増加。見守りや付き添いが必要な対象者が多く、職員の業務の流れや人員配置等の配慮が必要であった。</li><li>インシデント報告は月平均58.3件（内アクシデント報告は月平均10.75件）と前年度より増加傾向となった。インシデント発生から1週間後に対策の再検討を行っているが、事故発生件数減少に結びついていない。</li><li>インシデント発生内容の分類化と検討を行う事で、多発事象の内容を把握する事ができ、重点的な対策検討を行う事ができた。</li></ul>																																																																	
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"><li>引き続きインシデント報告記載の啓発活動の継続、また、現場スタッフの気づきの視点や、分析力の強化等を行い、事故へと結びつかないよう各部署での対策を取っていく。</li><li>今年度は転倒予防ワーキンググループ（FP隊）の活動が行えなかったため、来年度はラウンドにて危険箇所のリストアップし、転倒予防に努める。また、転倒リスクを有する対象者が多く、見守りセンサー（離床キャッチや転倒虫）の使用人数が増加している。対象者の状態に合った選定が難しくなっているため、インシデント報告の転倒・転落の傾向を分析し、各事業所へ分析内容の提示、入所者環境シートの活用徹底、同一内容の事故発生を防止する。</li></ul>																																																																	

文責：久保 成美

## 6) エコ委員会

構成員数	14名
2019年度 目標、方針	水光熱の使用量削減 ペーパーレス化の推進 省エネ推進
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大デマンド抑制</li> <li>・空調使用時期の定時チェック（9時、13時、17時） 集中リモコンでの管理と各部署の委員会メンバーの温度管理の徹底</li> <li>・Teamsを使用したペーパーレス会議の実施、問題点を共有することにより改善策を考え省エネ意識を浸透させる</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大デマンド171kwhの維持</li> <li>・集中リモコンでの温度管理のチェック、各部署の設定温度厳守</li> <li>・Teamsでのペーパーレス会議実施、遠隔参加も実施できており業務負担の軽減にもつながった</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大デマンド抑制</li> <li>・前年電気使用量 5,811kwh使用量削減</li> <li>・水道使用量 414m³増、ガス使用量 844m³増、重油 234L増 電気使用量はデマンド抑制より結果がでていますが、他の項目にて結果です 使用量の削減意識はしっかり共有できており、過度な使用量増はなし</li> <li>・Teamsでのオンライン会議の実施、会議参加の負担軽減</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な機器導入に頼らず、電力の平準化を目指す 空調使用の時間ずらし、こまめな温度管理（できない部署は自動の設定を徹底）</li> <li>・Teams活用でのペーパーレス化、オンライン会議の推進</li> <li>・水光熱削減の継続</li> </ul>

文責：首藤 功



## 7) 地域貢献・防災委員会

構成員数	20名
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別保あんしんサポートセンターを中心とし、地域の方の憩いの場所を提供する</li> <li>・大分豊寿苑のスタッフとして誰もが地域の人々や行事等に興味を持ち、地域交流に取り組める体制を作る</li> <li>・度重なる災害を意識し、事業所ごとの災害対策を検討する</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域の方への健康増進や認知症予防のための活動</li> <li>②地域住民の方への相談窓口</li> <li>③地域イベントへの参加や企画</li> <li>④認知症サポーターの養成</li> <li>⑤災害マニュアルの作成</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域の老人会やサロンでの健康講話（7ヶ所/約240名の参加）</li> <li>②地域の相談窓口 別保あんしんサポートセンターでの各種催し （生花・手芸・クラフト・料理・認知症カフェ・介護相談会 等） 大分県認知症家族介護支援事業（そらにて実施）</li> <li>③地域イベント参加 大分リハマルシェ参加（焼きそばの屋台） 皆春地区夏祭り参加（フリーマーケット・輪投げブース）</li> <li>④認知症サポーター養成講座 高田小学校4年生（80名） 明治安田生命（50名）</li> <li>⑤災害マニュアルの作成 各部署ごとの困りごと、不安等の洗い出し 皆春自治会との災害時の協力体制の検討</li> </ul>
目標の評価	<p>各種イベントを通じ、楽しみながら地域の方との交流が図られている。顔なじみの関係が増えることで、大分豊寿苑が地域に根付いた施設であることが実感されている。</p> <p>別保あんしんサポートセンターの利用者が固定されてきている為、幅広い広報が必要だと思われる。駐車場の整備も進んでいる為、足を運びたくなるような場所を作っていきたい。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所にオムツフッターの研修修了者が増えてきている為、資格を生かせる場を作り、むつき庵ほほえみに足を運んでもらえるようなイベントを開催したい。</li> <li>・サロンに参加するスタッフを増やし、自分たちが働いている地域の方たちがどのような生活をし、何を考えているのかを知ってもらい、大分豊寿苑のスタッフとしてどのように地域とかかわりを持っていきたいのかを考える機会を作っていきたい。</li> </ul>

文責：相良 円香

## 1) 学術部

構成員数	25人（事務、看護、介護、療法士、栄養等）
2019年度 目標、方針	地域包括ケア時代の重要拠点となるため、学術勉強会を通じて応用的な知識・技術の獲得に向けたサポートを行う。
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月1回の学術勉強会の開催</li> <li>・ 年1回の介護教室の開催</li> <li>・ 年1回の災害研修の開催</li> </ul>
実 績	4月：コンプライアンス研修 5月：敬和会学会苑内選考会 6月：睡眠把握から睡眠アセスメントへ 7月：BLS 8月：メンタルヘルス 9月：これからの介護 10月：高齢者の転倒 11月：感染管理 12月：チームで取り組む尊厳ある排便 1月：褥瘡マネジメント 2月：認知症フォローアップ研修 3月：災害研修
目標の評価	下期より施設部門、居宅部門でわかれて企画、活動するようになり、より現場に則した具体的な内容で開催できることとなった。これまで勉強会をした事がない職員にもスピーカーとなってもらうこともできた。応用的な知識、技術の獲得に向けた取り組みであった。
今後の展望	施設部門は交代勤務等により一同に会することが困難なため、参加できる職員とできない職員の偏りがでていた。今後は動画を作成し、各職員や部門で時間を設けて実施できる様、工夫していきたい。また、内容に関しては外部講師による勉強会は現場への刺激も大きくなるため、引き続き進めていきたい。

文責：松田 和也

## 2) 広報部

構成員数	27名
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページやFacebook、広報誌を通し、大分豊寿苑の活動を地域に発信していく</li> <li>・ 敬和会広報誌Linkの取材・校正</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページやFacebookの更新</li> <li>・ 活動報告や行事などの案内</li> <li>・ 各部署担当による広報誌作成</li> <li>・ 行事の写真撮影</li> <li>・ Linkの取材、校正</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページやFacebookの更新による閲覧促進</li> <li>・ 広報誌のホームページ掲載</li> <li>・ 行事、イベント時の写真撮影と広報誌への掲載</li> <li>・ Linkの取材、校正、発行</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初はFacebookの更新が成されておらず、情報が発信できていなかったが、通所リハビリ担当により営業活動のひとつとして実施されたことで、頻回の更新が行われた。</li> <li>・ イベント、行事の企画運営への広報部としての参加が行われず、写真撮影等の役割が担えていなかった。</li> <li>・ Linkの取材、校正は各号発行において実施できたが、締め切りの厳守が行えておらず、予定の発行日に遅れが生じた。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人ホームページの定期的な更新の担当者検討。</li> <li>・ インスタグラムの活用を検討。</li> <li>・ 広報誌の作成は各部署が担い、地域生活SC（就労B）への編集作業委託により負担軽減と質の向上を図る。</li> <li>・ 地域貢献委員会との業務集約によりイベント情報の地域発信強化。</li> </ul>

文責：田中 依子

### 3) 福利部

構成員数	部長1名 副部長1名 部員21名
2019年度 目標、方針	職員同士の親睦を深め、働きやすい環境を図る
業務（活動） 内容、特徴等	新入職員の歓迎会、親睦会、忘年会等 各行事の企画・運営・出欠確認・行事当日のご案内等
実 績	① 5月：新入職員歓迎会 場所：明野アクロスホール 参加者：127名 ②12月：敬和会忘年会
目標の評価	① 5月：新入職員歓迎会 場所：明野アクロスホール 参加者：127名 参加者人数は、職員114名（新人18名）、子供13名。 子育て世代の交流が出来るように、席順に工夫した。子供さんも楽しそうに過ごされていた。 全体ゲーム（100円ジャンケン）の優勝者は子供さんだった。 新入職員には自己紹介、抱負を語って貰い、先輩職員が温かく見守った。 カラオケ大会では、部署、上司、部下の垣根を越えて大いに盛り上がった。 賑やかで、温かい交流が図れた。  ②12月：敬和会忘年会 場所：レンブラントホテル大分 今年もレンブラントホテルにて開催され、参加者も多く盛大なイベントとなった。 各施設間の職員の交流が出来た。  本年度、親睦会を行うことが出来なかった。 部員の意見の集約が上手くできず、時期を決められずにいたら、今年に入って大人数が集まらない事態になった。楽しみにされていた方々に申し訳ない気持ちで一杯だ。
今後の展望	会議の設定をするだけに多くの時間を取られてきた。今後はチームスを使って瞬時に、同じ内容で伝えることが出来るようになった。 2020年度、福利部は廃止になったが、何か敬和会の構成員同士の交流の場が残ることを希望する。

文責：佐藤 陽子

## 4) 園芸部

構成員数	30名
2019年度 目標、方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4階テラスの水やり</li> <li>・駐車場の花壇管理</li> <li>・苑内の環境整備</li> </ul>
業務（活動） 内容、特徴等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇の整備</li> <li>・苑内の環境整備（除草、駐車場清掃、ゴミ拾い）</li> <li>・水やり（夏季期間中）</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏のグリーンカーテン</li> <li>・苑内駐車場の花壇への花の植え付け</li> <li>・苑内環境整備</li> </ul>
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーンカーテンは遮光対策も含め実施したが、葉の広がり不足し実なるが遮光の役目には効果薄かった。</li> <li>・花の苗を購入し、花壇への植え付けを実施。</li> <li>冬から春にかけてパンジーとビオラ合わせて250株を植え管理。</li> <li>期間中は景観も良く、来苑者からの反応もあり。</li> <li>・花壇の整備等、周辺ゴミ取りを実施。花壇、プランター周辺は整備できていたが、全体の整備までには至らず。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を通して花をきらさない管理体制</li> <li>・苑内環境整備の継続</li> <li>・情報発信（花壇の様子等）</li> <li>・入所施設の2階中庭の管理</li> </ul>

文責：首藤 功

## 5) レクリエーション部

構成員数	部長1名 副部長1名 部員15名
2019年度 目標、方針	レク・各行事を通して、利用者に気分転換や季節を感じる楽しさを提供し、刺激のある生活を送って頂けるように努める。
業務（活動） 内容、特徴等	行事の年間作成、及び準備と実施。物品の管理。 療養棟でのレクリエーション週間計画の作成と準備。 ※花見、鯉のぼり、七夕、夕涼み会（ソーメン流し）、スイカ割り、夏祭り、クリスマス会、節分
実 績	8月 夏祭り（場所1階ホール。鶴崎踊り愛好会の生演奏のもと鶴崎踊り。 大分宮河内ひょっとこ同好会。） 12月 クリスマス会（職員の出し物、ビンゴ大会等 老健利用者90名。） 3月 お花見（コロナウイルスにて中止）
目標の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の行事に関しては天候によって左右されたこともあり、季節を感じにくかった可能性はあるが、気分転換ができ楽しい時間を提供できたと考える。</li> <li>・老健のレクリエーション週間計画、誕生日会、外出については再度検討の場が必要である。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に事前検討、反省の機会を多く設けて質の向上に努めていきたい。</li> <li>・天候に左右される行事については、柔軟に対応できるよう、情報収集・伝達を強化し、事前の検討を行い、質の高いものを提供していきたい。</li> </ul>

文責：山南 マキ

## 1) 講演・ポスター発表

## ■ 介護老人保健施設

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2019/4/25 介護shopあわや	ノーリフティングケア福祉用具 展示体験会 松田和也
2019/5/8 ボランティア会長 甲斐様より依頼	地域サロン 谷口理恵、藤原恵佑
2019/6/11 大分県作業療法協会	大分市ケアプラン相談会 谷口理恵
2019/6/15 第32回 日本老年泌尿器科学会 in 北海道	長期尿道カテーテル留置者の抜去 を可能にした要因 ー介護老人保健施設入所者の分析 からー 児玉貴雅
2019/6/22 東陽地域包括 支援センター	森町介護教室（前期） 洲上祐亮
2019/7/14 大分県小児在宅医療 連絡会より依頼	大分県小児在宅医療講習会 島末智美、樋口ちひろ
2019/8/1 大分県作業療法協会	大分市ケアプラン相談会 松田和也
2019/8/27 大分県作業療法協会	大分市ケアプラン相談会 谷口理恵
2019/9/1 第14回 敬和会学会	余暇時間の充実でいつもいきいきプロジェクト ～『じじみのキーホルダー作ろうえ!』～ 馬場速水  超強化型老健としての 1年を振り返って 佐野裕美子
2019/9/25 大分県作業療法協会	医師・歯科医師の参加する ケアプラン相談会 谷口理恵
2019/10/3 大分県作業療法協会	大分市ケアプラン相談会 谷口理恵
2019/10/6 小規模多機能 陽だまり	花の木サロン健康講話 洲上祐亮
2019/10/26 東陽地域包括 支援センター	森町介護教室（後期） 洲上祐亮
2019/10/28 大分県作業療法協会	地域介護リーダー研修 谷口理恵
2019/11/21～22 全国老健大会 in 大分	入所者への足こぎユニット 「こいじやる」の活用と効果 横川幸奈

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2019/11/21～22 全国老健大会 in 大分	アセスメントに基づいた 排便ケアの実践に向けて 他職種で取り組む排便ケアの 現状と今後の課題 荒金美里、児玉貴雅  当苑におけるケアバスを用いた 退所支援の取り組み 佐野裕美子  余暇時間の充実でいつもいきいきプロジェクト ～『じじみのキーホルダー作ろうえ!』～ 馬場速水  歩行アシストの効果を実感! ～園芸活動の再獲得に至った事例～ 藤原恵佑
2019/12/3 大分県作業療法協会	大分市ケアプラン相談会 谷口理恵
2020/2/8～9 第6回 歩行リハビリテーション 研究会	訪問リハビリ分野での歩行アシスト の有用性 ～歩行に対する自信に着目して～ 洪 泰英
2020/2/12 大分県作業療法協会	医師・歯科医師の参加する ケアプラン相談会 谷口理恵
2020/2/22～23 全国地域作業療法 研究大会	活動・参加に向けたサスペンション トレーニングの活用 ～TRXトレーニングの紹介～ 後藤雅貴

## ■ 訪問看護ステーション

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2019/4/11 大分県看護協会	訪問看護ステーション管理者育成研修 訪問看護制度の概要と運営を 理解する 講義：佐藤弥生
2019/5/9 大分リハビリテーション 学院	地域リハビリテーション概論 「訪問看護の実践」 「看取りにおける訪問看護」 講義：佐々木真理子
2019/5/21 大分県社会福祉 介護研修センター	新人介護士研修 「高齢者の観察ポイント」 講義：佐々木真理子
2019/6/4 大分県立看護科学大学 看護学科	在宅看護論 在宅療養のケアマネジメントと 家族支援 講義：佐藤弥生
2019/6/8 大分県社会福祉 介護研修センター	介護支援専門員実務研修： 更新研修過程Ⅰ 看取り等における看護サービスの活 用に関する事例 講義：佐々木真理子 ファシリテーター： 淵野万紀子、稲生野麦

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2019/6/13 在宅支援クリニック すばるより依頼	すばる塾 和田さなえ、堀 沙恵、山下沙織
2019/6/13 大分大学医学部 看護学科	在宅看護論 「訪問看護の実践」 講義：佐々木真理子
2019/6/13 大分市長寿福祉課	自立支援型ケアプラン相談会 助言者：佐々木真理子
2019/6/14 明野地域包括 支援センターより依頼	介護教室（明野地区サロン） 体を動かし認知症を予防 橋本 卓、毎床秀朗
2019/7/8 公益財団法人 介護労働安定センター 大分支部	医療的ケア教員講習会 講義：佐々木真理子、安部寿美
2019/7/12 大分県看護協会	看護師のための在宅支援 介護保険法の地域密着型サービス 安部寿美
2019/8/3 大分県社会福祉 介護研修センター	介護支援専門員実務研修：合格者 対象 看取りに関する事例 講義：稲生野麦 ファシリテーター：佐々木真理子
2019/9/1 第14回 敬和会学会	訪看訪問リハにおけるリモートワークの導入とその効果について 橋本 卓
	ポスター発表： 訪問看護におけるおむつフィッターとしての活動と課題 高橋さゆり
2019/9/14 大分県立看護科学大学 公開講座 (J:COMホルトホール大分)	公開講座 地域包括ケアの仕組みを知ろう 保管医療福祉職・一般県民対象 地域包括ケアにおける訪問看護 管理者の立場から 講義：佐々木真理子
2019/9/28～29 第22回 日本在宅ホスピス協会 全国大会 in 山梨	がん終末期利用者に対し、訪問リハ ビリテーションが出来ること ー最期を自宅で迎えた利用者との関わりを経験してー 樋口ちひろ
2019/9/29 大分県障害者相談 支援事業推進協議会	医療的ケア児 コーディネーター養成研修会 訪問看護の仕組み 講義：佐々木真理子
2019/10/10 藤華医療技術 専門学校	在宅看護実習 訪問看護における看護活動の実際 講義：佐々木真理子
2019/10/11・12/5 大分県社会福祉 介護研修センター	介護支援専門員実務研修： 合格者対象 看取りに関する事例 講義：稲生野麦 ファシリテーター：佐々木真理子
2019/10/17 大分県看護協会	在宅の終末期ケア6 看取り時の支援と遺族ケア 講義：稲生野麦

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2019/10/29 大分県立看護科学大学	大学院前期課程 看護管理学特論 在宅における看護管理 講義：佐藤弥生
2019/10/30 大分大学医学部 看護学科	精神看護方法論Ⅰ： 精神科訪問看護について 富本雅彦
2019/11/6 大分県地域ケア会議 アドバイザー強化研修	PEGの取り扱い方、 最新のPEGについて 岩田亜希子
2019/11/15 大分県看護協会	訪問看護基礎研修 倫理的問題を含めた 意思決定支援を理解する 講義：佐藤弥生
2019/11/26 大分市白菊会総会	やってみませんか？ 自分らしく生きるための人生会議 講義：佐々木真理子
2019/12/3 大分県立看護科学大学 看護科	在宅看護論： 在宅における緩和ケアの看護 講義：稲生野麦
2019/12/5 公益財団法人 介護労働安定センター 大分支部	第2回喀痰吸引研修 清潔保持と感染予防 講義：首藤直美
2019/12/7 大分県南部保健所	令和元年度 看護連携強化フォーラム 看護職連携による地域包括ケアの推進 講義：佐藤弥生
2019/12/7・12/14・ 12/22 大分県社会福祉 介護研修センター	介護支援専門員実務研修： 更新研修過程Ⅱ 看取り等における 看護サービスの活用に関する事例 講義：佐々木真理子 ファシリテーター： 淵野万紀子、稲生野麦
2019/12/12 公益財団法人 介護労働安定センター 大分支部	第2回喀痰吸引研修 健康状態の把握 講義：佐々木真理子
2019/12/12 大分県立看護科学大学 看護科	災害看護論 在宅療養者に対する災害看護活動 講義：佐藤弥生
2020/1/19 大分県訪問看護 ステーション協議会	第2回事例発表 多職種連携 座長：佐藤弥生
2020/1/27 ゆーりん研事務局より 依頼	ゆーりん研事例検討会 ファシリテーター：樋口ちひろ
2020/3/5 大分市薬剤師会・ 大分県理学療法士協会 より依頼	大分市薬剤師会 第2回在宅研修会 橋本 卓

#### ■ 地域生活サポートセンターけいわ

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2020/1/19 第23回 大分県作業療法学会	自立訓練（機能訓練）における 就労支援の成果 吉良志穂



## ■ 小規模多機能型居宅介護陽だまりの郷みなはる

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2019/4/4 花の木長寿会	認知症予防について 相良円香
2019/6/13 生き生きサロンみなはる	排尿障害について 今村真弓
2019/7/8 宮河内サロン	介護保険について 相良円香、吉岡真理子
2019/9/1 第14回 敬和会学会	学習療法を通じて見えた笑顔 ～思いを受け止め地域へつなぐ～ 木崎奈央

開催年月・学会名・依頼元	演題名・演者・共同演者
2019/10/7 高田小学校 (東陽包括)	認知症について 相良円香
2019/11/9 浄土寺サロン	介護保険について 相良円香、後藤りさ
2019/11/17 杵河内サロン	介護保険について 相良円香、吉岡真理子
2020/1/6 明治安田生命 (鶴崎包括)	認知症について 相良円香、土田由紀子

## 2) 資格取得

### ■ 介護老人保健施設

取得日	資格名・資格取得者名
2020/1/23	認定看護管理者（セカンドレベル） 小野幸代

### ■ リハビリテーション課

取得日	資格名・資格取得者名
2019/4/1	認知症ケア専門士 松田和也、谷口理恵
2019/11/17	リフトリーダー 山下沙織、樋口ちひろ

### ■ 訪問看護ステーション

取得日	資格名・資格取得者名
2019/10/14	認定看護師（訪問看護）資格更新 佐藤弥生
	認定看護師（緩和ケア）資格更新 稲生野麦
2020/1/10	特定医療行為研修修了者 河野まどか
2020/3/31	日本臨床倫理学会臨床倫理認定士 佐藤弥生

### ■ 明野地域包括支援センター

取得日	資格名・資格取得者名
2019/12/1	認知症ケア専門士 木山千枝

在宅支援クリニック すばる



# 1 統計

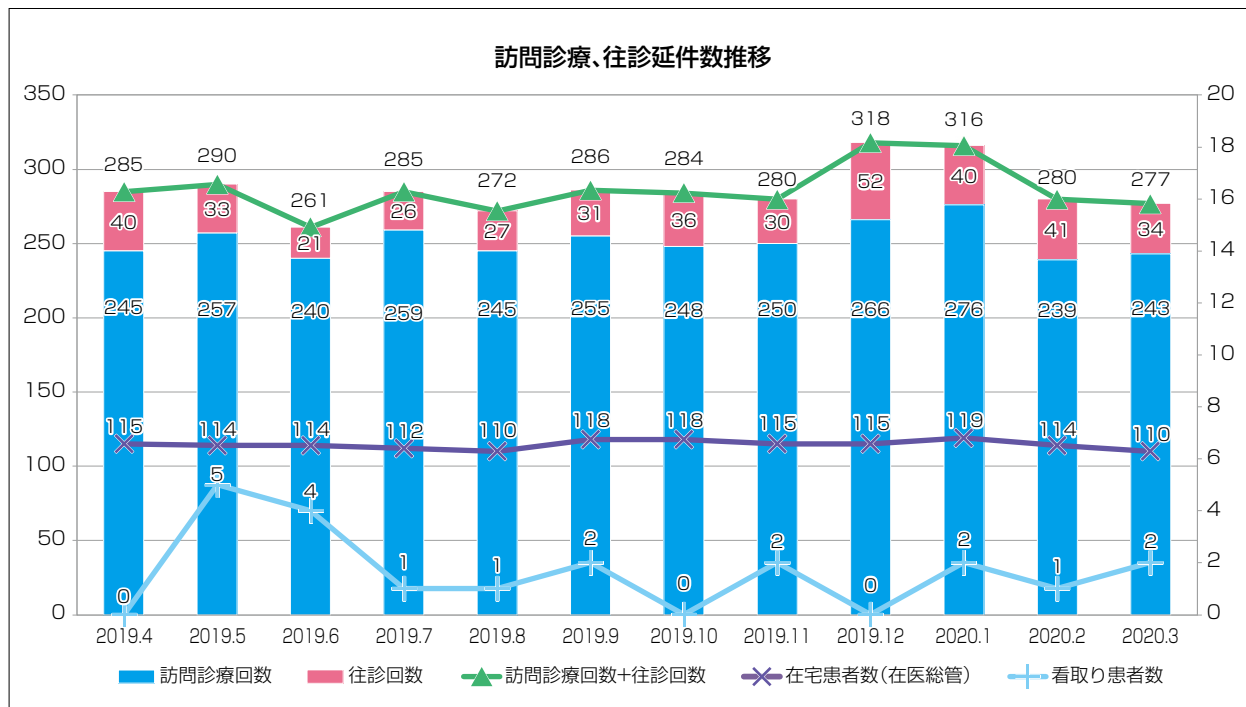
項 目	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9	2019.10	2019.11	2019.12	2020.1	2020.2	2020.3
外 来 延患者 (人)	358	343	332	367	321	331	349	316	388	382	327	332
1日平均患者 (人)	14	13	13	14	12	14	14	13	16	17	14	13
在宅患者 (人)	115	114	114	112	110	118	118	115	115	119	114	110
※在宅患者のうち重症者 (人)	26	28	25	26	26	28	24	22	22	24	25	25
初診数 (人)	7	6	7	5	5	2	9	3	6	4	4	3

項 目	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9	2019.10	2019.11	2019.12	2020.1	2020.2	2020.3	合計・平均
訪問診療回数	245	257	240	259	245	255	248	250	266	276	239	243	3,023
往診回数	40	33	21	26	27	31	36	30	52	40	41	34	411
訪問診療回数+往診回数	285	290	261	285	272	286	284	280	318	316	280	277	3,434
在宅患者数 (在医総管)	115	114	114	112	110	118	118	115	115	119	114	110	平均 115
増患数 (在宅)	9	4	11	6	3	9	6	6	5	7	4	2	72
脱落者 (在宅)	6	5	11	8	5	1	6	9	5	3	9	6	74
看取り患者数	0	5	4	1	1	2	0	2	0	2	1	2	20
重症者の割合 ※	23%	25%	25%	23%	24%	24%	20%	19%	19%	20%	22%	23%	平均 22%
在宅患者診療単価/日	24,651	26,142	27,028	25,026	24,090	27,370	26,399	23,461	23,369	23,966	24,245	23,522	平均 24,939

※ 重症者（次のような状態又は処置を実施していること）

状態：末期の悪性腫瘍、指定難病、後天性免疫不全症候群、脊椎損傷、スモン、真皮を超える褥瘡

処置：人工呼吸器の使用、気管切開の管理、気管カニューレ使用、ドレーンチューブの使用、留置カテーテルの使用、人工肛門・人工膀胱の管理、在宅自己腹膜灌流の実施、在宅血液透析の実施、酸素療法の実施、在宅中心静脈栄養の実施、在宅成分栄養経管栄養法の実施、在宅自己導尿の実施、植込み型脳・脊髄電気刺激による管理、携帯型輸液ポンプによるプロスタグランジン I<sub>2</sub>製剤の投与



#### 患者構成

自宅患者	29%
施設入所患者	71%

#### 定期ケアマネ・主治医意見交換会

2019年度	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9	2019.10	2019.11	2019.12	2020.1	2020.2	2020.3	計
開催数	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	22
ケアマネ参加者数	5	5	7	5	4	4	4	4	4	6	2	1	51
相談対象患者数	5	7	8	5	4	5	4	4	4	6	2	3	57

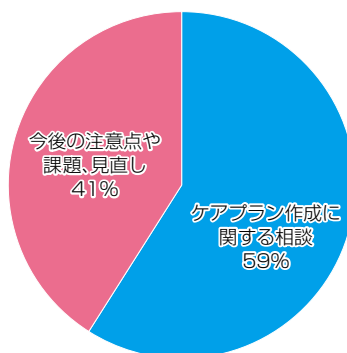
#### 定期ケアマネ・主治医意見交換会 相談内容内訳

ケアプラン作成に関する相談	59%
今後の注意点や課題、見直し	41%
その他	0%

## VI

### 在宅支援クリニックすばる

相談内容内訳



## 2

### 教育活動

#### 講演・ポスター発表

開催年月・学会名	演題名・演者・共同演者
2019/8/19 有料老人ホーム月の舟 研修会	医療と介護の連携 姫野浩毅
2019/9/29 大分県地域ケア会議 アドバイザー強化研修	在宅医療の実際・訪問診療と高齢者 の栄養問題 姫野浩毅
2020/2/11 医師・訪問看護師・ 介護支援専門員の 連携を深める研修会	燃えるような連携を目指す！ ～生きることから人生の最期まで支 える連携とは～ 姫野浩毅

## すばる塾開催状況

### 開校の目的

高齢者ケア施設の介護職の皆様との連携を図り、  
高齢者ケア施設入所者さまの健やかな生活を支援するため「医学的知識の勉強会」を開催する。

### 講義内容

講義内容は前回のアンケートの多数意見を反映、講師陣は敬和会スタッフで開催。

	講義内容	講師
第1回 (第6回)	ますます深まる多職種連携 (幸せなエンド オブ ライフ ケアを目指して)	在宅支援クリニックすばる 院長 姫野浩毅
第2回 (第7回)	高齢者によく見られる症状の傾向と対策	在宅支援クリニックすばる 看護師 佐藤辰枝・能丸亜紀
第3回 (第8回)	移乗に必要な評価と福祉用具の選び方	大分豊寿苑訪問看護ステーション PT 和田さなえ・OT 山下沙織
第4回 (第9回)	防ごう！誤嚥性肺炎（栄養管理と摂食嚥下）	大分岡病院 管理栄養士 長尾智己 大分豊寿苑訪問看護ステーション 言語聴覚士 島末智美
第5回 (第10回)	看取り時の日常生活のケア	大分豊寿苑訪問看護ステーション 看護師 廣石 愛

### 参加状況（2019年4月～2020年2月）

参加者職種	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
介護福祉士	7	9	11	12	7	9	2	4	4	9	74
看護師	4	0	2	1	4	2	1	1	3	7	25
ケアマネージャー	6	7	5	6	8	1	2	2	0	2	39
ヘルパー資格	1	2	4	1	3	1	0	2	3	5	22
生活相談員	0	0	0	2	2	2	1	2	0	0	9
実務経験者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
作業療法士	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
合計	22	18	22	22	24	15	7	11	11	23	175

### 講義に関するアンケート

#### 1. 研修内容は分かりやすかったですか

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計	構成
①とても理解できた	12	12	13	17	17	7	7	8	7	14	114	67%
②理解できた	10	6	7	4	5	5	0	3	2	9	51	30%
③やや理解できた	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	4	2%
④どちらでもない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
⑤あまり理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
⑥理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
⑦全く理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
回答数	22	18	20	22	22	14	7	11	10	23	169	

#### 2. あなたの今後の活動に役に立ちますか

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計	構成
①とても役に立つ	15	15	9	18	18	11	7	8	7	15	123	73%
②役に立つ	7	3	7	2	4	3	0	3	2	8	39	23%
③やや役に立つ	0	0	3	2	0	0	0	0	1	0	6	3%
④どちらでもない	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1%
⑤あまり役に立たない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
⑥役に立たない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
⑦全く役に立たない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
回答数	22	18	20	22	22	14	7	11	10	23	169	

## VI

在宅支援クリニック  
すばる



佐伯保養院



## 1

## 外来実績

外来延人数	6,774人
1日平均外来人数	22.9人
新患者数	329人

## 2

## 入院実績

入院延人数	64,133人
1日平均在院患者数	174.9人
病床稼働率	97.2%
新入院数	91人（年間）
新退院数	92人（年間）



# 資料



# 第14回 敬和会合同学会

学会テーマ：挑 戦 ～未来へのチャレンジ～

開催日時 2019年9月1日（日）

開催場所 あけのアクロスホール

## 口 演 演 題

### 第1部 10:10～11:10

座長：生野 和徳（大分岡病院 医療安全推進室 室長）

	演 題 名	所 属 部 署	発 表 者
1	当院における大量輸血症例に伴う 製剤在庫の備蓄の必要性	大分岡病院 検査課	加藤 晶子
2	40歳代乳がん検診における超音波検査の有用性	大分リハビリテーション病院 放射線課	泊 一美
3	抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動評価	大分岡病院 薬剤部・感染対策室	遠山 泰崇
4	救急外来における臨床倫理の取り組み ～振り返りカンファレンスを通して～	大分岡病院 救急外来	吉田 亜己
5	回復期リハビリテーション病棟における 栄養状態の実態	大分リハビリテーション病院 栄養課	木本美智留
6	看護師を中心とした多職種による 摂食機能療法の取り組みと成果	大分リハビリテーション病院 看護部（西病棟）	甲斐 久美

### 第2部 11:20～12:20

座長：高橋 秀好（敬和会健診センター 課長）

	演 題 名	所 属 部 署	発 表 者
1	入退院支援に向けたセラピストの関わりと成果	大分岡病院 総合リハビリテーション課	宮川真二郎
2	三次元動作解析システムVICON計測の取り組み	大分岡病院 総合リハビリテーション課	石井 寛海
3	回復期リハビリテーション病院における 外出支援の新たな取組み	大分リハビリテーション病院 リハビリテーション部	安部 美咲
4	余暇時間の充実でいつもいきいきプロジェクト ～『しじみのキーホルダー作ろうえ！』～	大分豊寿苑 通所リハビリ	馬場 速水
5	中国籍看護師からみた日本での就労の現状と課題	大分岡病院 救急外来	侯 孟円
6	訪看訪問リハにおける リモートワークの導入とその効果について	大分豊寿苑 訪問看護ステーション	橋本 卓



## ポスター演題

13:00～13:30

座長：遠山 泰崇（大分岡病院 薬剤部 係長）

	演 題 名	所 属 部 署	発 表 者
1	職員保健推進室の活動取り組みと今後の展望	大分岡病院 職員保健推進室	高橋 あゆ
2	見える化による業務効率改善	大分リハビリテーション病院 事務部総務課	後藤 陽介
3	学習療法を通じて見えた笑顔 ～思いを受け止め地域へつなぐ～	大分豊寿苑 陽だまりの郷 みなはる	木崎 奈央
4	挑戦！自立支援に向けて ～事例から学ぶこと～	大分豊寿苑 ヘルパーステーション	橋本真理華

13:00～13:30

座長：谷口 理恵（大分豊寿苑 リハビリテーション課 課長）

	演 題 名	所 属 部 署	発 表 者
5	大分岡病院創薬センターの現状について ～日本CRO協会（日本医薬品開発業務委託機関協会） のアンケート結果と比較して～	大分岡病院 創薬センター	森 由香里
6	びまん性脳損傷患者の排尿自立に向けたケア	大分リハビリテーション病院 看護部（東病棟）	笠野 和代
7	当センターでの子宮頸がん検診再開への取り組み	大分リハビリテーション病院 敬和会健診センター	後藤 麻美
8	超強化型老健としての1年を振り返って	大分豊寿苑 支援相談室	佐野裕美子
9	訪問看護における おむつフィッターとしての活動と課題	大分豊寿苑 訪問看護ステーション	高橋さおり

## 社会医療法人敬和会 2019年度事業報告書

---

発行日：2020年11月20日

発行所：社会医療法人敬和会

〒870-0192 大分県大分市西鶴崎3-7-11

Tel.097-522-3131

印刷：有限会社中央印刷

〒870-0025 大分県大分市顕徳町2丁目2-38

Tel.097-532-3805

☐ **大分岡病院**

心血管センター 消化器センター 創傷ケアセンター  
救急・総合診療センター 大分サイバーナイフがん治療センター  
マキシロフェイシャルユニット

〒870-0192 大分市西鶴崎3丁目7番11号  
TEL 097-522-3131（代表） FAX 097-522-3777  
097-503-6606（コールセンター）  
○創薬センター TEL 097-522-2202  
○病児保育センター ひまわり TEL 097-522-3187

☐ **大分リハビリテーション病院**

**敬和会健診センター**

回復期リハビリテーション病棟 人間ドック・健康診断

〒870-0261 大分市志村字谷ヶ迫765番地  
TEL 097-503-5000（代表） FAX 097-503-5888

☐ **介護老人保健施設 大分豊寿苑**

大分豊寿苑 総合在宅ケアセンター

〒870-0131 大分市皆春1521番地の1  
TEL 097-521-0110 FAX 097-521-1247

☐ **在宅支援クリニックすばる**

〒870-0147 大分市大字小池原字池ノ内1021番地  
TEL 097-551-1767 FAX 097-551-1722

☐ **佐伯保養院**

〒876-0814 佐伯市東町27-12  
TEL 0972-22-1461 FAX 0972-22-3063